

上京遺跡・室町殿跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一三―八

上京遺跡・室町殿跡

2014年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

上京遺跡・室町殿跡

2014年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



1区土坑65出土土器

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、上京区総合庁舎整備事業に伴う上京遺跡・室町殿跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

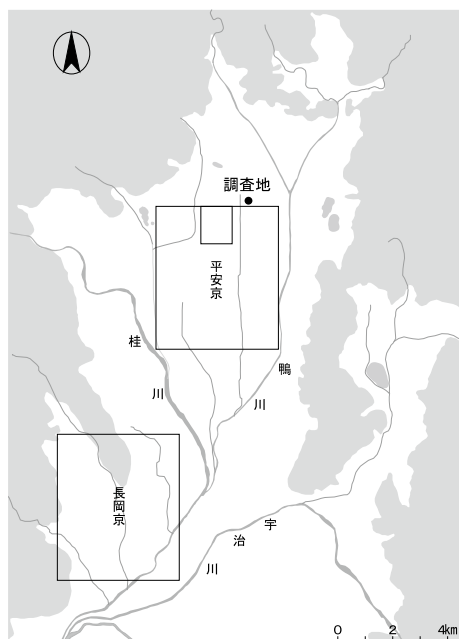
平成26年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 上京遺跡・室町殿跡（文化財保護課番号 12 S 461）
- 2 調査所在地 京都市上京区今出川通室町西入堀出シ町289番地他
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2013年4月1日～2013年7月19日
- 5 調査面積 約590㎡
- 6 調査担当者 尾藤德行・小檜山一良・津々池惣一・布川豊治
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「船岡山・相国寺・聚楽廻・御所」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、写真の番号も同一とした。
- 13 本書作成 尾藤德行・小檜山一良
竜子正彦：4 - (11)・(12)
付章1：丸山真史（奈良文化財研究所）
- 14 備 考 上記以外の調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。なお、動物遺存体の分析は丸山真史氏に依頼した。

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	4
(1) 調査地の位置と環境	4
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	10
(1) 基本層序	10
(2) 遺構の概要	14
(3) 鎌倉時代から室町時代の遺構	15
(4) 桃山時代の遺構	20
(5) 江戸時代初頭の遺構	26
(6) 江戸時代中期以降の遺構	32
4. 遺 物	34
(1) 遺物の概要	34
(2) 鎌倉時代の土器類	35
(3) 室町時代の土器類	36
(4) 桃山時代の土器類	37
(5) 江戸時代初頭の土器類	40
(6) 瓦類	75
(7) 銭貨	78
(8) 金属製品	80
(9) 石製品	80
(10) 木製品	80
(11) 骨・種子	81
(12) 焼け壁土	81
5. ま と め	83
(1) 遺構の変遷	83
(2) 江戸時代初頭の火災について	85
(3) おわりに	86
付章1 出土した動物遺存体	87

図 版 目 次

- 巻頭図版1 遺物 1区土坑65出土土器
- 図版1 遺構 1 1区全景（鎌倉時代から室町時代、南東から）
2 2区東部全景（室町時代、北から）
- 図版2 遺構 1 1区全景（桃山時代、南東から）
2 2区全景（桃山時代、東から）
- 図版3 遺構 1 1区全景（江戸時代初頭、南東から）
2 2区全景（江戸時代初頭、東から）
- 図版4 遺構 1 1区布掘柱列（鎌倉から室町時代、西から）
2 1区土坑160土器出土状況（室町時代、北から）
3 1区土坑143断面（室町時代、西から）
4 1区土坑159断面（鎌倉から室町時代、北から）
5 2区東部柱穴110断面（室町時代、南から）
6 2区中央部柱列2柱穴121（室町時代、西から）
- 図版5 遺構 1 2区中央部全景（室町時代、北から）
2 1区石室24（桃山時代、西から）
3 1区土坑99（桃山時代、南東から）
- 図版6 遺構 1 1区土坑176土器出土状況（桃山時代、北東から）
2 2区溝37・38（桃山時代、北から）
- 図版7 遺構 1 1区土坑65断面（江戸時代初頭、東から）
2 1区土坑65完掘状況（江戸時代初頭、南から）
3 1区土坑60断面（江戸時代初頭、北東から）
4 1区土坑12断面（江戸時代初頭、西から）
5 2区土坑2断面（江戸時代初頭、南から）
- 図版8 遺物 1区土坑219・159下層・143・160・170・176出土土器
- 図版9 遺物 2区溝37・38、土坑87・100、1区土坑65出土土器
- 図版10 遺物 1区土坑65・127出土土器
- 図版11 遺物 1区土坑12出土土器
- 図版12 遺物 1区土坑12・113出土土器
- 図版13 遺物 1区土坑113出土土器
- 図版14 遺物 1区土坑60・110出土土器
- 図版15 遺物 1区土坑69・115・120出土土器
- 図版16 遺物 1区土坑120・125・146、2区土坑2出土土器

- 図版17 遺物 軒丸瓦・軒平瓦
 図版18 遺物 銭貨・金属製品
 図版19 遺物 石製品・木製品

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	1区調査前全景（西から）	3
図4	2区調査前全景（東から）	3
図5	1区作業風景（西から）	3
図6	修学旅行生発掘体験学習風景（南から）	3
図7	京都市立中学生発掘体験学習風景（南から）	3
図8	区役所職員見学会（西北西から）	3
図9	現地説明会風景（南から）	3
図10	現地説明会風景（北西から）	3
図11	周辺遺跡および調査位置図（1：5,000）	5
図12	周辺調査地点図（1：2,500）	7
図13	1区西壁断面図1（1：100）	11
図14	1区西壁断面図2（1：100）	11
図15	1区西壁断面図3（1：100）	11
図16	1区北壁断面図1（1：100）	12
図17	1区北壁断面図2（1：100）	12
図18	1区北壁断面図3（1：100）	12
図19	2区北壁断面図（1：100）	13
図20	2区東壁断面図（1：100）	14
図21	第3面平面図（鎌倉時代から室町時代）（1：200）	16
図22	1区3面土坑143・159・160、柱穴158実測図（1：50）	17
図23	1区3面布掘柱列1・2、土坑222・258・259、柱穴254実測図（1：50）	18
図24	1区3面柱列1、2区3面柱列2、柱穴110実測図（1：50）	19
図25	第2面平面図（桃山時代）（1：200）	21
図26	1区2面土坑83・176、石室24、柱列3・4実測図（1：50）	22
図27	1区2面柱穴38・39、土坑99、2区2面土坑103・100・104実測図（1：50）	23

図28	2区2面溝37・38断面図（1：50）	25
図29	第1面平面図（1：200）	27
図30	1区1面土坑65断面図（1：50）	28
図31	1区1面土坑12・113・60・115断面図（1：50）	29
図32	2区1面土坑2断面図（1：50）	31
図33	平面図（江戸時代中期以降）（1：200）	33
図34	1区土坑219・257、柱穴260出土土器実測図（1：4）	35
図35	1区土坑159上層・下層出土土器実測図（1：4）	35
図36	1区土坑143・160出土土器実測図（1：4）	36
図37	1区土坑83・99・170・176・209出土土器実測図（1：4、81のみ1：2）	38
図38	2区溝37・38、土坑87・100出土土器実測図（1：4）	39
図39	1区土坑65出土土器実測図1（1：4）	42
図40	1区土坑65出土土器実測図2（1：4）	43
図41	1区土坑65出土土器実測図3（1：4）	45
図42	1区土坑65出土土器実測図4（1：4）	46
図43	1区土坑127出土土器実測図（1：4、223のみ1：2）	49
図44	1区土坑12出土土器実測図1（1：4）	51
図45	1区土坑12出土土器実測図2（1：4）	52
図46	1区土坑12出土土器実測図3（1：4）	54
図47	1区土坑113出土土器実測図1（1：4）	57
図48	1区土坑113出土土器実測図2（1：4）	58
図49	1区土坑60出土土器実測図1（1：4）	61
図50	1区土坑60出土土器実測図2（1：4）	62
図51	1区土坑60出土土器実測図3（1：4、552のみ1：8）	63
図52	1区土坑69・110出土土器実測図（1：4）	65
図53	1区土坑115・116出土土器実測図（1：4）	67
図54	1区土坑120・125出土土器実測図（1：4、485のみ1：2）	69
図55	1区土坑129・130・146・152・184出土土器実測図（1：4）	70
図56	2区土坑2出土土器実測図1（1：4）	73
図57	2区土坑2出土土器実測図2（1：4）	74
図58	瓦類拓影・実測図1（1：4）	76
図59	瓦類拓影・実測図2（1：4）	77
図60	銭貨拓影（1：2）	78
図61	金属製品実測図（1：2）	79
図62	石製品実測図（1：4）	80

図63	木製品実測図（1：4）	81
図64	2区土坑2出土骨・種子	82
図65	1区土坑65出土焼け壁土	82
図66	戦国期京都都市図	83
図67	江戸時代初期の調査地周辺（1：2,000）	84

表 目 次

表1	周辺調査一覧表1	8
表2	周辺調査一覧表2	9
表3	遺構概要表	14
表4	遺物概要表	34
表5	1区土坑65出土土器破片数割合表	40
表6	1区土坑127出土土器破片数割合表	48
表7	1区土坑12出土土器破片数割合表	50
表8	1区土坑113出土土器破片数割合表	56
表9	1区土坑60出土土器破片数割合表	60
表10	2区土坑2出土土器破片数割合表	72

付 表 目 次

付表1	出土土器類一覧表1	93
付表2	出土土器類一覧表2	94
付表3	出土土器類一覧表3	95
付表4	出土土器類一覧表4	96
付表5	出土土器類一覧表5	97
付表6	出土土器類一覧表6	98
付表7	出土土器類一覧表7	99
付表8	出土土器類一覧表8	100
付表9	出土土器類一覧表9	101
付表10	出土土器類一覧表10	102

附表11	出土土器類一覽表11	103
附表12	出土土器類一覽表12	104
附表13	出土土器類一覽表13	105
附表14	出土土器類一覽表14	106
附表15	出土土器類一覽表15	107
附表16	出土土器類一覽表16	108
附表17	出土土器類一覽表17	109
附表18	瓦類一覽表	110
附表19	錢貨一覽表	110
附表20	金屬製品一覽表	111
附表21	石製品一覽表	112
附表22	木製品一覽表	112

上京遺跡・室町殿跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

今回の発掘調査は、上京区総合庁舎整備事業に伴うものである。調査地は、京都市上京区今出川通室町西入掘出シ町289番地他に所在する。相国寺の西方、京都御所の北西に位置する。『京都市遺跡地図台帳』によると、室町時代の上京遺跡・室町殿跡にあたる。そのため、京都市文化市民局地域自治推進室総合庁舎整備係の委託を受け、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）の指導の下、財団法人京都市埋蔵文化財研究所（2013年10月1日から公益財団法人に移行。）が発掘調査を実施した。

(2) 調査の経過（図1～10）

調査は、旧区役所の基礎部分を除外して今出川通に面した部分に1区、敷地北端に2区を設け、1区は約400㎡、2区は約190㎡、合計約590㎡である。2013年4月1日から調査に先立って、万能堀の解体、ブロック堀・調査区内のアスファルト舗装の撤去などの準備工事を行った。最初に2

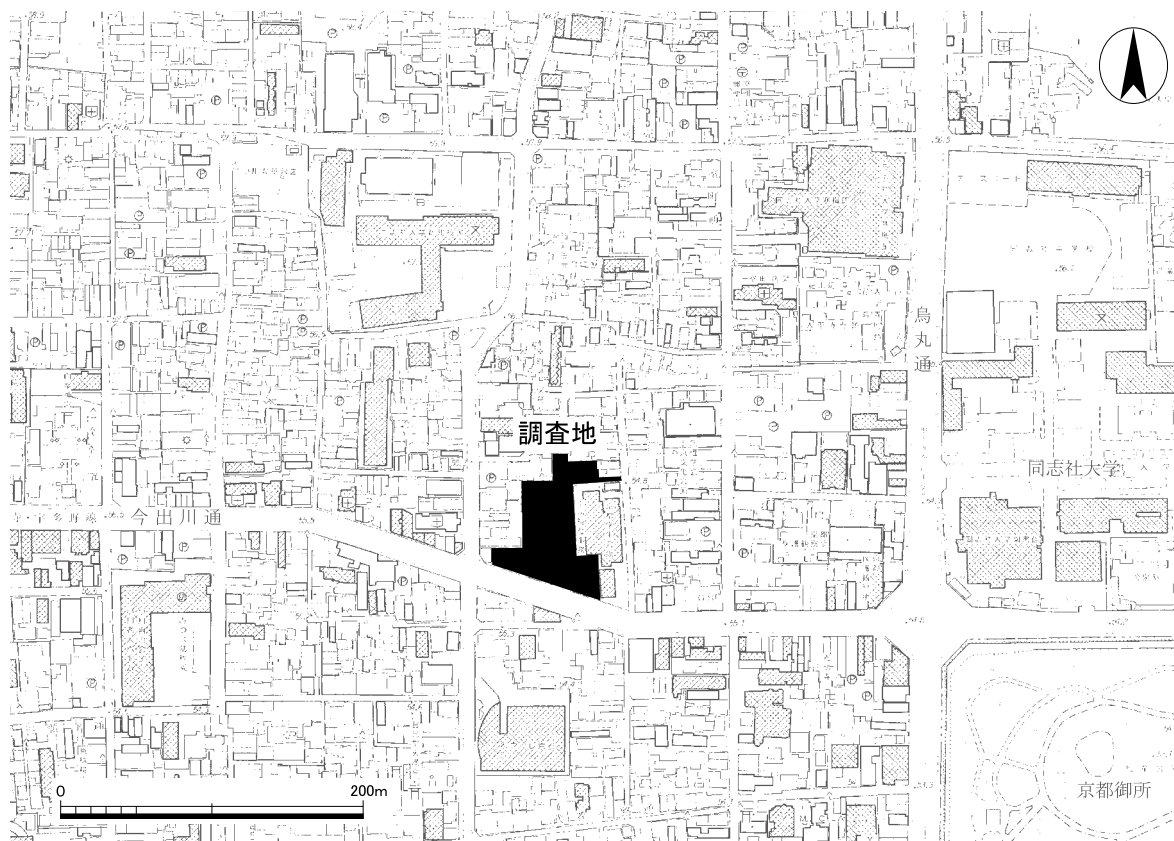


図1 調査位置図（1：5,000）

区から重機掘削を開始した。地表下約0.8～1.6mまでの近現代層や江戸時代後期の土層を除去し、旧基礎部分などは地表下約3.0mまで掘り下げた。1区も、同様に地表下約1.0mまでの土層を除去し、旧基礎部分などは地表下約2.5mまで掘り下げた。その後、人力により、近・現代の攪乱や江戸時代後期・中期の土坑・石室・井戸などを掘削した。その後、第1面の江戸時代初頭、第2面の桃山時代、第3面の室町時代前期の遺構面を順次調査した。それぞれの面で全景写真・部分写真などを撮影し、図面を作成した。その後、断割り調査を行い、下層に遺構がないことを確認し、調査を終了した。つづいて現場事務所などを撤去して7月19日に全ての作業を終了した。

なお、掘削土はすべて調査地内の旧庁舎基礎撤去部分に仮置きし、調査後に施工業者の要望に添って調査区を一部埋め戻した。また、調査中に出土したコンクリート・煉瓦・アスファルトなどは分別して仮置きし、調査終了時にすべて引き渡した。

調査中は適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、当研究所検証委員の高正龍氏（立命館大学教授）、鈴木久男氏（京都産業大学教授）の視察を受けた。普及啓発事業の一環として、4月19日に修学旅行発掘体験として静岡県浜松市立蜷塚中学生3名を受け入れ、6月5日に京都市教育委員会の「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業として市立北野中学校の中学生5名を受け入れた。また、5月24日に上京区役所職員の見学会、6月20日に調査成果の報道発表を行い、6月22日には一般を対象に現地説明会を行い、約500名の参加者があった。

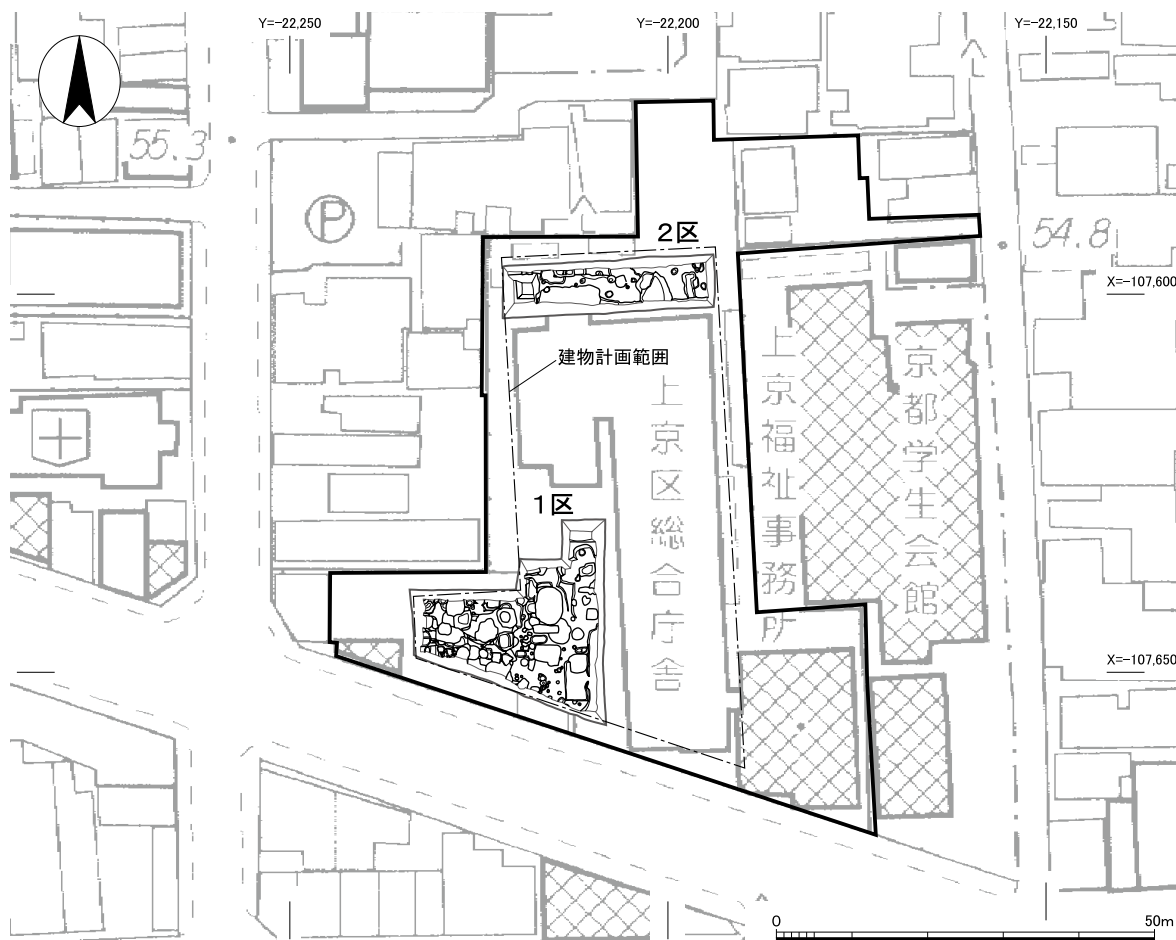


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)



図3 1区調査前全景（西から）



図4 2区調査前全景（東から）



図5 1区作業風景（西から）



図6 修学旅行生発掘体験学習風景（南から）



図7 京都市立中学生発掘体験学習風景（南から）



図8 区役所職員見学会（西北西から）



図9 現地説明会風景（南から）



図10 現地説明会風景（北西から）

2. 位置と環境

(1) 調査地の位置と環境 (図11)

調査地は平安京一条大路から3町分(約360m)北に位置する。平安京造営時は京外であったが、平安時代の終わり頃から京外の北方に生活域が広がり、鎌倉時代に入ると、左京域の南北通が北へ延長され、辻子(図子)と呼ばれる通りが形成されていった。上京遺跡は、禁裏がほぼ現在の京都御所に固定された室町時代に、将軍家や公家の屋敷、寺院などが平安京の枠を超えてその北方に造られ、形成された市街地のことで、遺跡範囲は、おおよそ北は紫明通、南は一条通、東は寺町通、西は智恵光院通までとされている。室町通に面していたことから呼ばれた室町殿跡は、永徳元年(1381)足利義満によって造営された邸宅で、別名、花の御所とも呼ばれた。これまでの発掘調査では、庭石を配した園池の一部・柱穴・土坑・溝などが発見されている。今回の調査地は、室町通から1町(約120m)西に位置する。当地は『京都市遺跡地図台帳』では上京遺跡・室町殿跡とされているが、近年、室町殿跡の西限は室町通までとされ、室町通から西側は上京遺跡と考えられるようになった。

調査地周辺の遺跡には、約120m東に室町殿跡、その北東には室町時代に創建された寺院跡である相国寺旧境内遺跡が広がる。これまでの発掘調査では建物跡・建物基壇の一部・井戸・土坑・溝・堀状遺構などが検出され、下層からは旧石器時代の細石核が出土している。また、重複して相国寺旧境内から上御霊神社境内にかけて飛鳥時代の集落跡である上御霊遺跡があり、竪穴住居が検出されている。また、上御霊神社内には奈良時代以降の寺院跡である出雲寺跡がある。調査地の東には、ほぼ京都御苑を範囲とする公家町遺跡がある。調査地の約120m西には、室町時代の平城跡である本満寺(天文法華の乱の時にあった日蓮宗の寺院)の構え跡、約240m北東には、室町時代から桃山時代の邸宅跡である新町校地遺跡がある。同志社大学の発掘調査で室町時代の溝・土坑などを検出している。約240m南には、平安京北側に隣接して鎌倉時代から室町時代の邸宅跡である一条室町殿跡がある。これは13世紀中頃に造営された九条実経の邸宅で16世紀前半に一条家の所有となる。また、約360m南西には平安京の北側に隣接して平安時代の寺院跡である革堂跡(行願寺)がある。比叡山の聖、行円が寛弘元年(1004)に建立した。さらに、名勝として、約500m北西には茶道家元で知られる不審庵(表千家)庭園、今日庵(裏千家)庭園、約200m南西には官休庵(武者小路千家)庭園、約200m北東には大聖寺庭園がある。

当地では上京遺跡・室町殿跡に該当することから、室町時代前期から江戸時代初頭の遺構を3面調査することとなった。

(2) 周辺の調査 (図12、表1・2)

周辺の主な調査地点を、北から番号を付けた。発掘調査は白抜きの四角形で、試掘・立会調査は黒塗りの三角形で記した。試掘調査から発掘調査に切り替わったものは、発掘調査として表示し

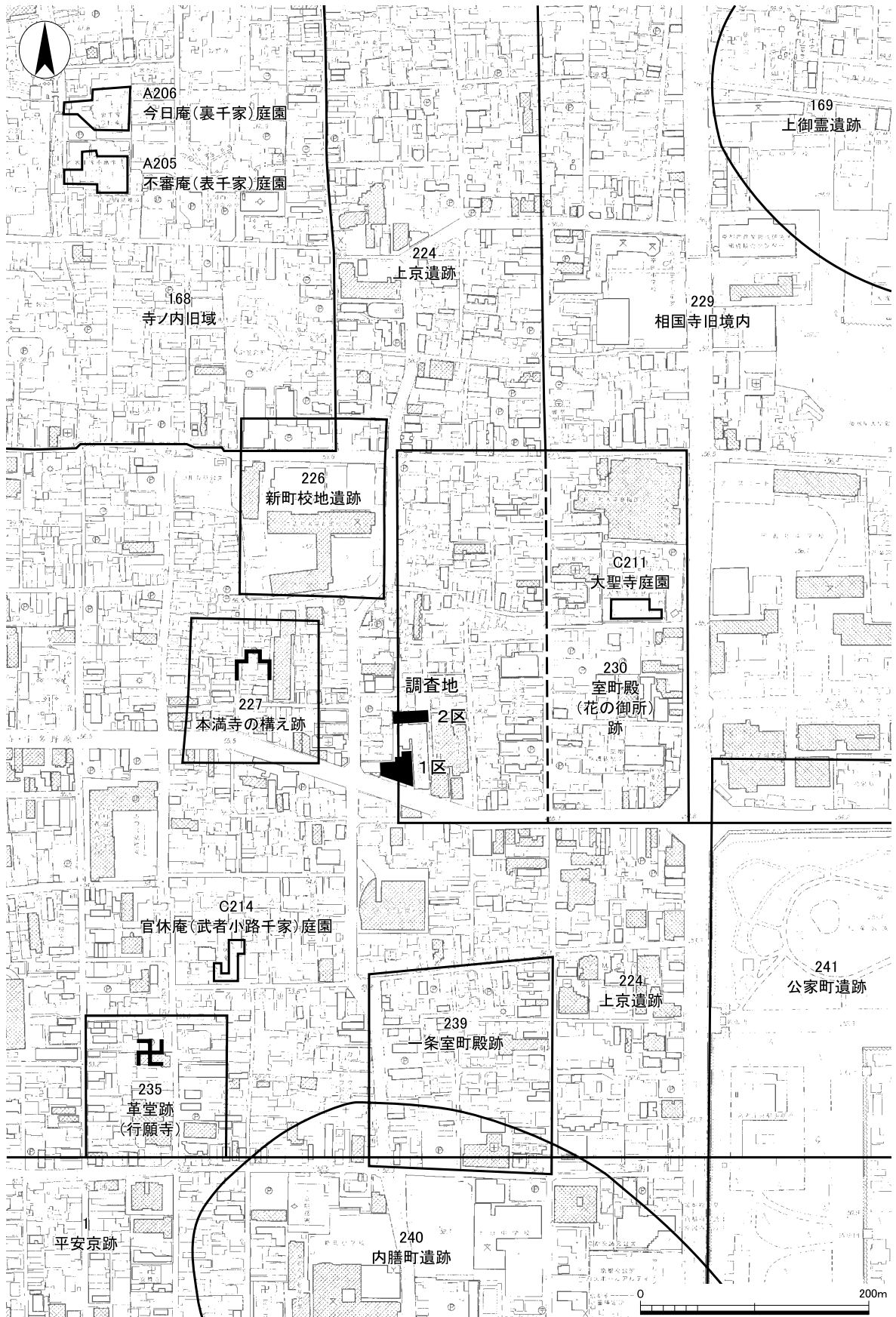


図11 周辺遺跡および調査位置図 (1 : 5,000)

た。立会調査地点は表示以外に多数あるが、木造住宅工事などで掘削深度が浅いなど、遺構・遺物の少ないものは省略した。

調査地周辺では室町時代の遺構（礎石建物、石敷き遺構、溝、路面など）が多く検出されている（調査1・2・8～10）。室町殿跡では建物跡、庭園の石組遺構や池の汀・庭石などが検出されている（調査13・24～26など）。室町時代以前の遺構の検出例は、調査1・2・14・18・20・36・38がある。

調査1では、鎌倉時代の溝・井戸、室町時代前期で相国寺創建段階の礫敷き路面（幅約4m、南北16m）を検出している。さらに室町時代中期の溝（幅約2m、南北40m、深さ約1m）を検出し、応仁の乱などで焼けた焼け瓦・土器・焼け土など15世紀後半の遺物が出土している。調査2では、平安時代から鎌倉時代の落ち込み、室町時代末から桃山時代、江戸時代の遺構を検出している。調査13では、鎌倉時代後半の井戸、鎌倉時代から南北朝時代の東西溝、室町時代と江戸時代の遺構を検出している。調査17では、鎌倉時代の溝、室町時代から江戸時代の遺構を検出している。調査19では、奈良時代の柱穴、室町時代から江戸時代の遺構を検出している。

上京区役所の敷地内では、調査35（1979年度）と調査36（1978年度）の2度の発掘調査が行われている。調査35の北壁断面では、盛土が約0.4m、近世包含層が約0.3mあり、第3層暗褐色土層が約0.5m、東側は第4層暗褐色砂泥層が約0.4mあり、地表下1.6mで第5層淡褐色砂質土の地山層となる。西側は第3層下の地表下1.2mで第5層の地山層となる。1面では柱穴・土坑などを検出し、2面では柱穴・土坑・溝・井戸などを検出している。鎌倉時代の井戸、室町時代の柱穴・土坑・溝などである。室町時代の溝は北側2トレンチ中央部で検出した。幅1.3～2m、深さ0.8m、埋土は淡褐色砂泥で土師器、陶器、磁器、瓦などが出土した。鎌倉時代の井戸は直径1m以上あり、調査区外に続く。井戸枠は確認できていない。調査36では、盛土が約0.6m、近代整地層が約0.4mあり、その下層に近世整地層と考えられる暗褐色泥砂層が約0.6mあり、地山層の褐色砂礫層となる。江戸時代の井戸・石室・土坑を検出している。井戸は直径約1mの円形石組み井戸で、井戸の底部は検出面から約2.6mの深さで、地表下4.4mが底部となる。井戸からは棧瓦以前の瓦類が多量に出土しており、中世末まで遡る可能性がある。

調査37は試掘調査で、今回調査地の東隣に位置する。地表下約1.4mで平安時代から室町時代の遺構を同一面で検出し、平安時代末期から鎌倉時代の土坑、室町時代の東西溝・土坑、江戸時代の土坑などを検出している。

今回の調査では、鎌倉時代、室町時代、桃山時代、江戸時代初頭の遺構・遺物を検出した。しかし、江戸時代の中期以降の石室や井戸、攪乱土坑、また、江戸時代初頭の大規模な廃棄土坑が多く、そのため、鎌倉時代・室町時代・桃山時代の遺構の残存状況は悪く、建物などは復元できなかった。

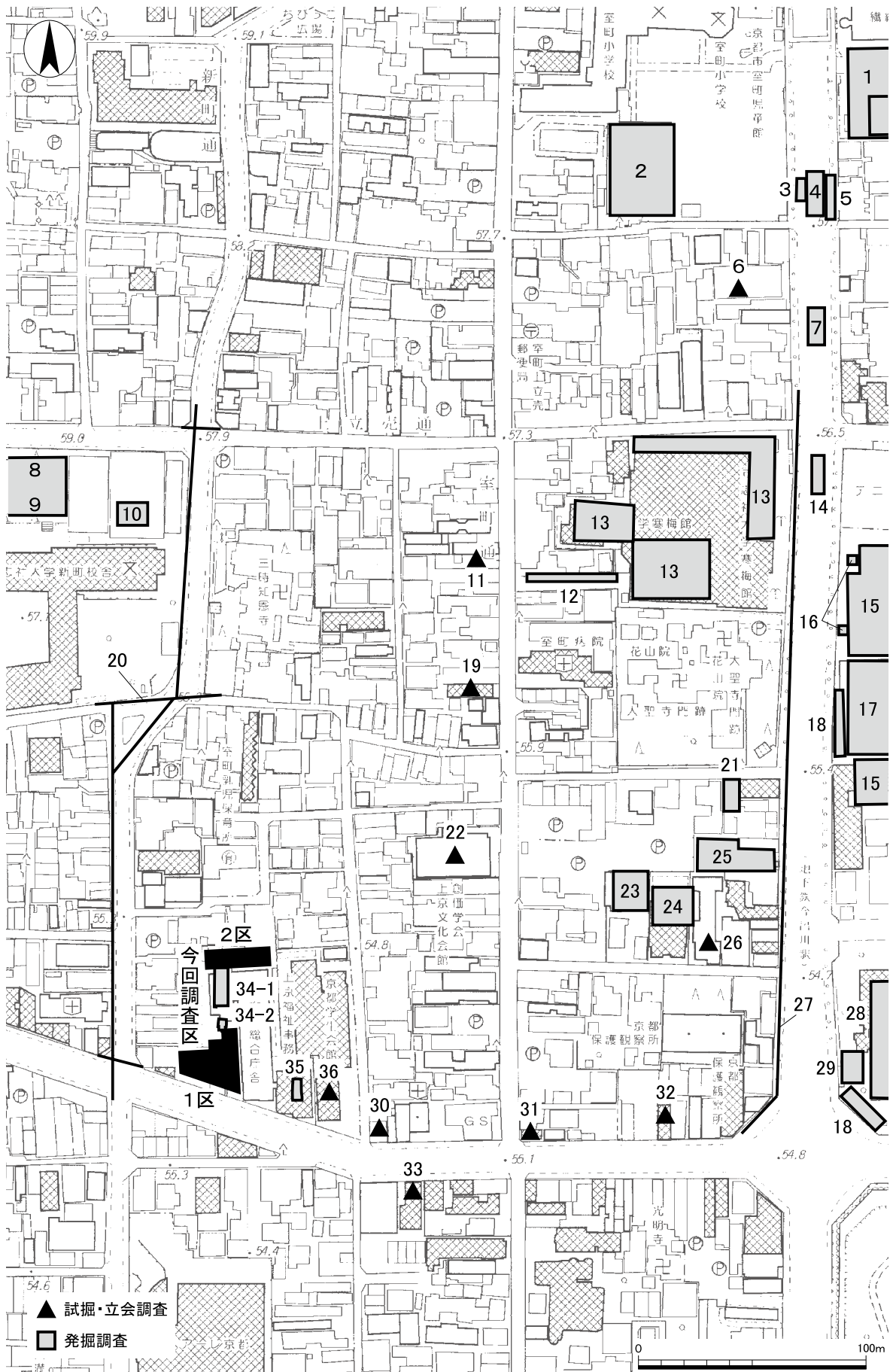


图12 周辺調査地点图 (1 : 2,500)

表1 周辺調査一覧表1

No.	調査地	調査機関・調査期間	主な調査成果	出土遺物	文献
1	相国寺門前町647-20	同志社大学 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2011.1～6	鎌倉時代の南北溝・井戸、室町時代前期の南北16mにわたる礫敷路面、室町時代中期の南北溝、室町時代後期から桃山時代の戦国時代の堀・石組の墓、江戸時代の石室・井戸などを検出。	鎌倉時代の輸入陶磁器、室町時代中期の瓦・土器・焼け土、室町時代後期の桐文軒丸瓦、江戸時代の播鉢・黄瀬戸碗・伊万里大皿などが出土。	参考：現地説明会資料「相国寺旧境内・上京遺跡の発掘調査」2011.6.11 「上京―史蹟と文化42号」 上京区民ふれあい事業実行委員会発行
2	室町頭町261 室町小学校	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997.9.24～1998.1.14	平安時代から鎌倉時代の落込み、室町末から桃山時代の土坑・柱穴・柵・石室・整地層、江戸時代の土坑・柱穴・溝・井戸などを検出。	平安時代の土器類、室町時代末期から桃山時代の土器類・陶磁器類・銭貨、江戸時代の土器類・陶磁器類・金属製品などが出土。	平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要 1999
3	柳ノ岡子町 烏丸線 X-3地点	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1977.8.10～8.12	室町時代後期の井戸・石垣・土坑・落込み・ピット・溝などを検出。	室町時代後期の土器類・輸入陶磁器類などが出土。	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ 1981
4	柳ノ岡子町・相国寺門前町烏丸線No.32地点	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1975.10.6～11.15	室町時代末期の落込み・濠・石垣・東西溝・土坑、江戸時代後期の土坑などを検出。	室町時代の土器類、江戸時代の土器類・土製品(伏見人形・泥面子)などが出土。	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ 1974.75年度 1980
5	相国寺門前町 烏丸線立 -16地点	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1977.8.10～8.12	室町時代後期から桃山時代の溝・時期不明の土坑などを検出。	室町時代後期から桃山時代の土器類などが出土。	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ 1981
6	柳ノ岡子町331	(財)京都市埋蔵文化財研究所 2001.1	室町・江戸の包含層。	室町時代から江戸時代の土師器皿などが出土。	京都市内遺跡立会調査概報平成13年度(00BBRH307)
7	柳ノ岡子町 烏丸線 No.45地点	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1976.6.7～7.5	室町時代後期の土坑・溝、室町時代後期から桃山時代の土坑・溝状遺構・石群、江戸時代後期の土坑・井戸・瓦溜などを検出。	室町時代から桃山時代の土器類・陶磁器類、明治時代のガラス瓶などが出土。	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ 1981
8	西大路町61-1 新町校地	同志社大学 2002	室町時代の堀、近世鍛造工房群。		同志社大学歴史資料館2002 ・同志社大学歴史資料館館報第5号
9	西大路町61-1 新町校地	同志社大学 1974.5	室町時代の地表下2.5～3m下の黄灰色礫層に掘り込む東西溝の東延長部分。幅3m、深さ1.5m		
10	西大路町61-1 新町校地 (西大路町遺跡)	同志社大学 1993.9～10	16C前半の土坑、17C初めの石室。	16C前半の土師器溜まり、「乾山」銘の陶器「信光山」銘の信楽焼。	同志社大学校地学術調査委員会1997・同志社大学校地学術調査委員会調査資料No.23
11	裏築地町84	(財)京都市埋蔵文化財研究所2001.10	室町の包含層。	室町時代の土師器皿が出土。	京都市内遺跡立会調査概報平成13年度(01BBRH234)
12	裏築地町 旧大学会館地点 第3期	同志社大学 2003.8.1～8.26	江戸時代後期の石組・土坑・かまど状遺構・瓦組遺構などを検出。	近世の土器類・陶磁器類・金属製品などが出土。	同志社大学構内遺跡発掘調査報告書2003.2005年度・同志社大学歴史資料館調査研究報告第7集 2007
13	御所八幡町103 室町殿跡 (寒梅館地点)	同志社大学 2002.5.8～2003.1.20 (2002.03)	鎌倉時代後半の井戸、鎌倉時代から南北朝時代の東西溝、室町時代の石敷遺構・石組水路・柱穴列・建物基礎、江戸時代の土坑・鍛造遺構などを検出。	鎌倉時代の土器類、室町時代の土器類・陶磁器類、江戸時代の土器類・陶磁器類・埴埴・鋳型などが出土。	学生会館・寒梅館地点発掘調査報告書・同志社大学歴史資料館調査研究報告第4集 2005
14	上立売東町・御所八幡町烏丸線 No.7地点	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1974.9.2～10.5	室町時代末期から江戸時代の溝・柱穴・土坑などを検出。	室町時代の土器類(墨書土器)などが出土。	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ 1974.75年度 1980
15	相国寺門前町 今出川キャンパス整備 第4次～第5次	同志社大学 2010.6～2011.3	室町時代の水路・石敷道路・溝・濠・柱穴、室町時代末期の建物跡、江戸時代の溝などを検出。	室町～江戸時代の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類・瓦類(桐文軒丸瓦)・石製品(石標)などが出土。	現地説明会資料相国寺旧境内の発掘調査 2010 現地説明会資料相国寺旧境内の発掘調査2 2011
16	相国寺門前町 今出川キャンパス整備 第1次～第3次	同志社大学 2009.4.28～9.12	鎌倉時代の溝、室町時代から江戸時代の礎石建物・井戸・土坑・石敷などを検出。	鎌倉時代から江戸時代の土器類・陶磁器類・瓦類・金属製品・土製品などが出土。	相国寺旧境内発掘調査報告書 ・同志社大学歴史資料館調査研究報告第10
17	相国寺門前町629 今出川校地 (中学校体育館地点)	同志社大学 1976.6.10～9.29	桃山時代の石室・石組遺構・井戸・集石・柱穴群・土坑・瓦溜・溝、江戸時代の井戸・石組遺構・集石などを検出。	石器時代のチャート製小型剥片・石核、室町時代の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類・瓦類(鬼瓦・桐文軒丸瓦・文字瓦)、江戸時代の土器類・陶磁器類(乾山銘陶器)・埴埴・鞆羽口・土製品・石製品などが出土。	同志社中学校体育館建設予定地発掘調査概要 同志社大学校地学術調査委員会調査資料No.10 1977

表2 周辺調査一覧表2

No.	調査地	調査機関・調査期間	主な調査成果	出土遺物	文献
18	御所八幡町・玄武町 今出川校地 (地下鉄今出川 駅地点)	同志社大学 1979	奈良時代のビット、室町時代から江戸時代の井戸・土坑・溝・石列・礫敷などを検出。	奈良時代の土器、室町時代から江戸時代の土器類・陶磁器類・瓦類・金属製品・土製品・石製品などが出土。	同志社構内地下鉄烏丸線今出川駅地点の発掘調査1981
19	裏築地町97	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983.12	室町時代の包含層。		京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度(83BBRH22)
20	新町通、上立売通～今出川通 地内	(財)京都市埋蔵文化財研究所 2001	室町時代の包含層。	室町時代の土師器皿。	京都市内遺跡立会調査概報平成13年度(01BBRH097)
21	御所八幡町 110-5	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1986 .9.25～10.11	試掘調査から発掘調査に切り替え。室町時代と考えられる庭園の石組・礫敷遺構、土坑、庭石など検出。	室町時代後期の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類・瓦類・銭貨・土製品・石製品などが出土。	京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度(86BBRH25)
22	築山北半町 217	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989.1	室町時代の整地層。		京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度(88BBRH24)
23	岡松町254-1	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1985.7.30～7.31	室町時代と考えられる池の汀・庭石などを検出。	室町時代後期の土器類・陶磁器類・瓦類、桃山時代後期～江戸時代の土器類・瓦類などが出土。	京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度(85BBRH18)
24	岡松町254-2 他	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989.4.24～7.9(1994)	室町時代の石組遺構・溝・築山・景石、江戸時代前期の建物跡・石敷遺構・石組遺構・溝・土坑などを検出。	室町時代から桃山時代の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類、江戸時代の土器類・陶磁器類などが出土。	平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要 1994
25	御所八幡町 烏丸線 No.79地点	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1979.9.20～11.15	室町時代の土坑・落込み・池状遺構、江戸時代の井戸・土坑・ビット・落込みなどを検出。	室町時代から桃山時代の土器類・陶磁器類、江戸時代の土器類・陶磁器類・輸入陶磁器類(釉裏紅盤破片)・瓦類・金属製品・木製品などが出土。	京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ 1982
26	松岡町258	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983.8	室町時代の包含層と石室。		京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57年度(83BBRH12)
27	烏丸通西側、 上立売通～今 出川通地内	(財)京都市埋蔵文化財研究所 2002	室町時代中期の包含層。		京都市内遺跡立会調査概報平成14年度(02BBRH210・02BBRH250)
28	玄武町596・岡 松町264 今出 川校地(大学 図書館地点)	同志社大学 1972.9.15～10.2	江戸時代後半の井戸・瓦溜・土坑・礫溜・火災整地層などを検出。	江戸時代の土器類・陶磁器類・瓦類・銭貨・石塔破片などが出土。	同志社大学今出川校地発掘調査概報 同志社大学校地学術調査委員会調査資料No.1
29	玄武町 図書館西地点	同志社大学 2006.2.25～3.28	室町時代末期から江戸時代の土坑・石組・溝・堀などを検出。	室町時代末期から江戸時代の土器類・陶磁器類・瓦類・金属製品・土製品などが出土。	同志社大学構内遺跡発掘調査報告書(2003.2005年) 同志社大学歴史資料館調査研究報告第7集 2007
30	畑山町206	(財)京都市埋蔵文化財研究所 2009.11	室町時代から江戸時代の包含層。	室町時代から江戸時代の土器類が出土。	京都市内遺跡詳細分布調査報告平成22年度(09BBRH395)
31	築山南半町 250	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1985.5	室町時代の包含層		京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度(85BBRH5)
32	今出川町	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980.5	室町時代の包含層		京都市内遺跡試掘立会調査報告 昭和55年度(80BBRH7)
33	堀出町307	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1986.1	室町時代の包含層		京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度(86BBRH26)
34	幸在町689	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1979	鎌倉時代の井戸、室町時代の柱穴・土坑・溝などを検出	室町時代の土師器・陶器・磁器・瓦などが出土。	昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要 2012
35	幸在町689	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1978	江戸時代の井戸・石室・土坑などを検出	桃山時代後期の瓦など、江戸時代の土師器・陶器・染付などが出土。	昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要 2011
36	畠山町206他	(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989	平安時代末期から鎌倉時代の土坑、室町時代の東西溝・土坑、江戸時代の土坑などを検出。	平安時代前期、平安時代後期から鎌倉時代、室町時代の土器類・瓦類が出土。	京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度(89BBRH18)

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図13～20)

調査地は標高約55.0mで、北東から南西に向かってやや低くなっている。北側調査区の2区北東側は約55.5m、今出川通に面する南側は約55.3mである。調査区は攪乱や江戸時代中期以降の大型土坑が多く、江戸時代前期以前の遺構の遺存状況は悪い。1区では1788年の天明大火の後処理と考えられる焼けた棧瓦の廃棄された土坑が多く見られ、2区でも棧瓦の廃棄された大型の土坑や既存建物の基礎による攪乱が多く見られた。1区の東壁断面と南壁断面は旧基礎攪乱や江戸時代中から後期の焼けた棧瓦が大量に入った火災処理土坑などのため基本層序がわかりにくい。そのため、調査区の断面図は西壁断面図1～3 (図13～15) と北壁断面図1～3 (図16～18) を記録した。2区においても南壁断面と西壁断面は旧基礎攪乱や江戸時代初頭から中期の土坑のため基本層序がわかりにくいいため、北壁断面図 (図19) と東壁断面図 (図20) を記録した。

基本層序を1区西壁断面図 (図13～15)、1区北壁断面図 (図16)、2区北壁断面図 (図19) の東端と西端で概説する。

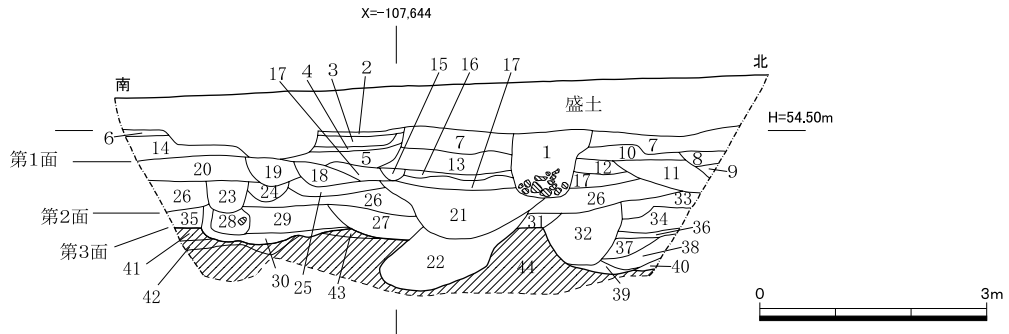
1区西壁断面図 (図13) 1区では地表下約0.5mまでの現代盛土下に厚さ約0.7mの江戸時代中期以降の整地層がある。地表下約1.2mの標高53.7～54.2mで、整地層・褐色砂泥層 (図13 - 20層) を検出した。この層の上面で、第1面江戸時代初頭の遺構を検出した。地表下約1.5mの標高53.5～53.4mで、整地層・明黄褐色砂泥層 (図13 - 35層) を検出した。この層の上面で、第2面桃山時代の遺構を検出した。地表下約1.7mの標高53.2mで、地山層・明黄褐色砂泥からにぶい黄褐色砂泥礫多量混の土層 (図13 - 41層以下) を検出した。この面で、第3面室町時代前期から鎌倉時代の遺構を検出した。

1区西壁断面図 (図14) 地山面の残存状況は悪く、地表下1.8mの標高53.3mで褐色砂泥などの地山となる。この地山に切り込む鎌倉時代から江戸時代の遺構を検出した。

1区西壁断面図 (図15) 地表下1.2mの標高約53.7mで、整地層・暗褐色砂泥礫混 (図15 - 8層) となり、第1面江戸時代初頭の遺構を検出した。地表下約1.4mの標高53.5mで、整地層・黒褐色砂泥層礫少量混 (図15 - 9層) となり、第2面桃山時代の遺構を検出した。地表下約1.6mの標高53.3mで、遺構面は地山層・暗褐色砂泥層礫少量混 (図15 - 10層以下) となり、第3面室町時代から鎌倉時代の遺構を検出した。

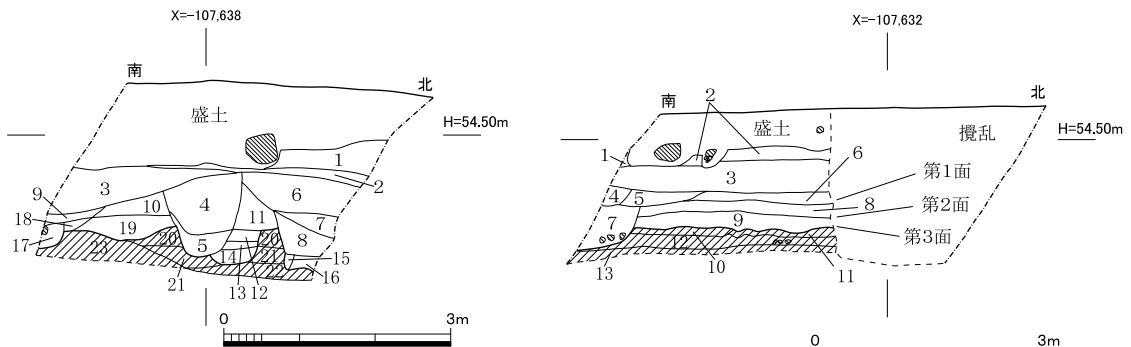
1区北壁断面図 (図16) 江戸時代中期の石室 (図16 - 4層) などで削平されている部分が多く、地表下2m前後の標高53.1～53.3mで黄褐色砂泥からにぶい黄橙色砂泥の地山 (図16 - 44～47層) を検出した。この地山に切り込む室町時代から江戸時代の遺構を検出した。

2区北壁断面図 (図19) 東端 地表下1.1mまでの盛土下に厚さ0.3mの整地層がある。地表下約1.4mの標高54.0mで暗褐色砂泥層 (図19 - 42層) となる。この上面で第1面江戸時代初頭の遺構を検出した。地表下1.6mで黒褐色砂泥混礫の地山 (図19 - 70層) となる。この上面で桃山時代の遺構



- | | |
|---|--|
| 1 10YR6/4 にぶい黄褐色砂泥 φ3~15cm礫混 | 23 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 土器片混 |
| 2 10YR7/8 黄褐色砂泥 | 24 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ1~4cm礫混 土器片少量・炭微量混 |
| 3 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 φ3~7cm礫少量混 | 25 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 土器片混 |
| 4 10YR8/8 黄褐色砂泥 φ3~5cm礫混 | 26 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 土器片混 |
| 5 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 φ3~10cm礫混 | 27 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~7cm礫混 土器片混 |
| 6 10YR6/6 明黄褐色砂泥 | 28 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~15cm礫混 土器片混(土坑176) |
| 7 10YR6/1 褐灰色砂泥 粗砂混 φ0.5~5cm礫混 | 29 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 土器片少量混(土坑176) |
| 8 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~15cm礫混 | 30 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~13cm礫混 土器片・炭微量混(土坑176) |
| 9 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 土器片・炭微量混 | 31 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 |
| 10 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~6cm礫混 | 32 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 |
| 11 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~9cm礫少量混 土器片・炭微量混 | 33 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~15cm礫少量混 土器片・炭微量混 |
| 12 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 炭混 | 34 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~7cm礫少量混 土器片少量混 |
| 13 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 | 35 10YR6/6 明黄褐色砂泥(第2面) |
| 14 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ1~5cm礫混 | 36 10YR5/6 黄褐色砂泥 φ0.5~3cm礫微量混 |
| 15 10YR4/4 褐色砂泥 | 37 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ1~10cm礫混 |
| 16 10YR6/6 明黄褐色砂泥 | 38 10YR2/2 黒褐色砂泥 土器片微量混 |
| 17 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ0.5~2cm礫少量混 | 39 10YR4/6 褐色砂泥 |
| 18 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ3~10cm礫混 土器片混 | 40 10YR5/6 黄褐色砂泥 φ1~7cm礫微量混 |
| 19 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ0.5~15cm礫混 土器片・炭混 | 41 10YR7/6 明黄褐色砂泥(地山) |
| 20 10YR4/4 褐色砂泥 φ3~8cm礫混 土器片混(第1面) | 42 10YR6/6 明黄褐色砂泥 |
| 21 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~8cm礫混 土器片・炭混(土坑110) | 43 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混(地山) |
| 22 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~10cm礫混 土器片・炭混 | 44 10YR6/4 にぶい黄褐色砂泥 φ1~15cm礫多量混(地山) |

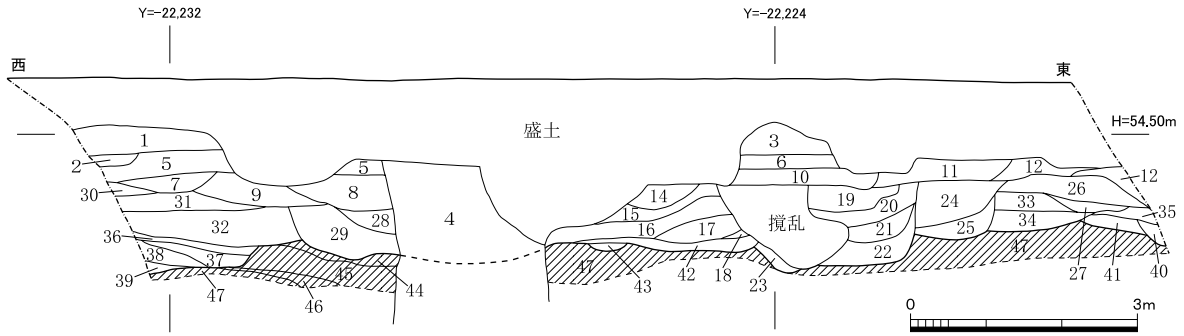
図13 1区西壁断面図1 (1:100)



- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 | 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 |
| 2 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 | 2 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ0.5~1cm礫少量混 |
| 3 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~6cm礫少量混 | 3 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 炭微量混 |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 | 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 |
| 5 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 炭混 | 5 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 |
| 6 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 炭微量混 | 6 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~2cm礫少量混 |
| 7 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 炭少量混 | 7 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 |
| 8 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 炭少量混 | 8 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 |
| 9 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 | 9 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 |
| 10 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~6cm礫混 | 10 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 |
| 11 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~7cm礫少量混 | 11 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ1~3cm礫微量混 |
| 12 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 | 12 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 |
| 13 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 | 13 10YR6/4 にぶい黄褐色砂泥 φ1~15cm礫多量混 |
| 14 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 炭微量混 | |
| 15 10YR3/2 黒褐色砂泥 | |
| 16 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~5cm礫微量混 | |
| 17 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~25cm礫少量混(柱穴260) | |
| 18 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ1~5cm礫少量混 | |
| 19 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~9cm礫混 | |
| 20 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 | |
| 21 10YR4/6 褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 | |
| 22 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 | |
| 23 10YR6/4 にぶい黄褐色砂泥 φ1~15cm礫多量混 | |

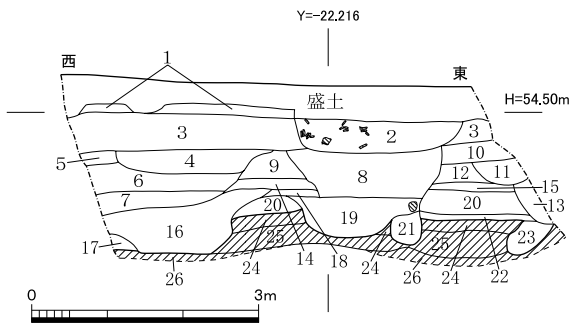
図14 1区西壁断面図2 (1:100)

図15 1区西壁断面図3 (1:100)



- | | |
|---|---|
| 1 10YR6/1 褐灰色砂泥 粗砂混 φ0.5~5cm礫混 | 25 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 |
| 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~15cm礫混 | 26 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 土器片・炭微量混 |
| 3 10YR5/4 にぶい黄橙色泥砂 φ0.5~10cm礫多量混 | 27 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 土器片・炭微量混 |
| 4 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~12cm礫多量混 土器片・炭混 | 28 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 |
| 5 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 土器片・炭微量混 | 29 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 土器片・炭微量混 |
| 6 10YR4/3 にぶい黄橙色泥砂 φ0.5~10cm礫多量混 | 30 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~9cm礫少量混 土器片・炭微量混 |
| 7 10YR4/6 褐色砂泥 φ0.5~3cm礫混 炭混 | 31 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 |
| 8 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 土器片・炭少量混 | 32 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~15cm礫少量混 土器片・炭微量混 |
| 9 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~12cm礫混 土器片・炭微量混 | 33 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 |
| 10 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~30cm礫多量混 炭微量混 | 34 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~12cm礫混 |
| 11 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 | 35 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 |
| 12 10YR6/3 にぶい黄橙色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 | 36 10YR5/6 黄褐色砂泥 φ0.5~3cm礫微量混 |
| 13 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~6cm礫少量混 | 37 10YR4/6 褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 |
| 14 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 土器片・炭混 | 38 10YR2/2 黒褐色砂泥 土器片微量混 |
| 15 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~3cm礫混 土器片・炭混 | 39 10YR5/6 黄褐色砂泥 φ1~7cm礫微量混 |
| 16 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 土器片・炭混 | 40 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~25cm礫少量混 |
| 17 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 土器片・炭微量混 | 41 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 |
| 18 10YR5/6 黄褐色砂泥 | 42 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 土器片微量混 |
| 19 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~3cm礫微量混 | 43 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 φ1~8cm礫微量混 |
| 20 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 土器片・炭微量混 | 44 10YR5/6 黄褐色砂泥 |
| 21 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~7cm礫混 | 45 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 |
| 22 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫混 土器片・炭混 | 46 10YR5/6 黄褐色砂泥 |
| 23 10YR5/6 黄褐色砂泥 | 47 10YR6/4 にぶい黄橙色砂泥 φ1~15cm礫多量混 |
| 24 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 土器片・炭微量混 | |

図16 1区北壁断面図1 (1:100)



- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 φ1~5cm礫少量混 | 7 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 土器片・炭少量混 |
| 2 10YR5/2 灰黄褐色泥砂 土器片多量混 | 8 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~8cm礫混 土器片・炭微量混 |
| 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 | 9 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~5cm礫微量混 土器片微量混 |
| 4 10YR4/4 褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 土器片少量混 | 10 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 炭微量混 |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 土器片少量混 | 11 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 |
| 6 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~8cm礫少量混 土器片・炭微量混 | 12 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 土器片・炭混 |
| | 13 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~10cm礫混 土器片微量混 |
| | 14 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~2cm礫少量混 土器片・炭微量混 |
| | 15 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ1~10cm礫少量混 土器片微量混 |
| | 16 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~5cm礫混 土器片・炭少量混 |
| | 17 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ0.5~5cm礫微量混 |
| | 18 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ0.5~3cm礫混 土器片微量混 |
| | 19 10YR2/1 黒色砂泥 φ0.5~5cm礫混 |
| | 20 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 |
| | 21 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ0.5~7cm礫混 |
| | 22 10YR2/1 黒色砂泥 φ0.5~3cm礫少量混 |
| | 23 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ0.5~10cm礫少量混 土器片少量混 |
| | 24 10YR4/6 褐色砂泥 φ0.5~5cm礫少量混 |
| | 25 10YR5/4 にぶい黄褐色 φ0.5~5cm礫少量混 |
| | 26 10YR6/4 にぶい黄橙色砂泥 φ1~15cm礫多量混 |

図17 1区北壁断面図2 (1:100)

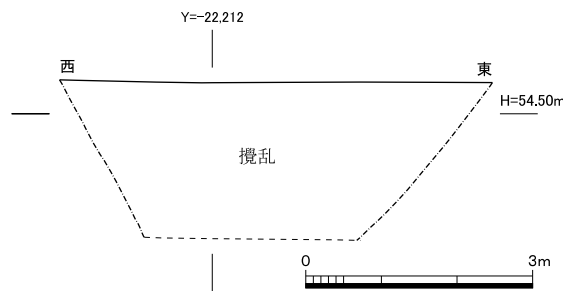
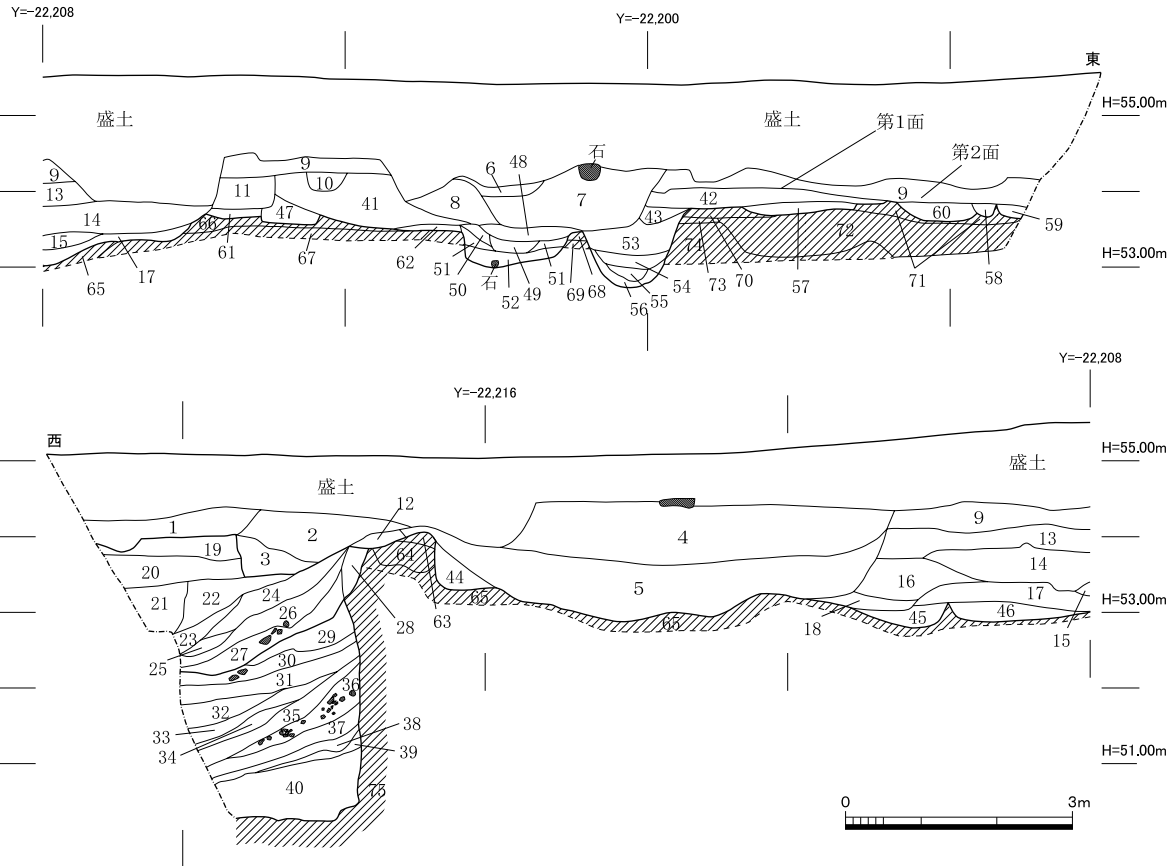


図18 1区北壁断面図3 (1:100)



- | | |
|---|---|
| <p>1 10YR3/4 暗褐色砂泥 土器片・炭混</p> <p>2 10YR3/3 暗褐色砂泥</p> <p>3 10YR4/4 褐色泥砂 礫・炭混(近代盛土)</p> <p>4 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ2~10cm礫混 土器片・炭混</p> <p>5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ3~10cm礫混</p> <p>6 10YR4/4 褐色砂泥 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ2~5cm礫微量混 土器片・炭少量混</p> <p>7 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ5~15cm礫多量混</p> <p>8 10YR3/4 暗褐色砂泥</p> <p>9 10YR3/4 暗褐色砂泥 土器片混</p> <p>10 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ5~15cm礫混</p> <p>11 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ5~15cm礫混</p> <p>12 10YR4/4 褐色砂泥</p> <p>13 10YR2/3 黒褐色砂泥 土器片・炭混</p> <p>14 10YR3/2 黒暗褐色砂泥 φ2~10cm礫混</p> <p>15 10YR5/3 にぶい黄褐色泥砂 10YR2/1 黒(炭)土器片混</p> <p>16 10YR3/3 暗褐色砂泥 土器片少量混</p> <p>17 10YR4/4 褐色砂泥</p> <p>18 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ2~5cm礫少量混 土器片・炭少量混</p> <p>19 10YR4/6 褐色砂泥</p> <p>20 10YR3/4 暗褐色泥砂 礫・焼土・炭少量混</p> <p>21 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR3/4 暗褐色砂泥混</p> <p>22 10YR3/4 暗褐色泥砂 10YR1.7/1 黒色炭多量混</p> <p>23 10YR3/4 暗褐色泥砂 礫・炭混</p> <p>24 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ~5cm砂礫混</p> <p>25 7.5YR4/3 褐色砂泥 φ1~10cm礫中量混</p> <p>26 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~3cm礫多量混</p> <p>27 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂 φ5~10cmの礫多量混</p> <p>28 10YR4/4 褐色砂泥 瓦多量混</p> <p>29 10YR4/4 褐色砂泥 微砂多量混
(地山の砂泥を盛土したものと思われる)</p> <p>30 10YR5/6 黄褐色砂泥 瓦多量混</p> <p>31 10YR3/3 暗褐色泥砂 焼土・炭混</p> <p>32 10YR3/3 暗褐色砂泥 焼土・炭中量混</p> <p>33 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥混 焼土混</p> <p>34 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ1~3cm礫混 焼土・遺物・炭混</p> <p>35 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥混 焼土・遺物混</p> <p>36 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ5~10cm礫多量混</p> <p>37 10YR3/3 暗褐色砂泥 10YR5/6 黄褐色砂泥ブロック混 10YR1.7/1 黒色炭層混 土器・瓦混</p> | <p>38 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR3/3 暗褐色砂泥ブロック混</p> <p>39 10YR3/3 暗褐色砂泥 10YR5/6 黄褐色砂泥ブロック・炭多量混</p> <p>40 10YR3/4 暗褐色砂泥 10YR1.7/1 黒色炭中量混 焼土・遺物・炭片混</p> <p>41 10YR3/3 暗褐色砂泥 土器片・炭混(土坑13)</p> <p>42 10YR3/3 暗褐色砂泥 土器片混(第1面)</p> <p>43 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ2~3cm礫少量混</p> <p>44 10YR3/2 黒褐色砂泥(土坑26)</p> <p>45 10YR3/4 暗褐色砂泥(土坑104)</p> <p>46 10YR3/4 暗褐色砂泥</p> <p>47 10YR4/4 褐色砂泥(土坑76)</p> <p>48 10YR4/4 褐色砂泥 土器片少量混</p> <p>49 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ5~10cm礫少量混</p> <p>50 10YR3/3 暗褐色砂泥</p> <p>51 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥</p> <p>52 10YR3/2 黒褐色砂泥</p> <p>53 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ3~5cm礫微量混 土器片・炭少量混</p> <p>54 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ5~10cm礫少量混 土器片・炭微量混</p> <p>55 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ3~10cm礫混</p> <p>56 10YR3/4 暗褐色砂泥 土器片・炭少量混</p> <p>57 10YR2/2 黒褐色砂泥(土坑79)</p> <p>58 10YR2/3 黒褐色砂泥(土坑106)</p> <p>59 10YR4/4 褐色砂泥 固くしまる φ3~9cm礫混(土坑66)</p> <p>60 10YR2/2 黒褐色砂泥(土坑80)</p> <p>61 10YR3/4 暗褐色砂泥</p> <p>62 10YR4/4 褐色砂泥 土器片・炭混</p> <p>63 10YR3/3 暗褐色砂泥</p> <p>64 10YR3/4 暗褐色砂泥</p> <p>65 10YR6/6 明黄褐色砂泥</p> <p>66 10YR5/6 黄褐色砂泥</p> <p>67 10YR4/6 褐色砂泥 φ3~5cm礫多量混</p> <p>68 10YR6/4 にぶい黄褐色泥砂</p> <p>69 10YR4/6 褐色砂泥</p> <p>70 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ2~5cm礫混</p> <p>71 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥</p> <p>72 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ2~10cm礫多量混</p> <p>73 10YR4/4 褐色砂泥 φ2~5cm礫少量混</p> <p>74 10YR4/6 褐色砂泥 φ3~10cm礫混</p> <p>75 10YR5/4 にぶい黄褐色 φ~5cm砂礫 φ10~20cmの礫中量混</p> |
|---|---|

図19 2区北壁断面図(1:100)

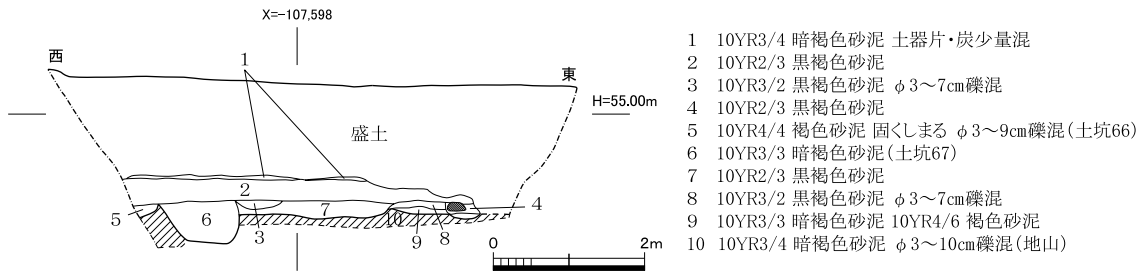


図20 2区東壁断面図(1:100)

を検出した。さらに、図19-70層の地山面は南に低くなり、断面図では見られないが、地表下約1.6~1.8mの標高約53.8~53.6mで暗褐色砂泥層が鳥状にあり、この上面を調査した。柱穴を数基検出した。桃山時代よりは古いと考えるが、出土した土師器皿は小片で時期は不明確である。

2区北壁断面図(図19)西端 西端は東端より地表面が低くなっており、地表下約1.0mの標高約54.0mで地山の暗褐色砂泥となる。標高的には、東端とほぼ同レベルで地山となる。この地山を切って大きく深い土坑2が成立している。この土坑の上層の図19-19層は褐色砂泥で、地山とよく似た整地層で、江戸時代中期の遺物が出土した。下半は江戸時代初頭の遺物が出土した。

(2) 遺構の概要

最初に、重機掘削によって現代盛土層や攪乱土坑、江戸時代中期までの整地層を除去して、遺構を検出した。重機では掘削できない部分の攪乱土坑や江戸時代中期以降の石室・井戸・石列などは人力で掘削し、簡単な図として記録した。

第1面の江戸時代前期の遺構は、大小多数の土坑を検出した。第2面桃山時代の遺構は、1区では土坑、柱穴、石室、柱列など、2区では数基の土坑と溝などがある。

第3面の鎌倉時代から室町時代前期の遺構は、1区では布掘柱列、柱列、土坑など、2区では柱列、土坑、柱穴などがある。これらの遺構を時代の古い順に概説する。

表3 遺構概要表

時期	遺構	
	1区	2区
鎌倉時代	土坑159下層・219・257~259、柱穴260	
室町時代	土坑143~145・159上層・160・196・197・222・231・240、布掘柱列1・2、柱列1、柱穴158・215・254	土坑109・112・113・115、柱列2、柱穴107・110・111・116~119・122~125・127
桃山時代	土坑44・46~48・83・99・128・138・150・163・166・170・172・176・179・209、石室24、柱列3・4、柱穴30・38・39・41・54・55・57・86・111・177・178	土坑26・51・66~68・79・80・87・99~101・103・104、柱穴85・86・92・106、溝37・38
江戸時代初頭	(大規模)土坑12・60・65・113・127、土坑27・35・43・50・59・62・69・78・82・87・110・114~116・119・120・125・129~131・146・152・154・155・157・184	(大規模)土坑2、土坑13・52・57・58・64・65・73、整地層41

(3) 鎌倉時代から室町時代の遺構（図21、図版1）

1区の主な遺構には、鎌倉時代の土坑159下層・219・257～259、柱穴158・260、室町時代の土坑143・159上層・160、布掘柱列1・2、柱列1がある。その他の遺構に土坑、柱穴があるが、室町時代の遺物が出土するものが多い。

2区の第3面は、後世の削平により、島状に3箇所残る。西側では標高53.5m、中央部では標高53.5～53.7m、東端では標高53.6～53.7mで検出した。主な遺構には、室町時代の柱列2、柱穴110・118・119・122～125・127がある。その他に土坑・柱穴がある。残存する遺構面は狭く、建物は復元できなかった。遺物も少なく小片で、第2面の遺構面の下層で検出しているため、やや古い時期と考えるが、時期は不明確である。

1区

土坑219 調査区北側中央部の標高53.3mにて、にぶい黄褐色砂泥礫混の地山面で検出した。江戸時代初頭の土坑で削平され、東西0.5m以上、南北1.6m以上、深さ0.15mある。埋土は暗褐色砂泥礫混で、鎌倉時代の土師器皿が出土した。

土坑257 調査区南東部の標高53.5mにて、にぶい黄褐色砂泥礫混の地山面で検出した。東西0.8m、南北0.6m以上、深さ0.2mある。埋土は暗褐色砂泥礫混で、鎌倉時代の土師器皿が出土した。

柱穴260 調査区北側中央部の土坑219の近く、調査区北壁際の黒褐色から暗褐色砂泥層を切り込んで検出した。直径0.4m、深さ約0.4mある。埋土はにぶい黄褐色砂泥で、一辺0.3mの礎石がある。鎌倉時代の土師器皿が出土した。

土坑258・259(図23) 調査区北東部の標高52.7mにて、黄褐色砂泥層の地山面で検出した。土坑258は、1.3m×0.9m、深さ0.1m、埋土は黒褐色砂泥礫混。土坑259は0.6m×0.8m以上、深さ0.2m残存する。埋土は暗褐色砂泥礫混。土坑259からは鎌倉時代の土師器皿が出土した。

土坑159下層・上層(図22、図版4) 調査区南部中央の標高53.5mにて、にぶい黄褐色砂泥層の地山を切り込んで検出した土坑で、検出面では東西2m、南北2.5m、深さ2.4m、底面の標高は51.1mである。当初は鎌倉時代の井戸であったと考えられるが、井戸枠の痕跡はない。井戸廃棄後、鎌倉時代に土坑159全体が一度埋められた。下層の12～15層の灰黄褐色砂泥から暗褐色砂泥礫混はその時の埋土で、鎌倉時代の遺物が出土した。その後、室町時代になって同位置に土坑159上層部分が掘削され、埋められた。9～1層の暗褐色から黒褐色砂泥で礫の多い層は室町時代の埋土で、鎌倉時代と室町時代の遺物が出土した。その後、江戸時代初頭にほぼ同位置に、深さ0.7mの土坑87(第1面)が掘削されたと考える。

柱穴158(図22) 土坑159上層に隣接して、にぶい黄褐色砂泥の地山面で検出した。埋土はにぶい黄褐色砂泥などで、底部に一辺0.2mの石が据え付けられている。土坑159上層より古い時期の柱穴と考えるが、時期は不明である。

土坑143(図22、図版4) 調査区西部の標高53.0mにて検出した。他の土坑で削平され、北肩では標高52.8m以下は、にぶい黄褐色砂泥の地山である。東西2.5m、南北2.3m以上、深さ1.8mあ

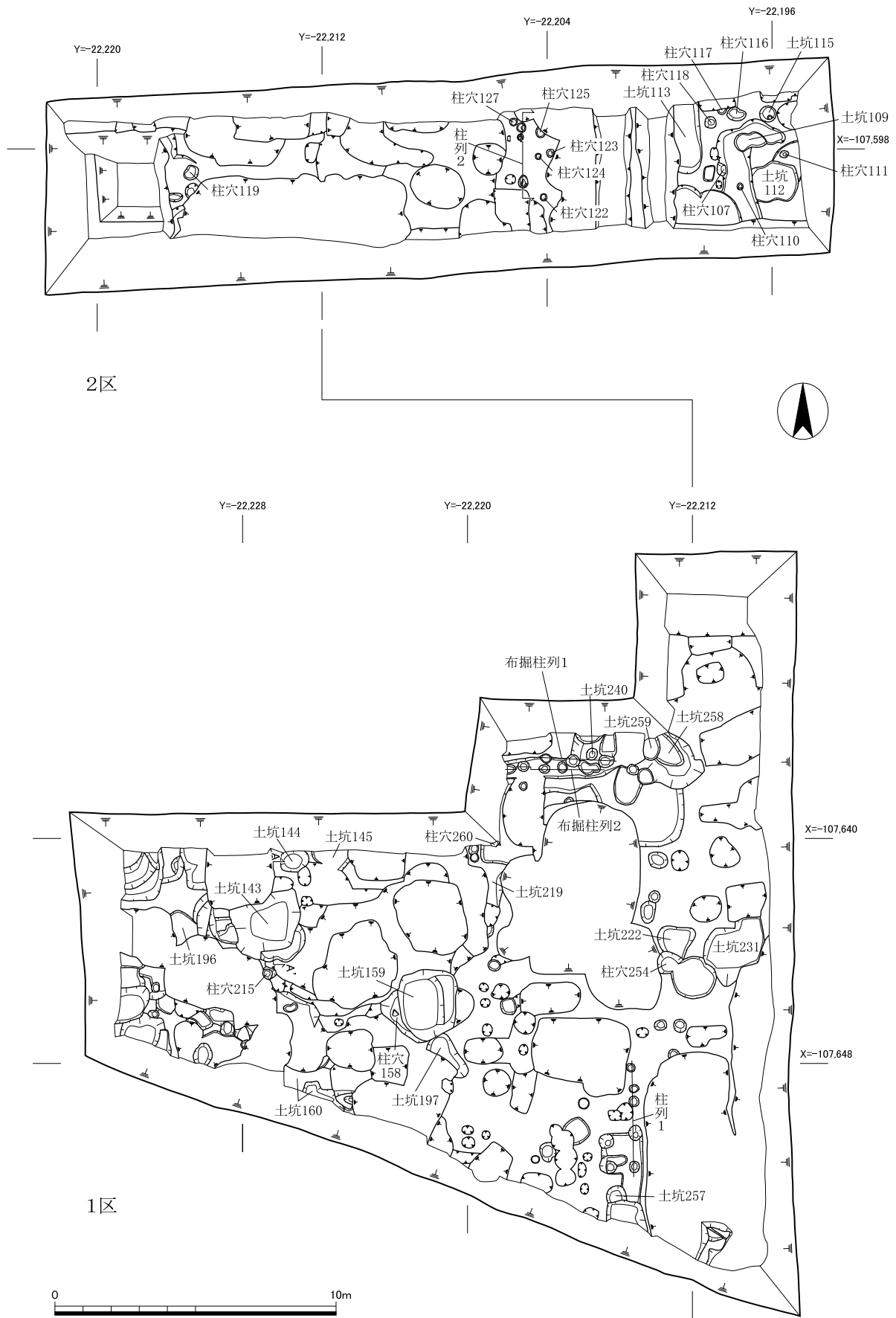


图21 第3面平面图（鎌倉時代から室町時代）（1：200）

る。埋土は黒褐色砂泥などに礫や炭が混入する。室町時代の遺物が出土した。

土坑160 (図22、図版4) 調査区南端中央部の標高53.7mにて検出した。周囲を他の土坑で削平されている。東西約2.8m、南北約1.1m、深さ0.8mある。埋土の第2層上面で室町時代前期の土師器皿が密集して出土した。東側が深くなる土坑である。

布掘柱列 (図23、図版4) 調査区北東部の標高53.1mにて、褐色砂泥層の地山を切り込んで、東西約4.0m、幅約0.7mの溝状遺構を検出した。西端は調査区外に続き、東端は北へ曲がり、調査

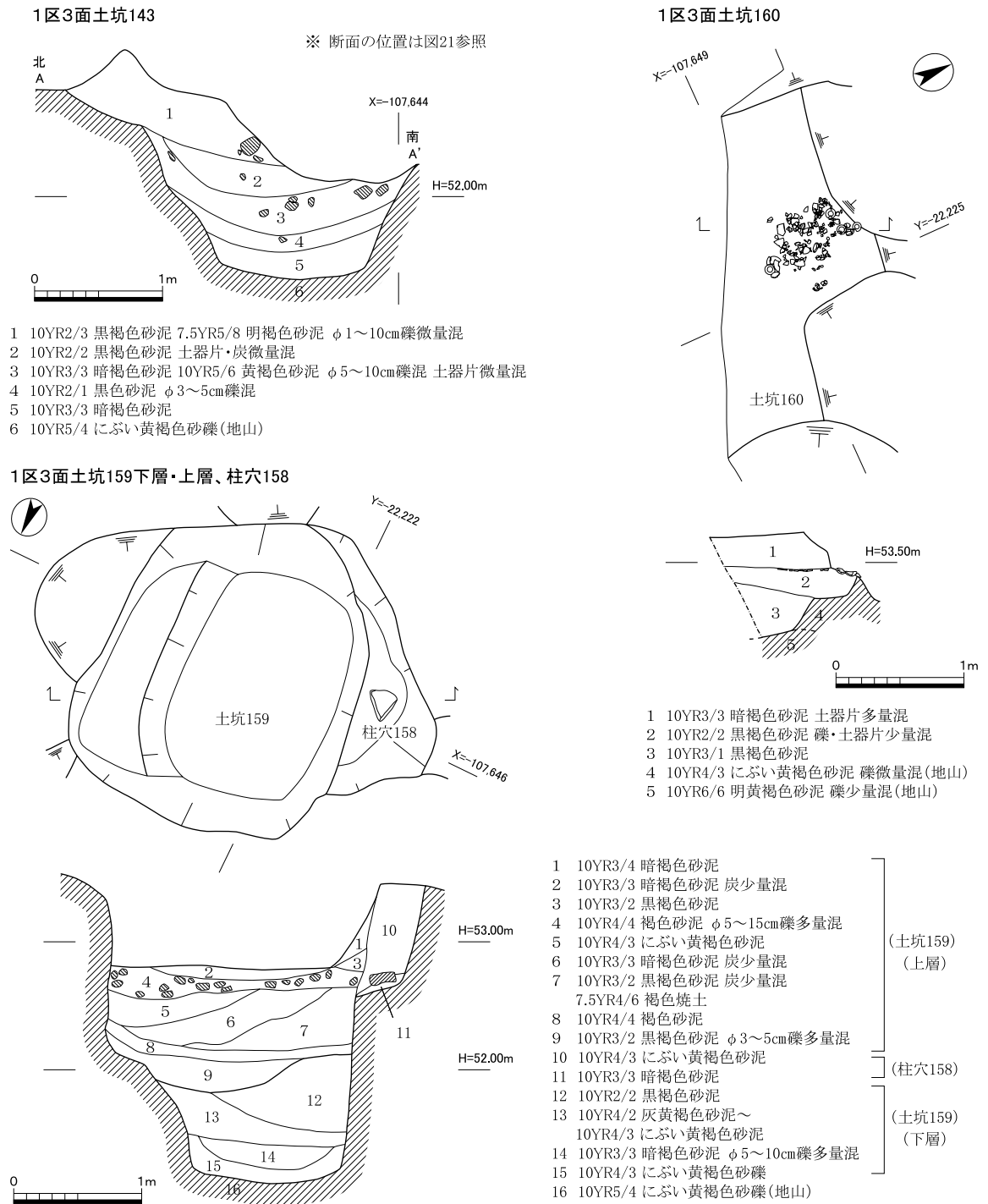
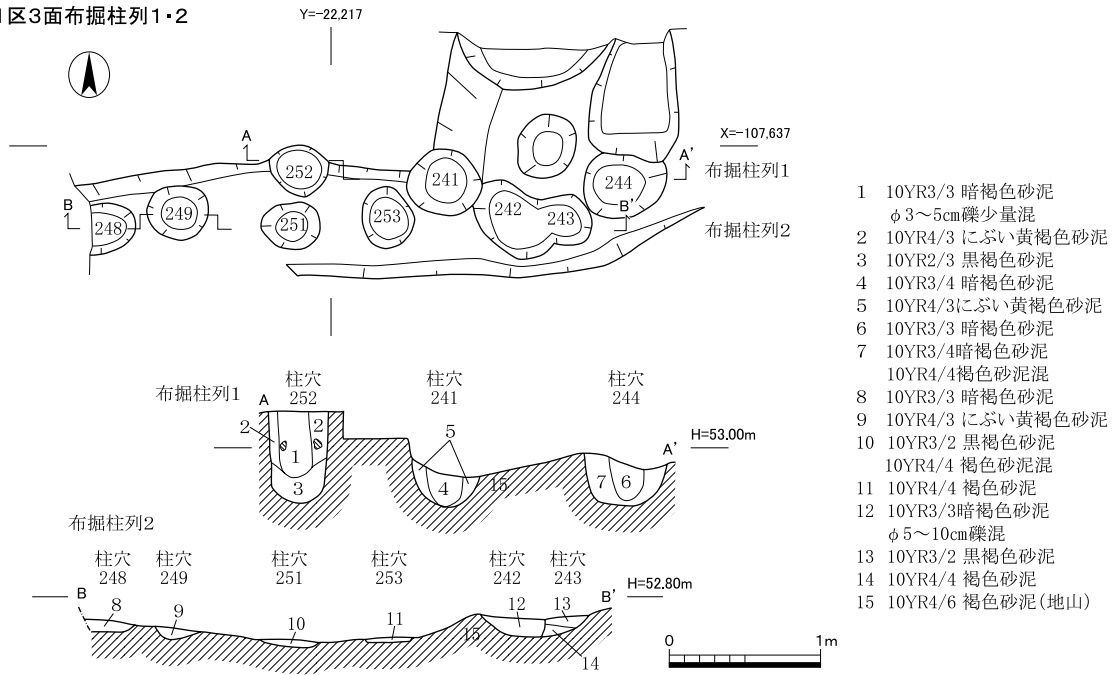
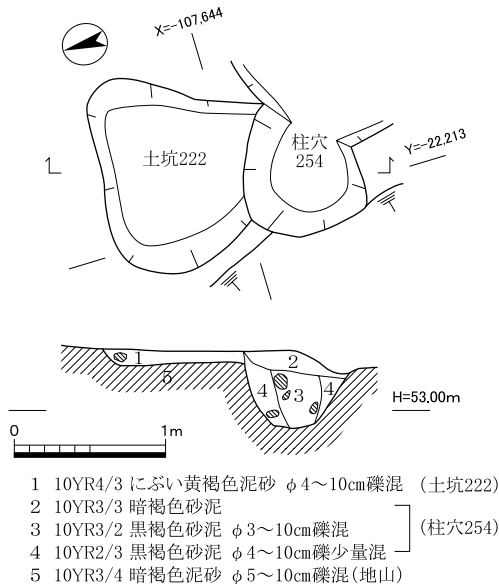


図22 1区3面土坑143・159・160、柱穴158実測図(1:50)

1区3面布掘柱列1・2



1区3面土坑222・柱穴254



1区3面土坑258・259

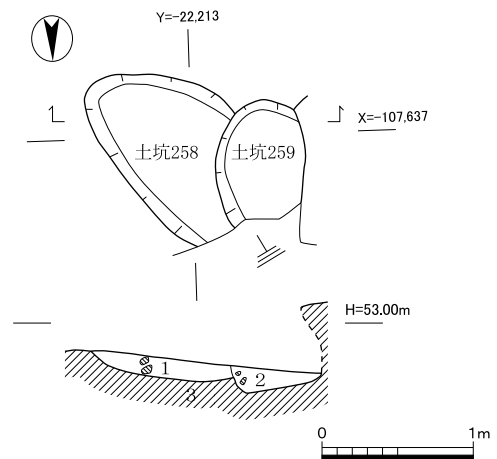


図23 1区3面布掘柱列1・2、土坑222・258・259、柱穴254実測図(1:50)

区外に続く。この溝状遺構内で柱穴列を2列検出した。布掘柱列1(柱穴252・241・244)の各柱穴は、直径0.4~0.5m、深さ0.2~0.6m残存する。柱穴252は残存状態が良い。いずれの柱穴も柱当たりが残存している。柱間は西から1.0m・1.2mある。布掘柱列2(柱穴248・249・251・253・242・243)は、溝の底面で検出し、柱穴の底面部分を検出したのみである。柱穴242・243が切り合っている、作り替えがあると考え。柱穴249・253・243の柱間は西から1.0m・1.2m、柱穴248・251・242の柱間は西から1.3m・1.4mである。溝は北側に曲がるが、土坑で削平され、柱列は不明である。塀か柵跡と考えられる。平安時代の遺物とともに室町時代の遺物が小片で出土した。

柱列 1 (柱穴210・212・256・235) (図24) 調査区南東部の標高53.5mにて、にぶい黄褐色砂泥礫混の地山面で検出した柱列である。柱穴は直径0.3～0.5m、深さ約0.3m、埋土は暗褐色砂泥などで、柱間はそれぞれ約1.2mある。塀か柵跡と考えられる。遺物は出土していない。

その他の遺構 標高53.0～53.4mの黄褐色砂泥から褐色砂泥の地山面で検出した。調査区北西部の土坑144は、東西1.0m、南北0.8m、深さ0.4m、埋土は黒褐色砂泥、土坑145は、東西1.4m、南北0.7m以上、深さ0.2m、埋土は暗褐色砂泥。ともに土師器皿や瓦器鉢など室町時代の遺物が出

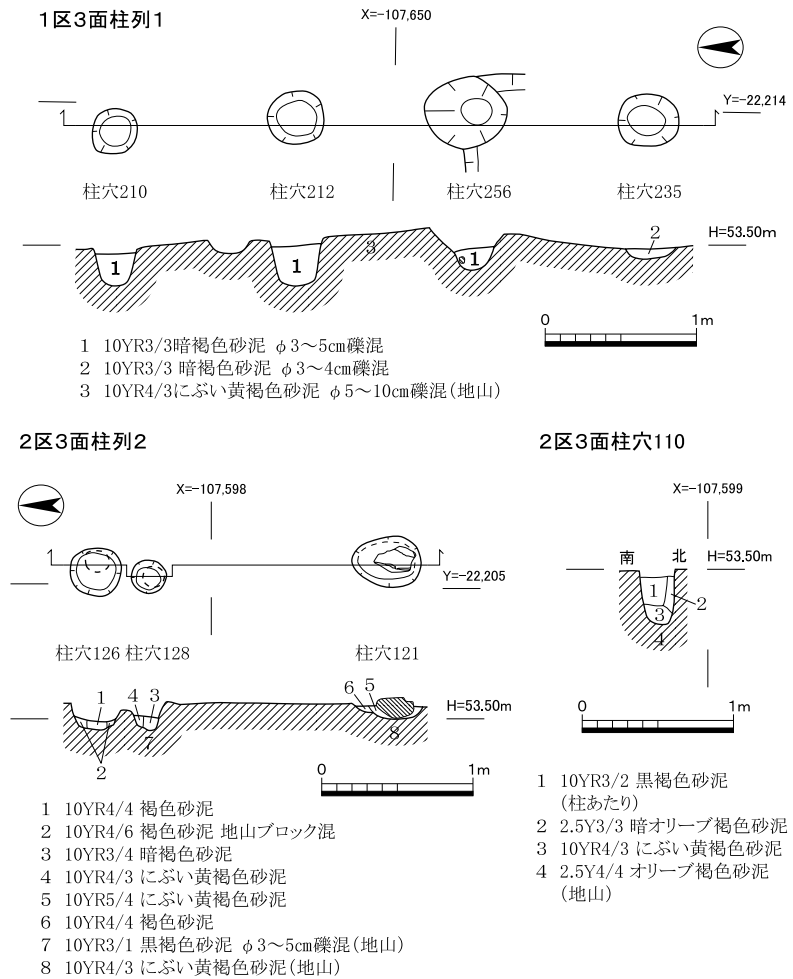


図24 1区3面柱列1、2区3面柱列2、柱穴110実測図(1:50)

土した。調査区西部の土坑196は、他の土坑などに削平され、東西0.9m以上、南北1.2m以上、深さ0.1mある。埋土のにぶい黄褐色泥砂から、室町時代の土師器皿・甕、瓦器羽釜などが出土した。調査区南部中央で検出した土坑197は、東西約1.1m、南北1.5m以上、深さ0.25m残存する。埋土は黒褐色砂泥で、土師器小片が出土した。土坑231は、調査区東部で検出した。東西2.1m、南北2.3m、深さ0.3mある。埋土は黒褐色砂泥で、室町時代の土師器皿、須恵器甕などが出土した。柱穴215は、調査区西部中央で検出した。直径約0.4m、深さ0.25mある。埋土は黒褐色砂泥で室町時代前期の土師器皿が出土した。土坑222(図23)は、調査区西中央部の標高53.4mにて、暗褐色砂泥礫混層の地山面で検出した。一辺約1.1mの三角形、深さ0.1mあり、土師器小片が出土した。土坑240は、調査区北東部の布掘柱列の中で検出した。直径0.4m、深さ0.1m、埋土は暗褐色砂泥である。柱穴254(図23)は、調査区西中央部の標高53.3mにて、褐色泥砂礫混層の地山面で検出した。直径0.8m、深さ0.5mある。埋土は暗褐色砂泥で、室町時代の土師器皿が出土した。

2区

柱穴119 調査区西部で検出した。直径0.5m、深さ0.2m。埋土は暗褐色砂泥で、土師器皿小片、青磁碗小片が出土した。

柱列2(柱穴126・128・121)(図24) 調査区中央部の標高53.6mにて、にぶい黄褐色砂泥の地

山面で南北方向に検出した。柱穴121(図版4)は底部に0.2×0.3mの石を据え付ける。柱間は、北から0.4m・1.6mある。埋土は黄褐色砂泥から暗褐色砂泥で、各柱穴からは室町時代の土師器少片が出土した。

柱穴122～125・127 標高53.5～53.7mで検出した。直径0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mある。遺物は少なく、小片である。

柱穴110(図24、図版4) 調査区東端の標高53.5mにて、オリーブ褐色砂泥の地山面で検出した。直径0.2m、深さ0.4m。埋土は暗褐色砂泥である。

土坑115 直径0.6m、深さ0.2m。埋土は黒褐色砂泥。土師器小片が出土した。

柱穴118 直径0.4m、深さ0.1m。埋土は暗褐色砂泥である。土師器小片が出土した。

その他の遺構 標高53.6～53.7mで柱穴107・111・116・117を検出した。直径0.3～0.7m、深さ10.1～0.2m残存する。埋土は褐色砂泥から暗褐色砂泥で、土師器小片が出土する。また、土坑109は、東西1.2m、南北0.7m、深さ0.1m、埋土はにぶい黄褐色から褐色砂泥である。土坑112は、東西1.6m、南北1.5m、深さ0.1m、埋土は黒褐色泥砂である。土坑113は、東西0.9m、南北2.5m、深さ0.1m、埋土は褐色泥砂で、土師器が出土した。

(4) 桃山時代の遺構(図25、図版2)

1区の桃山時代の主な遺構には、石室24、土坑83・99・170・176・209、柱列3・4、柱穴38・39があり、この時期の遺物が出土した。その他遺構に土坑や柱穴がある。

2区の桃山時代の主な遺構には、溝37・38、土坑100・103・104があり、この時期の遺物が出土した。その他の遺構に土坑、柱穴がある。

1区

石室24(図26、図版5) 調査区南端中央部の標高53.3mにて、黒褐色泥砂礫混の地山面で検出した。東西1.2m以上、南北1.3m以上、深さ0.3mある。西側、南側、上部が削平される。一辺0.2～0.4mの石の長軸を石室壁面沿いに積み上げる。2段残存する。埋土はにぶい黄褐色泥砂礫混で、室町時代から桃山時代の遺物が出土した。底面には、にぶい黄褐色泥礫混を敷く。

土坑83(図26) 調査区南東部の標高53.6mにて、褐色砂泥礫混の地山面で検出した。東西3m、南北5m、深さ0.7mある。北セクション断面と南セクション断面の様子が異なる。埋土は黒褐色～暗褐色砂泥で、桃山時代の遺物が出土した。

土坑99(図27、図版5) 調査区東側中央部の標高53.7mにて、褐色泥砂礫混の地山面で検出した。直径0.5m、深さ0.2mある。据え付けられた瓦器鉢か甕の底部が残存する。埋土は暗褐色砂泥で、桃山時代の遺物が出土した。

土坑170 調査区北西部の標高53.5mにて検出した。東西1.1m以上、南北3.4m以上、深さ0.3mある。埋土は褐色砂泥で、桃山時代の土師器皿などとともに犬形土製品(図37-81、図版8)が出土した。

土坑176(図26、図版6) 調査区南西部の標高53.2mにて、明黄褐色砂泥の地山面で検出した。

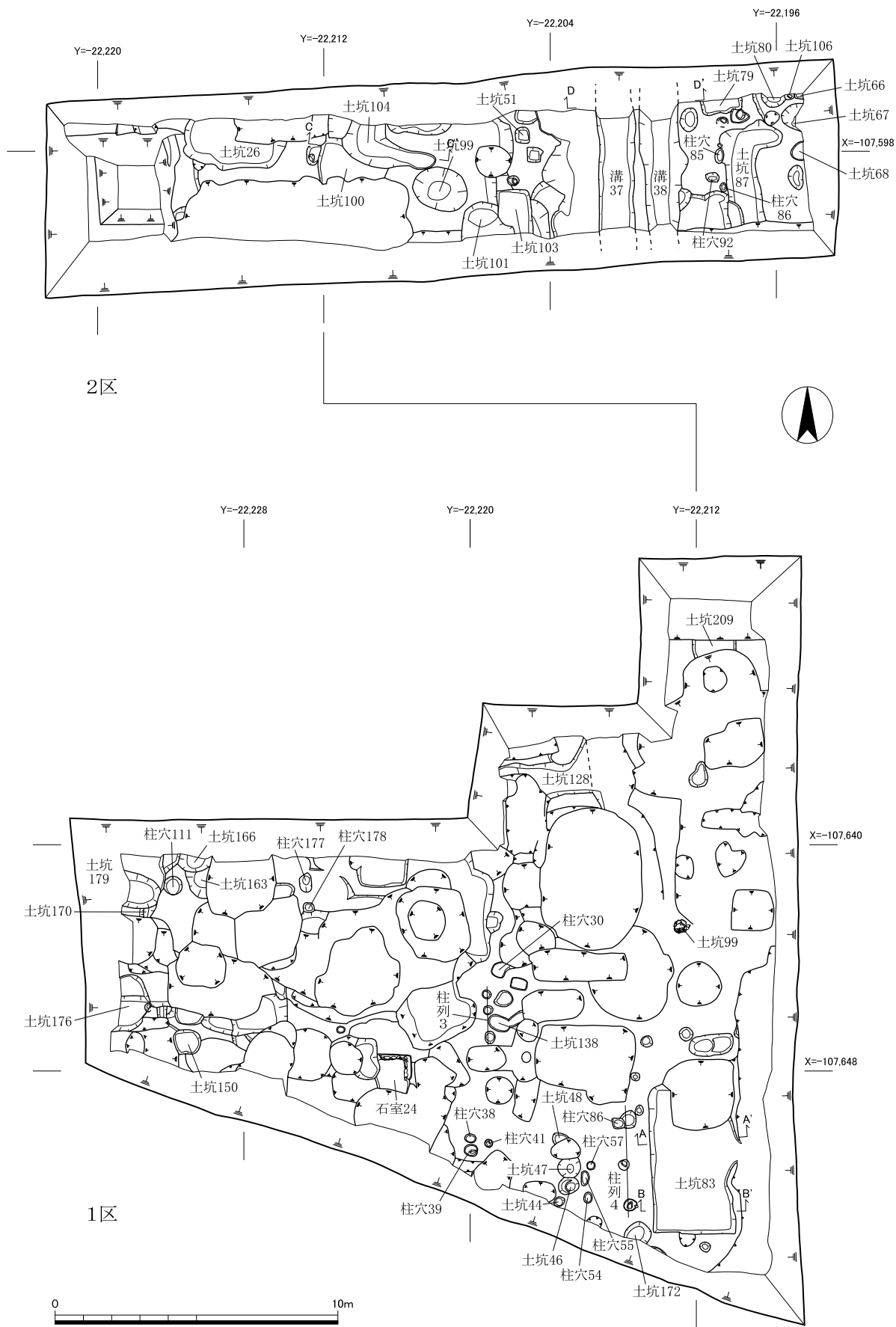
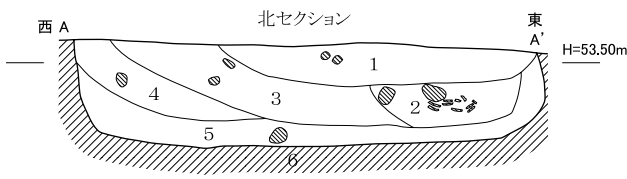


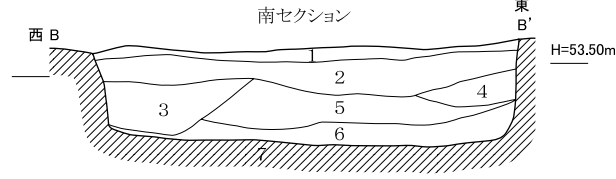
图25 第2面平面图（桃山時代）（1：200）

1区2面土坑83

※ 断面の位置は図25参照

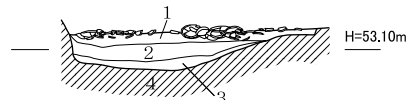
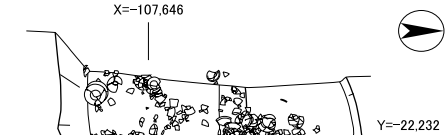


- 1 7.5YR2/2 黒褐色砂泥 土器片混
- 2 10YR2/2 黒褐色砂泥 土器片混
- 3 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ5~10cm礫少量混
- 4 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭微量混
- 5 10YR2/2 黒褐色砂泥 土器片・炭少量混
- 6 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~10cm礫多量混(地山)



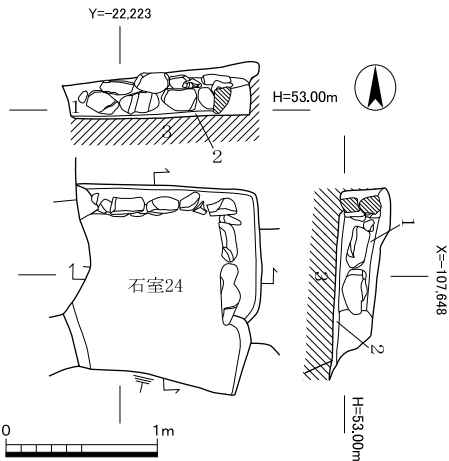
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 3 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ5~10cm礫多量混
- 4 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 5 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 6 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 7 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~10cm礫多量混(地山)

1区2面土坑176



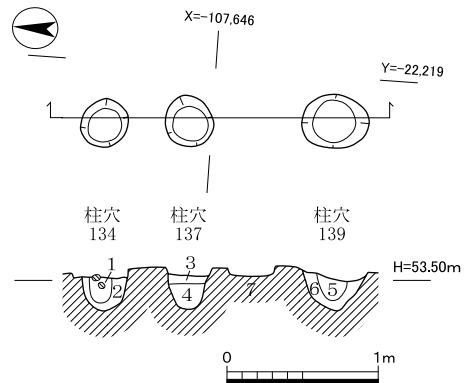
- 1 10YR2/2 黒褐色泥砂 土器多量混
- 2 10YR4/2 灰黄褐色泥砂
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 4 10YR6/6 明黄褐色砂泥(地山)

1区2面石室24



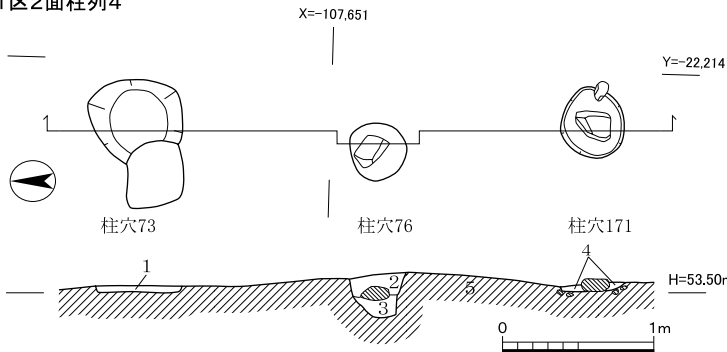
- 1 10YR7/3 にぶい黄褐色泥砂 φ0.1~5cm礫混
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色泥砂 φ1~5cm礫少量混
- 3 10YR4/3 黒褐色泥砂 φ1~3cm礫混(地山)

1区2面柱列3



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ10cm礫混
- 2 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 3 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 4 10YR3/4 暗褐色砂泥 φ2~5cm礫混
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ2~3cm礫少量混
- 6 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 礫混(地山)

1区2面柱列4



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ1~5cm礫混 炭混
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ15cmの石混 土器片少量混
- 3 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 礫混
- 4 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 礫混(地山)

図26 1区2面土坑83・176、石室24、柱列3・4実測図(1:50)

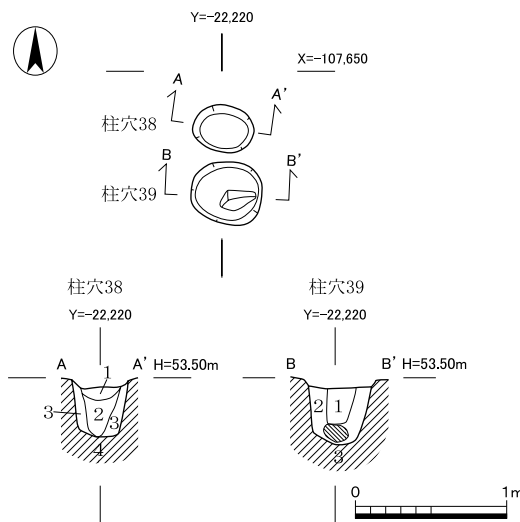
東西1.0m、南北2.0m以上、深さ0.3mある。埋土は3層に分層でき、第1層上面で一括で廃棄された桃山時代の大量の土師器皿が出土した。

土坑209 調査区北東部の標高53.5mにて、黒褐色砂泥礫混の地山面で検出した。東西1.5m、南北0.6m、深さ0.2mある。埋土は暗褐色砂泥で、桃山時代の遺物が出土した。

柱列3 (柱穴134・137・139) (図26) 調査区中央部の標高53.5m、褐色砂泥礫混の地山面で検出した。南北方向の柱列で、柱穴は直径0.3~0.4m、深さ約0.3m、埋土は暗褐色砂泥などで、柱間は北から0.6m・1.0mある。

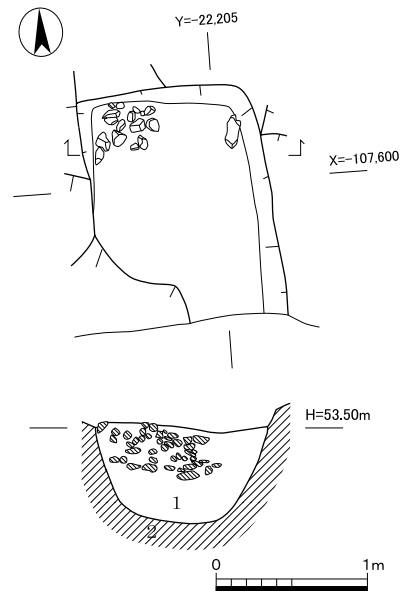
柱列4 (柱穴73・76・171) (図26) 調査区南東部の標高53.5m、にぶい黄褐色砂泥礫混の地山面で検出した。南北方向の柱列で、柱穴は直径0.4~0.6m、深さ0.1~0.3m、埋土はにぶい黄褐色砂泥から黒褐色砂泥である。柱穴76と柱穴171は一辺0.2mの根石状の石がある。柱間は1.5m間隔

1区2面柱穴38・39



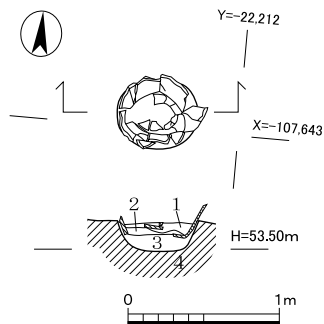
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色砂泥 | 1 10YR3/3 暗褐色砂泥 |
| 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 | φ2~5cm礫少量混 |
| 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 | 2 10YR3/4 暗褐色砂泥 粗砂混 |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥礫混(地山) | 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥礫混(地山) |

2区2面土坑103



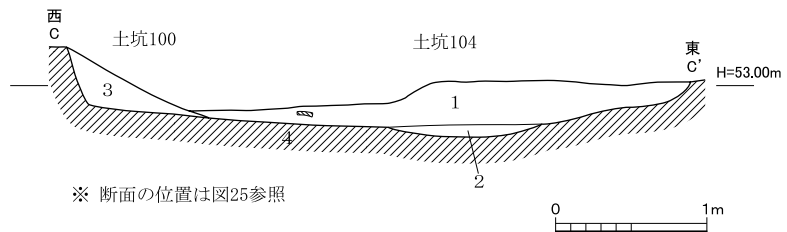
- | |
|-----------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色砂泥 φ3~13cm礫多量混 |
| 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥(地山) |

1区2面土坑99



- | |
|---------------------------------|
| 1 10YR3/4 暗褐色砂泥 土器片・炭微量混 |
| 2 10YR3/3 暗褐色砂泥 土器片微量混 |
| 3 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ5cm礫少量混 土器片少量混 |
| 4 10YR4/4 褐色泥砂 φ10~15cm礫混(地山) |

2区2面土坑100・104



- | | |
|--|-----------|
| 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥ブロック 多量混 |] (土坑104) |
| 2 10YR3/3 暗褐色砂泥 | |
| 3 10YR2/1 黒色炭層(土坑100) | |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥(地山) | |

図27 1区2面柱穴38・39、土坑99、2区2面土坑103・100・104実測図(1:50)

である。

柱穴38・39（図27） 調査区南端中央部の標高53.5m、にぶい黄褐色砂泥礫混の地山面で並んで検出した。直径0.4～0.5mの楕円形、深さ約0.4m、埋土は暗褐色から黒褐色砂泥である。柱穴39には底面に一辺0.2m大の根石が据え付けられる。

その他の遺構 土坑や柱穴を標高約53.5mで検出した。土坑44・46～48・172・128・138・150・163・166・179があり、桃山時代の遺物が出土した。柱穴には、柱穴30・41・54・55・57・86・111・177・178がある。桃山時代の遺物が少量出土した。江戸時代の削平を受け、建物などは復元できなかった。

調査区南東部にて、にぶい黄褐色砂泥礫混の地山面で検出した土坑44・46～48・172は、長軸が0.3～1.1m、短軸が0.3～0.7m、深さ0.1～0.3mある。埋土は黒褐色から暗褐色砂泥などである。土坑128は、調査区北部の地山面で検出した。東西3.0m以上、南北1.1m、深さ0.3mの不定形である。埋土は黒褐色砂泥。土坑138は、調査区中央部で検出した。東西0.8m、南北0.5m、深さ0.1m、埋土は黒褐色砂泥。土坑150は、調査区南西部にて、にぶい黄褐色砂泥の地山面で検出した。東西1.0m、南北0.9m、深さ0.3m、埋土はにぶい黄褐色砂泥。土坑163は、調査区北西部にて検出した。東西0.7m以上、南北1.0m以上、深さ0.2mある。土坑166は、調査区北西部で検出した。東西1.1m以上、南北0.5m以上、深さ0.3m、埋土は暗褐色砂泥。土坑179は、調査区北西部の標高53.2mにて検出した。東西1.6m、南北1.9m、深さ0.5m、埋土は暗褐色砂泥である。

調査区南東の標高約53.5mで検出した柱穴41・54・55・57・86は、長軸0.3～0.4mの円形から楕円形で、深さ0.1～0.3m残存する。埋土は暗褐色砂泥から黒褐色砂泥などである。柱穴30は調査区中央部で検出した。直径約0.5m、深さ0.1m残存し、埋土は黒褐色砂泥である。柱穴111は調査区北西部で検出した。東西0.6m、南北0.7m、深さ0.4m、埋土は暗褐色砂泥である。柱穴177・178は調査区中央西側の攪乱土坑底面の標高52.9mで検出した。柱穴177は東西0.4m、南北0.7m、深さ0.3m、埋土は褐色砂泥、柱穴178は東西0.4m、南北0.35m、深さ0.4m、埋土はにぶい黄褐色砂泥である。間隔は約1.0mある。

2区

溝37・38（図28、図版6） 調査区東部の標高53.5～53.8mにて、にぶい黄褐色泥砂から褐色砂泥の地山面で検出した南北方向の溝である。溝37は幅1.2～1.4m、深さ0.6m、溝38は幅1.0～1.4m、深さ1.0mある。ともに南北約4.5m検出し、調査区外の南と北に延びる。溝37の埋土は黒褐色砂泥が主体で黄褐色砂泥ブロックが混じる。溝38の東約0.1mに位置する。溝38の埋土は暗褐色砂泥で直径1～10cmの礫が混入する。どちらも数層に分層でき、その形状から掘り直したことがわかる。埋土からは水が流れた痕跡は見られない。上部が削平されているため、先後関係は不明で、併存していた可能性もある。少量の桃山時代の遺物が出土した。

土坑100・104（図27） 調査区中央部の標高53.3mにて、にぶい黄褐色砂泥の地山面で検出した。土坑100は東西1.4m、南北2.4m、深さ0.5m、埋土は黒色炭層、桃山時代の遺物が出土した。土坑104は東西3.2m、南北1.4m、深さ0.3m、埋土は黒褐色砂泥などである。土坑104が土坑100

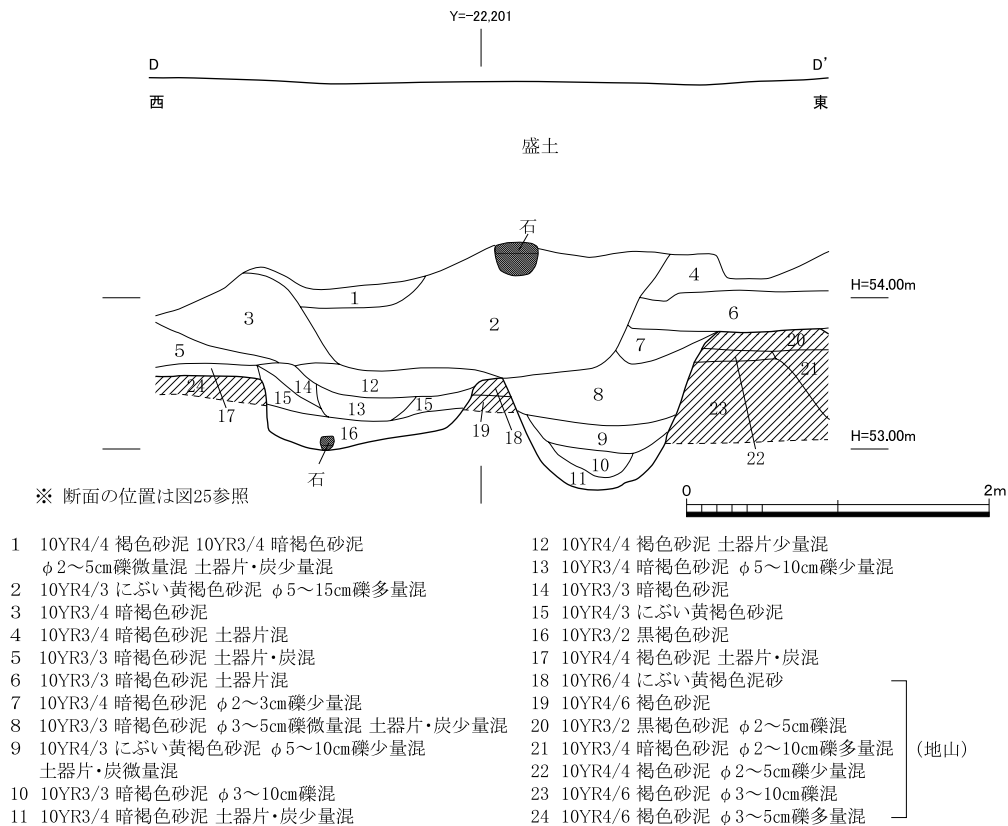


図28 2区2面溝37・38断面図（1：50）

の東側を切っている。

土坑103(図27) 調査区中央部の標高53.8mにて検出した。東西1.2m、南北1.5m、深さ0.8m。埋土はにぶい黄褐色砂泥である。上層には直径3~13cmの礫を多く含む。

その他の遺構 土坑26・51・66~68・79・80・87・99・101、柱穴85・86・92・106などがある。標高53.7~53.8mで検出した。

土坑26は調査区西部の明褐色砂泥の地山面で検出した。東西3.2m、南北1.8m、深さ0.5m。埋土はにぶい黄褐色砂泥・黒褐色砂泥である。調査区中央部の土坑51は、東西0.5m、南北0.6m、深さ0.3m。埋土は褐色砂泥礫混・炭混じりである。土坑99は東西1.9m、南北1.5m、深さ0.4m。埋土は暗褐色砂泥から褐色砂泥である。土坑101は東西1.8m、南北1.3m、深さ0.9m。埋土は暗褐色砂泥である。

調査区東部の土坑66~68・79・80・87、柱穴85・86・92・106は、にぶい黄褐色砂泥の地山面で検出した。埋土は暗褐色から黒褐色砂泥である。土坑66は東西0.3m以上、南北0.2m以上、深さ0.2m。土坑67は東西0.8m以上、南北1.0m、深さ0.4m。土坑68は東西0.5m以上、南北0.6m、深さ0.1m。土坑79は東西1.5m、南北0.5m以上、深さ0.2m。土坑80は東西0.9m、南北0.4m以上、深さ0.2m。土坑87は東西1.8m、南北3.4m、深さ0.3m。柱穴85は東西0.3m、南北0.5m、深さ0.2m。柱穴86は東西0.2m、南北0.3m、深さ0.1m。柱穴92は東西0.5m、南北0.3m、深さ0.1m。遺物は出土していない。土坑68・87から室町時代の遺物が出土した。柱穴106は径0.4m、深さ0.1m。底部に石を据え付ける。

(5) 江戸時代初頭の遺構 (図29、図版3)

1区では標高約53.7mで江戸時代初頭の大小多数の土坑を検出した。大規模で出土遺物の多い土坑は、年代観の古い順に土坑65・127・113・12・60がある。規模は一辺1～5m、深さ0.8～2.5mある。各土坑からは炭・焼土・焼け壁土、江戸時代初頭の土師器とともに多量の陶磁器類や瓦類が出土した。また、遺物を掲載した土坑69・110・115・116・120・125・129・130・146・152・184がある。その他の遺構に土坑がある。

2区では標高約54.0mで江戸時代初頭の土坑を検出した。基礎攪乱などで大きく削平される中、検出した大規模な土坑2がある。その他の遺構に土坑、整地層がある。いずれも江戸時代初頭の遺物が出土した。

1区

土坑65 (図30、図版7) 調査区中央東側の標高53.7mにて検出した大規模な土坑で、大量の土師器皿とともに、陶磁器類が出土した。東西3.9m、南北5.1m、深さ1.8mある。断面図(図30)を見ると、砂礫の地山を大きく掘り下げ、南側から埋めたてていることがわかる。特に1～22層に炭の混入が多い。大規模な土坑で、西隣の土坑120・125などとの切り合いが認められる。底面は標高51.4mである。

土坑127 土坑65の西側に位置し、後述する土坑113によって上部を削平された状態の標高52.4mにて検出した。東西2.5m、南北2.6m、深さ1.2mある。その形状から、当初は井戸の可能性があるが、木枠などの痕跡は見られない。底面の標高は51.2mである。

土坑113 (図31) 調査区中央部の標高53.7mにて検出した。東西4.9m、南北4.1m、深さ1.6mある。東肩・南北肩は褐色粗砂礫の地山となるが、西肩は土坑12に削平され、明確ではない。埋土には黒褐色砂泥から褐色砂泥に炭が大量に混入する層がある。特に、底面の7・11層は真黒い土層である。埋土から大量の遺物が出土した。上層の2～5層は西隣の土坑12の埋土と考える。

土坑12 (図31、図版7) 江戸時代中期の石室などで削平され、全容は明らかでない。標高53.7mで東西4.5m以上、南北2.2m以上、深さ1.4m検出した。断面図(図31)から、埋土は黒褐色砂泥と炭層の互層堆積で、底面の3層は炭層とわかる。この炭層は、土坑113断面図(図31)の4・5層に続き、東接する土坑113の上部に重複して掘削されていることが判明した。埋土から多くの遺物が出土した。

土坑60 (図31、図版7) 調査区中央南部の標高53.5mにて検出した。東西3.5m、南北3.2m、深さ0.8m。埋土は暗褐色砂泥や黒褐色砂泥炭混で、土師器皿とともに播鉢が多く出土した。

土坑115 (図31) 土坑65の南隣の標高53.4mで検出した。東西3.4m、南北1.1m、深さ1.0m。埋土は黒褐色砂泥炭混や礫混である。断面の様子から、南側から埋められたことがわかる。埋土から多くの貝殻や骨が出土した。

土坑69 土坑65の北隣で検出した。上部は削平され、東西0.8m以上、南北1.0m以上、深さ0.1mある。埋土は黒褐色砂泥炭混である。唐津産大皿が出土した。

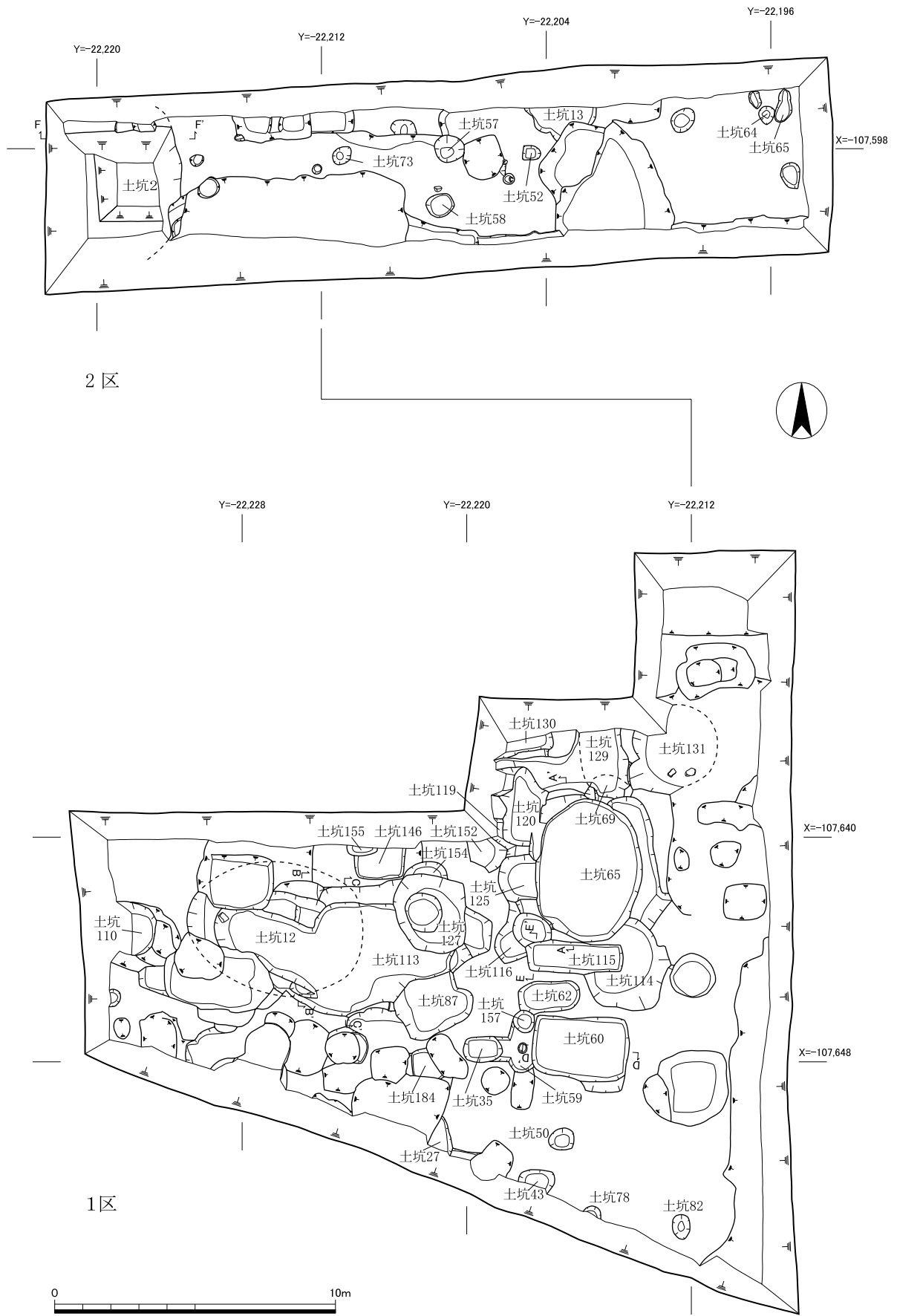
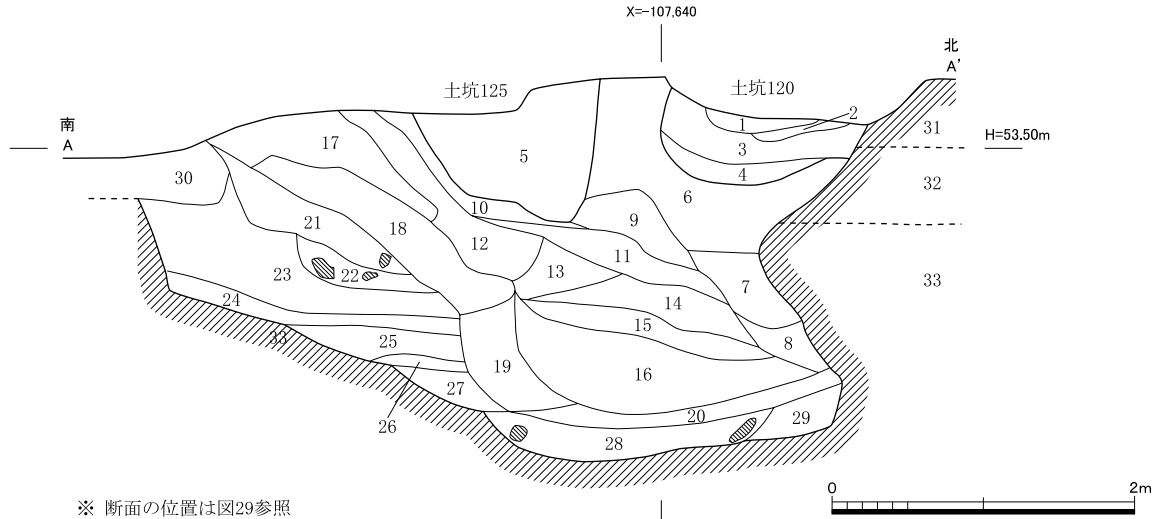


图29 第1面平面图 (1:200)



- | | |
|--|--|
| 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 炭混 | 17 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 礫少量混 土器片・炭少量混 |
| 2 10YR4/4 褐色砂泥 10YR1.7/1 黒(炭) | 18 10YR4/4 褐色砂泥 炭混 |
| 3 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 | 19 10YR3/4 暗褐色砂泥 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土混 炭少量混 |
| 4 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 土器片少量混 炭少量混 | 20 10YR4/4 褐色砂泥 粘質 炭微量混 |
| 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 炭多量混 (土坑125) | 21 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭中量混 |
| 6 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭混 | 22 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭多量混 |
| 7 10YR3/2 黒褐色～10YR3/3 暗褐色砂泥
土器片少量混 炭中量混 | 23 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 土器片・炭少量混 |
| 8 10YR2/3 黒褐色砂泥 炭少量混 | 24 10YR4/4 褐色砂泥 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥ブロック混 炭少量混 |
| 9 10YR3/3 暗褐色泥砂 φ5～12cm礫多量混 | 25 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭少量混 |
| 10 10YR3/4 暗褐色砂泥 炭混 | 26 10YR3/1 黒褐色砂泥 やや粘質 炭多量混 |
| 11 10YR3/4 暗褐色砂泥 炭多量混 | 27 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭少量混 |
| 12 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭多量混 | 28 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥 やや粘質
10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥ブロック混 礫多量混 |
| 13 10YR3/4 暗褐色砂泥 土器片混 炭少量混 | 29 10YR3/3 暗褐色砂泥 やや粘質 |
| 14 10YR4/3 にぶい黄褐色～10YR4/4 褐色砂泥
5YR4/8 赤褐色 焼土混 | 30 10YR3/3 暗褐色砂泥 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 10YR1.7/1 黒(炭) |
| 15 10YR3/3 暗褐色泥砂 炭微量混 | 31 10YR3/3 暗褐色砂泥 土器微量混 |
| 16 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂 土器片・炭少量混 | 32 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 |
| | 33 10YR4/4 褐色粗砂礫 礫大量混 (地山) |

図30 1区1面土坑65断面図(1:50)

土坑116 土坑65の南西部で検出した。東西1.1m以上、南北1.3m、深さ0.3mあり、埋土はにぶい黄褐色砂泥である。

土坑120 土坑65の北西で検出した。東西1.2m、南北2.8m、深さ0.7mある。埋土はにぶい黄褐色砂泥である。

土坑125 土坑65の西隣で検出した。東西1.4m、南北1.6m、深さ1.2mある。埋土は黒褐色砂泥である。

土坑129 土坑65の北側で検出した。東西1.7m、南北2.4m以上、深さ0.5mある。埋土は黒褐色砂泥である。

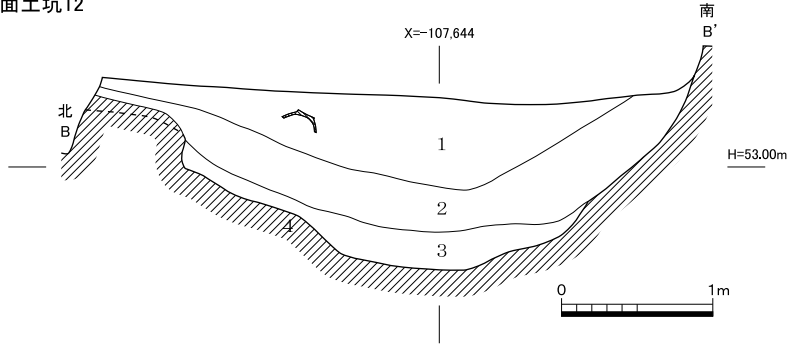
土坑130 土坑65の北側で検出した。東西1.7m以上、南北0.5m以上、深さ0.7mある。埋土は黒褐色砂泥炭混である。

土坑146 土坑113の北隣で検出した。東西1.8m、南北1.0m以上、深さ0.4mある。埋土は灰黄褐色砂泥である。

土坑152 土坑127の北隣で検出した。東西1.4m以上、南北1.0m以上、深さ0.1mある。埋土は暗褐色砂泥・褐色砂泥ブロック混である。

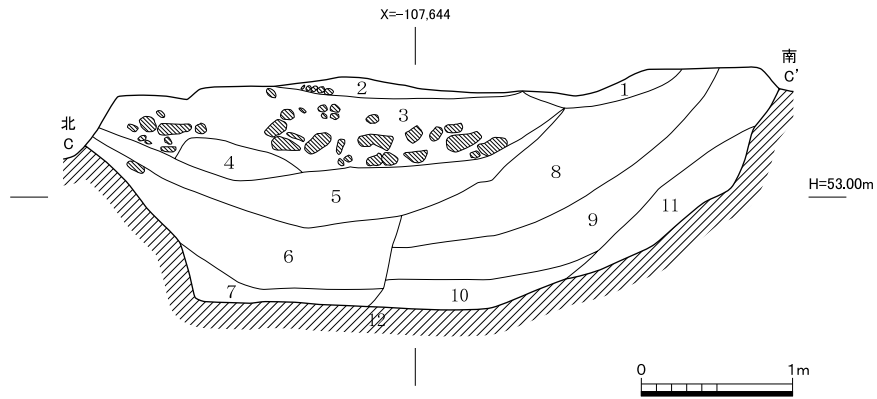
土坑110 調査区西端中央部で検出した。東西1.4m、南北1.9m、深さ1.0m。埋土はにぶい黄褐

1区1面土坑12



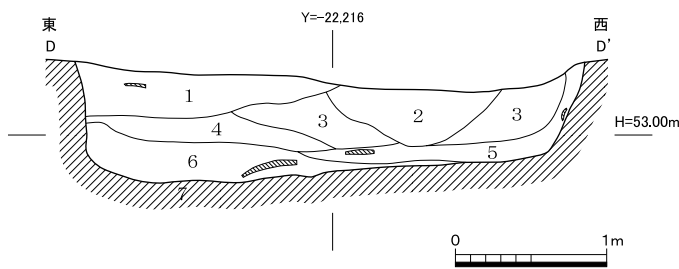
- 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 やや粘質
1層と2層の間2~3cmの厚さ 10YR2/1 黒色 炭層 土器片混
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 炭多量混
- 3 10YR2/1 黒色 炭層
- 4 10YR2/3 黒褐色砂泥(土坑143埋土)

1区1面土坑113



- 1 10YR7/2 にぶい黄褐色砂泥
- 2 10YR8/2 灰色砂泥 φ1~3cmの礫混
- 3 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ5~20cmの石混 (土坑12)
- 4 10YR2/3 黒褐色砂泥 土器片少量混
- 5 10YR2/3 黒褐色砂泥 炭混
- 6 10YR3/3 暗褐色砂泥 土器片少量混
- 7 10YR2/2 黒褐色砂泥 土器片少量混
- 8 10YR3/4 暗褐色砂泥
- 9 10YR4/4 褐色砂泥 φ2~5cmの礫少量混
- 10 10YR4/4 褐色砂泥
- 11 10YR2/3 黒褐色砂泥 炭混
- 12 10YR4/4 褐色粗砂礫 礫大量に混(地山)

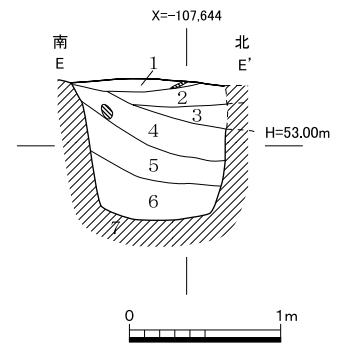
1区1面土坑60



- 1 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ3~7cmの礫少量混 土器片・炭混
- 2 10YR3/4 暗褐色砂泥 10YR4/6 褐色砂泥ブロック混 土器片・炭・焼土混
- 3 10YR2/2 黒褐色砂泥 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥ブロック混 土器片・炭少量混
- 4 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 5 10YR3/3 暗褐色砂泥 10YR4/6 褐色砂泥ブロック混 土器片微量・炭少量混
- 6 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ5~10cmの礫多量混 土器片少量混
- 7 10YR4/4 褐色粗砂礫 礫大量に混(地山)

※ 断面の位置は図29参照

1区1面土坑115



- 1 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~5cm礫混 炭混
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ1~3cm礫混
- 3 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~3cm礫混
- 4 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭混
- 5 10YR2/2 黒褐色砂泥 炭混
- 6 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 7 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~10cm礫多量混(地山)

図31 1区1面土坑12・113・60・115断面図 (1:50)

色砂泥である。

土坑184 調査区南中央部で、東西1.0m以上、南北1.6m、深さ0.5m検出した。埋土はにぶい黄褐色砂泥である。

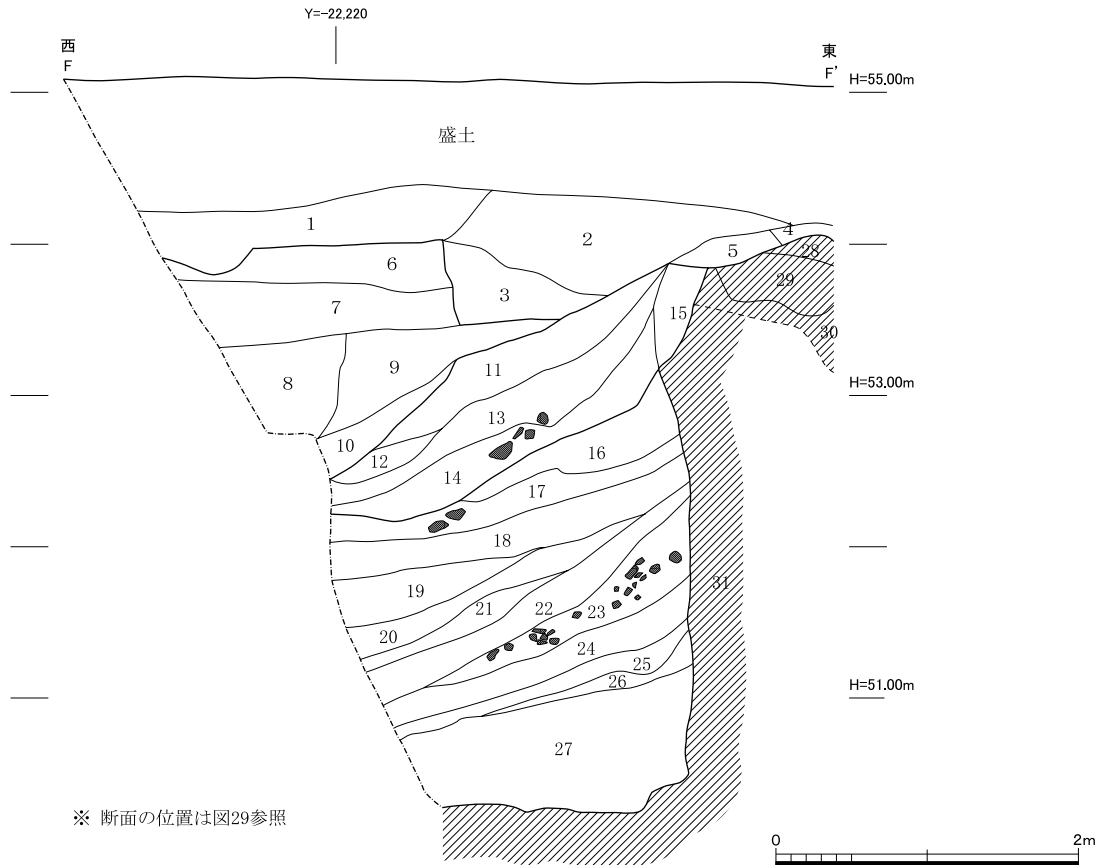
その他の遺構 そのほかの遺構には、土坑27・35・43・50・59・62・78・82・87・114・119・131・154・155・157がある。

調査区南東部の土坑27・35・43・50・59・62・78・82・87・157は、標高53.5～53.6mで検出した。土坑27は、東西0.9m以上、南北1.1m以上、深さ0.3m、埋土は暗褐色砂泥・炭混である。土坑35は、東西1.4m、南北0.9m、深さ0.3m、埋土は灰黄褐色砂泥・炭混である。土坑43は、東西1.2m、南北0.6m以上、深さ0.2m、埋土は黒褐色砂泥・炭混である。土坑50は、東西0.9m、南北0.8m、深さ0.2m、埋土は灰黄褐色砂泥・炭混である。土坑59は、東西0.8m以上、南北1.4m以上、深さ0.1m、埋土はにぶい黄褐色砂泥・炭混である。土坑62は、東西2.2m、南北1.1m、深さ0.2m、埋土は黒褐色砂泥・にぶい黄褐色砂泥・炭多量混である。土坑78は、東西0.5m以上、南北0.4m以上、深さ0.1m、埋土は黒褐色砂泥・礫混である。土坑82は、東西0.7m、南北0.9m、深さ0.3m、埋土は黒褐色砂泥・炭礫混である。土坑87は、東西2.8m、南北2.2m、深さ0.8m、埋土は黒褐色砂泥・炭混である。土坑157は、東西0.8m、南北0.7m、深さ0.4m、埋土はにぶい黄褐色砂泥である。

土坑114は、土坑65の南側の標高53.5mにて検出した。東西3.0m、南北3.1m、深さ0.6m、埋土はにぶい黄褐色砂泥・礫混である。土坑119は、土坑65の北西の標高53.7mにて検出した。東西0.4m以上、南北1.1m以上、深さ0.3m、埋土は暗褐色砂泥・炭混である。土坑131は、土坑65の北東の標高53.5mにて検出した。東西2.8m、南北3.1m、深さ0.6m、埋土は黒褐色砂泥・礫混である。土坑154は、土坑127の北側の標高53.0mにて検出した。東西1.5m、南北0.6m以上、深さ0.3m、埋土はにぶい黄褐色砂泥・炭・礫混である。土坑155は、土坑113の北側の攪乱の底面の標高53.1mにて検出した。東西1.1m、南北0.5m以上、深さ0.4m、埋土はにぶい黄褐色砂泥・炭混である。金箔瓦などが出土した。

2区

土坑2(図32、図版7) 西端部の標高約54.0mで検出した大規模な土坑である。北・西・南の3面は調査区の外側に広がる。東西3.5m以上、南北4.8m以上、深さ3.6m。東壁では地山の砂礫層をややオーバーハング気味に掘り下げている。埋土は黒褐色砂泥や暗褐色砂泥に炭混じり層が数層ある。埋土の堆積状態により東側から埋め戻されたことがわかる。土坑からは炭・焼土、江戸時代初頭の土師器とともに、多くの陶磁器類や瓦類が出土した。この土坑の中層には多量の稲藁炭の土層(図32-19・20・22・24～26層)がある。また、燃え残った木材には広葉樹が多い。最下層(図32-26・27層)からは被熱した魚骨・炭化した米・粟・大麦・山椒が出土している。その上層には多量の瓦や礫で地盤を固めたような土層(図32-16・17層)や暗褐色砂泥礫多量混など(図32-13・14層)の土層で埋め立てられている。ここより上層(図32-6～10層)からは江戸時代中期の土師器皿が出土した。火災処理のために江戸時代初頭に掘削し、半ばまで埋め立て、瓦なども



- | | |
|----------------------------------|---|
| 1 10YR3/4 暗褐色砂泥 土器片・炭混 | 17 10YR5/6 黄褐色砂泥 瓦多量混 |
| 2 10YR3/3 暗褐色砂泥 | 18 10YR3/3 暗褐色泥砂 焼土・炭混 |
| 3 10YR4/4 褐色泥砂 礫・炭混 | 19 10YR3/3 暗褐色砂泥 焼土・炭中量混 |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ3~10cm礫混 | 20 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥混 焼土混 |
| 5 10YR4/4 褐色砂泥 | 21 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ1~3cm礫混 焼土・遺物・炭混 |
| 6 10YR4/6 褐色砂泥 | 22 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥混 焼土・遺物混 |
| 7 10YR3/4 暗褐色泥砂 礫・焼土・炭少量混 | 23 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ5~10cm礫多量混 |
| 8 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR3/4 暗褐色砂泥混 | 24 10YR3/3 暗褐色砂泥 10YR5/6 黄褐色砂泥ブロック混 |
| 9 10YR3/4 暗褐色泥砂 10YR1.7/1 黒色炭多量混 | 10YR1.7/1 黒色炭層混 土器・瓦混 |
| 10 10YR3/4 暗褐色泥砂 礫・炭混 | 25 10YR1.7/1 黒色炭層 10YR3/3 暗褐色砂泥ブロック混 |
| 11 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 φ~5cm砂礫混 | 26 10YR3/3 暗褐色砂泥 10YR5/6 黄褐色砂泥ブロック・炭多量混 |
| 12 7.5YR4/3 褐色砂泥 φ1~10cm礫中量混 | 27 10YR3/4 暗褐色砂泥 10YR1.7/1 黒色炭中量混 焼土・遺物・炭片混 |
| 13 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~3cm礫多量混 | 28 10YR3/3 暗褐色砂泥 |
| 14 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂 φ5~10cmの礫多量混 | 29 10YR3/4 暗褐色砂泥 |
| 15 10YR4/4 褐色砂泥 瓦多量混 | 30 10YR6/6 明黄褐色砂泥 |
| 16 10YR4/4 褐色砂泥 微砂多量混 | 31 10YR5/4 にぶい黄褐色 φ~5cm砂礫 φ10~20cmの礫中量混 |
| (地山の砂泥を盛土したものと思われる) | |

図32 2区1面土坑2断面図 (1:50)

廃棄したが埋めきれずに、江戸時代中期までゴミ捨て穴として利用し、最後に地山と同様の土層(図32-6・7層)で整地したものと考えられる。

その他の遺構 他の遺構は標高53.7~53.8mで検出した。土坑13・52・57・58は、中央部で検出した。土坑13は、平面形は不定形で東西2.2m以上、南北1.2m以上、深さ0.4m。南東部は攪乱により不明。北は調査区外に延びる。埋土は暗褐色砂泥である。土坑52は、東西0.7m、南北0.5m、深さ0.2m。埋土は褐色砂泥で、直径0.01~0.02mの礫混じりである。土坑57は、東西1.1m、南北1.0m、深さ0.3m。埋土は暗褐色砂泥で、炭・焼土混じりである。土坑58は、東西1.0m、南北0.9m、深さ0.1m。埋土は黒褐色砂泥で、炭が多量に混じる。土坑64・65は、東部で検出した。土坑64は、直径0.6m、深さ0.2m。埋土は暗褐色砂泥である。土坑65は、平面形は不定形で東西0.5m、

南北1.1m、深さ0.2m。埋土は黒褐色砂泥である。土坑73は、中央部西側の標高53.5mで検出した。東西0.6m、南北0.6m、深さ0.3m。埋土は黒褐色砂泥を主体とし、明赤褐色の焼土ブロックを含む。整地層41は、中央部の標高53.7～54.1mで検出した暗褐色砂泥・焼土・炭混で、埋土から、イノシシの牙が出土した。

(6) 江戸時代中期以降の遺構 (図33)

江戸時代中期以降の遺構は、江戸時代初頭の面に残存していたものである。遺構には、1区の井戸8、土坑9、石室10・11・13・90・101、石列1～3、2区の土坑2上層がある。

1区

井戸8 直径約1.6m、深さ2.4mで、井戸の底部は標高約51.2mである。石組みの井戸で、埋土からは江戸時代中期から後期の遺物が出土した。鎌倉時代の土坑159・江戸時代初頭の土坑127・65の底面は標高51.5～51.4mである。このことから鎌倉時代から江戸時代後期までは、およそこの標高が当時の地下水位と考えられる。

土坑9 東西0.8m、南北0.6m、深さ0.5m。江戸時代中期の遺物が出土した。

石室10 東西3.8m、南北2.2m、深さ1.7m。江戸時代前期から中期の遺物が出土した。

石室11 直径約2m、深さ約1m。江戸時代中期の遺物が出土した。

石室13 東西2.7m、南北2.4m以上、深さ1.7m。江戸時代前期から中期の遺物が出土した。

石室90 東西1.7m、南北1.5m、深さ0.6m。江戸時代前期から中期の遺物が出土した。

石室101 東西2.4m、南北2.7m、深さ1.0m。江戸時代中期の遺物が出土した。

石列1 石室13の西側でクランク状の石列と石の抜き取り痕を総延長4.2m検出した。一辺約0.5m×0.2mの石を石室13から西に約2.9m、そして南に約1.6m、さらに西に0.7mで、調査区外に続く。2.9m部分は南側に直径0.1～0.2mの石列があり、雨落ち溝状になる。石室13に切られており、石室13より古い時期のものである。

石列2 石室13の東側で検出した石列である。一辺約0.2～0.5mの石が東西方向に、1～2m間隔で並ぶ。石列の下は土坑12・113となるが、土坑12・113の埋土が軟弱なため、埋土の上に大量の栗石で固め、整地している。石列2は塀など敷地境界を示す遺構の基礎と考えられる。

石列3 南北方向の石列で、一辺0.1～0.2mの石を南北約1.9m検出した。

石列1～3は、北東に位置する現在の敷地の角とほぼ並行しており、敷地境界と関連するものと考えられる。

2区

土坑2上層 (図32) 土坑2上層部分は図32-6～10層である。土坑2は、江戸時代初頭に、火災処理土坑として掘られたが、江戸時代中期までゴミ処理に利用され、最後に図32-6層の地山の砂泥層で整地された。

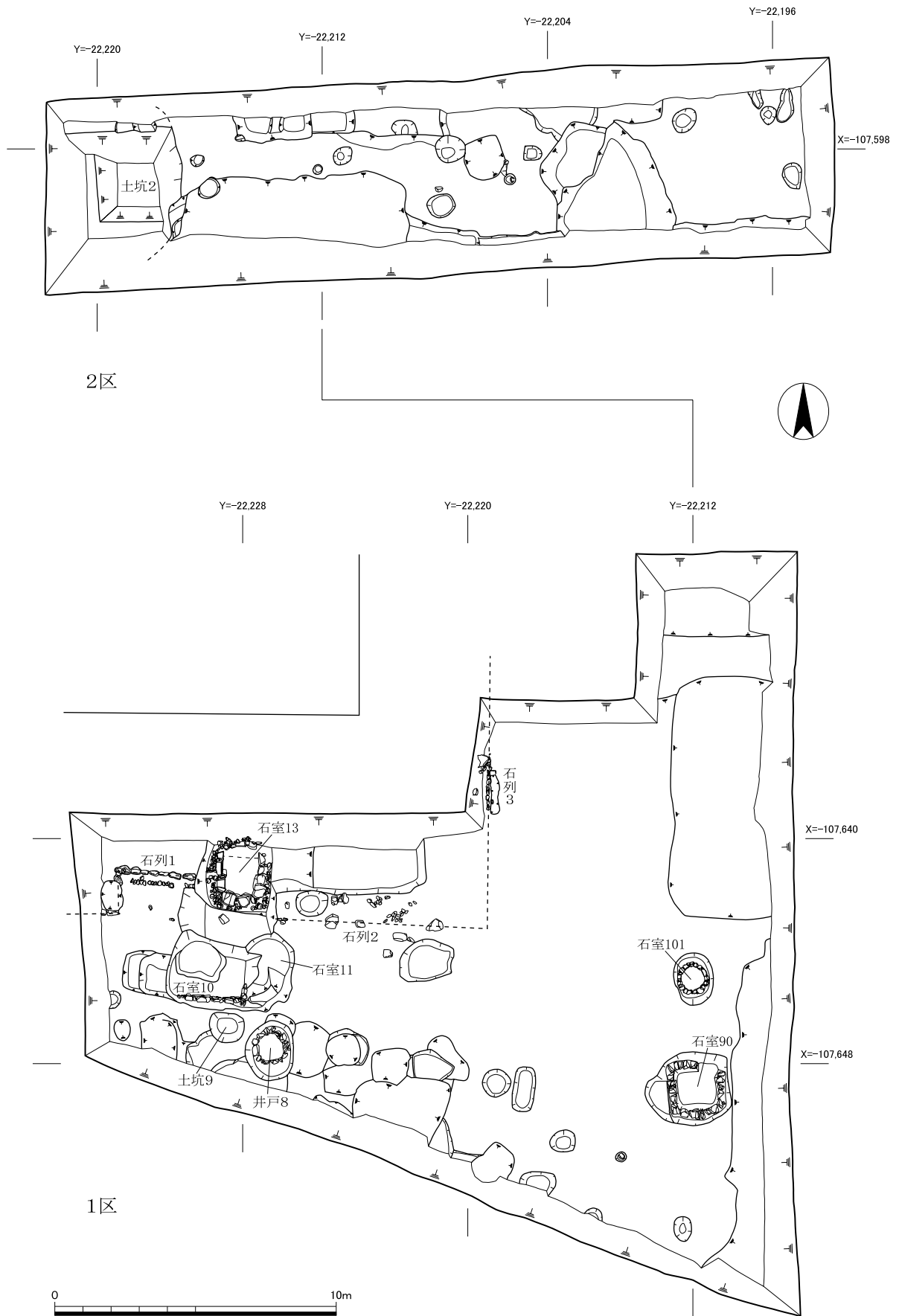


図33 平面図（江戸時代中期以降）（1：200）

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

平安時代から江戸時代にいたる各時代の遺物が、1区・2区合わせて、整理箱に200箱出土した。出土遺物の内容は、土器類、陶磁器類、瓦類、土製品、木製品、金属製品、石製品、動植物遺存体などがある。大半の遺物は、土器類や瓦類である。

平安時代の遺物は、土師器皿・高杯、須恵器杯・甕、灰釉陶器甕、緑釉陶器、瓦類、銭貨などがある。小片が多く、量も少ない。これらは各遺構や整地層から混入した状態で出土している。

鎌倉時代の遺物は土師器皿、瓦器椀・鍋、青磁椀がある。主に1区の土坑159下層・257、柱穴260から出土した。また、その他の遺構に混入して出土した。土師器皿は土器編年²⁾の京都Ⅵ期新段階からⅦ期古段階に該当する。

室町時代前期の遺物には、土師器皿、瓦器椀・釜、施釉陶器皿・鉢、焼締陶器鉢、青磁椀、瓦類などがある。主に1区土坑143・159上層・160などから出土した。土師器皿は京都Ⅷ期に該当する。

桃山時代の遺物には、土師器皿、瓦器鍋・鉢・火鉢、施釉陶器皿・甕、焼締陶器甕、青花椀、青磁椀、瓦類などがある。1区の土坑83・99・170・176・209、石室24、2区の溝37・38、土坑87・100などから出土している。土師器皿は、土坑176からまとまって出土した。土師器皿は京都Ⅹ期中段階から新段階に該当する。

江戸時代初頭の遺物には、土師器皿・鉢・甕・塩壺・焙烙・つぼつぼ、瓦器鉢・火鉢・鍋、施釉

表4 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、緑釉陶器、須恵器、瓦類、銭貨		銭貨7点		
鎌倉時代	土師器、瓦器、輸入磁器、瓦類		土師器24点、瓦器1点、瓦類5点		
室町時代	土師器、瓦器、施釉陶器、輸入磁器、瓦類		土師器30点、瓦器4点、施釉陶器1点		
桃山時代	土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入磁器、土製品、瓦類、金属製品		土師器65点、瓦器3点、施釉陶器1点、輸入磁器2点、土製品1点、瓦類2点		
江戸時代初頭	土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、土製品、瓦類、金属製品、石製品、木製品、動植物遺存体		土師器180点、瓦器15点、施釉陶器188点、焼締陶器33点、輸入陶磁器31点、土製品1点、瓦類14点、金属製品29点、石製品4点、木製品10点、動植物遺存体一括		
合計		266箱	651点 (28箱)	67箱	171箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より66箱多くなっている。

陶器碗・皿・壺・茶入・水指、焼締陶器鉢・播鉢・盤、輸入陶磁器、瓦類、金属製品、石製品、木製品、動植物遺存体、焼け壁土、炭化物などがある。土師器皿は京都Ⅺ期中段階に該当する。施釉陶器・焼締陶器の産地は、京都、信楽、美濃、丹波、備前、唐津、高取のものがある。また、輸入品には中国赤絵碗・青花碗・皿、朝鮮白磁皿、ベトナム青花碗などがある。動植物遺存体には鳥・牛・魚類の骨、二枚貝・巻き貝、炭化物などがある。金属製品には銭貨、キセル、小柄、鉄砲球、銅線、鉄釘などがある。石製品には砥石、硯など、木製品には箸、漆器碗、板材などがある。特に、大規模な土坑である1区の土坑12・60・65・113・127と2区の土坑2から多くの遺物が出土した。他の土坑や江戸時代中期以降の遺構や盛土からも出土した。

(2) 鎌倉時代の土器類

鎌倉時代の遺物には、1区の土坑159下層・219・257、柱穴260の遺物がある。時期は京都Ⅵ期新段階からⅦ期古段階である。

土坑219出土土器(図34、図版8、付表1) 出土遺物には、土師器、瓦器、焼締陶器甕、青磁碗・皿、瓦などがある。出土量は少なく、小片が多い。土師器皿には、口径8～9cmの小型な皿N(1・2)、口径12.6cmと大型で浅い皿N(3)がある。

土坑257出土土器(図34、付表1) 出土遺物には、土師器皿がある。出土量は少ない。土師器皿には、口径8.9cmの皿N(4)がある。

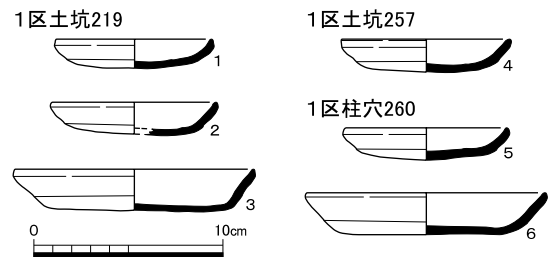
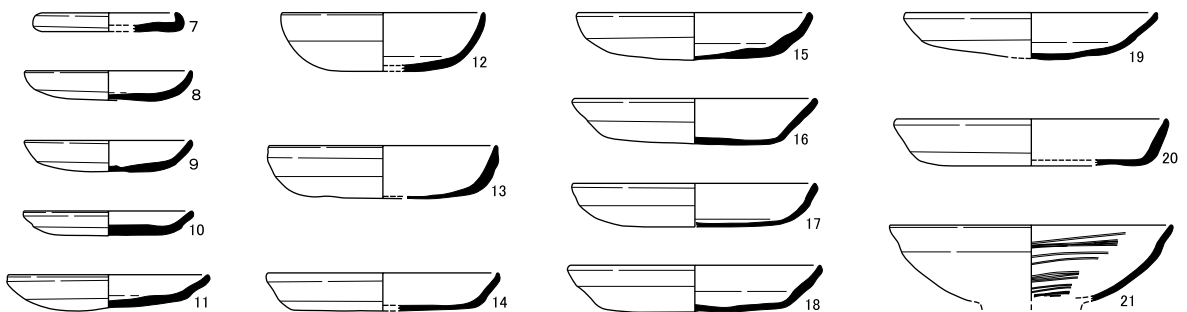


図34 1区土坑219・257、柱穴260出土土器実測図(1:4)

1区土坑159下層



1区土坑159上層

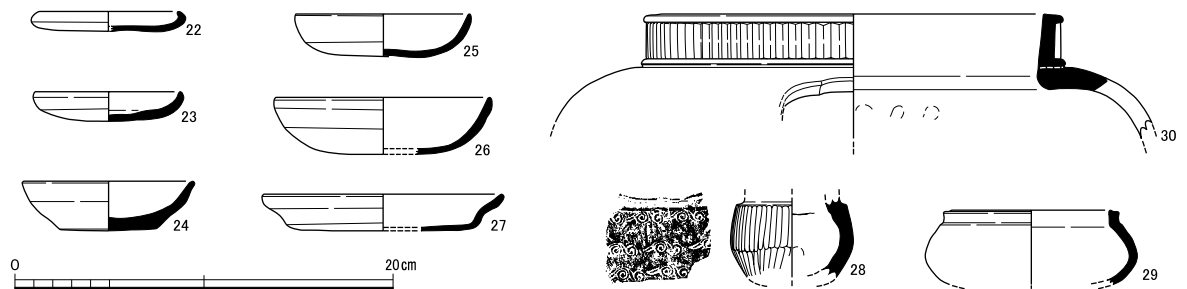


図35 1区土坑159上層・下層出土土器実測図(1:4)

柱穴260出土土器(図34、付表1) 出土遺物には、土師器皿がある。出土量は少ない。土師器皿には、口径8.6cmの皿N(5)、口径12.6cmの皿N(6)がある。

土坑159下層出土土器(図35、図版8、付表1) 出土遺物には、土師器皿、須恵器片、瓦器椀・鍋、焼締陶器、青磁椀などがある。土師器は、コースター型の皿Ac(7)、小型な口径約9cmの皿N(8~10)、中型で口径11~12cmの皿N(11・14・15)・皿S(12・13)、大型な口径約13cmの皿N(16~19)と口径14.2cmの皿N(20)がある。皿S(12)は内外面に炭化物が付着する。皿(7・8・12)は白い胎土である。(21)は瓦器椀で、内面に横方向のミガキを施す。

(3) 室町時代の土器類

室町時代の遺物には、1区の土坑159上層・143・160の遺物がある。時期は京都Ⅷ期である。

土坑159上層出土土器(図35、付表1) 出土遺物には、土師器皿・高杯、瓦器鉢・火鉢、青磁椀、瓦などがある。下層の遺物が混入する。土師器皿には、口径7.3cmの皿Ac(22)、口径7.6cmの皿N(23)がある。口径9.0cmの土師器皿(24)はロクロ成形で底面を糸切りする。口径9~11cmの皿S(25・26)は、白色系である。皿N(27)は口径12.8cmある。瓦器(28)は最大径6.2cmのミニチュア火鉢で、外面をタテケズリし、雲文を陰刻する。瓦器(29)は、小型甕で口径8.3cm、高さ約3.9cmある。香炉か。瓦器風炉(30)は、口径20.1cm、頸部側面に縦線の刻み目を入れ、肩部に窓を付ける。鎌倉時代の遺物(22・23・25・26)が混入する。鎌倉時代の土坑159を掘り直して土坑159上層が埋められた際のものである。

土坑143出土土器(図36、図版8、付表1・2) 出土遺物には、土師器皿、施釉陶器などがあ

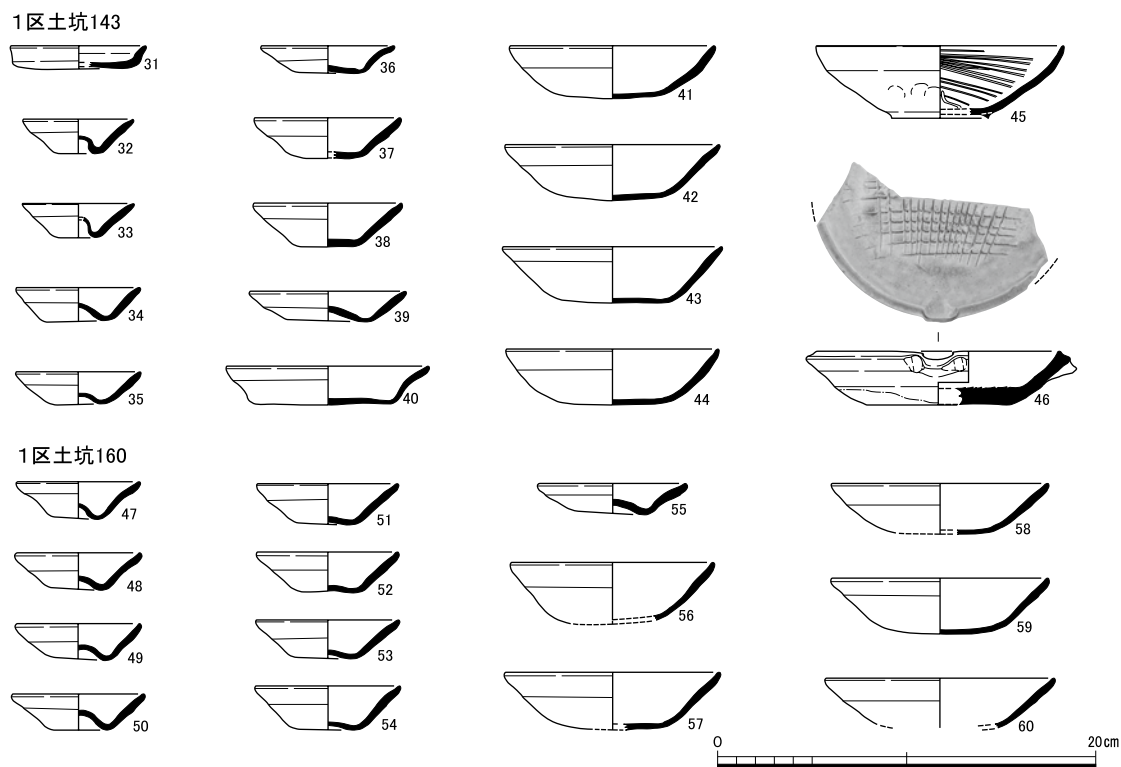


図36 1区土坑143・160出土土器実測図(1:4)

るが、掲載遺物の他に、平安時代の土師器皿・高杯、須恵器鉢、瓦器碗・鍋・鉢、緑釉陶器碗、施釉陶器皿、青磁碗、瓦などが混入する。土師器皿には、口径7.1cmの皿N(31)、小型な皿は、口径6～7cmの「へそ皿」と呼ばれる皿Sh(32～35)、口径約8.0cmの皿N(36・39)・皿S(37・38)がある。大型の皿には、口径約11cmの皿N(40)、口径11～12cmの皿S(41～44)がある。(32～34・37～39・42～44)は白色系である。瓦器碗(45)は、内面にミガキ、貼り付け高台である。瀬戸おろし目皿(46)は、口縁部に片口、見込み内に陰刻の格子線が付く。底面は糸切り。底面以外に灰釉を施す。

土坑160出土土器(図36、図版8、付表2) 出土遺物は、大部分が土師器皿で、平安時代の土師器、須恵器など、平安時代の遺物が混入する。土師器皿には、小型な口径6～7cmの皿Sh(47～50)、口径7～8cmの皿N(51～54)、口径約8cmの皿Nh(55)がある。大型の皿には、口径11～12cmの皿S(56～60)がある。(55)以外は白色系である。

(4) 桃山時代の土器類

1区

桃山時代の遺物には、1区では土坑83・99・170・176・209の遺物がある。時期は京都X期中段階から新段階である。

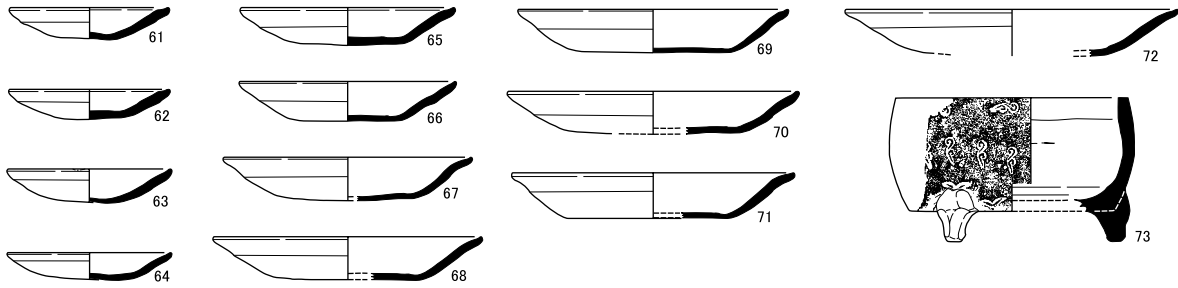
土坑83出土土器(図37、付表2・3) 出土遺物には、土師器皿、須恵器甕、瓦器碗・鉢・香炉、施釉陶器碗・皿・鉢、青磁碗、白磁壺、瓦などがある。平安時代から鎌倉時代の遺物が混入する。土師器皿には、小型な口径約9cmの皿Sb(61～64)、大型な口径11～13cmの皿S(65～67)、口径14～15cmの皿S(68～71)、口径17.6cmの皿S(72)がある。瓦器香炉(73)は体部外面に雲文様などを型押しで陰刻し、脚を貼り付ける。

土坑99出土土器(図37、付表3) 出土遺物には、土師器皿・高杯、須恵器、瓦器鉢・盤、施釉陶器皿、青磁、瓦などがある。平安時代から鎌倉時代の遺物が混入する。土師器皿Sb(74)は、口径9.8cm、小型で白色系である。瓦器盤(75)は、口径23.9cm、内面はミガキ調整する。瓦器鉢(76)は、下半部分が出土した。底径34.9cmある。外面は剥離が激しい。鉢か甕と思われる。施釉陶器皿(77)は、削り出し高台、全面に灰釉を施しオリーブ色を呈する。高台には砂が付着する。朝鮮産である。

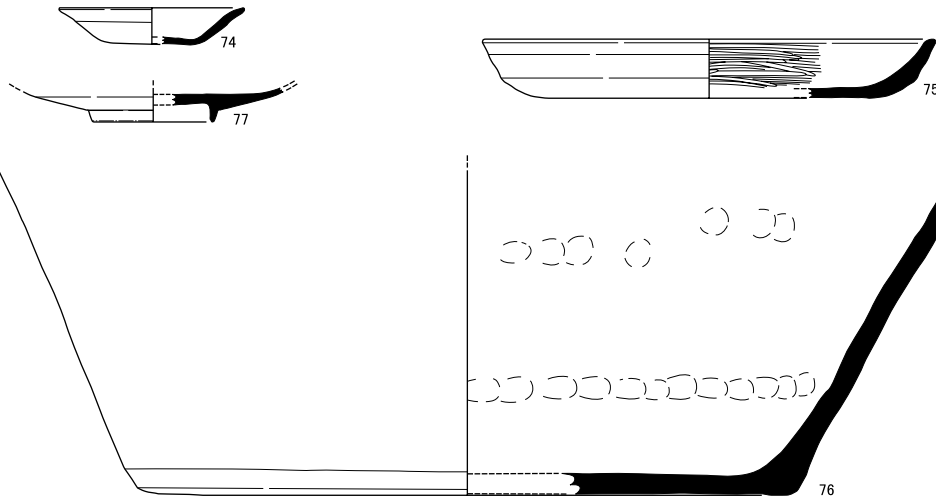
土坑170出土土器(図37、図版8、付表3) 出土遺物には、土師器皿、犬形土製品、須恵器甕、瓦器鉢、焼締陶器甕・播鉢、鉄製品などがある。土師器皿には、小型な皿Sb(78)、中型な皿S(79)、大型な皿S(80)がある。土製品(81)は、手捏ねの犬形土製品で、体長2.9cm、幅1.2cm、高さ2.2cm、耳は垂れ、尾は巻く、小型なものである。大阪城の発掘調査³⁾で同時期の犬形土製品が約100体が出土している。そのなかには、同じ大きさでよく似たものだけでなく、体長2cmから5cmを超えるものまで大小様々ある。

土坑209出土土器(図37、付表3) 出土遺物には、土師器皿、施釉陶器、焼締陶器甕、青磁碗・白磁皿、瓦、鉄釘などがある。土師器皿には、口径7.1cmの皿Nr(82)、口径8.0cmの小型な皿Sb

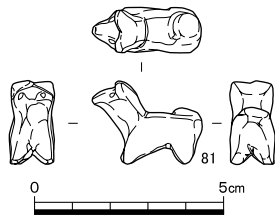
1区土坑83



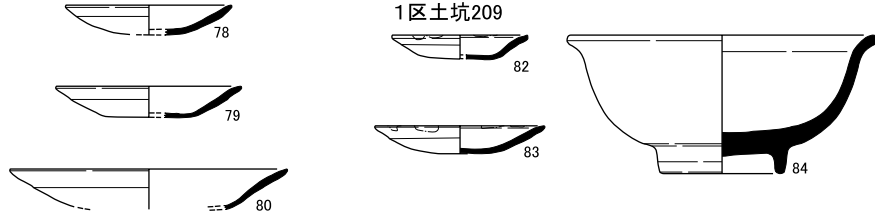
1区土坑99



1区土坑170



1区土坑209



1区土坑176

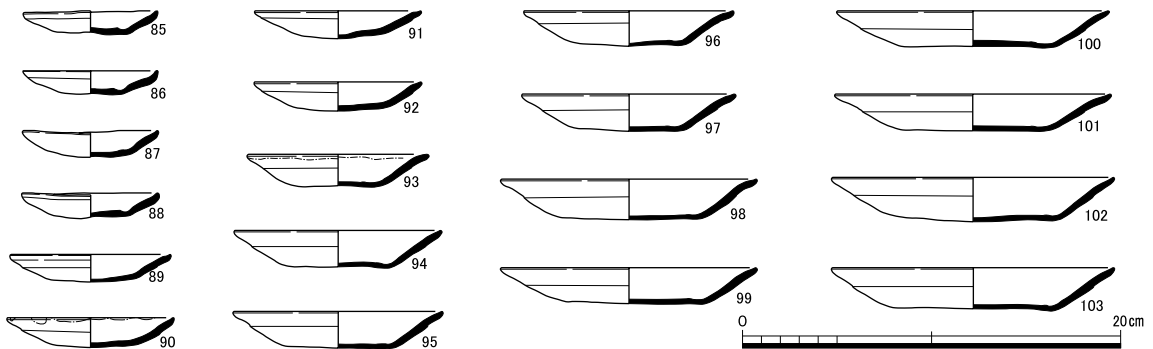


図37 1区土坑83・99・170・176・209出土土器実測図（1：4、81のみ1：2）

(83) がある。青磁碗 (84) は、口径16.0cmで、全面に施釉され、貫入が入る。高台内は釉ハギし、蛇ノ目高台となる。

土坑176出土土器（図37、図版8、附表3） 出土遺物には、土師器皿、瓦器、施釉陶器碗、焼締陶器甕、瓦、鉄製品などがある。土師器皿が大量に積み重なった状態で出土した。口径約7cmの

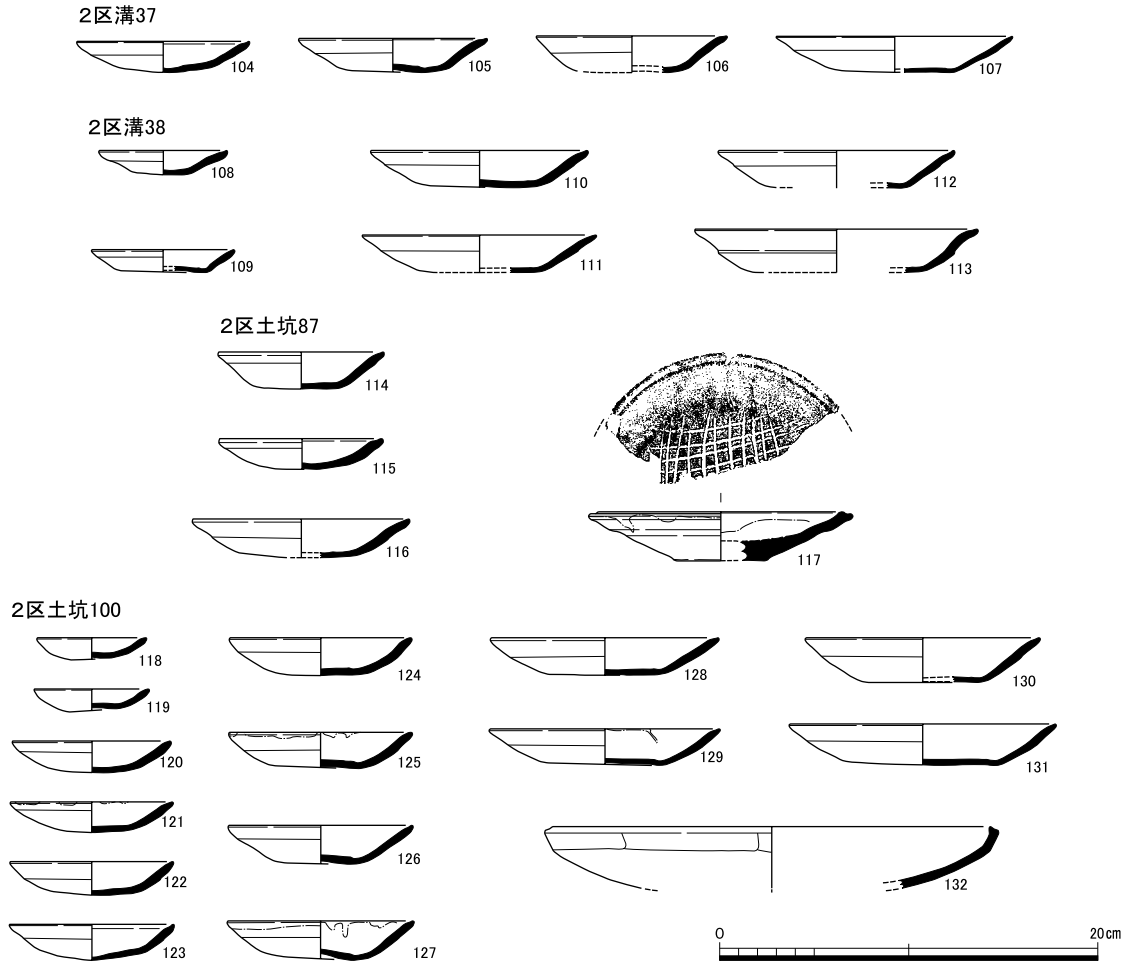


図38 2区溝37・38、土坑87・100出土土器実測図（1：4）

皿S（85～88）、小型な口径約9cmの皿Sb（89～92）、中型の口径約11cmの皿S（93～97）、大型の口径13～15cmの皿S（98～103）がある。すべて白色系で、（90・93）の口縁にはスズが多く付着する。灯明皿として使用されたものである。

2区

2区の桃山時代の遺物には、溝37・38、土坑87・100の遺物がある。時期は16世紀中頃の京都X期中段階である。

溝37出土土器（図38、図版9、付表3・4） 出土遺物には、平安時代から桃山時代の土師器皿、瓦器火鉢、焼締陶器播鉢、青磁、瓦などがある。土師器皿以外は小片である。土師器皿には口径9.1cmの皿Sb（104）、口径約10cmの皿S（105・106）と口径12.5cmの皿S（107）がある。

溝38出土土器（図38、図版9、付表4） 出土遺物には、平安時代から桃山時代の土師器皿、灰釉陶器、瓦器鉢・火鉢、焼締陶器播鉢・甕、青花椀、白磁碗、瓦・塼などがある。土師器皿には口径7～8cmの皿Sb（108・109）、口径11～12cmの皿S（110～112）と口径15.0cmの皿S（113）がある。

土坑87出土土器（図38、図版9、付表4） 出土遺物には、土師器皿、施釉陶器皿がある。土師器皿には、口径約9cmの皿Sb（114・115）、口径11.5cmの皿S（116）がある。施釉陶器おろし目

皿（117）は、口径13.0cm、ロクロ成形し、底部は糸切りする。見込みにおろし目を刻み、口縁部には灰釉を施す。瀬戸産。

土坑100出土土器（図38、図版9、付表4） 出土遺物には、土師器皿・盤、瓦器鉢・火鉢、施釉陶器椀・皿・壺、焼締陶器播鉢・甕・壺、青磁・白磁碗、溶滓などがある。小片が多い。土師器皿には、口径約6cmの皿Nr（118・119）、口径8～9cmの皿Sb（120～123）、口径約10cmの皿S（124～127）、口径約12cmの皿S（128～130）、口径14.0cmのS（131）がある。皿121・125・127・129には炭化物が付着する。土師器盤（132）は、口径23.1cm、残存器高3.3cmの浅いものである。底面は被熱を受け黒変する。

（5）江戸時代初頭の土器類

江戸時代初頭の遺物には、1区の大規模な土坑12・60・65・127・113と2区土坑2がある。そのほかに、1区には小規模な土坑69・110・115・116・120・125・129・130・146・152・184の遺物がある。土師器の時期は京都Ⅺ期中段階である。最初に遺物出土量の多い土坑65・127・12・113・60の順に説明をし、他の土坑の遺物は簡単にし、最後に2区の土坑2を記す。なお、大規模な土坑65・127・12・113・60、2区土坑2での出土土器の破片数割合を併記する。どの土坑もよく似た割合である。

1区

土坑65出土土器（図39～42、巻頭図版1、図版9・10、表5、付表4～6） 出土遺物には、土

表5 1区土坑65出土土器破片数割合表

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	5,443	93.3%	92.1%	
	焙烙	304	5.2%		
	塩壺	65	1.1%		
	その他	22	0.4%		
	小計	5,834	100.0%		
瓦器	椀	0	0.0%	0.6%	
	鉢・釜	0	0.0%		
	鉢	17	45.9%		
	その他	20	54.1%		
	小計	37	100.0%		
国産施釉陶器	美濃	椀・皿	45	28.3%	67.7%
		天目椀	13	8.2%	
		志野	63	39.6%	
		その他	38	23.9%	
		小計	159	100.0%	
	唐津	椀・皿	62	82.7%	31.9%
		その他	13	17.3%	
		小計	75	100.0%	
	京焼	椀・皿	1	100.0%	0.4%
		その他	0	0.0%	
		小計	1	100.0%	
	国産施釉陶器小計		235	100.0%	
	焼締陶器	信楽	播鉢	69	42.9%
その他			29	18.0%	
備前		播鉢	30	18.6%	
		その他	7	4.3%	
丹波		播鉢	22	13.7%	
		盤	0	0.0%	
		その他	4	2.5%	
焼締陶器小計		161	100.0%		
輸入陶器	椀・皿	40	58.8%	1.1%	
	その他	28	41.2%		
	小計	68	100.0%		
その他陶磁器		1	0.0%		
総数		6,336	100.0%		

師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入磁器などの土器・陶磁器類と瓦、金属製品、石製品、土製品、焼け壁土、貝殻、炭などがある。土師器には皿・焼塩壺・小壺、焙烙などが含まれる。施釉陶器には美濃産、唐津産の椀・皿など、軟質施釉陶器には京焼などがある。焼締陶器には信楽産播鉢・甕、丹波産播鉢、備前産播鉢・甕などがある。磁器には輸入青花などがある。

土坑65出土土器の破片数割合（表5）は、土師器は約92%と他の土坑と比べて約10%高い。施釉陶器の美濃産：唐津産 = 7：3である。焼締陶器の中で、備前産が約20%、丹波産が約16%と高く、信楽産の割合は他の土坑より低い。

土師器皿には、小型な口径6cm前後の皿Nr（133～135）がある。中型の皿には口径約10cmで圏線のない丸底皿Sb（136・137）と口径10～11cmで圏線の巡る皿S（138～142）の2群ある。138・140は外面底部に黒斑がある。大型の皿は口径約12cmで圏線の巡る皿S

(143～145) と口径13～14cmの皿(146・147)の2群がある。いずれの土師器皿も内面底部はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面底部はオサエ調整する。小壺(148・149)は「つぼつぼ」と呼ばれる。口径2.0～2.6cm。内面底部はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外部底面はオサエ調整する。焼塩壺の蓋(150・151)は口径約6cm、151は外面の半分に黒斑がある。内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面上部はオサエ調整する。焼塩壺(152・153)は口径約5cm、芯に粘土を巻き付けて成形した円筒形で、内面には布目があり、その上をナデ調整する。口縁内外面はヨコナデ、外面はナデ調整する。焙烙(154・155)は底部を欠くが、口径30cm前後、台型成形で口縁部を継ぎ足す。口縁端部は内に小さく突き出す。器壁は薄い。内外面はナデ、口縁部はヨコナデ、外面にはススが付着する。

国産施釉陶器には美濃産(156～179)と唐津産(180～194)がある。

美濃産には灯明皿、小杯、志野・志野織部・鉄釉椀や丸皿、絵志野皿、菊皿、折縁ソギ皿、灰釉大皿、志野・黄瀬戸向付、黄瀬戸大鉢があり、これらを図示する。そのほかに青織部片、志野織部片、褐釉筒茶椀、青織部向付、黒織部沓茶椀、小壺、天目椀などが出土した。灯明皿(156)は全面に鉄釉を施釉する。口縁部は内側に突出して、蓋受けとなる。芯受け部分は欠損する。側面の立ち上がり部の縁に篋で刻み目を施し、立ち上がり部のほぼ中央に灯芯を通す径3mm程の小孔がある。底面に輪トチン痕が付く。小杯(157～159)の(157)はミニチュア椀で、内面と体部上半は鉄釉が掛かる。(158)は全面淡黄色の灰釉が掛かる。体部下半にはトチン痕が3箇所付く。(159)は全面灰白色の灰釉が掛かる。内面は網目状の貫入が入る。体部下半にはトチン痕が2箇所付く。椀(160・161)は長石釉の丸椀で、削り出し高台である。(160)は内面と体部外面上半に灰白色の釉が掛かる。(161)は、長石釉が掛かり、高台は露胎で、釉の薄い部分には火色があらわれる。志野織部椀(162)は、深い見込み、外に開く高い撥高台が貼り付けられる。高台以外は全面浅黄色の灰釉が施され、口縁端部の外面に3本、内面に4本、内面底部に3重の圏線がにぶい黄褐色から褐色の褐釉で描かれる。鉄釉椀(163)は丸椀で、高台部分を欠く。ヘラケズリの後、鉄釉が掛けられ、外面体部下端と高台は露胎である。釉の厚い部分は黒く、薄い部分は赤く発色する。丸皿(164～168)は、内面はナデ、外面はヘラケズリ、全面に長石釉を掛け、底面の高台内の釉を軽く拭き取る。(164)は、内面をナデ、外面を回転ヘラケズリ、削り込み高台である。高台内には輪トチン痕が付く。にぶい黄色の灰釉を全面に施し、見込み内の釉はきれいに拭う、いわゆる内ハゲ皿である。(165)は外面の釉に濃淡があり、ほとんど掛かっていない部分は赤く発色する。削り出し高台で、見込み内に3箇所、高台内に1箇所のトチン痕が付く。(168)は灰白色の釉を呈し、見込みに3箇所のメアト、高台内に輪トチン痕が付く。(167)は、削り出し高台、高台内に輪トチン痕が付く。(168)は、貼り付け高台、見込み部分と高台内に3箇所のトチン痕が付く。長石釉鉄絵皿(169・170)は、内面ナデ、外面ヘラケズリの丸皿で、(169)は貼り付け高台、(170)は削り出し高台で、高台内の釉は拭い取る。高台内に3箇所のトチン痕、見込み内に3箇所のメアトが付く。(169)は見込み内には中心文様を2重線で囲み、周辺には2重線の間に花と唐草文を四方に配する。長石釉は不透明である。(170)は見込み内に「ト」字の中心文様を2重線で囲み、周辺には2

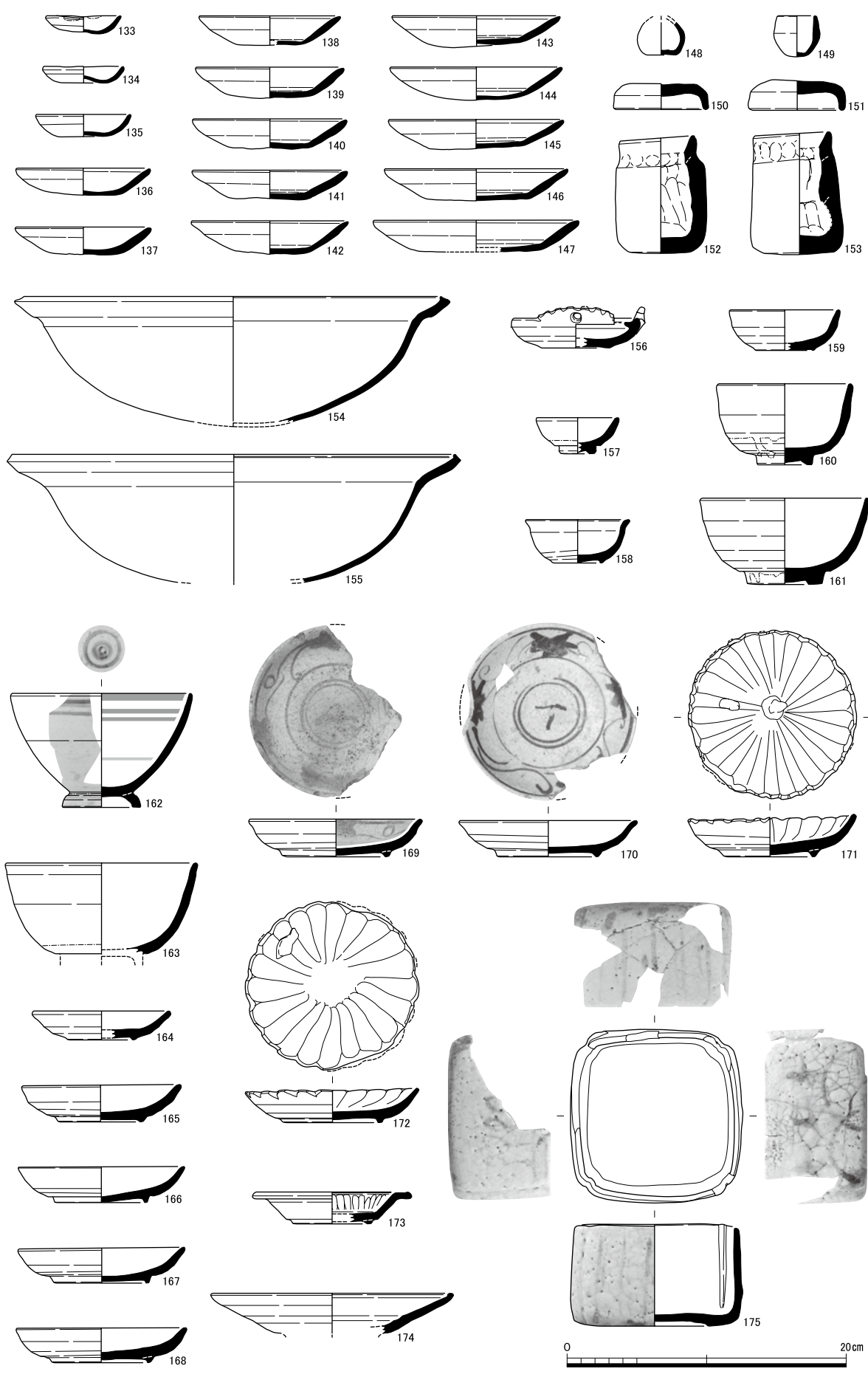


图39 1区土坑65出土土器实测图1 (1 : 4)

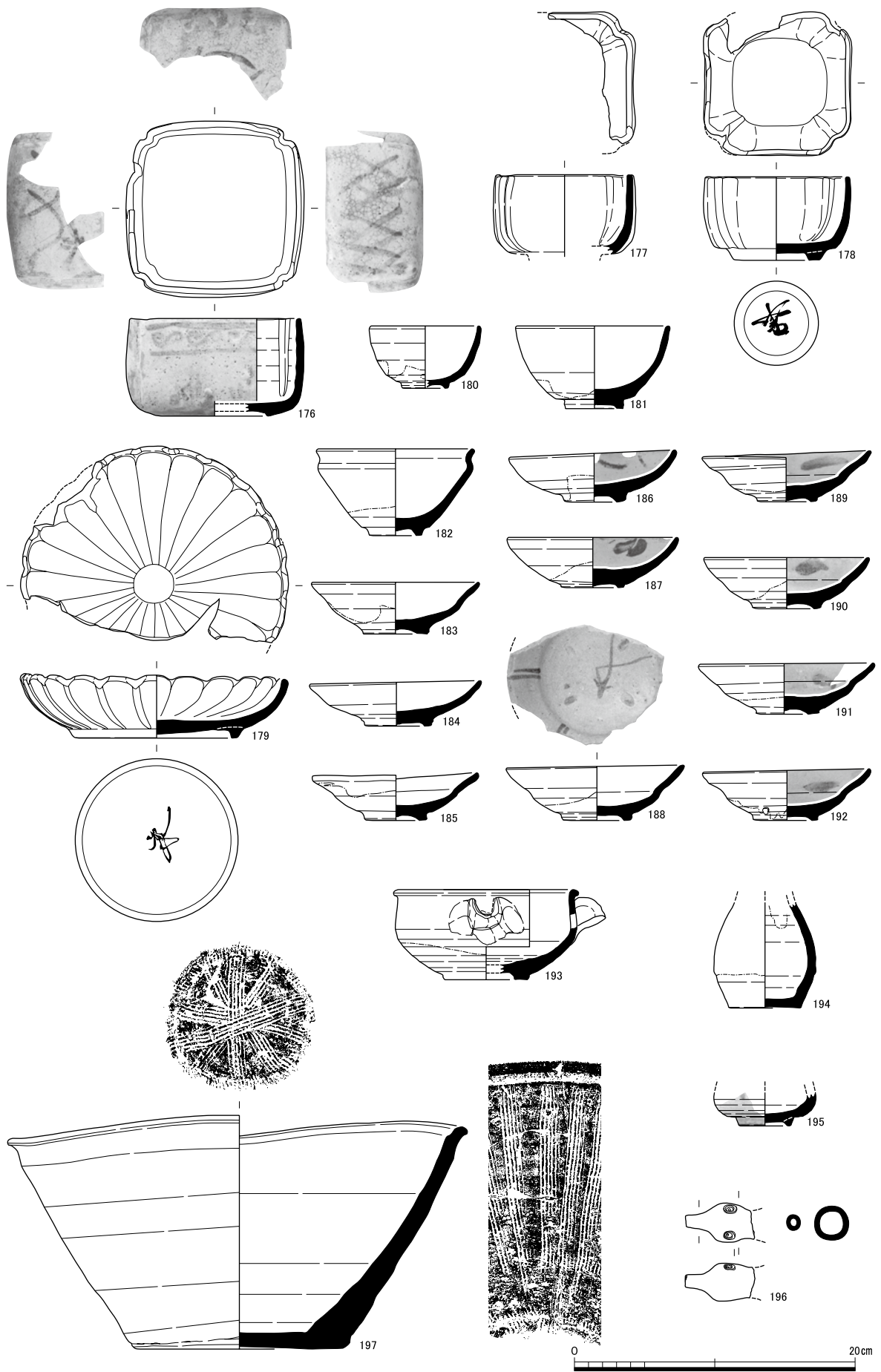


图40 1区土坑65出土土器实测图2 (1:4)

重線の間には楓葉様文様と唐草文を四方に配する。菊皿（171・172）は、外面をヘラケズリ、口縁端部を切り取り、内側面を丸ノミで菊花状に削る。高台は貼り付け高台と思われる。外面は浅く花卉を削り込み、全面に灰白色の長石釉を施し、高台内の釉は拭い取る。菊皿（171）は、釉に貫入が入る。高台内に3箇所の特チン痕、内面には2箇所のメアトがある。菊皿（172）は、高台内に3箇所、内面には2箇所のメアトがある。折縁ソギ皿（173）は、削り出し高台で、口縁端部を内に折り返して丸く収める。体部内面を丸ノミで菊花状にする。全面に灰釉を施す。内面底部に凸部を設け釉を拭った、いわゆる内ハゲである。高台内に輪トチン痕がある。中皿（174）は口径15.9cmある。ロクロ成形で、見込み部分に段が巡る浅い皿である。口縁端部は上に曲げ、丸く収める。全面に灰釉が施され、細かな貫入が入る。志野向付（175・176）は、ロクロ成形後、型打ちで四方入隅に成形し、外面に山・竹・斜格子・唐草などの鉄絵を描き、灰白色の長石釉を施す。釉の薄い部分には火色があらわれている。底部は中央を円形に削り込む碁笥底高台である。高台内に輪トチン痕、見込みには3箇所のメアトがある。（175）は、大きな網目の貫入があり、（176）は、細かな網目の貫入と気泡が多い。黄瀬戸向付（177・178）は、ロクロ成形後、型打ちで四方入隅に成形。（177）は高台を欠く。（178）は、貼り付け高台で全面に浅黄色の灰釉を施す黄瀬戸である。高台内に「為」様の墨書がある。黄瀬戸大鉢（179）は、体部は丸みを持って立ち上がる。口縁部をヒダ状に削り、内面を丸ノミで菊花状に削る。貼り付け高台で、高台内は無釉で、「木」様の墨書がある。全面にオリーブ黄色の灰釉を施す黄瀬戸で、釉のたまった見込み中央部は緑色を呈する。大窯で焼成。

唐津産には小杯、椀、天目茶椀、皿、絵唐津皿、片口鉢、小壺などがある。小杯（180）は口径7.6cmの杯で、ロクロ成形後、内面と外面体部に灰釉を施し、腰部と高台は露胎である。内面には細かい網目状の貫入が入る。腰部はヘラケズリ、削り出し高台で、高さ0.1cmの胎土目が融着したため器は水平に据らない。椀（181）は丸椀で、ロクロ成形後、内外面に灰釉を施し、オリーブ色を呈し、細かい貫入が入る青唐津である。腰部と高台は露胎で、腰部はヘラケズリ、削り出し高台。高台底部に3箇所の胎土目痕が付く。天目茶椀（182）は、高台脇からやや丸みを持って立ち上がり、口縁は内側に屈曲させて端部を外反させる。腰部と削り出し高台は露胎で赤褐色を呈する。鉄釉が施され、オリーブ黒色から暗オリーブ色の濃淡に発色する。高台には重ね焼き痕が付く。皿（183～185）は、口径11.6～11.9cm、器高3.4～3.7cmある。（183・184）は体部中央から外に開くようにロクロ成形し、内面と外面口縁部に灰釉を施す。露胎部分は一部赤変する。削り出し高台で、内面に4箇所の胎土目痕が付く。（185）には、体部外面の高台付近に3箇所の胎土目痕が付く。絵唐津皿（186～192）がある。皿（186・187）は口径11.7～12.0cm、高さ3.6～3.7cmの丸皿で、ロクロ成形、削り出し高台、内面と外面上半と部分的に下半に灰釉を施す。見込み内に4箇所の胎土目痕が付く。（186）は内面口縁部に線描きの鉄絵、（187）は内面口縁部に木の葉状の鉄絵が描かれる。皿（188～192）は口径11.7～12.6cm、高さ3.7～4.0cmある。体部中央から外に開くようにロクロ成形する。削り出し高台で、内面と外面上半と部分的に下半に灰釉を施す。（189・190）の露胎部分は一部赤変する。（188）は内面口縁部に鉄絵の区画線、見込み内に線描きと4箇所の胎

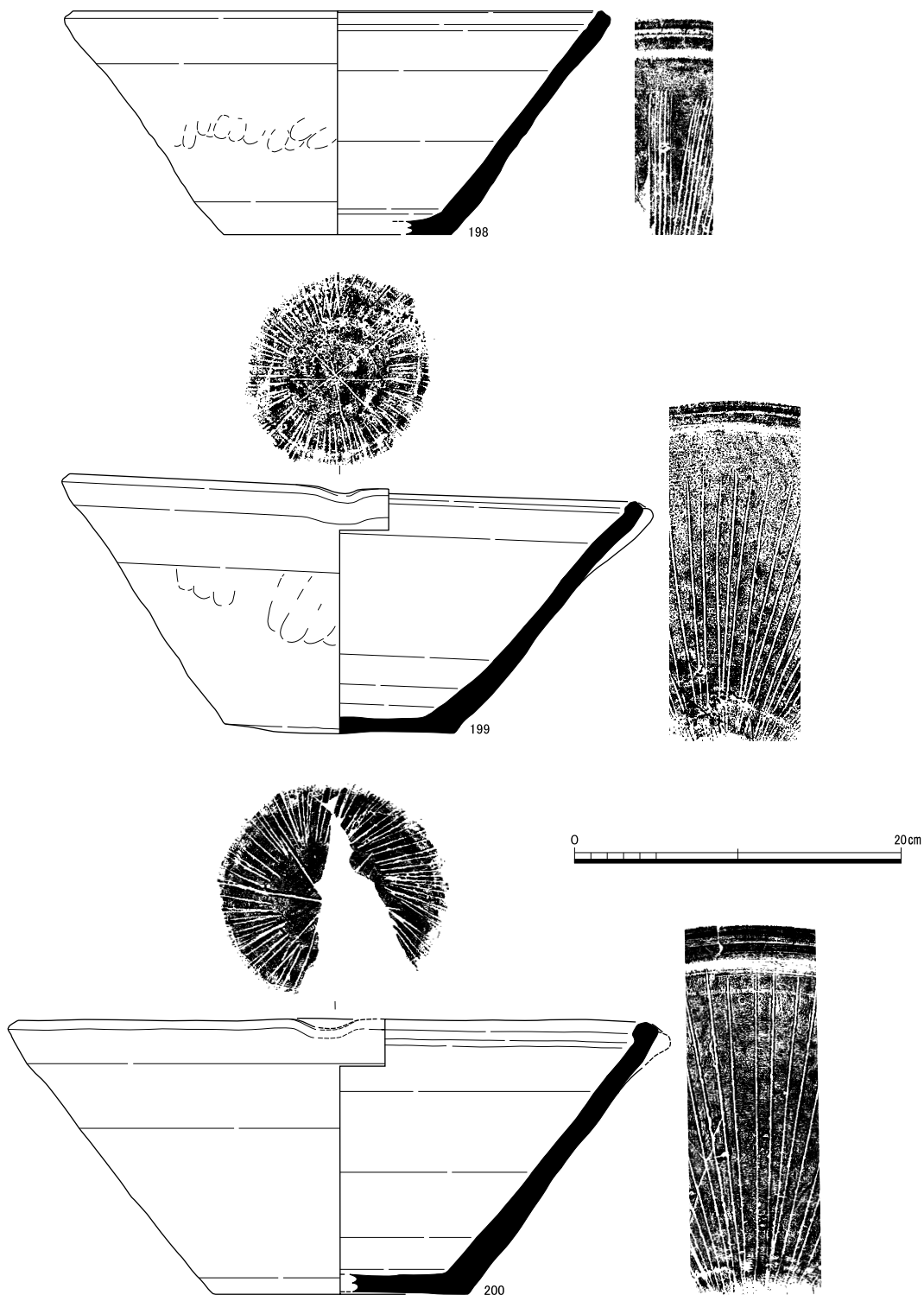


図41 1区土坑65出土土器実測図3 (1:4)

土目痕が付く。(189～192)は内面口縁部に木の葉文様鉄絵が3箇所描かれ、見込み内に3箇所の胎土目痕が付く。(189・192)には外面の高台周辺に3箇所の胎土目痕が付く。片口鉢(193)は、口径12.3cm、器高6.4cmで、腰部は丸く、口縁部はやや内反、口縁端部は外反して丸く収める。内面にロクロ痕を残し、片口部分を貼り付ける。内面と外面体部上半に灰釉を施す。削り出し高台である。高台には胎土目痕が1箇所付く。小壺(194)はロクロ成形で、底面には藁のような植物織

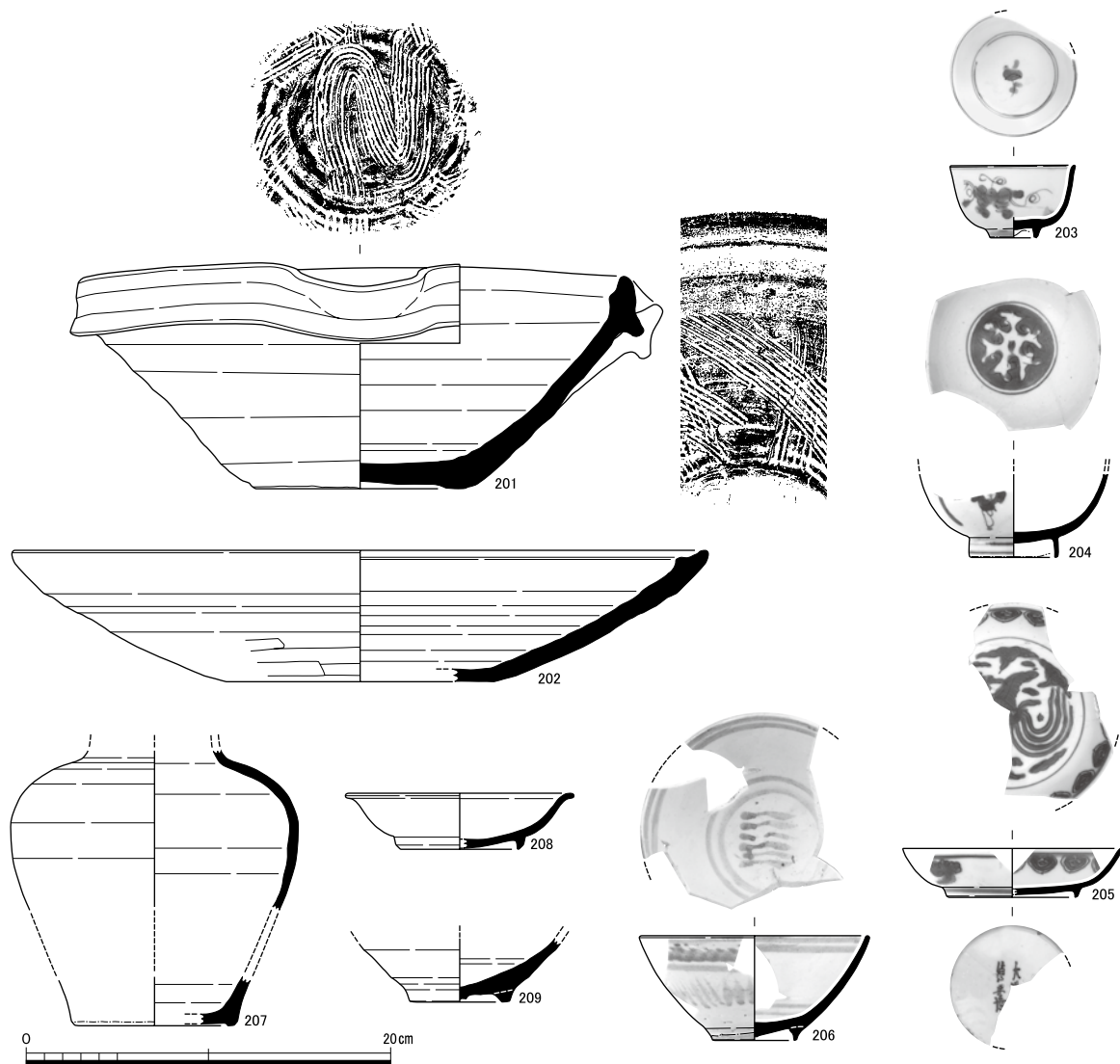


図42 1区土坑65出土土器実測図4（1：4）

維痕が多く付く。内面にロクロ痕を残す小壺で、頸部分は欠ける。外面体部上半には鉄釉が厚く施され、オリーブ黒色を呈する。下半と底面は露胎でにぶい褐色を呈する。

軟質施釉陶器（195・196）には、香炉と水滴がある。香炉（195）は直径約7cm、橙色の胎土でロクロ成形、貼り付け高台、内面と高台内は無釉で、外面に淡黄色の灰釉を施す。水滴（196）は、灰白色の胎土の破片で中心部は中空、スポイトの先端のような成形で、全体に灰白色の釉を施す。釉は2次焼成の影響で剥落する。スポン型水滴の頸部部分で、直径約2.8cmある太い部分の円周上には、直径1.0cmの眼が2個付く。先端の口先は直径0.9cm、全長5.0cm残存する。ともに京焼と考える。

焼締陶器には（197～202）がある。信楽産播鉢は（197）の他に少なくとも4個体分、丹波産播鉢は（198～200）の他に2個体分、備前産播鉢は（201）の他に1個体分の破片が出土している。そのほかに信楽産甕もしくは壺の破片も出土している。信楽産播鉢（197）は、口径31.9cm、ロクロ成形後、外面腰部にロクロから外すときの痕跡がある。口縁端部は外反し、播目は6本1単位で、見込みには中心で交差する5組の播目が付く。見込み近くの播目は磨滅している。ひずみが大

きい。丹波産播鉢（198～200）は、ロクロ成形で体部は直線的に開き、口縁端部に圏線を入れ丸く収める。底部にはロクロ鏡面に敷いた灰の痕跡が付く。外面体部下半には指オサエ痕が付く。（198）は小ぶりの口径32.3cm、播目は5本1単位で、やや新しい時期のものである。（199）は口径34.7cm、播目は単線で、見込みを2組の十字で約45度毎に8分割し、播目を入れる。片口の近くに「六」の線刻がある。（200）は口径38.4cm、播目は単線で、見込みを2組の十字で約45度毎に8分割し、播目を入れる。全体の播目は磨滅している。備前産播鉢（201）は、口径29.6cm、口縁は幅広の帯状を呈し、外面に2条の線が入る。口縁部には大きめの片口が付く。内面体部には斜めに交差するように、底部には「N」字状に10本1単位の播目が付く。備前産盤（202）は、口径は37.9cmあるが、底径14.7cmで、小さい底部から大きく直線的に開く。内面はロクロ痕を残し、外面体部と底面をヘラケズリする。内面口縁端部を内側にすこしつまみ上げ調整する。内面には自然釉が付着する。外面体部上端には重ね焼き痕が付く。

輸入陶磁器には中国産青花（203～205）、ベトナム産青花（206）、中国産瑠璃釉壺（207）、中国産白磁（208）、朝鮮産と思われる陶器椀底部（209）がある。そのほかに呉須赤絵皿、青花の底部小片などが出土した。これらの底部には「大明年製」「大明成化年製」「宣」（大明宣徳年製か）「福」などを記す。青花椀（203）は、口径6.8cmの小杯で、全面に釉が掛けられ、高台下面は釉ハギする。見込みと外面に呉須で蔓草文様を描く。青花椀（204）は、口径10cm以上の椀で、全面に釉が掛けられ、高台下面は釉ハギする。見込み内に呉須で簡略化した唐草文、外面には片足立ちの唐人を四方に描く。青花皿（205）は、口径11.9cmで、全面に釉が掛けられ、高台下面は釉ハギする。見込み内に呉須で尾の長い鳳凰と雲、口縁部内外面には蓮弁や木の葉文様を描く。高台内に「大明（宣・正）徳年製」と明の年号を記す。青花椀（206）は、ロクロ成形で底部から斜め上方に開く。貼り付け高台で、高台は露胎で、内外面に施釉する。呉須で見込み内に2重の圏線を描き波文様、外面には、圏線で区画して点や線を描く。ベトナム産。瑠璃釉壺（207）は、破片であるが、復元最大径は約16cmある。外面は深い青色釉を施し、内面は透明釉で灰白色を呈する。削り出し高台で、高台は露胎である。中国産。白磁皿（208）は、ロクロ成形で口縁部は外反する。全面施釉し、高台は釉ハギする。中国産。施釉陶器椀（209）はロクロ成形で、見込み中心部をへこませる。削り出し高台で、内外面に暗黄灰色の灰釉を施す。見込み内と高台に砂目痕が6箇所ずつある。朝鮮産と思われる。

土坑127出土土器（図43、図版10、表6、付表6・7）出土遺物には、土師器、瓦器鉢・盤、施釉陶器椀、焼締陶器播鉢・甕、輸入磁器などの土器・陶磁器類と瓦、金属製品などがある。土師器には皿、塩壺蓋・おはじきなど、施釉陶器には美濃産、唐津産の椀・皿がある。焼締陶器には信楽産播鉢・甕、丹波産播鉢、備前産播鉢、磁器には輸入磁器青花などがある。

土坑127出土土器の破片数割合（表6）は、土師器は約80%、施釉陶器の美濃産：唐津産＝7：3である。焼締陶器はほとんどが信楽産である。

土師器皿には、口径6cm前後の小型皿Nr（210～212）がある。中型の皿は口径10～11cmで圏線の巡る皿S（213～217）がある。（214）は口縁部に黒斑が多数付く。大型の皿は口径約12cmで

表6 1区土坑127出土土器破片数割合表

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	511	97.1%	79.8%	
	焙烙	5	1.0%		
	塩壺	9	1.7%		
	その他	1	0.2%		
	小計	526	100.0%		
瓦器	椀	0	0.0%	9.4%	
	鉢・釜	0	0.0%		
	鉢	58	93.5%		
	その他	4	6.5%		
	小計	62	100.0%		
国産施釉陶器	美濃	椀・皿	5	26.3%	73.1%
		天目椀	1	5.3%	
		志野	12	63.2%	
		その他	1	5.3%	
		小計	19	100.0%	
	唐津	椀・皿	7	100.0%	26.9%
		その他	0	0.0%	
		小計	7	100.0%	
	京焼	椀・皿	0	0.0%	0.0%
		その他	0	0.0%	
		小計	0	0.0%	
	国産施釉陶器小計		26	100.0%	
	焼締陶器	信楽	播鉢	34	89.5%
その他			4	10.5%	
備前		播鉢	0	0.0%	
		その他	0	0.0%	
丹波		播鉢	0	0.0%	
		盤	0	0.0%	
		その他	0	0.0%	
焼締陶器小計		38	100.0%		
輸入陶器	椀・皿	7	100.0%	1.1%	
	その他	0	0.0%		
	小計	7	100.0%		
その他陶磁器		1	0.2%		
総数		659	100.0%		

圏線の巡る皿S（218～221）がある。いずれの土師器皿も内面底部はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面底部はオサエ調整する。（219）は口縁部に黒斑が付く。（221）は、内面が赤色を呈する。焼塩壺蓋（222）は、口径6.5cm、内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面上部はオサエ調整する。土製品（223）は、土師器皿を直径1.9cmの円盤状に加工する。おはじきとして使用したものと考えられる。瓦器蓋（224）は、口径17.1cm、上面は粗いナデ、内面から口縁部外面までなめらかにナデ調整する。火消壺の蓋と考える。瓦器瓦燈（225）は、瓦燈の身の中心部に付く皿形の突起部分である。身との接合部分はカキヤブリの痕が付く。近くの土坑12から別個体の瓦燈の身部分出土している。

国産施釉陶器には美濃産（226～230）と唐津産（231～233）がある。

美濃産には灰釉皿、志野菊皿、志野向付、黄瀬戸鉢がある。そのほかに小片の青織部、志野織部、褐釉筒茶椀、青織部向付、黒織部沓茶椀、小壺、天目椀などがある。皿（226）は、丸皿、削り出し高台で、見込みから腰部まで灰釉を施し、オリーブ黄色を呈する。菊皿（227・228）は長石釉を施す。（227）は、見込みにメアトが3箇所付く。（228）は、口縁端部を切り取り、内外側面を丸ノミで菊花状に削る。高台は貼り付け高台と思われる。全面に灰白色の釉を施し、貫入が入る。高台内に輪トチン痕が付く。高台内に陰刻圏線をつけ、高台内の釉を拭き取る。志野向付（229）は、ロクロ成形後、型打ちで四方入隅に成形し、外面に葉・竹の鉄絵を描き、灰白色の長石釉を施す。碁笥底高台で、高台脇は露胎である。釉の薄い部分は火色が付く。黄瀬戸鉢（230）は、口径23.5cm、体部は丸みを帯びて立ち上がり、体部からくびれて口縁は外に開き、口縁端部は折り曲げて丸く収める。底面に糸切り痕、底面から体部はヘラケズリし、内面から体部下半まで、灰釉を施し、浅黄色を呈する。

唐津産には、小杯、皿がある。小杯（231）は、削り出し高台、腰部はヘラケズリ。見込みから体部下半まで灰釉を施し、灰オリーブ色を呈する。見込み内に灰が粗く堆積する。皿（232・233）は、口径約11cm、削り出し高台、体部下半まで灰釉を施す。高台に砂目痕が付く。（232）の釉は灰オリーブ色を呈する。（233）は、口縁部をヘラで押し広げ、輪花とする。見込みに3箇所の砂目が付く。釉は灰白色を呈する。

信楽産播鉢（234）は、口径23.0cm、ロクロ成形後、外面腰部にロクロから外すときの痕跡がある。口縁端部は外反する。6本1単位で播目が付く。

青花椀（235）は、体部は丸みをおびて立ち上がり口縁端部は短く外反する。見込みには発色の

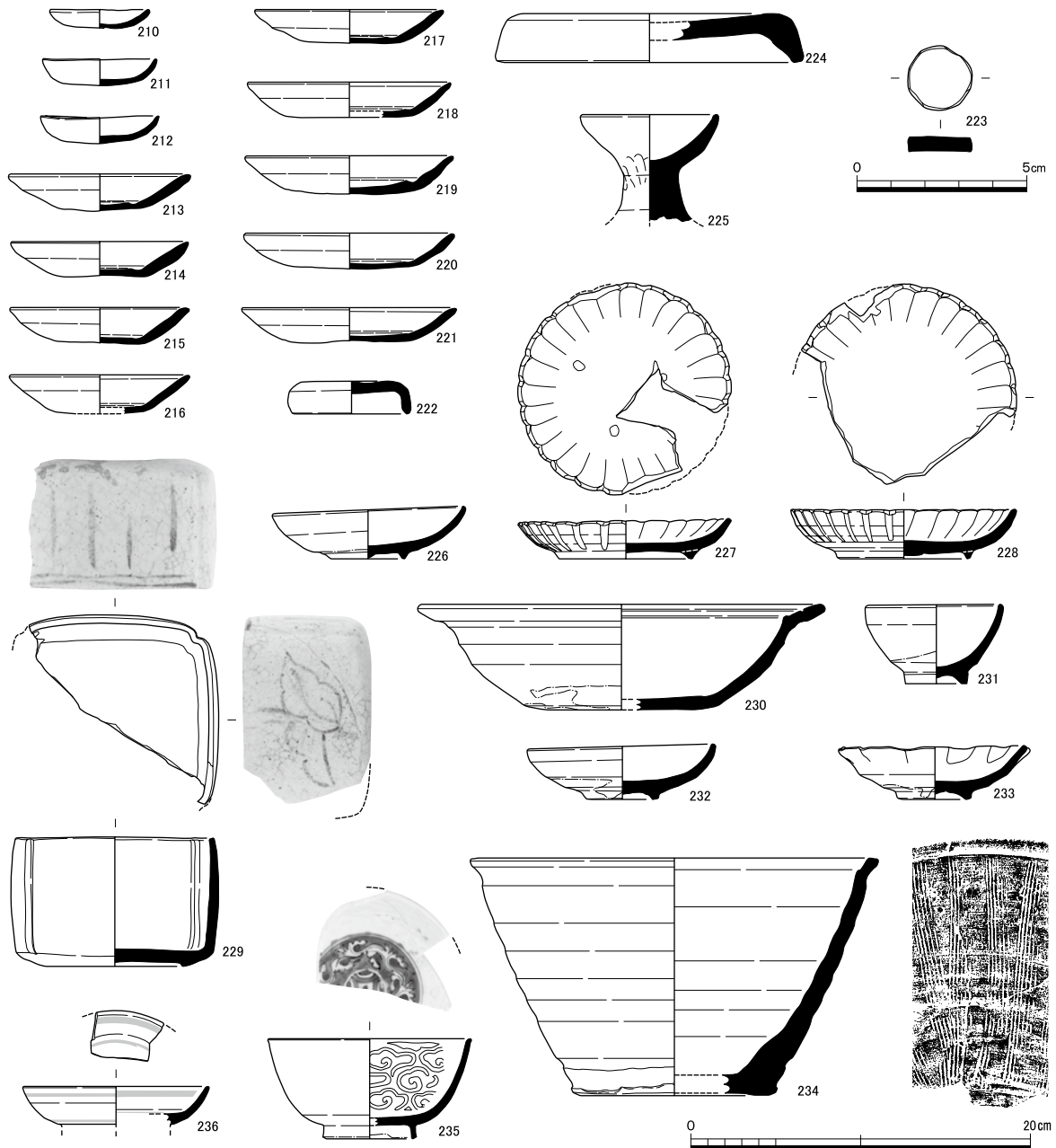


図43 1区土坑127出土土器実測図（1：4、223のみ1：2）

良い呉須絵が付き、体部内面には型押し雲文様が付く。全面施釉、削り出し高台で、高台を釉ハギする。青花皿（236）は、口径10.9cm、残存器高2.4cm。内外面に呉須で圈線を付け、高台脇まで施釉する。胎土は赤みがる灰白色で、釉はやや白濁する。中国南方系のものである。

土坑12出土土器（図44～46、図版11・12、表7、付表7～9）出土遺物には、土師器皿・高杯・甕・焼塩壺・焙烙、瓦器鍋・鉢・火鉢・盤、施釉陶器碗・皿・甕、焼締陶器播鉢・鉢、瓦・埴、金属製品の釘・キセル、木製品、石製品の砥石、骨などがある。土師器の時期は京都Ⅺ期中段階に属する。

土坑12出土土器の破片数割合（表7）は、土師器は約74%、施釉陶器の美濃産：唐津産＝9：1と唐津産が少ない。焼締陶器はほとんどが信楽産である。

表7 1区土坑12出土土器破片数割合表

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	1,210	92.7%	74.4%	
	焙烙	24	1.8%		
	塩壺	62	4.8%		
	その他	9	0.7%		
	小計	1,305	100.0%		
瓦器	椀	0	0.0%	4.8%	
	鍋・釜	0	0.0%		
	鉢	48	56.5%		
	その他	37	43.5%		
	小計	85	100.0%		
国産施釉陶器	美濃	椀・皿	70	49.3%	91.0%
		天目椀	27	19.0%	
		志野	14	9.9%	
		その他	31	21.8%	
		小計	142	100.0%	
	唐津	椀・皿	12	85.7%	8.9%
		その他	2	14.3%	
		小計	14	100.0%	
	京焼	椀・皿	0	0.0%	0.0%
		その他	0	0.0%	
		小計	0	0.0%	
	国産施釉陶器小計		156	100.0%	
焼締陶器	信楽	播鉢	123	80.9%	8.7%
		その他	16	9.9%	
	備前	播鉢	2	1.3%	
		その他	9	5.9%	
	丹波	播鉢	2	1.3%	
		盤	0	0.0%	
		その他	1	0.7%	
焼締陶器小計		152	100.0%		
輸入陶器	椀・皿	24	43.6%	3.1%	
	その他	31	56.4%		
	小計	55	100.0%		
その他陶磁器		0	0.0%		
総数		1,753	100.0%		

土師器皿には口径6cm前後の小型皿Nr(237～239)、口径7.5cmの皿Nr(240)がある。中型の皿は口径約10cmで圏線の無い丸底皿Sb(241～243)、口径10～11cmで圏線の巡る皿S(244～251)の2群ある。(244)は口縁部内外面に炭化物が厚く付着する。(245・247・249・251)は一部の口縁部に炭化物が付着する。(248)は全面が炭化する。(247)は他の土器より器壁が厚く0.7cmある。大型の皿は口径約12cmで圏線の巡る皿S(252～255)、口径13～14cmの皿S(256・257)、口径16.8cmの皿S(258)の3群がある。(252・253)は口縁部に炭化物が付着する。いずれの土師器皿も内面底部はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面底部はオサエ調整する。トリベ(259)は、口径6.0cm、器高2.4cm、厚さ0.7～1.0cmある。変色しておらず、未使用のものか。焼塩壺蓋(260・261)は、口径約7cm。(261)は土器の表面が赤変する。内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面上部はオサエ調整する。焼塩壺(262～

264)は、口径5～6cm、器高9～10cm。芯に粘土を巻き付けて成形した円筒形で、内面には布目が付く。その上をナデ調整する。口縁内外面はヨコナデ、外面はナデ調整する。(262・263)の外径は約6cm、器壁は厚く1.0～1.5cmある。全体に赤変する。(264)は外径は7.5cm、器壁は薄く0.7cmある。焙烙(265)は、口径29.5cm。口縁端部まで台型成形するやや新しい時期のものである。

瓦器鍋(266)は、口径34.3cm。ナデ調整し、口縁部は開き、端部は上方につまみ収める。体部内面はハケメ調整する。外面には煤が付着する。瓦器蓋(267)は、口径19.9cmある。上面はナデ、内面と口縁部はなめらかにヨコナデする。火消壺の蓋と考える。瓦燈(268)は、口径17.0cm。貼り付け高台で、外面をなめらかにミガキ調整する。中央の灯明受け部分を欠く本体部分のみで、釣鐘状の蓋部分は出土していない。瓦器鉢(269・270)は、口径約31.0cm。外面は黒色で、内面は丁寧なヘラミガキ、外面はナデ、内面を磨くときの指の痕が多数付く。(269)は内外面にガラス質の釉を施し、白色から銀色を呈する。(270)は内面に厚く炭化物が付着する。

国産施釉陶器には美濃産(271～289)と唐津産(290～300)、京焼の軟質施釉陶器(301)がある。

美濃産には、小杯、志野椀、絵志野椀、天目椀、丸皿、折縁皿、折縁ソギ皿、志野皿、志野菊皿、志野織部向付、黄瀬戸鉢・皿がある。小杯(271)は、口径5.3cm、削り出し高台、内面から体部下半まで褐釉を施し、見込み内は黒褐色を呈する。志野椀(272)は、口径13.0cm、器高6.8cmと低めで、腰部はヘラケズリ、2重の貼り付け高台である。外面に鉄絵、全面に長石釉を施し、高台を中心に四角形に土見を残す。腰部には火色が付く。絵志野椀(273)は、口径10.4cm、器高7.2cm、口

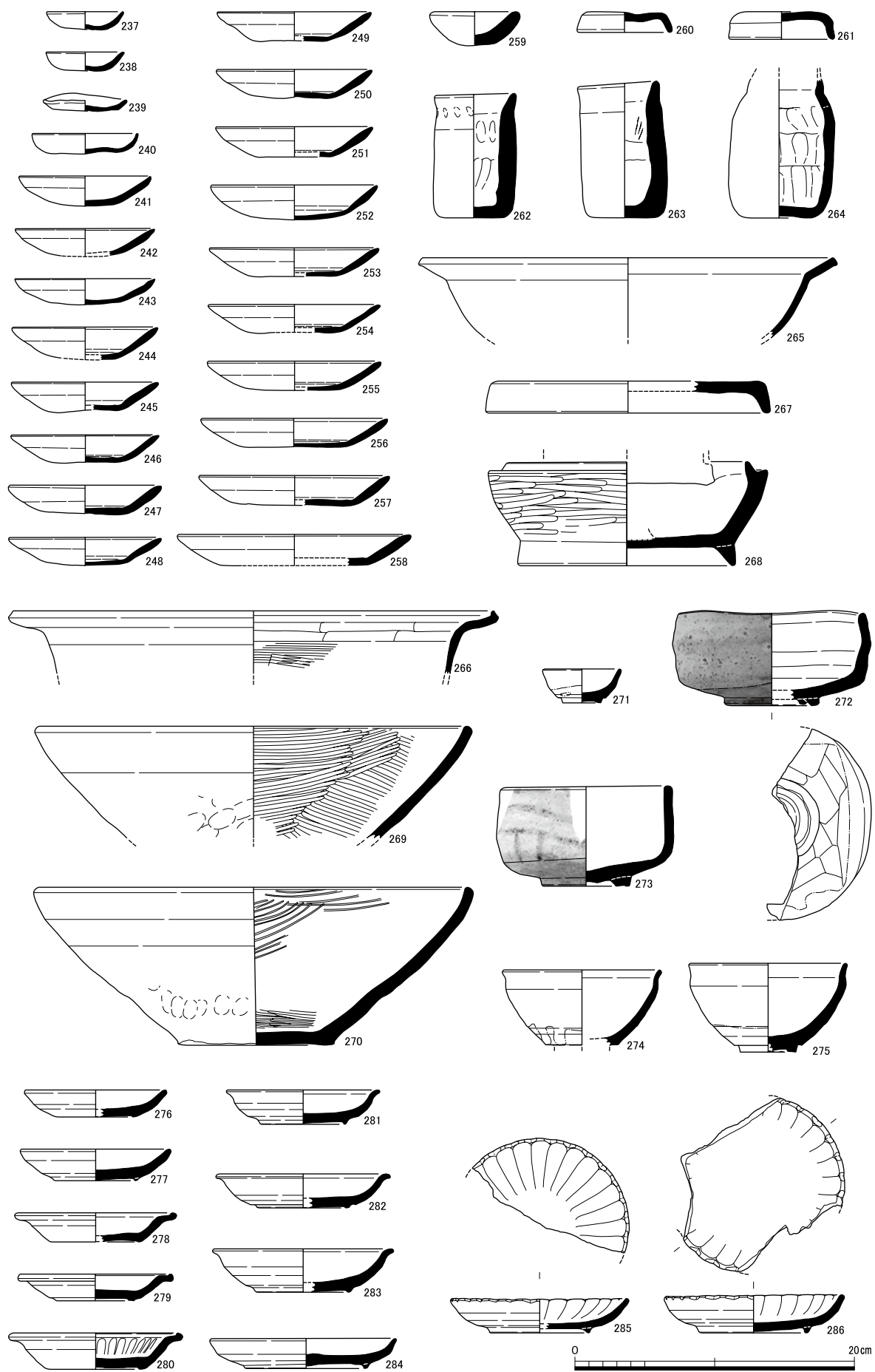


图44 1区土坑12出土土器实测图1 (1:4)

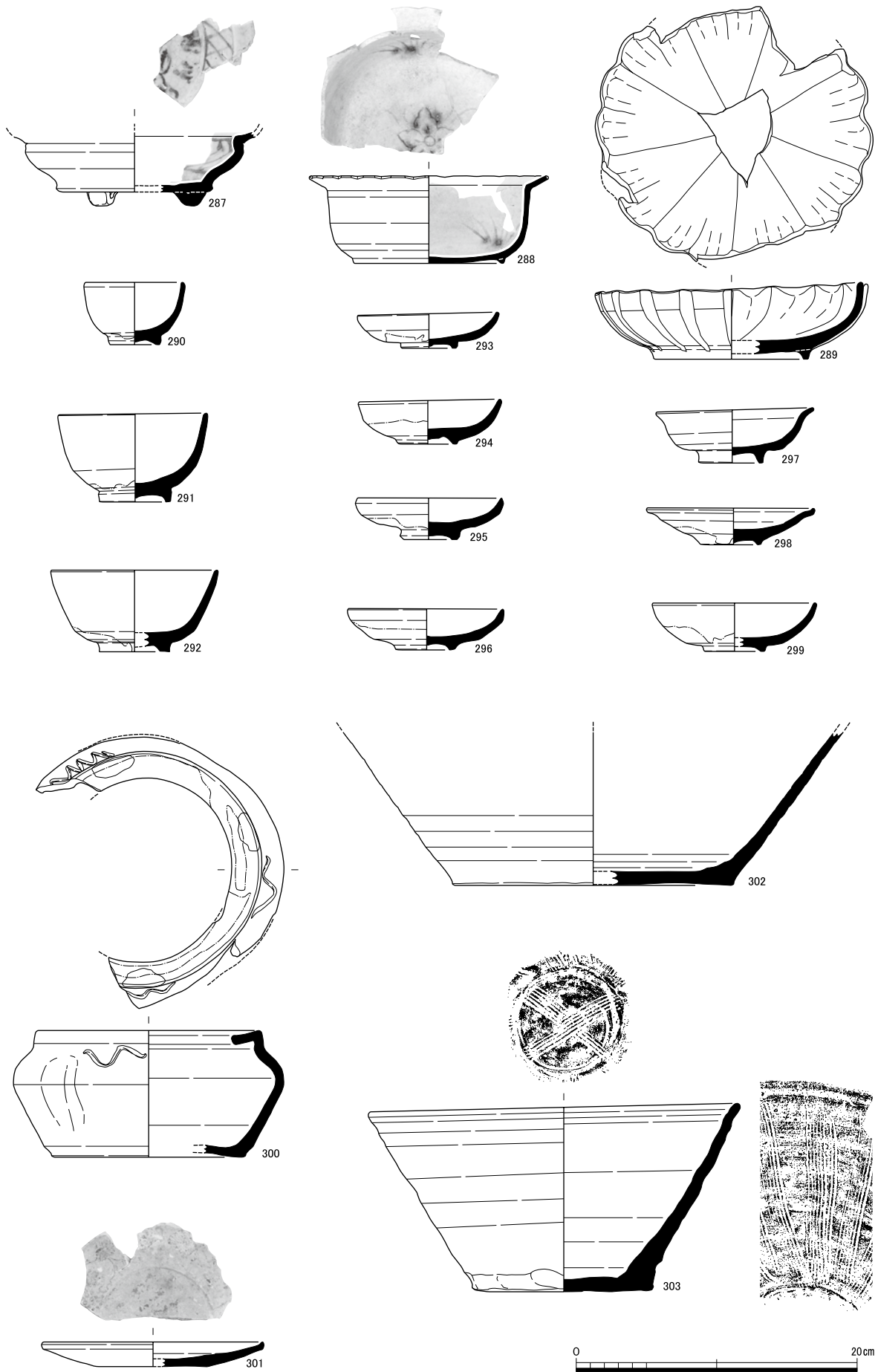


图45 1区土坑12出土土器实测图2 (1:4)

ク口成形後、歪ませる。幅広い高台を2重高台のように高台底面にケズリを入れる。外面に鉄絵で山や竹様の文様を付け、全面に長石釉を施す。高台周りは釉を拭き取る。口縁や高台周りには火色が付く。天目椀(274・275)は、口径11.2cm、腰部は丸みを持って立ち上がり、口縁部で内傾し、端部は外反する。削り出し高台で体部下半まで鉄釉を施す。(274)は褐色、(275)は暗褐色を呈する。丸皿(276・277)は、口径約10.0cm。貼り付け高台。全面灰釉を施し、見込み内は丁寧に釉を拭き取り、重ね焼き痕が付く。(276)は、見込み内に朱が付着し、高台内にトチン痕が1個残存する。(277)は、高台内にトチン痕が2個残存する。折縁皿(278・279)は、口径約11.0cm。口縁部は外に開き、端部を折り返して丸く収める。削り出し高台で、全面に施釉し、見込み部の蛇ノ目状の凸面を釉ハギする。見込み内と高台内に輪トチン痕が付く。折縁ソギ皿(280)は、口縁部は外に開き、端部を折り返して丸く収める。内側面に菊花状にソギを入れる。削り込み高台で、全面に施釉する。見込み内と高台内にあった輪トチンを削り取っている。端反皿(281～283)は、口径10.8～12.7cm、全面に長石釉を施し、高台内の釉を軽く拭き取る。貫入が入る。(281)は、削り出し高台。高台内にトチン痕が2個残存する。火色が付く。(282)は、貼り付け高台、高台内にトチン痕が2個付く。(283)は、貼り付け高台で、高台内に輪トチン痕が付く。火色が付く。皿(284)は、貼り付け高台で、全面に施釉し、高台内の釉を拭き取る。釉は気泡が多い。高台内に輪トチン痕が付く。菊皿(285)は、貼り付け高台で、口縁部を菊花状にソギを入れる。全面に灰白色の釉を施し、貫入が入る。高台内に2箇所目の目痕が付く。菊皿(286)は、貼り付け高台で、菊花状にソギを入れる。全面に長石釉を施し、気泡と貫入が入る。高台内輪トチン痕が付く。志野織部向付(287)は、底面から屈曲して立ち上がり、口縁部は外に開くようにロクロ成形する。見込みや体部内面に鉄絵で斜格子文などを描き、長石釉を施す。底部に半環足を貼り付ける。黄瀬戸鉢(288)は、口径16.6cm。腰部から直線的に立ち上がり、口縁部は開く。端部は輪花状に削り、見込みに五弁の花・体部内面に草文を陰刻し、さびを加え、全面に灰釉を施し、浅黄色を呈する。貼り付け高台。中心と高台にメアトが付く。黄瀬戸大皿(289)は、口径19.3cmの菊皿である。口縁部をヒダ状にし内外側面を丸ノミで菊花状に削り、全面に灰釉を施し、灰オリーブ色を呈す。貼り付け高台。高台内に4箇所のメアトが付く。高台はなめらかに加工する。

唐津産には、小杯、椀、皿がある。小杯(290)は、口径6.9cm、削り出し高台でちりめん皺が付く。腰部まで灰釉を施し、灰白色を呈する。椀(291・292)は、口径11～12cm、削り出し高台で、腰部をヘラケズリする。(291)は見込みから体部下半まで灰釉を施し、濃い灰色を呈する。(292)は、見込みから高台脇まで灰釉を施し、灰オリーブ色を呈する。皿(293～299)は、口径約10～12cm、削り出し高台で、見込みから腰部まで灰釉を施す。オリーブ黄色～灰白色を呈する。(293)は、高台に3箇所の砂目痕が付く。(296)は、内面の施釉の隙間は露胎となる。釉は溶けが悪く白濁する。(297)は、口縁部が外反するやや深い皿である。高台端にメアトが付く。(298)は、口縁部は外反し端部は内に返す。腰部まで灰釉を施し、灰白色を呈する。見込み内と高台に3箇所の砂目痕が付く。(299)は、流れて溜まった灰黄褐色の釉が白濁する。

また、高取水指がある。高取水指(300)は、口径13.4cm、器高9.0cm。底部から開いた体部は上

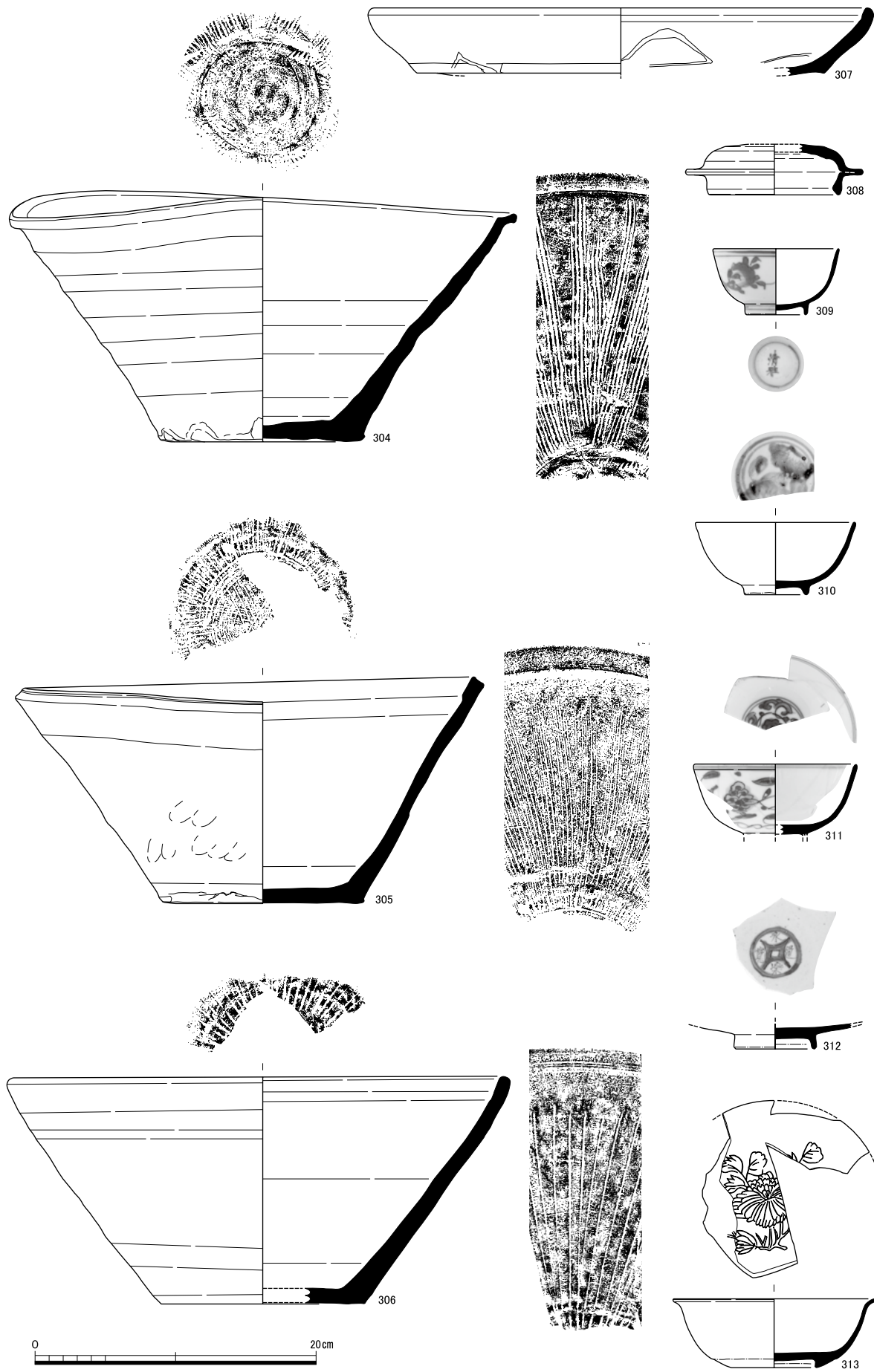


图46 1区土坑12出土土器实测图3 (1:4)

端で内湾し口縁端部を内に曲げて蓋受けをつくる。体部上端外面に、陰刻の波状文が付く。蓋受け部分以外は灰釉を施す。底面に1箇所、蓋受け部分に4箇所の内の3箇所のメアトが付く。

軟質施釉陶器皿(301)は、口径15.7cm、器高1.8cmの皿である。見込みからわずかな段を付け、体部は外に開き、口縁端部は上方に丸く収める。黄色の化粧をした生地の内面に鉄絵を描き、透明釉を掛ける。見込みには朱が付着し、内面の文様はかすれる。京焼と思われる。

焼締陶器(302)は、底径19.6cmある信楽産の鉢もしくは甕である。長石の多い胎土をロクロ成形し、内外面にドベを塗り、褐色を呈する。信楽産播鉢(303～305)には大きさなど違いがある。播鉢(303)は、口径26.1cm、外面腰部にロクロから外すときの痕跡が付く。口縁端部は斜め上方に収める。播目は6本1単位で、見込みには中心で「×」に交差する播目が付く。播鉢(304)は、口径35.5cm、外面腰部にロクロから外すときの痕跡が付く。口縁端部は外反する。播目は5本1単位で、見込みには播目を付けていない。播鉢(305)は、口径30.5cm、外面体部下半には指オサエ痕が付く。口縁端部に圏線を入れ丸く収める。底部にはロクロ鏡面に敷いた灰の痕跡が付く。播目は5本1単位で、見込みに交差する播目が付く。底部の灰の痕跡・外面の指オサエ・口縁端部などから丹波技法で作った信楽産播鉢である。丹波産播鉢(306)は、口径34.7cm、体部は直線的に開き、口縁端部に圏線を入れ丸く収める。底部にはロクロ鏡面に敷いた灰の痕跡が付く。外面体部下半には指オサエ痕、播目は単線で、すり減っている。丹波産盤(307)は、口径35.0cm、残存器高4.8cmと浅い。口縁端部は圏線を入れ内側に丸く収める。内外面に重ね焼き時の三角形の陶片痕が付く。底部にはロクロ鏡面に敷いた灰の痕跡が付く。

輸入陶磁器には、施釉陶器蓋(308)、青花椀(309～311)、青花皿(312)、白磁碗(313)がある。蓋(308)は、口径9.0cmの円盤状の蓋である。2次焼成のためか、胎土は須恵器質になり、細かい貫入が入る外面の緑釉は溶けて薄くなる。緑釉は部分的に還元され銅色を呈する。中国華南産。椀(309)は、高台を釉ハギし呉須で外面に花、高台内に「清雅」と記す。椀(310)は、高台周りまで施釉し、高台内は露胎部分がある。見込み内に呉須の絵が付く。椀(311)は、発色の良い呉須で、見込みに花、外面に草花文が描かれる。皿(312)は、底部のみで、見込みには永楽通寶の銭文様が呉須で描かれる。高台は釉ハギする。白磁椀(313)は、口径15.3cm、口縁部は外反する。見込み内に陰刻で菊花を描き、透明釉を掛ける。削り出し高台で、高台周りは釉ハギする。

土坑113出土土器(図47・48、図版12・13、表8、付表9～11)出土遺物には、土師器皿・高杯・焼塩壺・焙烙、須恵器、瓦器鉢・火鉢、施釉陶器椀・皿、焼締陶器播鉢・甕・盤、青花椀、瓦、金属製品のキセル・釘、貝殻、漆塊、砥石などがある。

土坑113出土土器の破片数割合(表8)は、土師器は約77%、施釉陶器の美濃産：唐津産=9：1で美濃産が多い。焼締陶器はほとんどが信楽産である。

土師器皿には、口径6～7cmの小型な皿Nr(314～316)がある。中型の皿は口径約10cmで圏線のない丸底皿Sb(317～319)、口径11cm前後で圏線の巡る皿S(320～331)がある。(320)は内面体部が黒変する。(326～329)は、口縁部に煤が付着。(330・331)は内外面黒変する。大型の皿は口径約12cmで圏線の巡る皿S(332～337)、口径17.2cmで圏線の巡る皿S(338)がある。

表8 1区土坑113出土土器破片数割合表

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	1,666	94.9%	76.5%	
	焙烙	48	2.7%		
	塩壺	32	1.8%		
	その他	10	0.6%		
	小計	1,756	100.0%		
瓦器	椀	0	0.0%	10.4%	
	鉢・釜	9	3.8%		
	鉢	198	83.2%		
	その他	31	13.0%		
	小計	238	100.0%		
国産施釉陶器	美濃	椀・皿	59	52.2%	88.3%
		天目椀	11	9.7%	
		志野	15	13.3%	
		その他	28	24.8%	
		小計	113	100.0%	
	唐津	椀・皿	15	100.0%	5.6%
		その他	0	0.0%	
		小計	15	100.0%	
	京焼	椀・皿	0	0.0%	0.0%
		その他	0	0.0%	
		小計	0	0.0%	
	国産施釉陶器小計		128	100.0%	
	焼締陶器	信楽	播鉢	103	73.0%
その他			15	10.6%	
備前		播鉢	2	1.4%	
		その他	10	7.1%	
丹波		播鉢	3	2.1%	
		盤	0	0.0%	
		その他	8	5.7%	
焼締陶器小計		141	100.0%		
輸入陶器	椀・皿	17	53.1%	1.4%	
	その他	15	46.9%		
	小計	32	100.0%		
その他陶磁器		1	0.0%		
総数		2,295	100.0%		

(332・333・336)は、内外面黒変する。いずれの皿も内面底部はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面底部はオサエ調整する。焙烙(339)は底部を欠くが、口径30.7cm、台型成形で口縁部を継ぎ足す。口縁端部は内に小さく突き出す。外面には煤が付着する。

瓦器火鉢(340)は、底径25.0cmの円筒形である。高台を貼り付け、外面をなめらかに仕上げる。瓦器鉢(341)は、口径41.8cmの円筒形である。内外面をヨコナデする。瓦器鉢(342)は、口径44.6cm、底径16.0cm、器高19.55cmで、口縁は底面から約45度の角度で直線的に開き、端部はやや内反する。外面は粗いオサエとヨコナデ調整、内面はヘラケズリでなめらかに仕上げる。内面から口縁外面まで白色の釉が施され、銀色を呈する。

国産施釉陶器には美濃産(343～355)と唐津産(356～363)、京焼の軟質施釉陶器(364)がある。

美濃産には、志野小杯、天目小杯、鉄釉茶椀、天目茶椀、美濃唐津椀、灰釉皿、灰釉折縁皿、灰釉折縁菊皿、志野皿、志野菊皿、黄瀬戸向付がある。志野小杯(343)は、円筒形で、口径6.4cm、削り出し高台で、内外面に長石釉を施す。赤変部分が多い。高台外側に2箇所の特チン痕が付く。天目小椀(344)は、口径8.2cm、削り出し高台、内外面に鉄釉を施し、腰部は露胎である。鉄釉茶椀(345)は、口径10.0cm、削り出し高台、内外面に明赤褐色の鉄釉を施す。高台は露胎である。天目茶椀(346)は、削り出し高台、内面と外面腰部近くまで鉄釉を施し、褐色の部分と黒褐色を呈する。土坑113と土坑65・120からの破片が接合した。灰釉皿(347)は、削り込み高台、全面に施釉し、見込み内を釉ハギする。見込み内と高台内部に輪トチン痕が付く。灰釉折縁皿(348)は、口縁部は外に開き、端部を折り返して丸く収める。削り込み高台、全面に施釉、見込み内と高台内にあった輪トチンを削り取っている。灰釉折縁ソギ皿(349)は、(348)と同形で内側面に菊花状にソギを入れる。削り出し高台、全面に施釉、見込み部の蛇ノ目状の凸面は釉ハギする。見込み内と高台内に輪トチン痕が付く。志野皿(350・351)は、口径10.8cm、12.6cmある。口縁部は外反し、削り出し高台、全面に灰白色の長石釉を施し、貫入が入る。高台内にトチン痕が2箇所付く。(351)は、赤く発色する。志野菊皿(352)は、口径11.5cm、口縁部は外反、菊花状にソギを入れる。全面に灰白色の釉を施し、貫入が入る。高台内と見込み内に3箇所のメアトが付く。黄瀬戸向付(353)は、口径9.4cmある。ロクロ成形後、型打ちで六角形に成形し、灰釉を施す。貼り付け高台で、高台内は露胎である。志野向付(354)は、口径16.4cmある。ロクロ成形、碁笥底高台で、全面に長石釉を施し灰白色を呈し、貫入が入る。外面に鉄絵を描く。高台内に輪トチン痕、見込み内に3箇所のトチン痕が付く。志野向付(355)は、

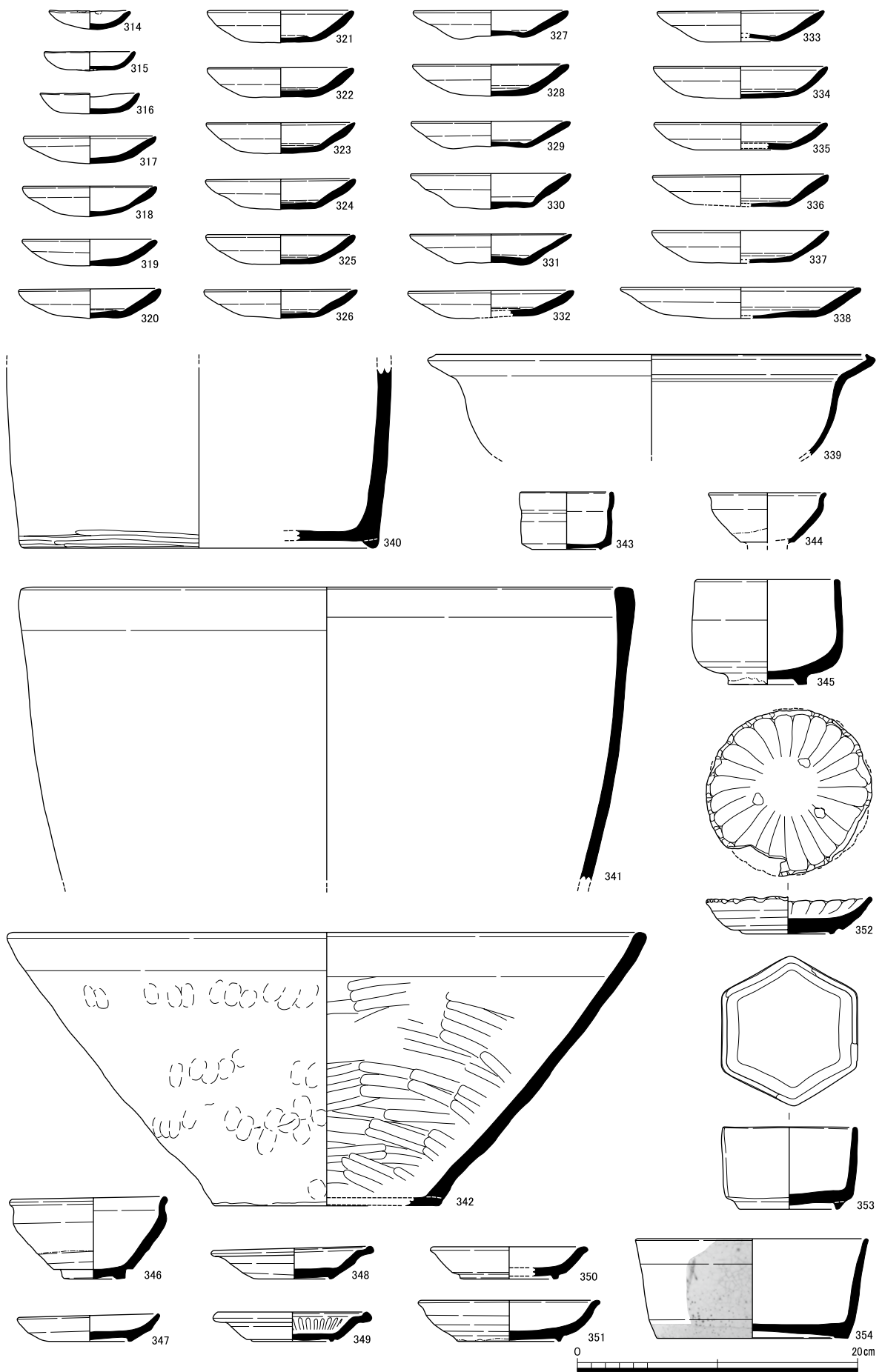


图47 1区土坑113出土土器实测图1 (1:4)

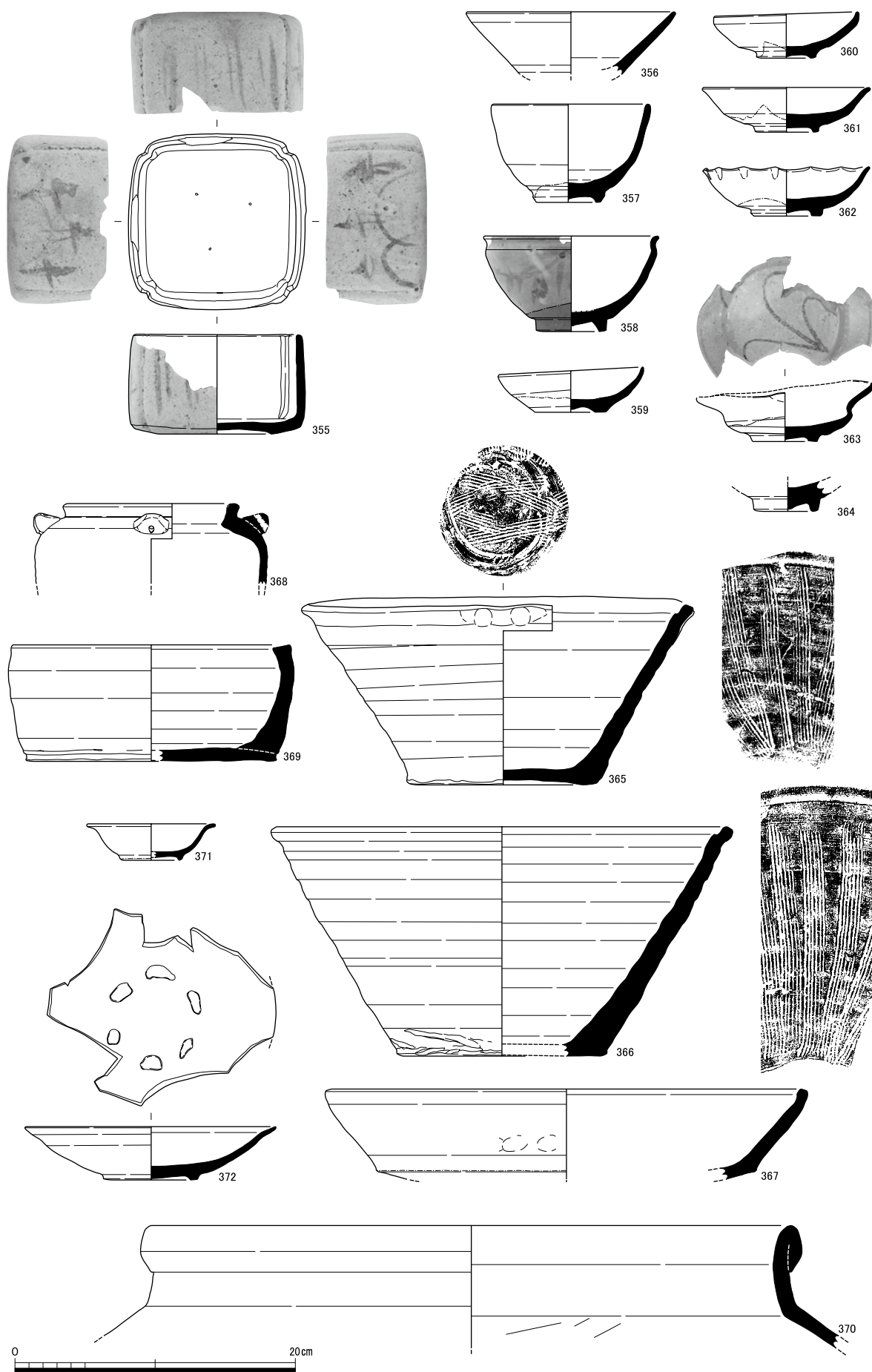


图48 1区土坑113出土土器实测图2 (1:4)

ロクロ成形後、型打ちで四方入隅に成形し、外面に鉄絵を描き、灰白色の長石釉を施す。碁笥底高台である。高台内に輪トチン痕、見込みに2箇所のメアトが付く。

唐津産には、椀、天目椀、皿、絵唐津向付がある。瀬戸唐津椀(356)は、全面に灰釉、口縁端部は鉄釉を施す。椀(357)は、削り出し高台、高台内にちりめん皺がでる。腰部まで灰釉を施し、にぶい橙色を呈する。天目椀(358)がある。胴部上端で屈曲してやや内へ入り、口縁部は外反する。削り出し高台、腰部まで灰釉を施し、灰色を呈する。外面に草文の鉄絵が付く。皿(359～362)は、口径10.2～11.8cmある。削り出し高台、腰部から高台は露胎である。(359・361)は見込み内と高台周りに各3箇所の砂目痕が付く。(360)は高台内にちりめん皺が付く。(362)は口縁部を外反し、端部をヘラで輪花状に内反する。高台内にちりめん皺が付く。腰部の露胎部分は赤変する。絵唐津向付(363)は、ロクロ成形で腰部に段を付け、体部は開き、口縁端部は内にまとめる。削り出し高台、腰部と高台は露胎である。見込み内に破線の陰刻と鉄絵で草文が付く。内面口縁部に鉄絵が付く。

軟質施釉陶器(364)は、高台だけであるが、京焼と考える。削り出し高台、褐釉が施され、内面は黒褐色を呈し表面は銀化する。高台部は浅黄色を呈する。

焼締陶器には、信楽産播鉢、丹波産盤、備前産水指、備前産鉢、備前産甕がある。信楽産播鉢(365・366)は6本1単位の播目が付く。(365)は口径26.9cm、見込みには菱形に交差する播目が付く。(366)は口径32.1cmある。丹波産盤(367)は口径33.5cm、底面から直線的に開き、内面口縁端部を内側にすこしつまみ上げ調整する。内面に圏線のような重ね焼きの痕が付く。備前産水指(368)は、口径11.8cmの小型の水指である。丸い体部に耳を付け、直径3mmの孔を付ける。口縁部は短くやや外反するが、焼き上がった後、蓋と合わせるためか、口縁端部内面の円周上を細かく欠いてなめらかに仕上げる。備前産鉢(369)は、口径19.6cmの小型な円筒形の鉢である。底面には同心円のロクロ台の痕が付く。口縁部は少し内傾し厚くなる。備前産甕(370)は、口径45.6cmある。頸部は短く、口縁部は折り曲げて玉縁状に調整する。体部には自然釉がかかる。

輸入磁器には白磁皿(371・372)がある。皿(371)は、口径10.9cm、口縁は外反し、全面に施釉、高台は釉ハギする。中国産。皿(372)は、口径17.8cm、口縁はやや外反する。全面に施釉し、細かな貫入が入る。見込み内に6箇所、高台に6箇所の砂目痕が付く。朝鮮産。

土坑60出土土器(図49～51、図版14、表9、付表11～13) 出土遺物には、土師器皿・焙烙、施釉陶器椀・皿・向付・鉢、焼締陶器水指・播鉢、青花椀、瓦、金属製品、砥石、焼け壁土、骨などがある。

土坑60出土土器の破片数割合(表9)は、土師器は約80%、施釉陶器の美濃産：唐津産=5：5で唐津産の割合がやや高い。焼締陶器は、信楽産が多いが、丹波産が約10%を占める。

土師器皿には、口径6cm前後の小型皿Nr(373～375)がある。中型の皿は口径約10cmで圏線のない丸底皿Sb(376～378)、口径11cm前後で圏線の巡る皿S(379～386)の2群がある。379・386は外面底部に黒斑がある。大型の皿Sはいずれも圏線が巡り口径約12cmの(387～389)、口径22.2cmの(390)がある。いずれも内面底部はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面底部はオサエ調

表9 1区土坑60出土土器破片数割合表

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	1,128	94.2%	80.4%	
	焙烙	53	4.4%		
	塩壺	14	1.2%		
	その他	2	0.2%		
	小計	1,197	100.0%		
瓦器	椀	1	5.3%	1.3%	
	鍋・釜	0	0.0%		
	鉢	16	84.2%		
	その他	2	10.5%		
	小計	19	100.0%		
国産施釉陶器	美濃	椀・皿	17	37.8%	46.4%
		天目椀	8	17.8%	
		志野	13	28.9%	
		その他	7	15.6%	
		小計	45	100.0%	
	唐津	椀・皿	32	65.3%	6.5%
		その他	17	34.7%	
		小計	49	100.0%	
	京焼	椀・皿	0	0.0%	3.1%
		その他	3	100.0%	
		小計	3	100.0%	
	国産施釉陶器小計		97	100.0%	
	焼締陶器	信楽	播鉢	102	65.4%
その他			31	19.9%	
備前		播鉢	4	2.6%	
		その他	0	0.0%	
丹波		播鉢	14	9.0%	
		盤	0	0.0%	
		その他	5	3.2%	
焼締陶器小計		156	100.0%		
輸入陶器	椀・皿	13	65.0%	1.3%	
	その他	7	35.0%		
	小計	20	100.0%		
その他陶磁器		1	0.1%		
総数		1,489	100.0%		

整する。トリベ (391) は、口径8.7cm、器高2.8cm、厚さ0.8cmある。内面には赤斑点が多い。胎土に4mm以下の小礫が多い。内面から外部口縁までヨコナデする。焙烙 (392) は口径31.5cm、器高9.2cmある。台型成形で口縁部を継ぎ足す。口縁端部は内に小さく突き出す。外面には煤が付着する。

国産施釉陶器には美濃産 (393～400) と唐津産 (401～413)、京焼の軟質施釉陶器 (414) がある。

美濃産には、小杯、天目椀、皿、菊皿、灰釉皿、志野向付、美濃唐津向付がある。小杯 (393) は、口径6.4cmあり、口縁端部は外反する。全面灰釉が施され濃緑色を呈す。外面腰部と高台は露胎である。見込み内は釉がたまり青緑を呈する。天目椀 (394) は、鉄釉が施され褐色を呈する。見込み内には墨流しのように黒く発色する部分がある。口縁部は内側に屈曲し外反する。屈曲部が長いやや新しい時期のものである。皿 (395・396) は、口径約12cmの丸皿で、削り出し高台である。

全面長石釉を施し、高台内は釉を軽く拭き取る。見込み内に3箇所のアトが付く。(395) は高台内に3箇所のトチン痕と口縁部近くに重ね焼き痕が付く。(396) は、貫入が多く、焼成後、高台底部を削り出し調整する。菊皿 (397) は、外面をヘラケズリ、口縁端部を切り取り、内側面と外面を菊花状に削る。高台は貼り付け高台と思われる。外面は浅く花卉を削り込み、全面に長石釉を施し、貫入が入る。高台内に2箇所のトチン痕、内面には1箇所のアトがある。灰釉皿 (398) は、口径13.2cmある。貼り付け高台、内面と外面口縁部に灰釉を施す。口縁部は釉が厚く、オリーブ黄色を呈す。見込み内に鉄絵の文様、口縁部沿いに波線を入れる。志野向付 (399) は、口径8.1cmの筒向付である。外面に鉄絵で草を描く。全面に釉を施し、青みがかった灰白色を呈する。削り出し高台、高台内に輪トチン痕が付く。美濃唐津向付 (400) は、口縁部で立ち上がり外反する。欠損しているが、ロクロ成形後、口縁部を内に曲げ四角形に調整していると思われる。底面には半環足を貼り付け、見込み内に鉄絵の草花文、口縁部には木賊文を入れ、全面に灰釉を施す。2箇所の胎土目痕が付く。やや新しい時期のものである。

唐津産には椀、皿、絵唐津向付がある。椀 (401～407) は、削り出し高台である。椀 (401) は、小ぶりの椀で、高台周辺を除いて全面に灰釉を施し、にぶい黄橙色を呈する。見込み内や外面の釉の厚い部分は白濁している。露胎の一部は赤変する。高台に3箇所の胎土目痕付くが、底面をなめらかに調整している。椀 (402) は、高い高台で、高台外面まで灰釉を施し、黄灰色を呈する。釉の厚い部分は灰白色を呈し、全面に貫入が入る。高台には2箇所の胎土目痕が付くが、なめらかに調整されている。椀 (403) は、側面に稜をもつ竹節高台である。内面と外面体部下半に灰釉を施

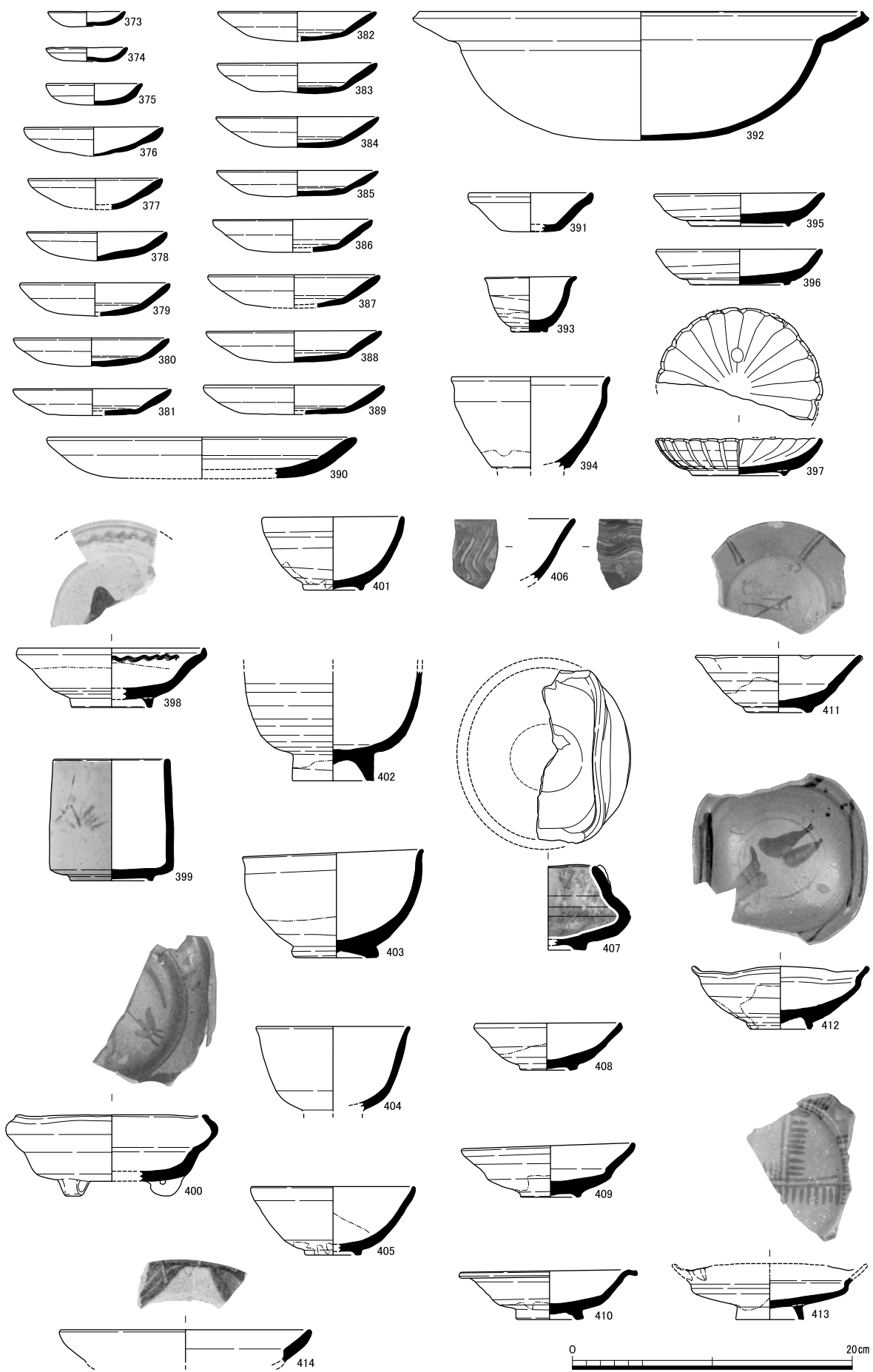


图49 1区土坑60出土土器实测图1 (1:4)

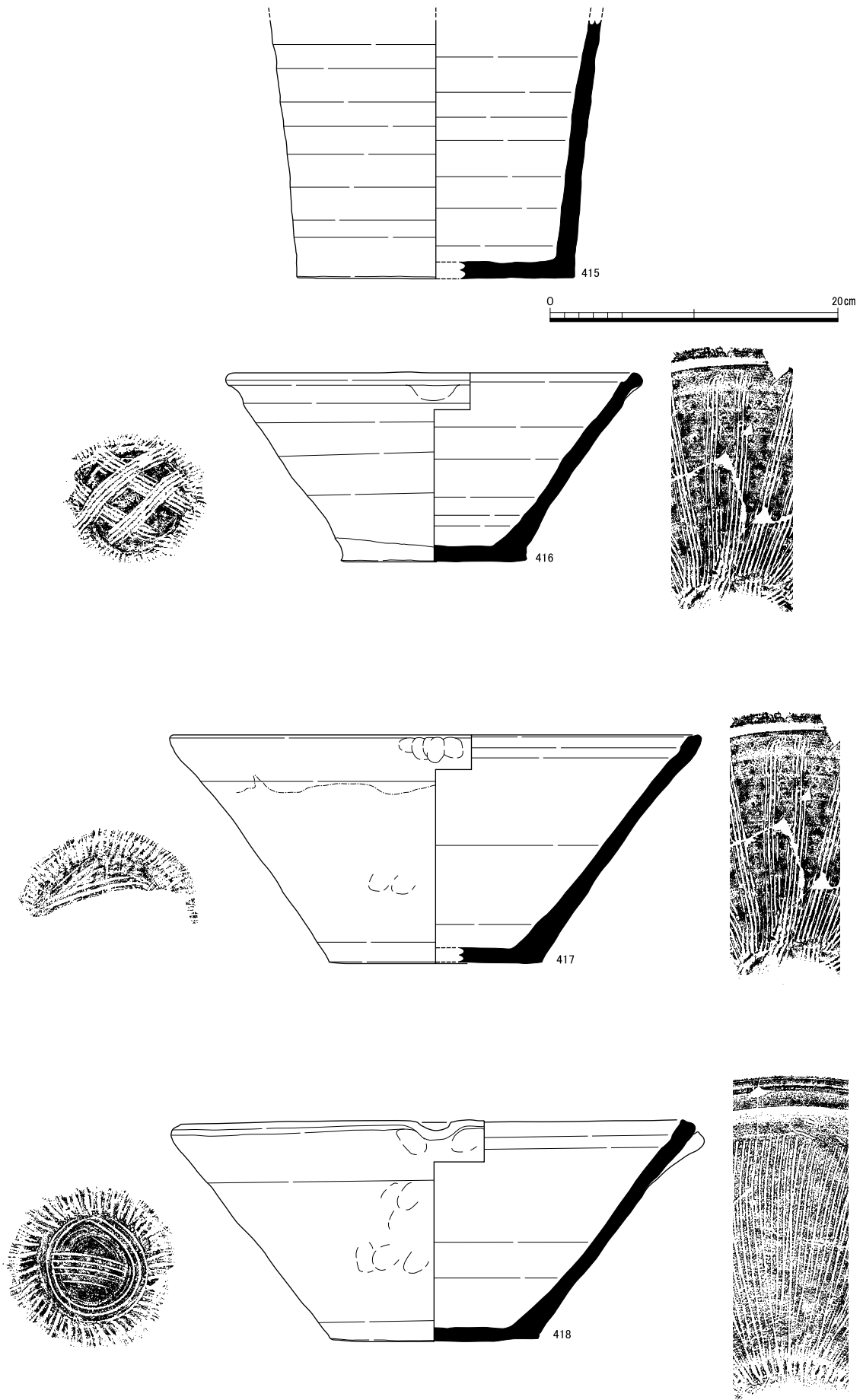


图50 1区土坑60出土土器实测图2 (1:4)

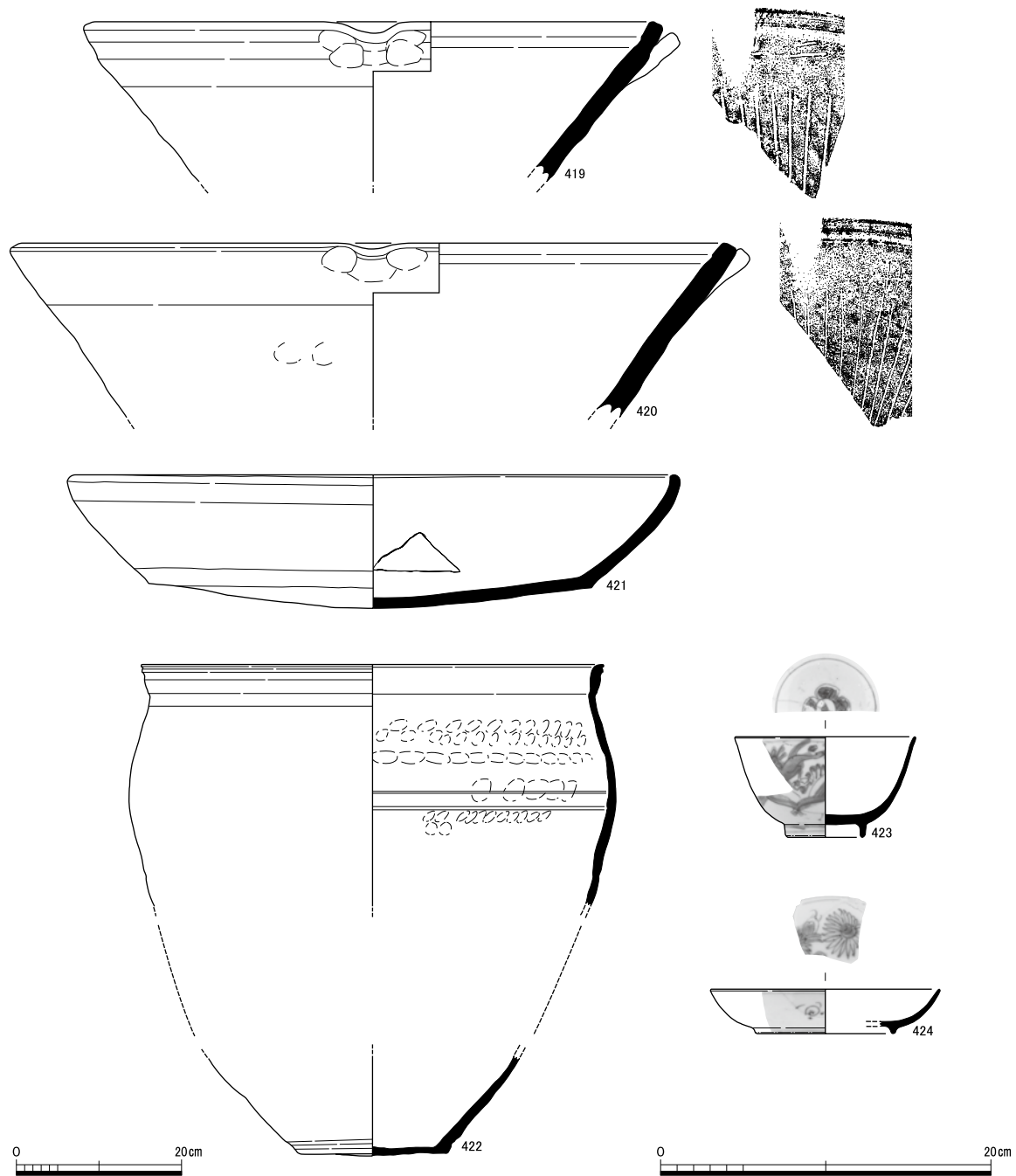


図51 1区土坑60出土土器実測図3 (1:4、522のみ1:8)

す。露胎の一部は赤変する。碗(404)は、高台を欠く。体部全面に黄灰色の釉を施す。やや新しい時期のものである。碗(405)は、暗赤褐色の鉄釉と灰釉を掛け分ける。やや新しい時期のものである。碗(406)は、浅い目の刷毛目碗の小片である。口縁部は端反り、鼠色の生地に白化粧土の刷毛目で、内面は縦方向、外面は横方向の波線を入れる。高取碗(407)は、沓茶碗で、口径約13cmの碗をロクロ成形し、体部から口縁部を歪める。削り出し高台で、高台部分は露胎。内面から外面腰部まで灰釉を施し、緑褐色から灰白色を呈する。皿(408~410)は、口径10.35~12.8cm、削り出し高台で、高台部分は露胎、内面から外面腰部まで灰釉を施す。(408)は見込みに3箇所の胎土目が付き、釉は濃い灰オリーブ色を呈する。高台内に縮緬皺がよく出ている。高台はなめらか

に調整する。(409)は、見込みに3箇所胎土目痕が付く。釉は灰オリーブ色を呈し、外面体部には重ね焼きの破片が釉着するが、高台面や釉着する破片の表面をなめらかに調整する。(410)は、腰部から外反し、口縁端部は上方におさめる。やや高い高台内に縮緬皴がよく出ている。釉は明オリーブ灰色を呈し、見込み内に4箇所砂目痕が付く。やや新しい時期のものである。絵唐津向付(411~413)は、口径11.6~14cmある。削り出し高台、高台部分は露胎。内面から外面腰部まで灰釉を施す。(411)は、高台内に縮緬皴がよく出ている。見込みには段をつけ、中に鉄絵で草文を描く。口縁部を6箇所外に押し曲げ、内面の放射状の区画線で輪花とする。見込みに4箇所の内3箇所の胎土目痕が残る。(412)は、口縁部から立ち上がり端部を外反し、口縁部を隅切四角形に整える。見込みの丸い凹みには鉄絵の文様をつけ、口縁部には円弧文を描く。高台は低い、高台内は深く削り込む。見込み内に4箇所の胎土目痕、高台周辺の腰部に4箇所のメアトが付く。(413)は、口縁部に段をつけ外反後、内反する。口縁部を内に小さく押し、輪花とし、入隅四方形とする。見込み内に鉄絵で十字の複線と多数の直線を入れ、口縁部には木賊文を放射状に入れる。

軟質施釉陶器(414)は、復元口径17.8cmの口縁部のみが出土した。見込みに段が付き、端部はやや内反する。口縁内面には褐釉で三角形の文様を施す。白化粧ののち全面に透明釉を施す。全体に細かな貫入が入る。京焼である。

焼締陶器には、信楽産の水指・播鉢・大甕、丹波産播鉢・盤がある。信楽産水指(415)は、ロクロ成形、上半を欠き、底径19.1cmある。内外面に自然釉が付き、内外面には長石の吹き出しが多く、泡のように溶けている。(416・417)は信楽産播鉢である。(416)は、口径28.0cm、口縁端部は小さく外に折れ曲がる。播目は5本1単位で、見込みには「井」状に交差する4組の播目が付く。播目はすり減っていない。(417)は、口径36.35cm、播目は5本1単位で、見込みには欠けているが「N」字状の播目が付くと思われる。胎土や播目は信楽産、口縁端部の収まりや体部外面に指オサエ痕が付くなど丹波地方の製作技法で、丹波の職人が信楽で作った播鉢と思われる。(418~420)は丹波産播鉢である。(418)は口径34.8cmある。ロクロ成形で体部は直線的に開き、口縁端部に圈線を入れ丸く収める。外面体部下半には指オサエ痕が付く。播目は5本1単位で、見込みには「〇印の中に一」の播目が付く。片口の右側には「二」の線刻が付く。播目はすり減っている。底部にはロクロ鏡面に敷いた灰の痕跡が付く。(419)は、片口部分のみで、(418)と同じ傾きとして復元口径34.0cm。播目は単線で、片口の右側に「二」の線刻が付く。(420)は、片口部分のみだが、(418)と同じ傾きとして復元口径42.4cm。播目は単線で、片口の右側に「井」字様の線刻が付く。丹波産盤(421)は、口径36.3cm。見込み内に暗オリーブ色の自然釉が付く。約1/2出土した内面体部に重ね焼き時の三角形の陶片痕が2箇所付く。底部にはロクロ鏡面に敷いた灰の痕跡が付く。信楽産大甕(422)は、体部を欠く。口径55.6cm、底径17.5cmある。口縁は外反し、外面に圈線が入る。赤色を呈し、胎土には直径5mm以下の長石・チャートが多い。

青花(423・424)は、中国産。椀(423)は、口径10.8cm、見込みには呉須で4弁の花文、外面には区画線の中に草木と馬を描く。高台は釉ハギする。皿(424)は、口径13.9cm、内面に菊花、外面には渦文を描く。

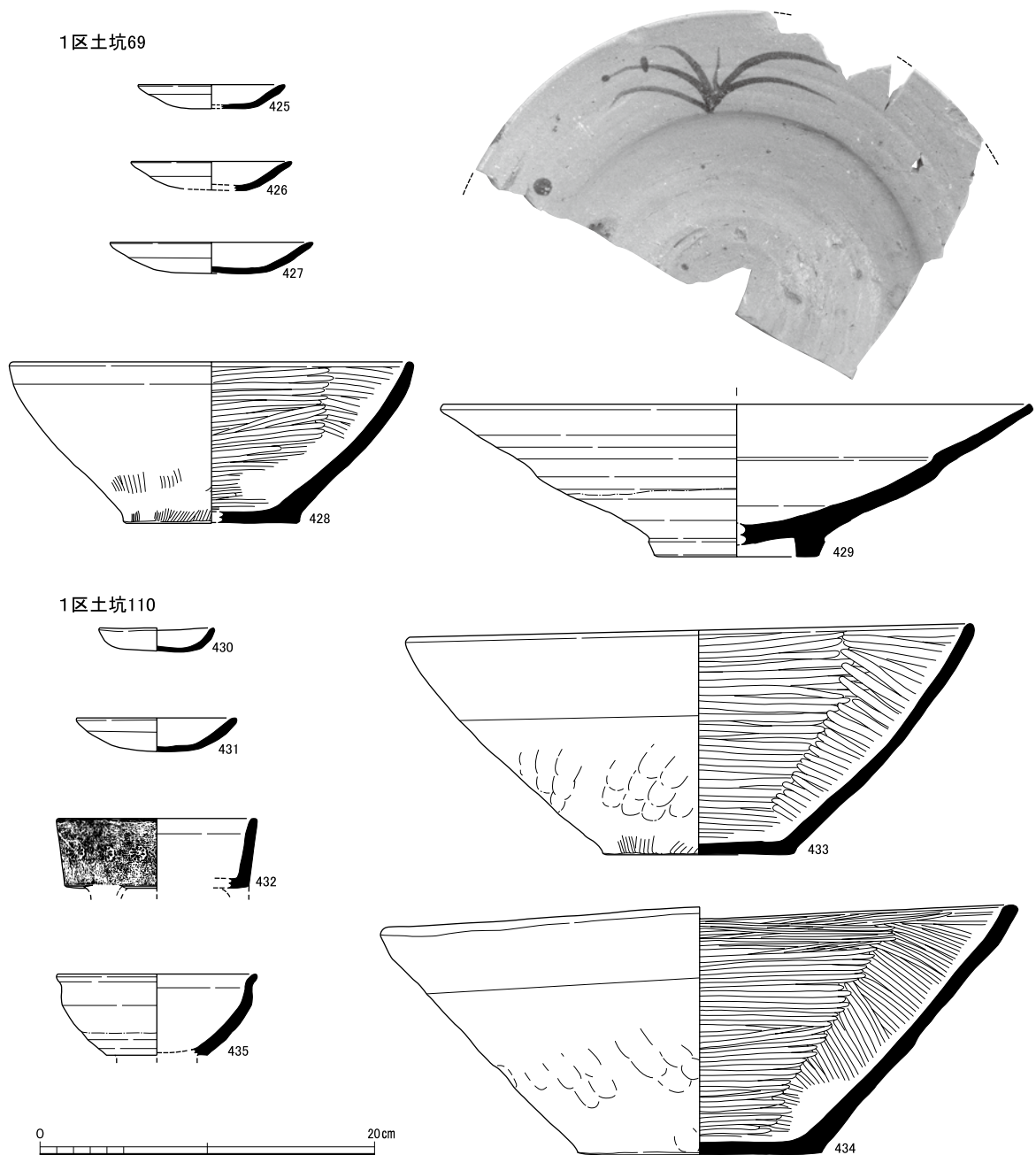


図52 1区土坑69・110出土土器実測図（1：4）

土坑69出土土器（図52、図版15、付表13） 出土遺物には、土師器皿、瓦器鉢・釜、施釉陶器碗・壺、焼締陶器播鉢、青磁、瓦、貝殻などがある。土師器皿S b（425）は口径8.8cmで、胎土が黒色を呈する。土師器皿S（426）は口径9.6cm、内面底部に圈線がつく小型な皿。皿S（427）は口径12.1cmの大型でやや古い時期のもの。瓦器鉢（428）は、口径23.6cm、内面はミガキ調整。焼成後、瓦器の内面から外面上半に施釉したようで銀白色を呈する。唐津大皿（429）は、口径35.0cm、器高9.1cm。高台脇から斜めに開き、体部中央で段を付け、口縁部へ開く。内面から外面体部下半まで施釉し、内面の段の外側には、鉄絵の草文が付く。削り出し高台、高台周りは露胎で、見込み内に胎土目痕が付く。

土坑110出土土器（図52、図版14、付表13） 出土遺物には、土師器皿・焙烙、瓦器碗・鉢、施

釉陶器椀・皿、焼締陶器鉢・播鉢、金属製品の銭貨、砥石などがある。土師器皿には、口径6.8cmの皿Nr(430)、口径9.6cmの皿Sb(431)がある。瓦器香炉(432)は、口径11.8cmの筒形である。外面はミガキ調整、菊花文を型押しする。脚は欠損する。瓦器鉢(433・434)は、33.6cm、37.3cmある。外面はナデ、内面は横方向にミガキ調整する。ミガキ時に外面体部に指の痕が多数付く。見込み内は横ミガキ。(433)の胎土は灰白色、(434)は暗灰色である。ともに、内面から外面体部まで白色釉を施し、薄い銀白色を呈する。天目茶椀(435)は、口径11.9cm。内面から外面体部まで施釉する。高台は欠損する。腰部と高台は露胎。

土坑115出土土器(図53、図版15、付表13・14) 出土遺物には、土師器皿・焼塩壺・焙烙、瓦器鉢・火鉢・釜、施釉陶器椀・皿、焼締陶器壺・播鉢・甕、瓦、焼け壁土、貝殻・骨などがある。土師器(436)は、口径4.6cmの小椀か小型鉢である。土師器皿には、小型な口径9.9cmの皿Sb(437)、大型の口径11~12cmで圏線のある皿S(438~441)、口径14.0cmの皿S(442)、口径24.0cmの皿S(443)がある。皿(440・442)は全体が黒変し、皿(438・441)の口縁には灯明芯の炭化物が付着する。焼塩壺(444)は円筒形で、芯に粘土を巻き付けて成形する。内面に布目が付く。焙烙(445)は、台型成形で口縁部を継ぎ足す。内面に縦方向の傷がある。

国産施釉陶器には美濃産(446~451)と唐津産(452~459)がある。

美濃産には椀・皿・小鉢がある。椀(446)は全面施釉、高台を欠く。天目椀(447)は削り出し高台、全面に鉄釉を施す。高台と高台周りは露胎である。皿(448)は削り込み高台、見込み内を釉ハギする内ハゲ皿である。貫入が入る。皿(449)は、削り出し高台、全面施釉、高台内にトチン痕が付く。小鉢(450)は削り込み高台。長石釉を全面に施す。高台脇に3箇所トチン痕が付く。小鉢(451)は削り込み高台。長石釉を全面に施す。高台脇に2箇所のメアトが付く。

唐津産には、小杯、椀、皿、絵唐津がある。小杯(452)は、ロクロ成形で底部を糸切りするが、大きく傾く。内面から外面体部半ばまで施釉する。以下の椀・皿は、削り出し高台、内面から外面体部下半ばまで施釉し、高台周りが高台は露胎である。椀(453)は、見込み内にハゼが生じる。皿(454)は見込み内に3箇所の砂目痕が付く。皿(455)は内面に3箇所の胎土目痕、外面口縁近くに重ね焼き痕が付く。皿(456)は、腰部に段の付く皿で、口縁端部の破損箇所をなめらかに調整し、輪花のようになる。内面と高台脇に各4箇所の胎土目痕が付く。絵唐津皿(457・458)は口径約13cm、見込みから段を付けて開く。口縁端部の4箇所を内側に曲げ、2本の区画線を入れる。見込み内と高台脇に4箇所の胎土目痕が付く。皿(457)の釉は灰白色を呈し、皿(458)はにぶい褐色を呈する。絵唐津皿(459)は口径約13cm、見込みから段を付けて開き口縁部で段を付け、口縁端部は外に開く。見込み内などに、鉄絵で鳥などを描く。

備前産壺(460)は、肩から頸に火襷がはしる。

青花椀(461)は、呉須で内面を2重圏線で区画し、外面には唐草文を描く。青花皿(462)は、2重圏線で区画した見込み内に花文、外面の腰部には唐草文を描く。赤絵皿(463)は、口縁部の小片。内面に緑と赤で円い窓を抜いて、花を描き周りを斜格子文で埋める。

土坑116出土土器(図53、付表14) 出土遺物には、土師器皿・塩壺・焙烙、瓦器鉢・羽釜、施

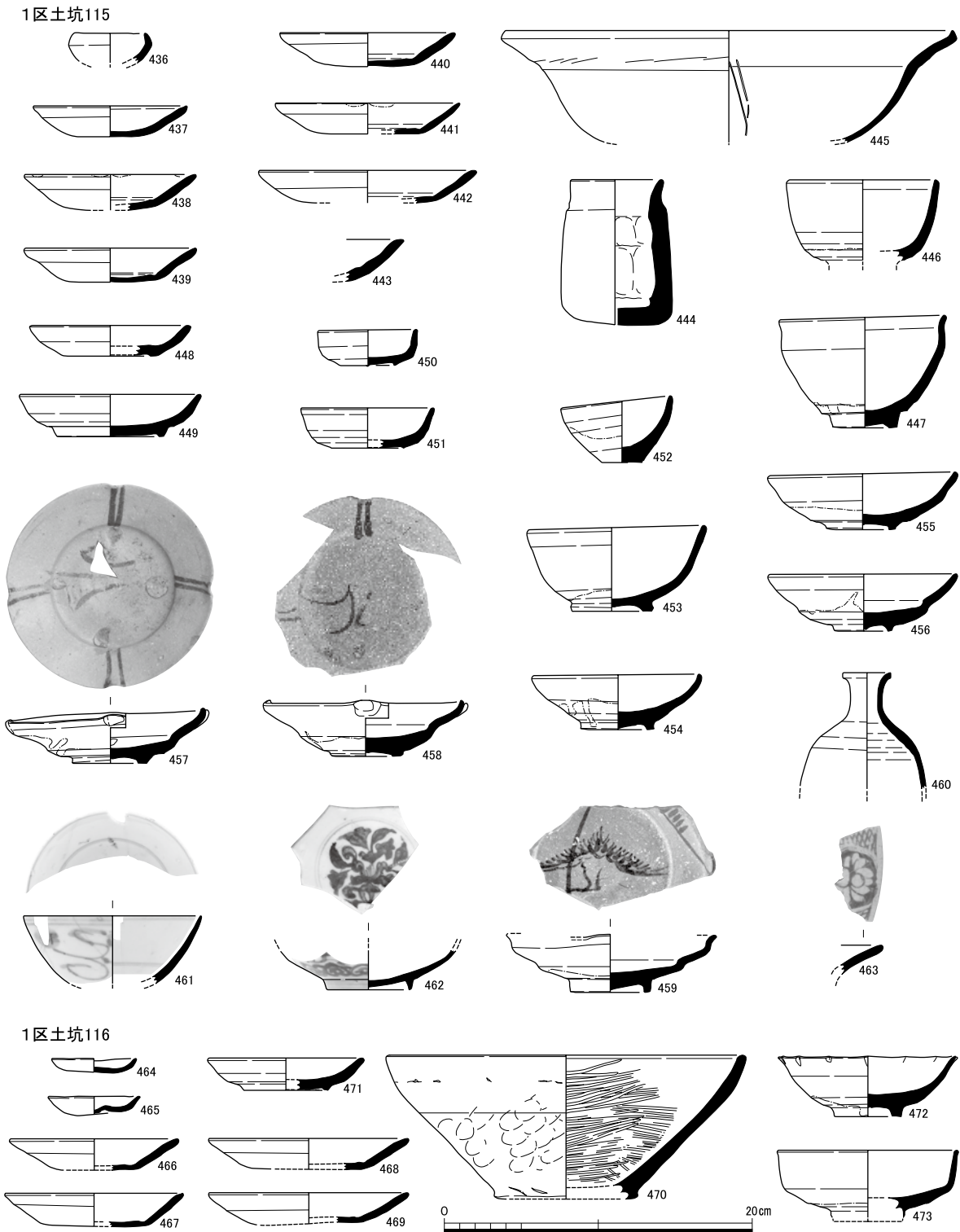


図53 1区土坑115・116出土土器実測図（1：4）

釉陶器碗・皿・鉢、焼締陶器播鉢・盤、青花碗、瓦、金属製品、貝・骨などがある。土師器皿には、手捏ねの皿Nr（464・465）、口径約11cmの皿S（466・467）、口径約13cmの皿S（468・469）がある。（467・469）は全体が黒変する。瓦器鉢（470）は口径23.0cm、外面下半に指の痕が多数付く。内面をヨコミガキ調整する。美濃産の施釉陶器皿（471）は、削り出し高台で、全面施釉。見込み中央を釉ハギする。見込み内と高台内に輪トチン痕が付く。唐津産の施釉陶器皿・向付（472・

473) は削り出し高台で、内面から高台周りまで施釉し、高台は露胎である。皿(472)は、口縁端部を小さく内に曲げ、約14弁の輪花とする。浅黄色の胎土にオリーブ黄色の釉を施す。向付(473)は、体部で真っ直ぐ立ち上がる。内外面に胎土目痕が付く。

土坑120出土土器(図54、図版15・16、付表14・15) 出土遺物には、土師器皿・焼塩壺・小壺・焙烙・甕、瓦器釜・鉢、施釉陶器椀・皿・壺、軟質施釉陶器、焼締陶器播鉢、青花、瓦、金属製品、砥石などがある。

土師器皿には、口径5～6cmの皿Nr(474・475)、口径9～10cmの皿Sb(476・477)、圏線のある口径10～12cmの皿S(478～480)と口径14.6cmの皿S(481)がある。(476・478)は全体が黒変する。そのほかに、焼塩壺蓋(482)、焼塩壺(483)がある。小壺(484)は、外面の半分が黒変する。土製品の陰型(485)は、3.9cm×2.8cmの方形で、厚さ1.8cm。焼締陶器のように硬い。その1面に、細かな線で動物の姿を陰刻する。顔は龍、体は鯉、鳥か飛魚のような大きな翼がある。用途不明。

施釉陶器には、美濃産(486～489)、唐津産(490～494)、軟質施釉陶器(495)がある。

美濃産の小杯(486)は、竹節高台で、全面灰釉を施し、緑がかった灰白色を呈する。高台面は釉ハギする。天目椀(487～489)は、削り出し高台で、内面から外面体部下半まで鉄釉を施す。高台は露胎である。(489)は腰部まで施釉する。

唐津産には椀(490)、皿(491)、大皿(492)、絵唐津皿(493・494)がある。削り出し高台で、内面から外面体部下半まで施釉する。皿(491)は、見込み内と高台脇に胎土目痕が4つ付く。大皿(492)は、底径6.8cmで、口縁を欠く。残存状態が悪いが、見込み内と高台に4箇所の胎土目痕があったと考えられる。絵唐津皿(493・494)は、内面に鉄絵がある。(493)は見込み内に4箇所の胎土目痕、高台に輪トチン痕が付く。(494)は、見込み内に3箇所の胎土目痕、高台に2箇所のメアトが付く。

軟質施釉陶器(495)は京焼の香炉で底部が出土。ロクロ成形後、底面を糸切りし、獣脚を貼り付ける。3脚の内2脚が残存する。外面に鉛釉を施し、暗緑色から濃緑色を呈する。内面は無釉である。

信楽産播鉢(496)は口径27.7cm、播目は6本1単位。播目の下半はすり減って消えている。

青花小杯(497)は、呉須で見込みには2重圏線、口縁端部内外面に1重圏線、外面体部には花文を描く。

土坑125出土土器(図54、図版16、付表15) 出土遺物には、土師器皿・塩壺、瓦器鍋・鉢、施釉陶器椀・皿、焼締陶器播鉢・壺、青花椀・皿、金属製品、骨などがある。土師器には、圏線のある口径11～13cmの土師器皿S(498～500)、焼塩壺(501)がある。施釉陶器には、美濃産の天目椀(502)、唐津椀(503)・皿(504)がある。唐津皿(504)は見込み内に胎土目痕が4箇所の内の3箇所が残る。畳付きはなめらかに調整する。青花椀(505)は見込みと外面に草花文を描く。高台には砂が付着する。中国産。青花皿(506)は、見込み内をドーナツ状に釉ハギし、高台内は露胎である。呉須で圏線などの文様を描く。中国産。

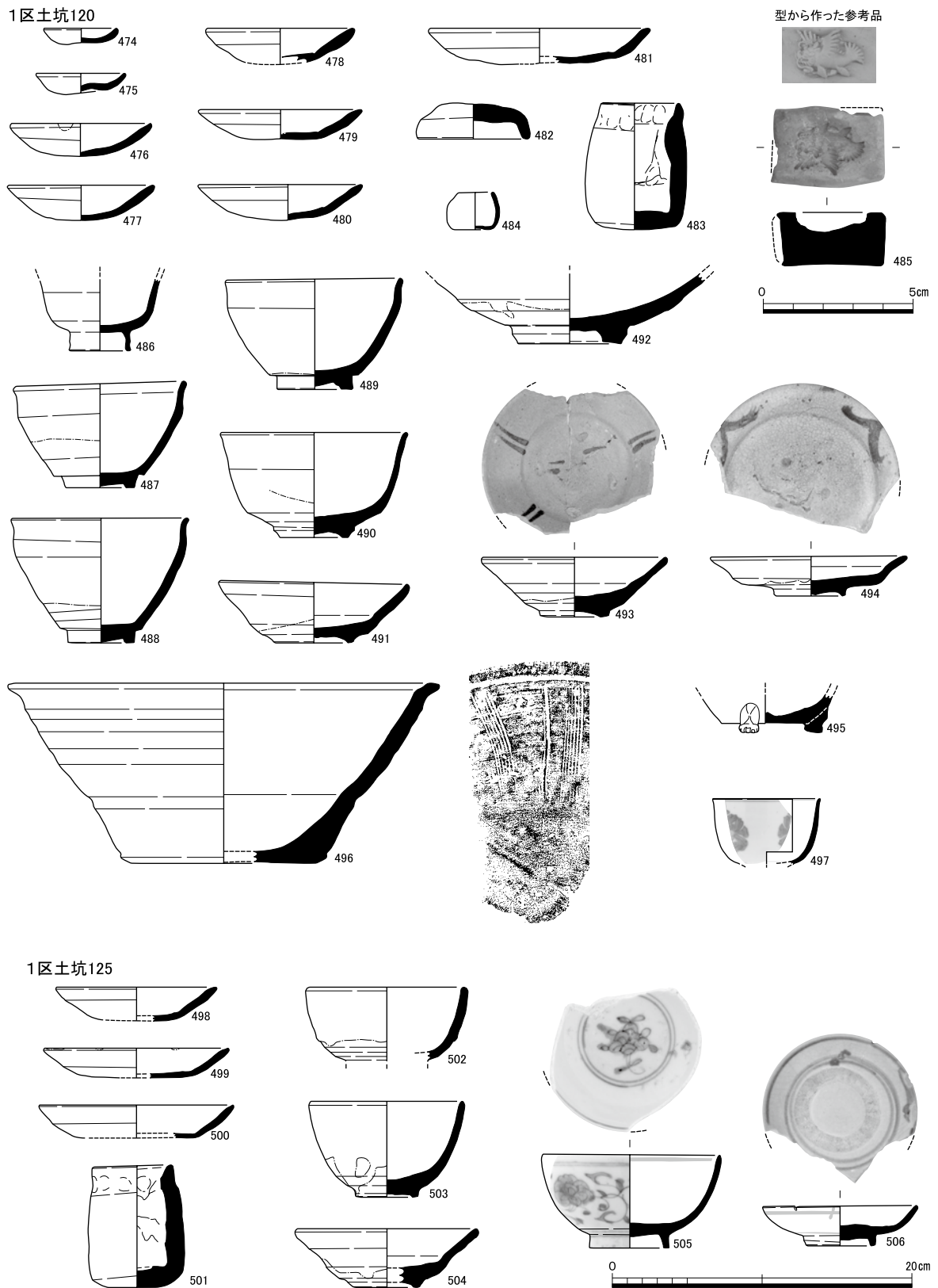
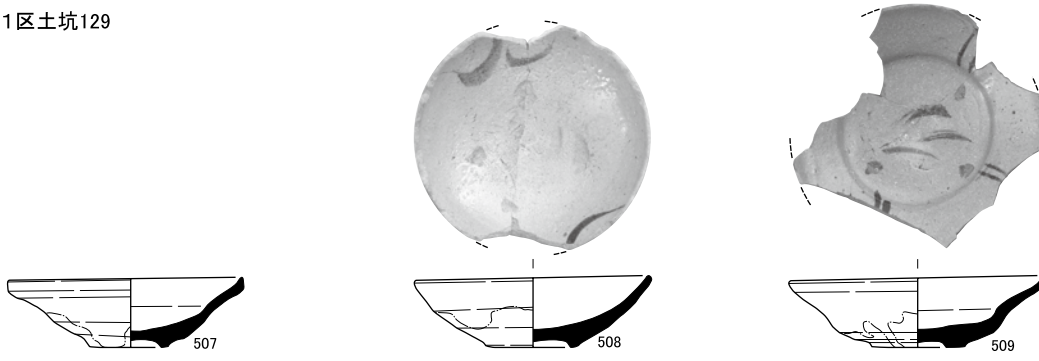


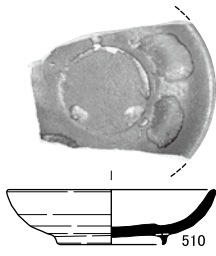
図54 1区土坑120・125出土土器実測図（1：4、485のみ1：2）

土坑129出土土器（図55、付表15）出土遺物には、土師器皿、瓦器碗・鉢、施釉陶器碗、青花碗、磁器碗などがある。唐津皿（507～509）は削り出し高台で、内面から外面体部下半まで灰釉を施す。（507・509）は見込み内と高台脇に胎土目痕4箇所、（508）は見込み内に3箇所の胎土目

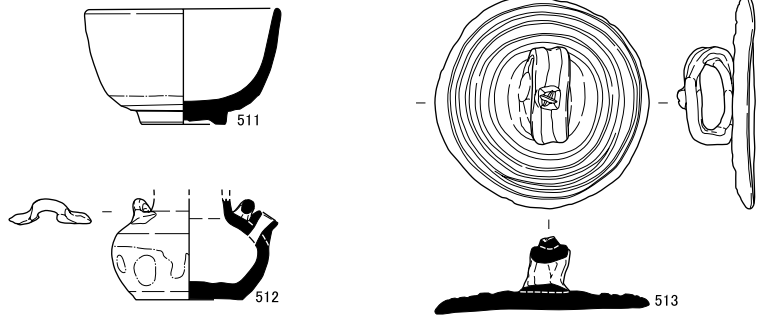
1区土坑129



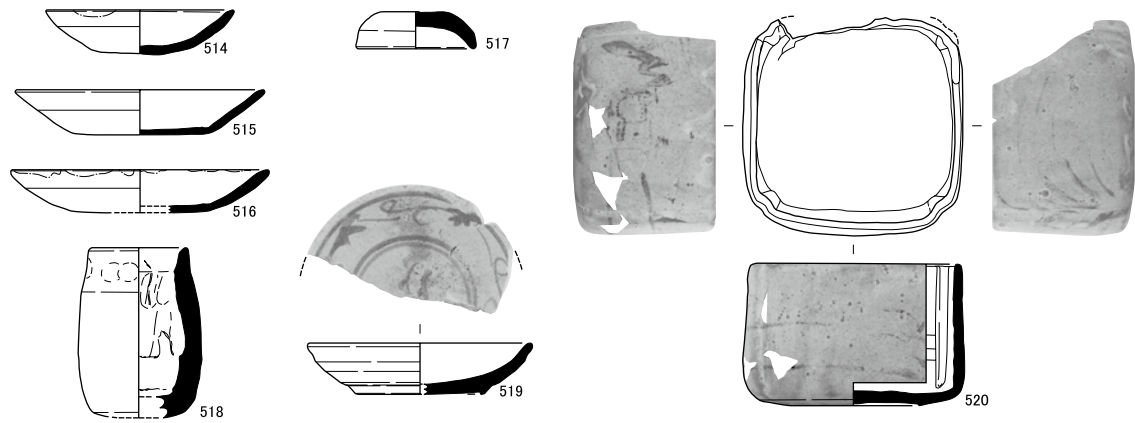
1区土坑130



1区土坑146



1区土坑152



1区土坑184

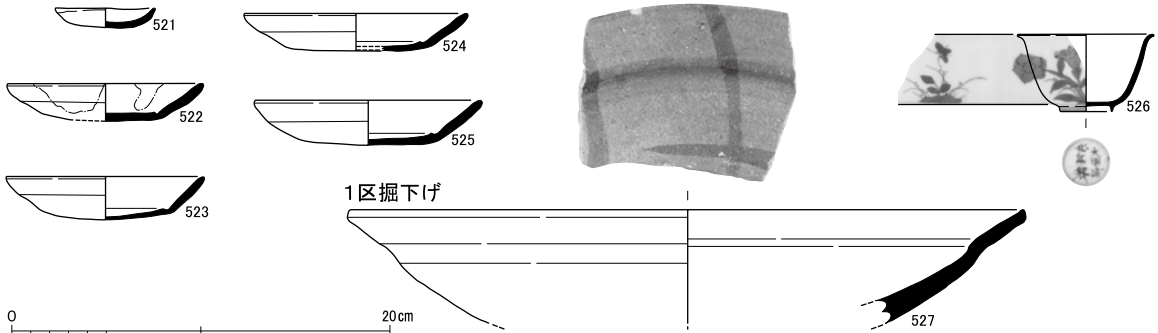


図55 1区土坑129・130・146・152・184出土土器実測図(1:4)

痕が付く。その内(508・509)は見込み内に鉄絵で区画線や文様が描かれる絵唐津である。

土坑130出土土器(図55、付表15) 出土遺物には、土師器皿、須恵器、瓦器鉢、施釉陶器椀・

皿、焼締陶器播鉢、青磁椀、錢貨、焼け壁土などがある。美濃産の施釉陶器丸皿（510）は、貼り付け高台、見込み内に凸部を設け、鉄釉を全面に施す。釉ハギしない。3箇所凹部の凹部釉溜まりが文様となる。見込み内と高台内に輪トチン痕が付く。

土坑146出土土器（図55、図版16、付表15） 出土遺物には、土師器皿・焼塩壺、施釉陶器椀・皿、焼締陶器播鉢・壺、青花椀、青磁などがある。出土遺物は少なく、室町時代の土師器皿が混入する。施釉陶器には美濃産の椀（511）、汁次（512）がある。椀（511）は丸椀で、腰部まで長石釉を施し、高台脇に2箇所のメアトが付く。汁次（512）は、ロクロ成形後、注ぎ口と把手を付ける部分を貼り付け、底面は糸切りする。内面と外面上半に鉄釉を施し、暗褐色を呈する。下半は露胎で一部赤変する。焼締陶器には信楽蓋（513）がある。水指の蓋で、円盤に同心円の線刻を入れる。つまみを楕円形に貼り付け、頂上に十字の飾りを付ける。全面に自然釉が付き、暗オリーブ色を呈する。

土坑152出土土器（図55、付表15） 出土遺物には、土師器皿・塩壺、施釉陶器皿・向付、焼締陶器播鉢、青磁・白磁椀、金属製品のキセル・鉄釘、焼け壁土、灰骨などがある。土師器には口径9.9cmの皿S b（514）、口径約13cmの皿S（515・516）がある。（514・516）の口縁には炭化物が付着する。焼塩壺蓋（517）と焼塩壺（518）がある。施釉陶器には皿（519）、絵志野向付（520）がある。皿（519）は、削り出し高台、全面長石釉を施し、高台内は軽く釉ハギする。内面に鉄絵を描く。絵志野向付（520）は、型打ちで四方入隅に成形、碁笥底高台である。鉄絵で外面に山や草文を描き、全面に長石釉を施す。底面から側面に火色がつく。

土坑184出土土器（図55、付表15・16） 出土遺物には、土師器皿・甕・土鈴、焼締陶器播鉢・甕、青花椀・皿、白磁、瓦、貝骨などがある。土師器には口径5.2cmの皿N r（521）、口径10～12cmの皿S（522～525）がある。（522）は全体が黒変する。青花小杯（526）は、呉須で外面に草花文を描き、高台内に「大明成化年製」とある。高台には砂が付着する。

1区掘下げ出土土器（図55、付表16） 唐津大皿（527）は、江戸時代初頭の遺構検出時に出土したものである。口径35.7cmの大皿で、内面に鉄絵が描かれる。

2区

土坑2出土土器（図56・57、図版16、表10、付表16・17） 出土遺物には、土師器皿・小壺・焼塩壺・蓋・甕・焙烙、瓦器椀・鉢・盤、施釉陶器椀・皿・鉢、軟質施釉陶器椀、焼締陶器鉢・播鉢・甕、青磁、白磁、青花椀、赤絵、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦、金属製品には銅製品のキセル・鉄製品の鉄釘、砥石、木製品の漆器椀・板材・箸・炭、焼け壁土などがある。

土坑2出土土器の破片数割合（表10）は、土師器は約70%、施釉陶器の美濃産：唐津産＝7：3である。破片数が少ないが、焼締陶器は、約70%が信楽産、備前産が25%を占める。輸入陶磁器が約5%と多い。

土師器皿には、口径6cm前後の小型皿N r（528・529）がある。中型の皿は口径約10cmで圏線のない丸底皿S b（530～532）、口径約11cmで圏線の巡る皿S（533～539）の2群ある。（534・536～539）は口縁部に多数の黒斑がある。大型の皿は口径12～13cmで圏線の巡る皿S（540～545）

表10 2区土坑2出土土器破片数割合表

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	966	95.3%	72.0%	
	焙烙	16	1.6%		
	塩壺	13	1.3%		
	その他	19	1.9%		
	小計	1,014	100.0%		
瓦器	椀	0	0.0%	7.6%	
	鍋・釜	4	3.7%		
	鉢	90	84.1%		
	その他	13	12.1%		
	小計	107	100.0%		
国産施釉陶器	美濃	椀・皿	42	30.2%	72.4%
		天目椀	9	6.5%	
		志野	35	25.2%	
		その他	53	38.1%	
		小計	139	100.0%	
	唐津	椀・皿	35	72.9%	25.0%
		その他	13	27.1%	
		小計	48	100.0%	
	京焼	椀・皿	5	100.0%	2.6%
		その他	0	0.0%	
		小計	5	100.0%	
	国産施釉陶器小計		192	100.0%	
焼締陶器	信楽	播鉢	20	64.5%	2.2%
		その他	1	3.2%	
	備前	播鉢	3	9.7%	
		その他	5	16.1%	
	丹波	播鉢	2	6.5%	
		盤	0	0.0%	
		その他	0	0.0%	
焼締陶器小計		31	100.0%		
輸入陶器	椀・皿	36	56.3%	4.5%	
	その他	28	43.8%		
	小計	64	100.0%		
その他陶磁器		3	0.2%		
総数		1,408	100.0%		

がある。(540)は口縁部に多数の黒斑がある。いずれの土師器皿も内面底部はナデ、口縁部内外面はヨコナデ、外面底部はオサエ調整する。小壺(546)は、口径2.1cmのいわゆるつぼつぼである。焼塩壺蓋(547)と焼塩壺(548)は、外面が黒ずむ。土師器甕(549)は、口径22.8cmある。内外面をなめらかにナデ調整する。土師器羽釜の上半部とも考えられる。

施釉陶器には、美濃産(550～563)と唐津産(564～573)がある。

美濃産には、小杯、志野椀、黄瀬戸椀、瀬戸黒茶椀、灰釉皿、志野皿、志野菊皿、絵志野皿、美濃唐津向付、青織部向付、総織部向付、志野織部角向付、志野向付がある。小杯(550)は、削り出し高台で、全面に施釉する。高台周りに2箇所のアトが付く。志野椀(551)は、削り出し高台、見込みから体部下半まで施釉する。見込み内に2箇所のアトが付く。黄瀬戸椀(552)は、筒形椀で、口縁は短く外反し高台を欠く。外面に陰刻の文様を付け、全面に灰釉を施し、浅黄色を呈する。瀬戸黒茶椀(553)は、高台と腰部のみ出土した。見込み中心に茶だまり、体部は直角に立ち上がる。削り出し高台で、内面と腰部まで鉄釉を施し、オリーブ黒を呈する。灰釉皿(554)は、削り込み高台で、全面に灰釉を施し、浅黄色を呈する。高台周りにトチンが2個付着する。灰釉皿(555)は、削り出し高台で、全面に灰釉を施し、緑がかった浅黄色を呈する。見込み内の釉だまりは一部白濁する。高台内にトチンが付着し安定しない。志野皿(556)は、削り出し高台、口縁部は外反する。全面に長石釉を施し、灰白色を呈する。釉は白く泡立つ。志野菊皿(557)は、口縁部に菊花状に切り取り、内側面・外面を丸ノミで菊花状に削る。全面に灰白色の釉を施し、貫入が入る。高台内と見込み内に1箇所のアトが付く。絵志野皿(558)は、削り出し高台で、見込みと口縁内面に鉄絵を描き、全面に長石釉を施し、貫入が入る。高台内に輪トチン痕が付く。美濃唐津向付(559)は、ロクロ調整で、体部は屈曲して立ち上がり、口縁端部は短く外反する。その後、隅丸方形に歪めていると思われる。底部には半環足を貼り付け、見込みから口縁端部に鉄絵を描く。全面に灰釉を施す。脚は露胎である。橙色の胎土から元屋敷窯産と思われる。青織部向付(560)は、見込み内を一部窪めて区画し、内面に梅鉢文、網目文を描き、銅緑釉と長石釉を掛け分ける。底面には半環足を貼り付ける。底面の一部と脚は露胎である。総織部向付(561)は、角向付の一部である。四角に成形し、脚を貼り付け、全面に銅緑釉を施し、緑色を呈する。見込み内の釉だまりは、濃い暗青灰色を呈する。志野織部角向付(562)は、ロクロ成形後、型打ちで四方入隅に成形し、外面に鉄絵を描き、長石釉を施す。全体に貫入が入る。削り込み高台の碁笥底高台で、高台脇に円錐ピン痕が付く。連房窯で焼いたもの

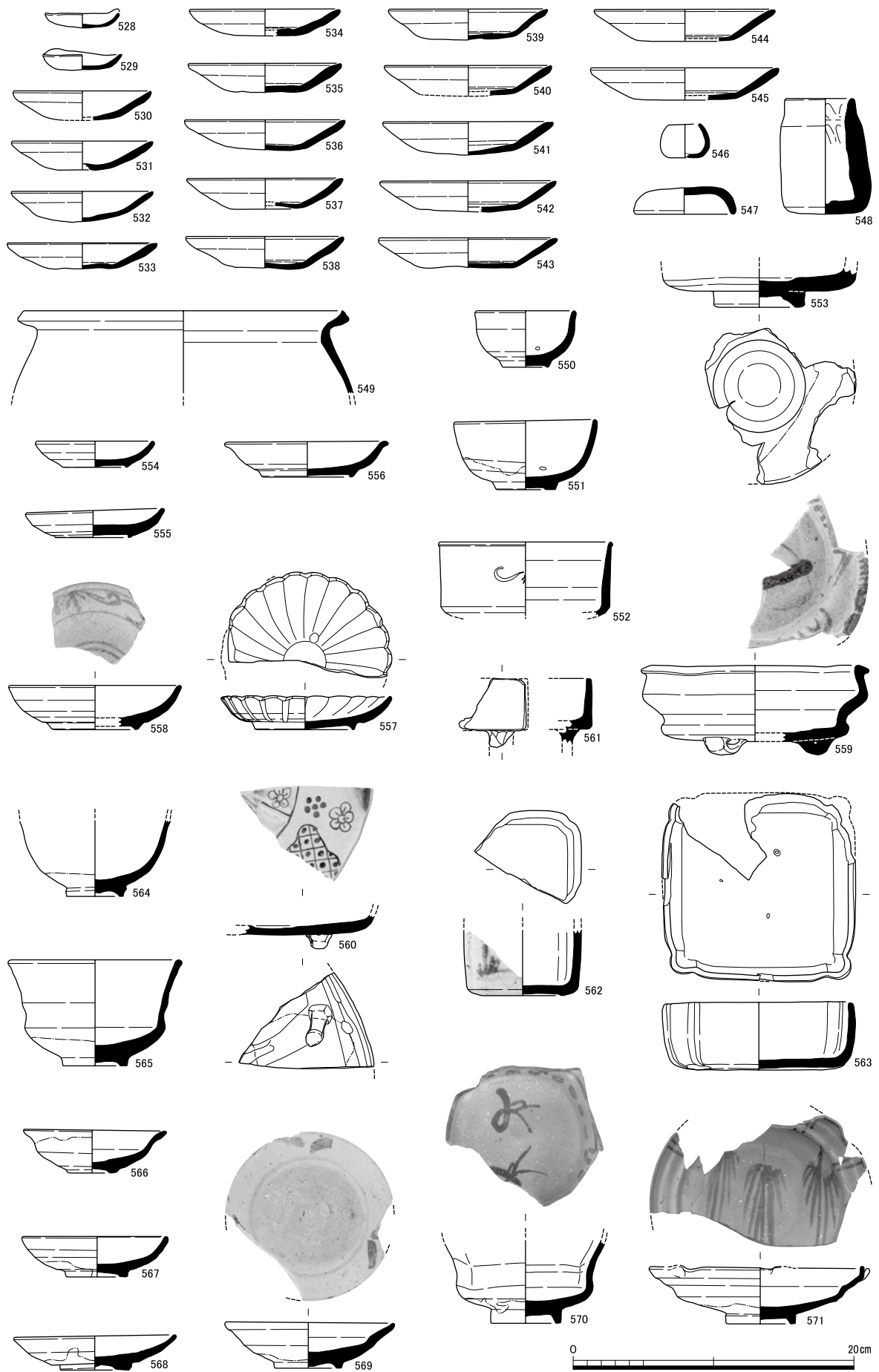


图56 2区土坑2出土土器实测图1 (1 : 4)

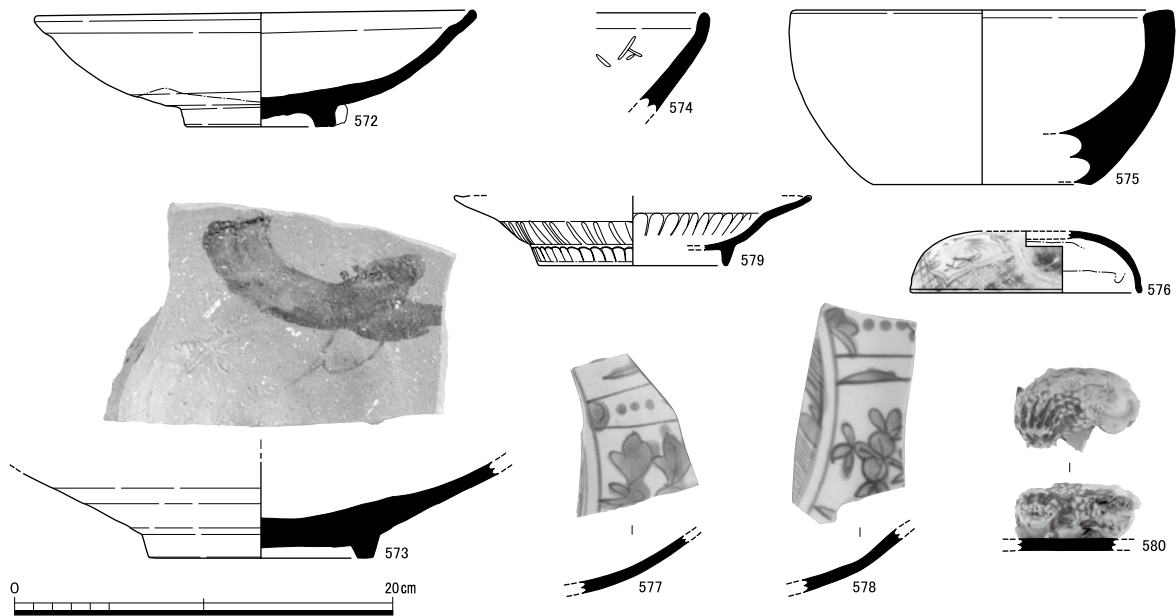


図57 2区土坑2出土土器実測図2 (1:4)

で、鉄絵が鮮やかである。志野向付 (563) は、ロクロ成形後、型打ちで四方入隅とは逆に四方出隅に成形する。底部の四隅には脚の剥離痕が付く。外面に鉄絵を描き、長石釉を施す。全体に貫入が入る。見込み内に3箇所のメアト、底部中央には輪トチン痕が付く。

唐津産には、椀、皿、絵唐津皿、唐津向付、絵唐津大皿がある。椀 (564) は、削り出し高台で、体部下半まで灰釉を施し、灰白色を呈する。浅黄色の明るい胎土と、窯ワレする高台から、山瀬窯と考える。椀 (565) は、削り出し高台で、体部は直線的に立ち上がり口縁部は丸く収める。内面と腰部上半まで鉄釉を施す。腰部には下塗りの灰釉が流れる。皿 (566) は、内面から体部上面まで施釉する。見込み内に3箇所の胎土目痕、腰部外面に3箇所のメアトが付く。皿 (567) は、削り出し高台で内面から腰部まで灰釉を施す。見込み内に3箇所の砂目痕、高台脇に2箇所のメアトが付く。灰白色の明るい胎土で、山瀬窯と考えられる。皿 (568) は、削り出し高台で腰部まで施釉される。見込み内に4箇所、高台に4箇所の胎土目痕が付く。絵唐津皿 (569) は、削り出し高台、見込みに段を作って体部は開く。内面から腰部まで施釉し、口縁部内面に草文が3箇所に付く。見込みと高台に3箇所の胎土目痕が付く。唐津向付 (570) は、腰部は屈曲させ、体部は立ち上がる。口縁部は欠ける。体部から五角形に歪めている。見込み内に草文、体部には丸文が付く。唐津向付 (571) は、口縁部を内に歪めて輪花とする。鉄絵で見込み内に草文、口縁部に区画線を入れる。見込み内から腰部まで灰釉を施し、オリーブ灰色を呈する。絵唐津大皿 (572) は、口径23.1cm、底径7.7cmある。ロクロ成形、削り出し高台で、内面から高台脇まで施釉される。見込みに3箇所の胎土目痕、高台周りに2箇所の胎土目と2箇所の痕跡が付く。絵唐津大皿 (573) は、残存径25.0cm、底径11.8cmある。ロクロ成形、削り出し高台で、内面から体部下半まで灰釉を施す。見込み内に、鉄絵の太い文様が付く。

焼締陶器盤 (574) は、口縁部の小片で、口縁端部に「上ノ」との線刻が付く。捏ね鉢 (575) は、口径19.8cm。底部は厚さ2.5cmある分厚いもので、見込み部分は磨滅する。灰白色の胎土に伊部手

で灰赤色の土を塗って焼成していると思われる。備前産あるいは丹波産か。

輸入陶磁器には赤絵蓋、青花大皿、白磁皿、磁器つまみがある。赤絵蓋(576)は、外面全体と内面の体部の一部に灰白色の釉を施す。内面口縁部は露胎である。黒釉や白釉で窓を付け、赤・白・黒・緑釉で斜格子文や鳥などを描く。中国産。青花大皿(577・578)は、体部の小片である。どちらも、胎土を白化粧し、皿の内面に呉須で圏線と草花文の輪郭を描き、ダミを塗る。胎土は、(577)は赤味がかかる黄灰色、(578)は白化粧よりやや暗い灰白色である。中国産。白磁皿(579)は、口径18.8cm、体部は緩やかに立ち上がり口縁部は開く。口縁端部は輪花となる。内面体部下半に丸ノミで削って輪花、腰部の外面から高台側面に輪花を入れ、白磁の釉を全面に施す。高台下半は露胎である。磁器つまみ(580)は、厚さ0.6cmの蓋に取り付く把手部分である。獅子の体毛などを呉須で、眼やたてがみ部分などを鉄絵で表す。獅子の右足付け根に穿孔があり、中は中空である。

(6) 瓦類(図58・59、図版17、付表18)

瓦の出土は、小片の丸瓦・平瓦が多く、軒丸瓦・軒平瓦などは少ない。報告する瓦は室町時代・江戸時代の土坑などから出土した。2区は、廃棄土坑2から多量の瓦が出土したが、小片が多い。

巴文軒丸瓦(瓦1) 巴文の尾部から球形の頭部へ時計まわりに巻き込む「右巻き」の三巴文を配する。頭部は離れ、尾部は周縁に接する。瓦当面に離れ砂が付く。瓦頭部側面は斜め方向ケズリ。裏面指オサエ。山城産。鎌倉時代。

巴文軒丸瓦(瓦2) 「左巻き」の三巴文を配する。頭部は離れ、尾部は周縁に接しない。瓦頭部裏面上部に溝を付け、丸瓦を挿入し、粘土を付加して接合するA型である。瓦頭部側面はナデ、裏面ナデ。山城産。鎌倉時代。

笹文軒丸瓦(瓦3) 3枚の笹の葉が3箇所配する。瓦当面には離れ砂が付く。周縁はヨコナデ、瓦当部裏面周縁部周縁方向にナデ、裏面ヨコナデ。小型なので棟丸瓦か。桃山時代から江戸時代初頭。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦(瓦4) 中房は凸型、連弁は互いに接し、子葉は盛り上がる。界線があり珠文はなく、周縁となる。範型はA型である。瓦当以外は剥離し、調整は不明。桃山時代から江戸時代初頭。

巴文軒丸瓦(瓦5) 「左巻き」の三巴文を配する。頭部は離れ、尾部は接しない。珠文は10個残存。丸瓦部分が剥離し、範型は瓦当と丸瓦が同じ口径のB型である。瓦当裏面はナデ。桃山時代から江戸時代初頭。

巴文軒丸瓦(瓦6) 「右巻き」の巴文を配する。尾部は接して、圏線となる。珠文は5個残存。範型はA型である。周縁は円周方向にナデ、瓦当上半はヨコナデ、裏面はナデ、丸瓦外面はタテナデ。桃山時代から江戸時代初頭。

巴文軒丸瓦(瓦7) 「右巻き」の三巴文を配する。大きな頭部は離れ、尾部は接して圏線となる。珠文は4個残存。範型はA型である。瓦当部の調整は不明。丸瓦部は外面はタテケズリ、内面は粗

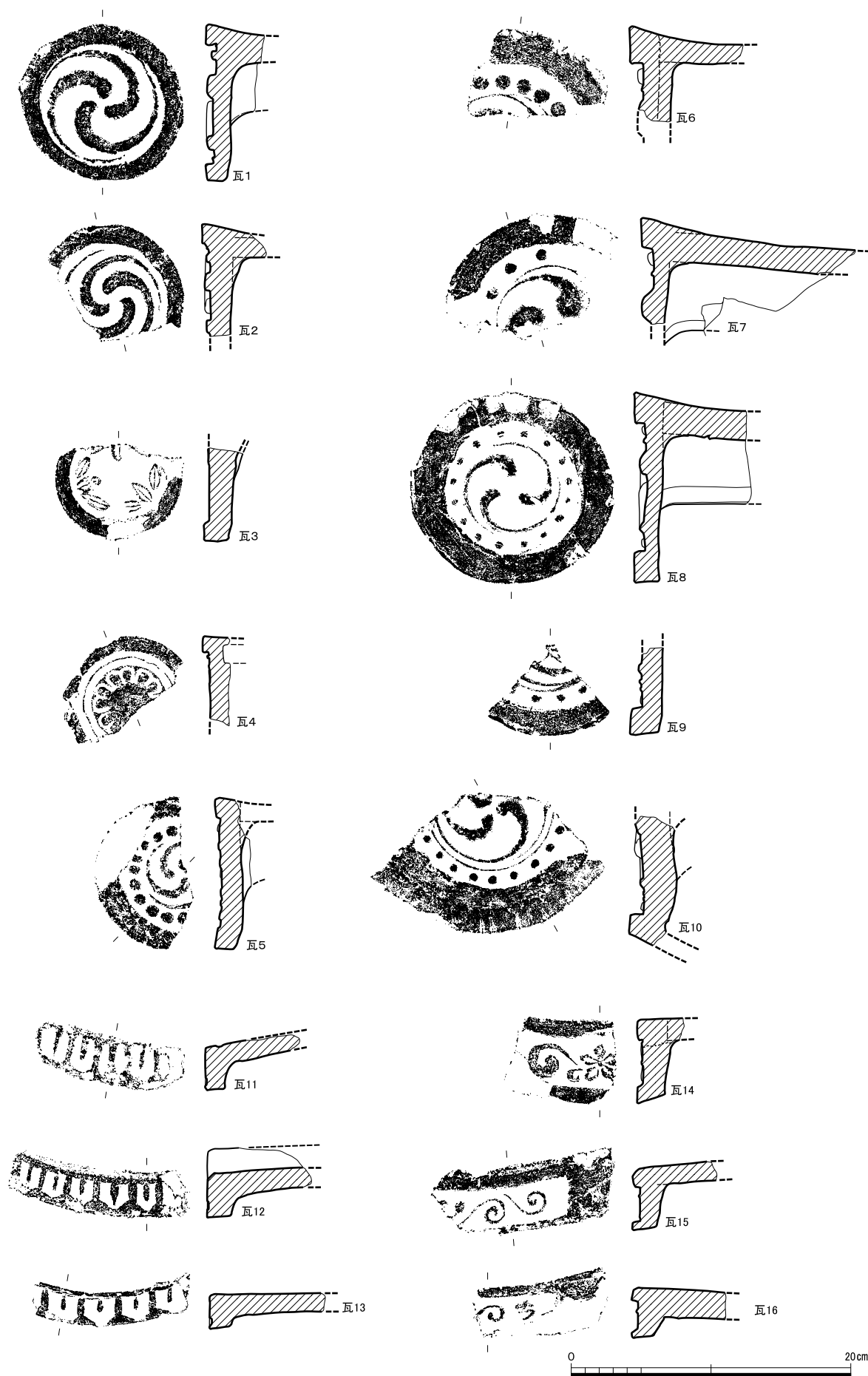


图58 瓦類拓影·実測図1 (1:4)

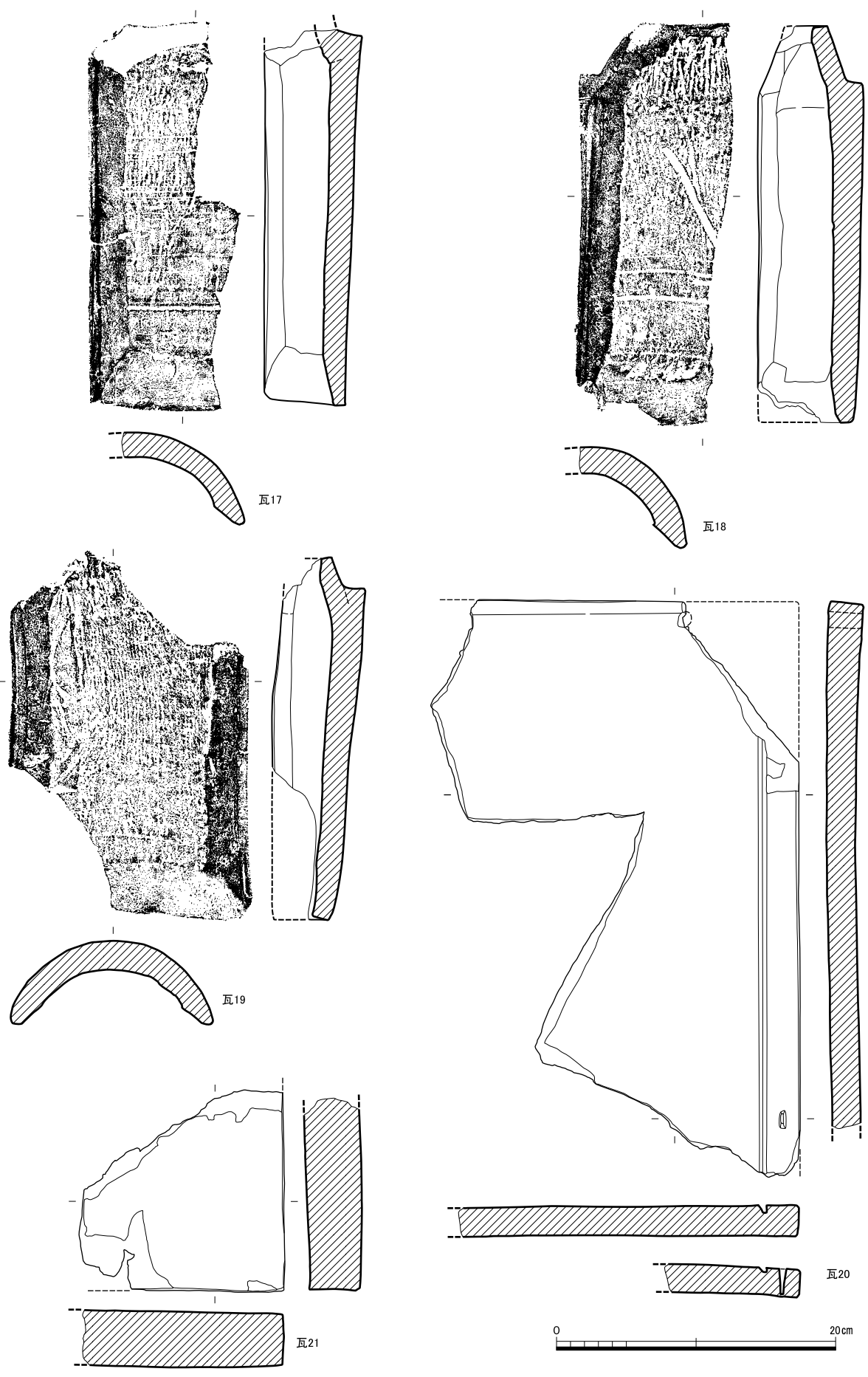


图59 瓦類拓影·実測図2 (1:4)

い布目痕が付く。桃山時代から江戸時代初頭。

巴文軒丸瓦（瓦8）「右巻き」の三巴文を配する。小さな頭部は離れ、尾部は接して圏線となる。珠文は16個。瓦当面に離れ砂が付く。範型はA型か。周縁と周縁側面・裏面は円周方向のナデ、瓦当裏面はナデ、丸瓦部外面はタテケズリ・ナデである。桃山時代から江戸時代初頭。

巴文軒丸瓦（瓦9）「右巻き」の三巴文を配する。尾部は接して圏線となる。珠文は4個残存する。瓦当面に離れ砂が付く。周縁側面は周縁方向にナデ、裏面はナデ。三巴文部分と周縁面に茶褐色の漆が残存し、わずかに金箔が付く。金箔瓦である。桃山時代。

巴文軒丸瓦（瓦10）「左巻き」の三巴文を配する。頭部は離れ、尾部は接して圏線となる。もう1本圏線があり、珠文は9個残存する。周縁面と周縁側面は周縁方向のナデ。周縁が欠損しているが、周縁側面は斜めになっており、鳥衾と考える。桃山時代から江戸時代初頭。

剣頭文軒平瓦（瓦11・12） 剣頭文が5個残存する。段顎で文様を放射状に配する。折り曲げ技法。凹面に布目が付く。鎌倉時代。

剣頭文軒平瓦（瓦13） 剣頭文が4個残存する。折り曲げ技法で、凹面に布目が付く。顎部凸面と裏面はヨコナデ。凸面はナデ。鎌倉時代。

唐草文軒平瓦（瓦14） 五弁の花の中心飾りに唐草が付く。瓦当面に離れ砂が付く。平瓦に瓦当部分を貼り付けて成形する。顎部凸面と裏面はヨコナデ。桃山時代から江戸時代初頭。

唐草文軒平瓦（瓦15） 中心飾りから唐草が2転する。周縁はヨコナデ、顎部凸面・裏面はヨコナデ、瓦頭部凹面はタテナデ。桃山時代から江戸時代初頭。

唐草文軒平瓦（瓦16） 唐草が2転する。周縁はヨコナデ、顎部凸面・裏面はヨコナデ、瓦頭部凹面はナデ。桃山時代から江戸時代初頭。

丸瓦（瓦17～19） 鉄線切りのコビキBである。凸面はタテケズリの後、ナデ調整する。（瓦17）は、凹面端部を丸く仕上げる。（瓦18）は、凹面にヘラの線が付く。（瓦19）は、凹面端部を二段に削る。凹面に粗い布目が付く。（瓦20）は、凹面端部を二段に削る。桃山時代から江戸時代初頭。

道具瓦（瓦20） 残存長41.4cm、残存幅26.5cm、厚さ2.4cmある。長辺から内側2.7cmに、長辺沿いに幅0.6cm、深さ0.6cmの溝があり、溝との間に貫通していない孔が1箇所付く。隅木先が腐るのを防ぐ、隅木蓋瓦の一部と思われる。桃山時代。

磚（瓦21） 一辺約15cm四方残存し、厚さ4.2cmある。面はケズリ調整する。溝38から出土した。桃山時代。

（7） 銭貨（図60、図版18、付表19）

江戸時代初頭までの遺構からは、7枚の銭貨が出土した。唐の開元通寶（初鑄621年）、北宋の咸平元寶（初鑄995年）・景祐元寶（初鑄1034年）、南宋の皇宋通寶（初鑄1039年）、元豊通寶（初鑄1078年）である。

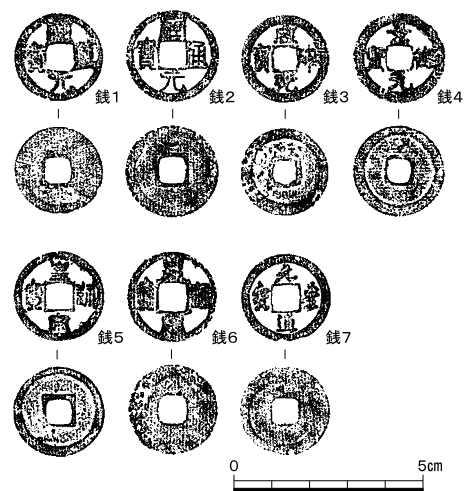


図60 銭貨拓影（1：2）

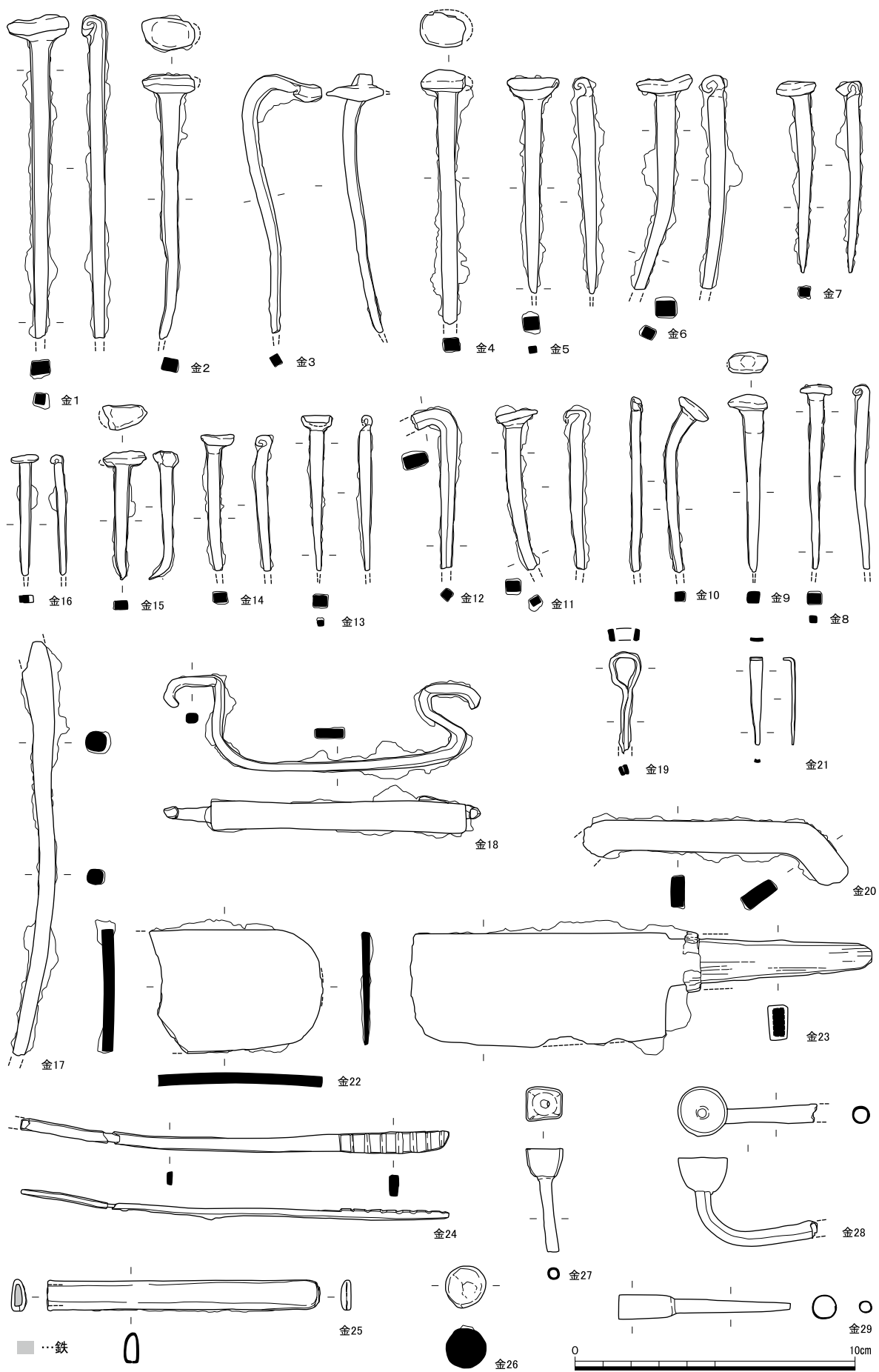


图61 金属製品実測図 (1 : 2)

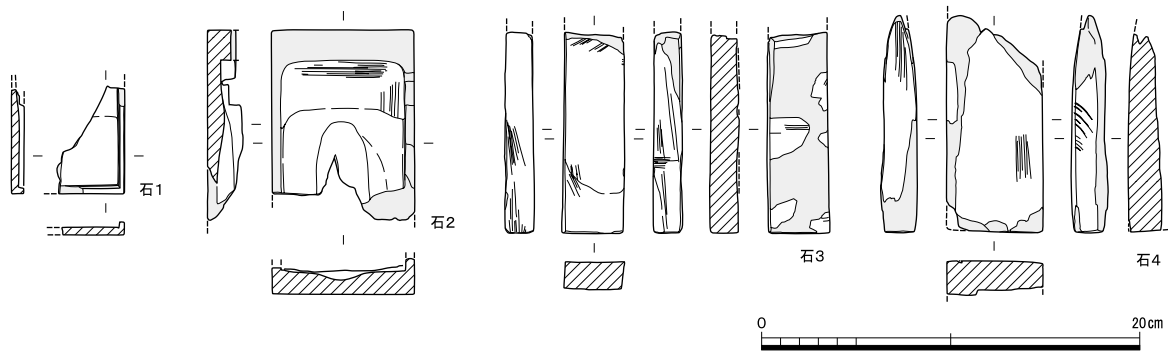


図62 石製品実測図（1：4）

（8）金属製品（図61、図版18、付表20）

金属製品には、鉄製品、銅製品、銀製品がある。鉄製品には釘・把手金具・包丁・刀子・鉄砲玉などがある。銅製品にはキセル・簪・飾金具・釘などがある。1区の土坑12・60・65・113・125から出土した。

建築・家具の部材として、（金1～16）は鉄釘で、全長約12～4.5cmある。平らな頭部を巻き込んで釘の頭を作っていることがあるものがある。（金17）は鉄製棒状の金具、（金18）は鉄製の家具把手、（金19）は銅製の割りピン留め金具、（金20）は鉄製金具、（金21）は銅製釘である。

道具類として、（金22）は鉄製の鉋の裏金、（金23）は包丁、（金24）は銅製の簪と思われる。（金25）は小柄で、刀に付属する小刀のようなものである。柄部分は欠き、刀身が鞘に納まっている。刀身は錆びて抜けないが、鞘は銀板を曲げて作る。外面に文様などはない⁴⁾。（金26）は鉄製の鉄砲玉である。直径約1.5cm、重さ7.9g。（金27～29）は銅製のキセルの吸い口や雁首である。（金29）は縦に長い雁首である。

（9）石製品（図62、図版19、付表21）

残存状態の良い石製品は少ない。（石1・2）は、硯である。（石1）は携帯用か。あまり使用してないのか、陸部はすり減っていない。（石2）の陸部中央部分は深く凹んでいる。砥石に転用したものと考えられる。頁岩製。（石3・4）は砥石である。ともに粘板岩製で、鳴滝産に似る仕上げ用のきめ細かいものである。（石4）はやや磨滅している。

（10）木製品（図63、図版19、付表22）

木製品の出土は少ない。特に1区の土坑のものは腐食して、原形をとどめないものが多く、漆器椀は漆部分のみが残存していた。木製品の多くは2区の土坑2の下層炭層から出土した。

1区の土坑の炭層などからは少なく、漆部分だけの漆器が出土し、炭や燃え止し様の木片が出土した。（木1・2）は、土師器などの容器に入れて使っていた赤漆の塊である。土坑60・土坑113の炭層から出土した。

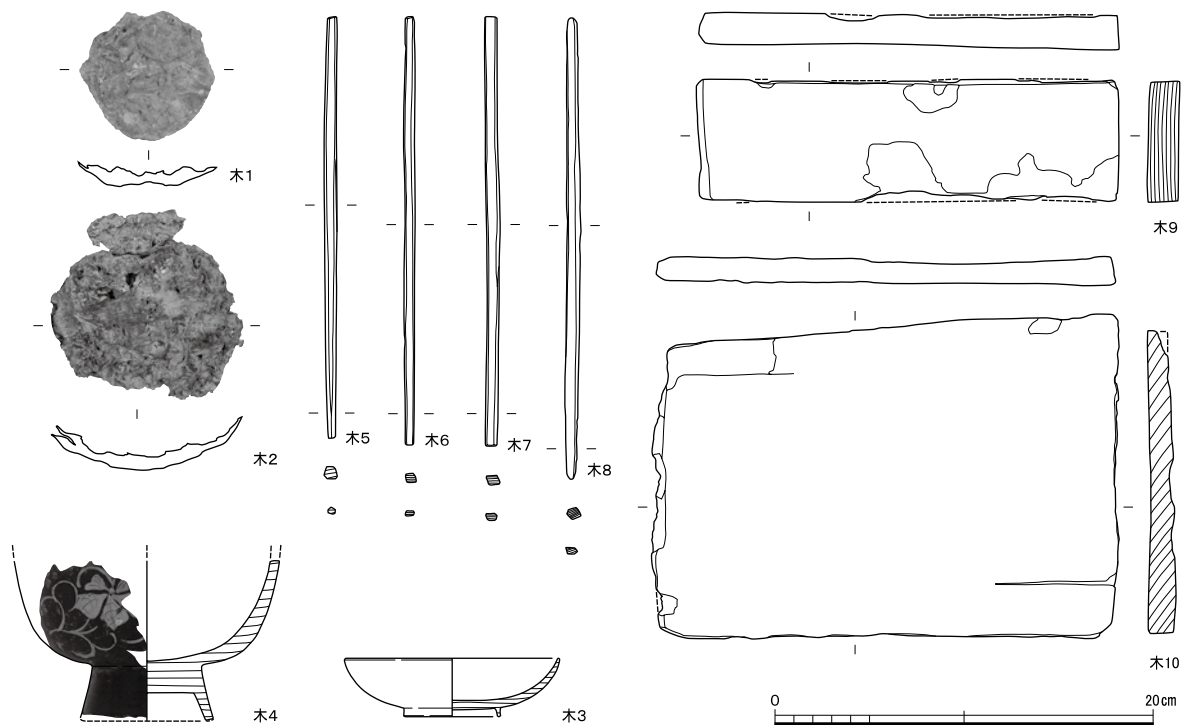


図63 木製品実測図（1：4）

（木3～10）は、埋土に水分が多く木材が腐りにくかった2区土坑2の炭層から出土した。（木3・4）は漆器椀である。樹種はトチノキ。（木3）は、内外面朱漆の椀である。高台内は黒漆。（木4）は、内面は赤漆、外面は黒漆、外面に朱漆で蔓草と5弁の花を描く椀である。（木5～8）は箸である。樹種はスギである。（木9・10）はスギの板材である。

(11) 骨・種子（図64）

2区の土坑2（図32）の下層の埋土を数層採取してサンプル調査した。埋土からは細かい炭化物、漆器、箸、板状の材、木片・竹片、種子が出土した。細かな炭層が堆積する図32-21・23・25・26層の炭は稲藁である。多量に埋まっており、武家屋敷で何に使ったものか不明である。漆器はトチノキ製、箸は、大半がスギ製で、一部ヒノキ・二葉マツ製がある。また、赤漆のへらなどに竹類、糸巻きはヒノキ、板状の材はスギ・ヒノキ・タケ類・スギ皮、棒状のサカキ・ヒサカキなどが出土した。また、最下層の27・28層からは図64のように魚の椎骨、炭化したコメ、サンショウ、アワ、オオムギが出土した。コメは長辺約5mm、サンショウは約4.5mm、アワは約2mm、オオムギは約6mmある。

(12) 焼け壁土（図65）

焼け壁土は2区土坑2、1区土坑60・65などから出土している。すべてはほぼ同じ構造を持つ壁土である。壁土は図65の断面写真のように、下地の粗い壁土と約1cmの厚さの上塗りの細かい壁土の2層から構成され、全体の厚みは3cm以上ある。下地は「アシ」と思われる均等な細かい筋の

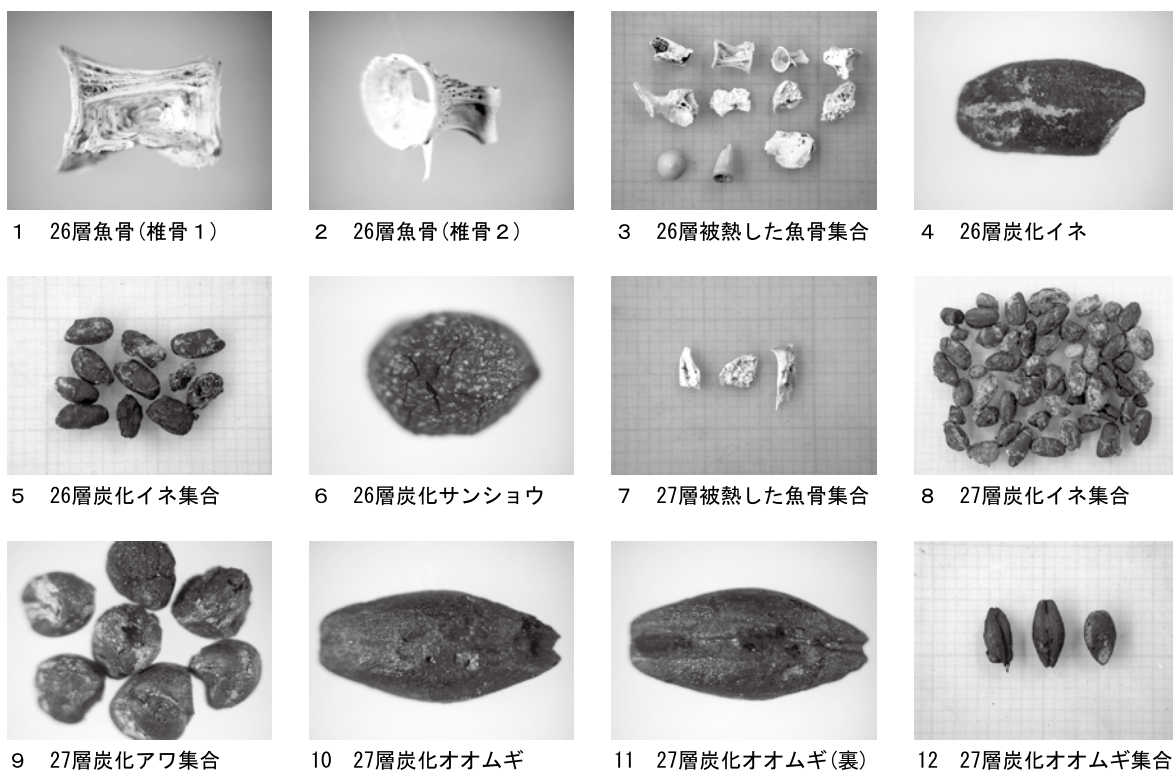


図64 2区土坑2出土骨・種子

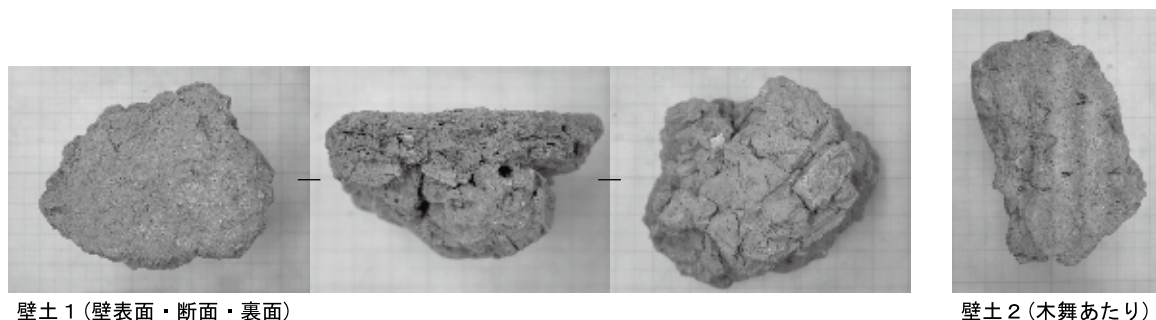


図65 1区土坑65出土焼け壁土

表面構造が木舞のあたり表面に残存している。藁スサは長さ3～5cmのものが密に混入し、砂利も直径2cmぐらいのものまで含まれている。上塗りの部分は藁スサが長さ1cm前後で細かいものを使用し混入し、砂もφ3mmぐらいまでと細かい砂を使用している。

5. まとめ

(1) 遺構の変遷

今回の調査で検出した遺構は、鎌倉時代、室町時代、桃山時代、江戸時代初頭、江戸時代中期以降に分けられる。検出した遺構の変遷を時代ごとにまとめる。

1) 鎌倉時代

調査地は、平安京外に位置する。調査では、平安時代の遺構は検出していないが、新しい時代の遺構に混入して、平安時代の土師器、緑釉陶器、須恵器、瓦などが出土した。今回の調査では、数は少ないが、鎌倉時代の土坑や柱穴を検出し、遺物を採集した。土坑159下層は井戸と考えられる。また、約5m北には礎石のある柱穴260もあり、比較的規模の大きな邸宅が存在した可能性がある。平安時代から鎌倉時代の遺構・遺物が今回の調査地や、周辺調査35・37で検出されていることから、調査地周辺は平安時代や鎌倉時代には宅地として利用されていたことが明らかとなった。

2) 室町時代

調査地は周知の遺跡である上京遺跡・室町殿跡に位置するが、位置と環境で記したように近年、室町殿跡の範囲は見直され、調査地は室町殿跡から外れることになる。しかし上京遺跡の遺構として、室町時代前期の土坑・柱穴や柱列を検出し、遺物が出土した。室町時代末期の京都の様子を描いたと言われる『洛中洛外図屏風⁵⁾』(上杉本)には、室町殿その西方には入江殿や近衛殿の建物が描かれ、調査地あたりにも建物が描かれている。室町殿跡に近い地点であり、当地が宅地の一部であることを示している。

3) 桃山時代

桃山時代の遺構は、1区で土師器皿を多量に含む土坑159・160・176や、南北の柱列や柱根のある柱穴38・39を検出し、2区では南北溝を2条検出した。応仁・文明の乱以降の戦乱から、中世には、町は防御のための「構え」と呼ばれる堀や塀で囲まれるようになり、図66のように、室町通

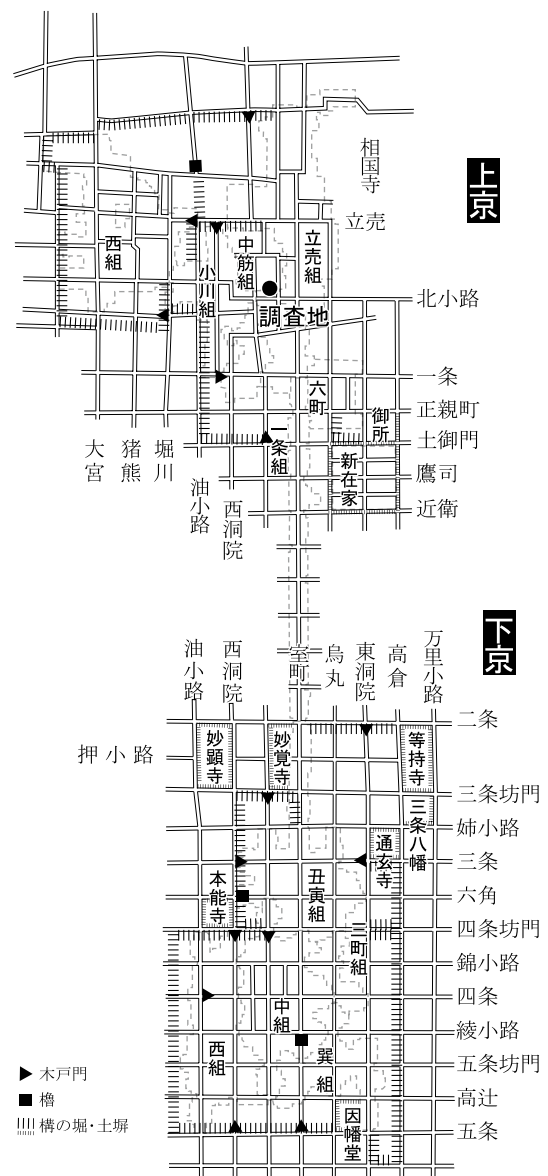


図66 戦国期京都市図(高橋康夫『京都市中世都市史研究』思文閣出版、1983年の「第30図戦国期京都市図」を参考とし作図)

りで結ばれた上京と下京が作られた。上京の構には、応仁の乱での実相院構、山名構、御所東構、北小路構などが知られている。上京域は、16世紀前半に起きた「天文法華の乱」で焦土と化し、元亀4年（1573）織田信長による「上京焼き打ち」で町が焼亡する。その後の復旧で調査地一帯も整備されたと考えられ、検出した遺構はこの時期のものと考えられる。2区で検出された南北溝は元々は中世の構えに関連する堀が桃山時代に埋められたと考えられる。1区の柱穴などは、後世の攪乱で建物としては復元できなかったが、大量の土器を使用する人たちの生活、区画する溝や柱列があることから、桃山時代の町屋などが考えられる。また、南北の柱列3・4（図25）は、敷地境界の柵と考えられ、この境界線は、現代の地図内の建物境界とほぼ一致しており、現代まで引き継がれていることがわかった。

4) 江戸時代初頭

江戸時代前期に描かれた『洛中絵図 寛永後萬治前⁶⁾』を現在の地図に重ねると（図67）、1区は今出川通と新町通に面した町屋列の裏手に位置する。一方、1区の北部と2区は旧今出川通から通路のある奥まった敷地に『長谷川半兵衛』と記された武家屋敷地にあたる。なお、長谷川宅北東の衣棚通に面して茶人で作事奉行を務めた小堀遠州宅がある。

調査地は、西側は現在の新町通、南側は旧今出川通（北小路）、東側は衣棚通に囲まれるが、各通りから奥まった場所に位置する。このことから、調査地が当時の通りに面していた町家の奥に位

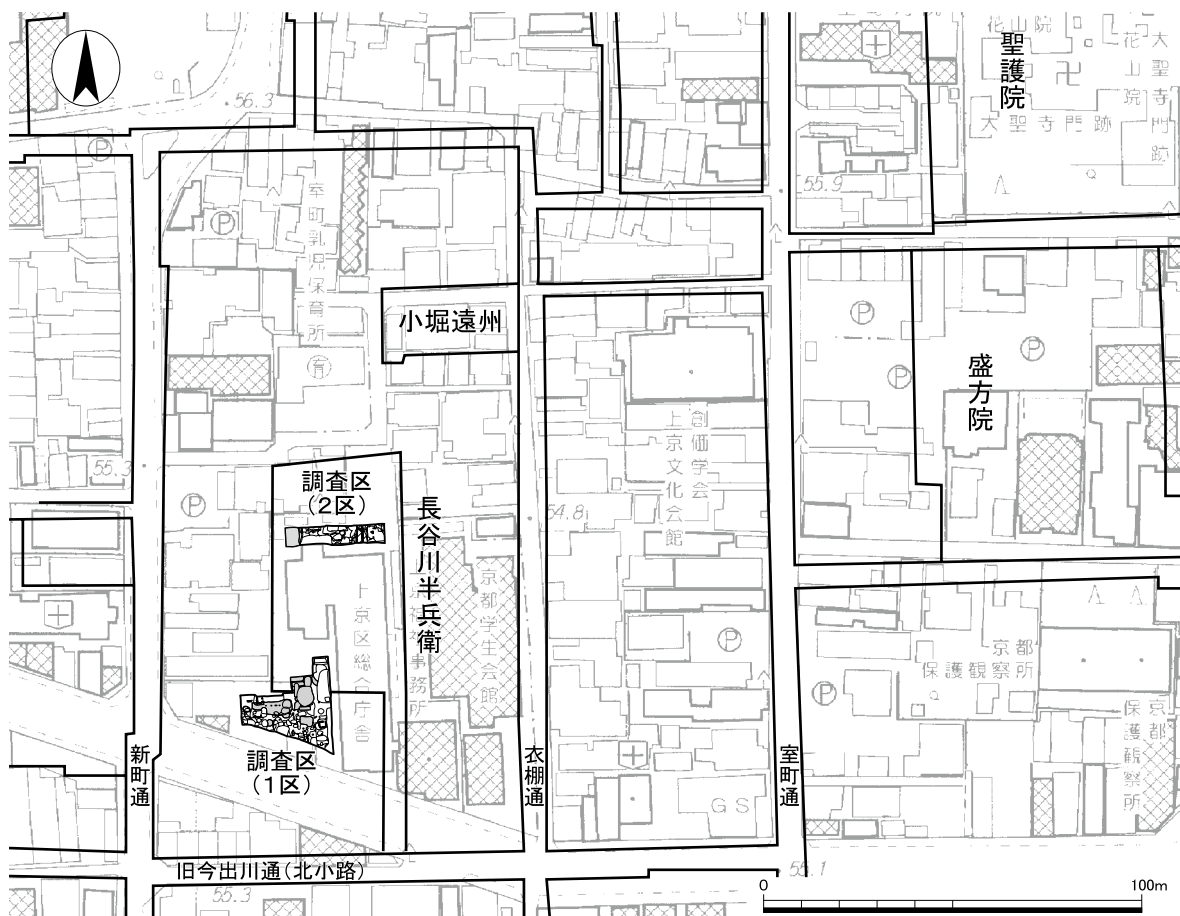


図67 江戸時代初期の調査地周辺（1：2,000）

置し、町家の空閑地になっており、建物などはなかったとも考えられる。

今回検出した大半の遺構は、大型の火災処理土坑である。当地周辺は火災に見舞われた後、町家の裏手にあたる空閑地に、火災処理のためにゴミ穴を設けたと考えられる。2区では西端に土坑2という巨大な火災処理土坑が設けられている。これは長谷川半兵衛宅専用のものと考えられる。洛中絵図で見られるように、調査地の南半は町屋敷地、北半は武家地と考えられる。

なお火災処理土坑が示す火災については後述する。

5) 江戸時代中期以降

大火災後1区では、宅地として整地されたが、大きな土坑は整地時に地盤が安定するように、大量の礫などで地盤を改良したと考えられる。そして、江戸時代中期以降、石列1・2・3、井戸、土坑、石室などが作られ、宅地は引き継がれていった。天明8年(1788)1月、京都市街の8割が灰燼に帰したと言われる京都で発生した最大規模の火災である天明の大火で被災したのちも、宅地は引き継がれてきたと考えられる。

(2) 江戸時代初頭の火災について

1) 文献から

802年から1865年までの京都の災害史をまとめた京都歴史災害年表⁷⁾によると、桃山時代から江戸時代前期の上京域での大火記録は少ない。大火記録は、桃山時代の元亀4年(1573)の織田信長による上京の焼き討ちで約6,000軒が焼失、江戸時代初頭の元和6年(1620)2月から3月には放火で計約3,000軒が焼失、江戸時代前期の寛文13年(1673)には約5,000軒が焼失した記録がある。この中で検出した遺構の遺物年代と合致する大火記録は、大日本史料⁸⁾の中の「土御門泰重卿記」「孝亮宿禰日次記」「元和六年私記」「義演准后日記」「日本耶蘇會年報」などがある。記録によれば、元和6年(1620)旧暦2月30日(現代の4月2日)、放火のため新町から出火。相国寺の建物や御所八幡町(現在の烏丸今出川上る西側の大聖寺付近)にあった聖護院(焼失後、吉田神社南西の岡崎に移転)や堀出町(調査地)など、上京域で約2,000軒が焼失。旧暦3月4日には放火で約1,000軒焼失。その後も放火が続いている。大坂の陣が終わり、天下が徳川に移って間もない時期だけに、京の都を震撼とさせる放火事件であったと考えられる。また、京都では前年の元和5年10月6日にキリシタン弾圧のため63名の信者が捕らえられ、処刑が行われていることや、「キリシタンに放火の罪をかぶせる動きがあった」との記事もあり、当時の世相をよく反映している。

2) 遺物から

大きな火災処理と考えられる土坑(1区土坑65・127・113・12・60)から、土器・陶磁器類・瓦類などととともに、多くの焼けた釘・金具などの金属製品、焼けた木片、焼けて赤変した壁土、大量の炭や灰が出土した。出土した土師器皿の年代観から、土坑の時期は江戸時代初頭と考えられる。

出土遺物が多い大規模な土坑は、出土した土師器皿の直径・器高の分布から、若干の時期幅が認められるものの、1620年の大火で焼け野原となったあと、火災後の処理土坑として掘られ、順次火災後の後片付けが行われたと考える。出土遺物の時期は、発掘調査の資料では江戸時代初頭の京都

XI期中段階頃であり、文献史料では元和6年(1620)に大火があったとの記録に裏付けられ、今回の大量の出土遺物の年代が確定できることは大きな成果である。また、同時期と考えられる京都の三条界隈で大量に出土している織部などの茶陶関連の製品の年代を考える上でも重要である。

一方、武家屋敷と思われる長谷川半兵衛宅の範囲にあたる位置で検出した2区土坑2・1区土坑69からは、唐津大皿、青花大皿片、磁器のつまみなど大ぶりものが主体で、南の町屋の範囲から出土した土器類と比べると高級な遺物が出土している。また、出土土器破片数の割合が、他の土坑と異なり、土師器の割合は72%と低く、施釉陶器が14%、輸入陶磁器が5%など高級な品の比率が他の土坑の2～5倍高いことがわかった。町屋と武家屋敷の違いが現れているものと考えられる。

(3) おわりに

今回対象とした上京遺跡は室町時代の遺跡とされているが、鎌倉時代の遺構・遺物が出土し、平安時代の遺物が混入して出土していることから、鎌倉時代、そして平安時代まで遡ることが明らかとなった。室町時代には室町殿の近くに位置しており、後世の削平をうけ遺存状況は良好ではないが、遺構・遺物から建物などの存在が考えられる。また、この時期の区画の柱列などは後世に引き継がれていることが判明した。桃山時代も同様に、「構え」に関連する溝・土坑・柱穴や大量に廃棄した土器などから、建物が存在したと考えられる。江戸時代初頭には火災処理土坑が多く掘られたが、江戸時代中期には整地され、町屋が建てられ、天明の大火を乗り越えて、区画線は現代に続いてきたことが判明した。

註

- 1) 『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 2007年
- 2) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 3) 「大坂城址Ⅱ」『財団法人大阪府文化財調査研究センター 調査報告書第74集』『大阪府警察本部庁舎新築工事に伴う発掘調査報告書』(財)大阪府文化財調査研究センター 2002
- 4) 刀(かたな)は、平安時代の太刀に代わって15世紀後半から使用され、太刀よりはやや短く、太刀とは逆に刃を上にして腰に差す。小柄の刀身も上を向く。
- 5) 『洛中洛外図屏風』(国宝。織田信長が上杉謙信に贈った狩野永徳の作とされる。16世紀後半の京都を描く。) 米沢市上杉博物館所蔵
- 6) 『洛中絵図 寛永後萬治前』(京都大学附属図書館蔵 中井家旧蔵) 臨川書店 1978年
- 7) 「京都歴史災害研究第6号」『京都歴史災害年表(802～1865年)』立命館大学 歴史都市防災研究所 2006年
- 8) 『大日本史料』歴史上の重要事件の概要をあらわし、その関連史料を列挙したもの。関連文書、記録、系図や家譜、後世の著作や地誌など多様なものがある。仁和3年(887)から慶応3年(1867)までの約980年を16の編に分けて編纂。現在は第12編(江戸時代初期)までが着手。現在は、東京大学資料編纂所が編集。「土御門泰重は、江戸時代初期の公卿・陰陽家。徳川家康に仕えたとある。(1586～1661年)。孝亮宿禰は、太政官官務家の出。朝議に関する内容が中心に記す。(1595～1634年)

付章 出土した動物遺存体

丸山真史（奈良文化財研究所）

（1）概要

当調査地は上京区総合庁舎の予定地にあたり、近世の武家屋敷跡、町屋跡にともなうゴミ穴から動物遺存体が出土している。出土した動物遺存体は破片数にして88点にのぼり、種類や部位を同定したものは77点を数える。その内訳は貝類40点、魚類13点、鳥類18点、哺乳類6点である（表1～3）。いずれも、共伴する土師器から1610年から1630年までの間に投棄されたものと考えられる。これらの動物遺存体は、発掘中に肉眼で確認して採集したものであり、フルイを用いた水洗選別は行っていない。なお、以下に記載する魚類、鳥類の大きさは、奈良文化財研究所が所蔵する現生骨格標本との比較によって推定した。

（2）種類別の特徴

a) 貝類

サザエ 1区土坑60から9点、土坑115から7点、土坑120から4点、計20点が出土している。大部分が殻軸のみであり、土坑60から出土している1点だけ蓋である。また、土坑60から、サザエと思われる殻軸が1点出土している。

テングニシ 1区土坑115から、1点出土している。

表1 種名表

軟体動物門 Mollusca	アジ科 Carangiae
腹足綱 Gastropoda	ブリ属の一種 <i>Seriola</i> sp.
古腹足目 Vetigastropoda	タイ科 Sparidae
サザエ科 Turbnidae	マダイ <i>Pagrus major</i>
サザエ <i>Turbo cornutus</i>	鳥綱 Aves
新腹足目 Neogastropoda	コウノトリ目 Ciconiformes
アッキガイ科 Muricidae	サギ科 Ardeidae
アカニシ <i>Rapana venosa</i>	サギ科の一種 Ardeidae gen. et sp. indet.
テングニシ科 Melongenidae	カモ目 Anseriformes
テングニシ <i>Hemifusus tuba</i>	カモ科 Anatidae
斧足綱 Bivalvia	カモ科の一種 Anatidae gen. et sp. indet.
マルスダレガイ目 Veneroida	ハクチョウ属の一種 <i>Cygnus</i> sp.
マルスダレガイ科 Veneridae	キジ目 Galliformes
ハマグリ <i>Meretrix lusoria</i>	キジ科 Phasianidae
脊椎動物門 Vertebrata	ニワトリ <i>Gallus domesticus</i>
硬骨魚綱 Osteichthyes	哺乳綱 Mammalia
ヒメ目 Aulopiformes	偶蹄目 Artiodactyla
エソ科 Synodontidae	イノシシ科 Suidae
エソ科の一種 Synodontidae, gen. et sp. indet.	イノシシ <i>Sus scrofa</i>
スズキ目 Percidae	シカ科 Cervidae
シイラ科 Coryphaenidae	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>
シイラ <i>Coyphaena hippurus</i>	

表2 動物遺存体一覧表1

地区	遺構	時期	大分類	小分類	部位	左右	備考
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	蓋	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	サザエ?	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	殻長130mm以上、殻を割っている?
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	エソ科	前上顎骨	右	
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	シイラ	椎骨	-	
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	ブリ属	椎骨	-	切断(輪切状)
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	ブリ属	主上顎骨	右	
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	前上顎骨	左	長43.26+
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	前上顎骨	左	長42.26+
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	-	兜割(1/3中央部)
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	主上顎骨	左	
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	歯骨	右	高12.56
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	角骨	右	
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	上擬鎖骨	右	長42.26+
1区	土坑60	XI期中	硬骨魚綱	不明	鰓条骨	-	
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	サギ科	足根中足骨	右	Bd14.37
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	カモ科	上腕骨	右	Bd20.58、遠位端切断、マガン大
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	ハクチョウ属	下顎骨	左	
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	ハクチョウ属	上腕骨	右	コハクチョウ大
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	ハクチョウ属	尺骨	右	コハクチョウ大
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	キジ科	脛足根骨	左	Bd10.43、キジ♂大
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	ニワトリ	大腿骨	右	
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	不明	上腕骨	右	
1区	土坑60	XI期中	鳥綱	不明	尺骨?	-	
1区	土坑60	XI期中	哺乳綱	ニホンジカ	中手骨	右	Bp25.79SD17.40
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	殻長130mm以上
1区	土坑115	XI期中	腹足綱	テングニシ	殻質	-	殻長90mm以上
1区	土坑115	XI期中	斧足綱	ハマグリ	殻質	左	殻高50mm以上
1区	土坑115	XI期中	斧足綱	ハマグリ	殻質	右	殻高50mm以上
1区	土坑115	XI期中	斧足綱	ハマグリ	殻質	右	殻高50mm以上
1区	土坑115	XI期中	斧足綱	ハマグリ	殻質	右	殻高50mm以上
1区	土坑115	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	-	兜割(1/3中央部)
1区	土坑115	XI期中	硬骨魚綱	マダイ	口蓋骨	左	50~60
1区	土坑115	XI期中	硬骨魚綱	不明	鰭棘	-	
1区	土坑115	XI期中	硬骨魚綱	不明	鰓条骨	-	
1区	土坑115	XI期中	硬骨魚綱	不明	鰓条骨	-	

表3 動物遺存体一覧表2

地区	遺構	時期	大分類	小分類	部位	左右	備考
1区	土坑115	XI期中	硬骨魚綱	不明	不明	-	
1区	土坑115	XI期中	硬骨魚綱	不明	不明	-	
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	キジ科	胸骨	-	キジみ、肉を削いだ痕跡
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	キジ科	鳥口骨	左	キジ(オス)大、先端切断
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	キジ科	上腕骨	右	キジ(オス)大、遠位部切傷
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	キジ科	尺骨	右	キジ(オス)大
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	キジ科	手根中手骨	左	GL38.51Did8.16、キジ(オス)大
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	カモ科	上腕骨	左	カルガモ大
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	カモ科	上腕骨	右	Bp22.45、カルガモ大
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	カモ科	上腕骨	左	マガン大
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	カモ科	手根中手骨	右	GL56.24Did6.74、カルガモ大
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	カモ科	手根中手骨	左	GL56.98+Did7.60、カルガモ大
1区	土坑115	XI期中	鳥綱	カモ科	尺骨	右	Did9.32、カルガモ大
1区	土坑115	XI期中	哺乳綱	シカ科	大腿骨	右	GL197.49Bp48.96Bd42.56SD17.39
1区	土坑115	XI期中	哺乳綱	シカ科	脛骨	右	GL231.35Bp47.02SD18.23
1区	土坑120	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑120	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑120	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑120	XI期中	腹足綱	サザエ	殻質	-	
1区	土坑120	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	殻長98mm以上
1区	土坑120	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑120	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑120	XI期中	鳥綱	カモ科	上腕骨	-	マガン
1区	土坑120	XI期中	哺乳綱	ニホンジカ	距骨	右	GL140.54Bd24.76
1区	土坑120	XI期中	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	右	Bp27.01SD17.98
1区	土坑184	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	殻長113.06、殻を割っている
1区	土坑184	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	殻長175.99
1区	土坑65	XI期中	腹足綱	アカニシ	殻質	-	
1区	土坑125	XI期中	哺乳綱	不明	不明	-	大型哺乳類
2区	整地層41	XI期中	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	左	

アカニシ 1区土坑60から6点、土坑115から2点、土坑120から3点、土坑184から2点、土坑65から1点、計14点が出土している。大部分が殻軸のみであるが、なかには体層を打ち割っているものが含まれる。いずれも殻長100mm以上を測り、土坑184から出土している1点は殻長176.0mmを測る、大きな個体である(図1)。

ハマグリ 1区土坑115から、5点(左1右4)が出土している。破損が著しいため、正確な計測値は得られなが、いずれも殻高50mm以上の個体である。

b) 硬骨魚綱

エソ科 1区土坑60から、前上顎骨が出土している。体長30cm以上の大型個体と推定される。

ブリ属 1区土坑60から、椎骨と主上顎骨が1点ずつ、計2点が出土している。椎骨は体長80cm以上の大型個体、主上顎骨は体長30~40cmの個体と推定される。椎骨は、椎体中央部で輪切り状に切断されている。

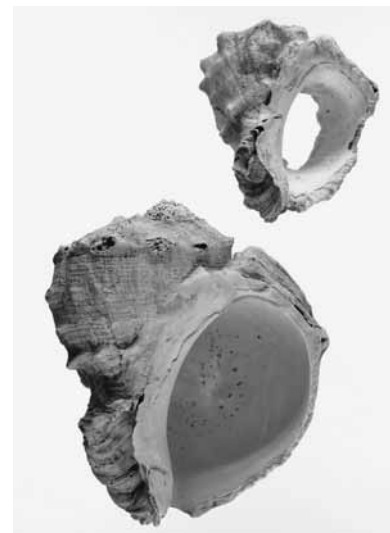


図1 アカニシ
(左下が殻長176.0mmの個体)

シイラ 1区土坑60から、椎骨が1点出土している。体長100mm前後の個体と推定される。

マダイ 1区土坑60から、前上顎骨2点、前頭骨、主上顎骨、歯骨、角骨、上擬鎖骨が1点ずつ、計7点が出土している。また、1区土坑115から前頭骨と口蓋骨が1点ずつ、計2点が出土している。いずれも体長50～60cmの個体と推定され、前頭骨は2点とも正中方向に切断され、3分割された中央部だけが出土している。

c) 鳥類

サギ科 1区土坑60から、足根中足骨（右）1点が出土している。遠位端最大幅（Bd）は144mmを測り、アオサギに相当する大きさである。

キジ科 1区土坑60から、脛足根骨（左）1点が出土している。また、土坑115から胸骨、烏口骨（左）、上腕骨（右）、尺骨（右）、手根中手骨（左）が1点ずつ、計5点が出土している。烏口骨の上端は切断されており、上腕骨の遠位部には切傷が、胸骨には肉を削いだ痕跡が見られる。いずれもキジのオスに相当する大きさであるが、ニワトリが含まれる可能性もある。

ニワトリ 1区土坑60から、大腿骨（右）1点が出土している。



図2 シカ科の一種
（大腿骨・脛骨）



図3 マダイの前頭骨
（3分割された中央部）

カモ科 1区土坑60から、上腕骨（右）が1点出土している。マガンに相当する大きさであり、遠位端が切断されている。土坑115から、上腕骨（左2右1）3点、手根中手骨（左1右1）2点、尺骨（右）1点、計6点が出土している。上腕骨はマガンに、それ以外はカルガモに相当する大きさである。土坑120から上腕骨（左右）が1点出土しており、マガンに相当する大きさである。

ハクチョウ属 1区土坑60から、下顎骨（左）、上腕骨（右）、尺骨（右）が1点ずつ、計3点が出土している。いずれもコハクチョウに相当する大きさであり、上腕骨と尺骨は同一個体の可能性がある。

d) 哺乳綱

イノシシ 2区整地層41から、下顎骨から遊離した犬歯（左）1点が出土している。大きなもので、オスの犬歯と考えられる。

ニホンジカ 1区土坑60から、中手骨（右）1点が出土している。土坑120から、距骨（右）、中足骨（右）が1点ずつ、計2点が出土している。

シカ科 1区土坑115から、大腿骨（右）、脛骨（右）が1点ずつ、計2点が出土している。これらは同一個体であり、それぞれの最大長（GL）は197.5mm、231.4mmを測る。ニホンジカより小

さく、ノロジカの現生標本に近似する値を示す（図2）。

（3）町屋跡における動物利用

貝類は、巻貝のアカニシとサザエが大部分を占め、二枚貝はハマグリが少量に留まる。常盤井殿町遺跡や平安京左京四条二坊十四町跡の武家屋敷跡で検出した17世紀前半のゴミ穴からは、サザエを主体とする巻貝が多く出土している（丸山2010、丸山・富岡・平尾2007）。一方、常盤井殿町遺跡の公家屋敷跡で検出した18世紀のゴミ穴からは、アカガイを主体とする二枚貝が多く、平安京左京六条三坊五町跡で検出した18～19世紀のゴミ穴からは、ハマグリ、シジミ科を主体とする二枚貝が多く出土している（丸山2010、丸山・北野・竜子2005）。このように京都市中の遺跡では、17世紀には巻貝が多いのに対して、18世紀には二枚貝が多くなり、17世紀前半に位置づけられる当資料も巻貝が主体であり、従来の京都の近世遺跡の傾向と合致する。

魚類や鳥類は、遺構埋土の水洗篩別を行っていないため、小型種の微細な骨が見逃された可能性がある。魚類では、マダイが最も多く、ブリ属、シイラ、エソ科が出土している。海水魚ばかりで、淡水魚は出土していない。マダイの前頭骨が2点出土しており、いずれも正中方向に切断された「兜割」が見られる。この「兜割」には、正中線で真二つに切断されるものと、3分割されるものがあり、当資料は3分割された中央部だけである（図3）。このようなマダイ頭部の3分割は、現代の料理法には見られないが、潮煮などの料理に利用されたと考えられる（岡嶋2004）。また、ブリ属の椎骨は椎体中央部で真二つに切断されており、尾部をぶつ切りにした切り身を想定できる。

鳥類は、ハクチョウ属を含むカモ科、ニワトリを含むキジ科を主体として、サギ科が少量含まれる。カモ科には、大きさからガン類とカモ類の両方が含まれている。ガン類に相当する上腕骨1点は遠位端が切断されており、手羽元と手羽先に切り分けられたのであろう（図4）。キジ科の烏口骨は肩端が切断されており、翼部が取りはずされたと考えられる。上腕骨の遠位部には切傷が見られ、腱を切断したことが想定される。また、胸骨の竜骨突起左右に複数の浅い刃物傷があり、胸肉を取りはずしたと考えられる（図5・6）。

哺乳類は、イノシシ、ニホンジカ、シカ科の一種を同定し、イノ



図4 カモ科（ガン類）上腕骨
（遠位端が切断されている）

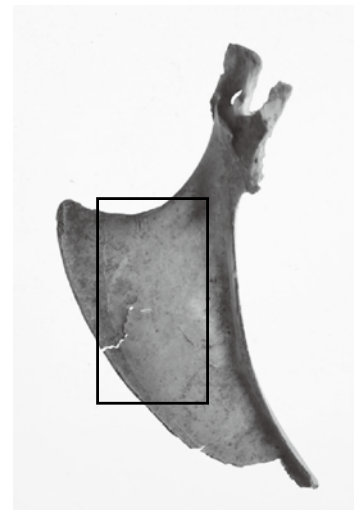


図5 キジ科胸骨

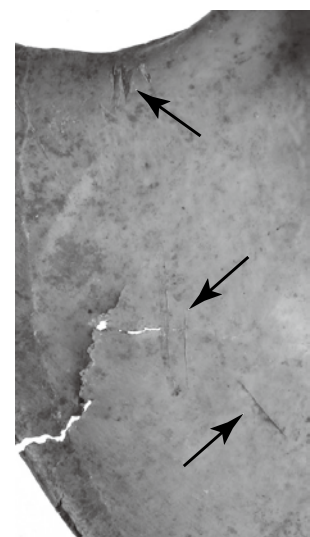


図6 キジ科胸骨部分拡大
（矢印の部分が傷）

シシは犬歯のみで、食用となったものか、その他の用途があったのか定かではない。ニホンジカは食用と考えて差し支えないであろう。シカ科と同等した大腿骨と脛骨は、これまで京都の近世遺跡で出土したニホンジカよりも小さく、シカ科のなかでも小型のノロジカに相当する大きさである。このような小型のシカ科は大坂城跡から出土しており、海外に生息するものと推測される。中世から近世にかけて、中国や東南アジアから鹿革を大量に輸入しており、骨もまた骨角製品の素材として持ち込まれた可能性が指摘される（安部2002、丸山・松井2006）。当資料も、海外から持ち込まれた小型のシカ科の可能性はあるが、それを指摘するに留めたい。

（4）まとめ

当調査地で出土した動物遺存体の大部分は、17世紀前半の町屋で生じた食料残渣と考えられる。貝類、魚類は海産物ばかりで、淡水種は見られなかった。微細な骨が見逃された可能性があるが、17世紀前半には多くの海産物が京都市中にもたらされ、町民層の食卓にもあがったと考えられる。

鳥類はカモ科、キジ科に解体痕が見られ、食用となったことが明らかである。胸肉や手羽肉を賞味したと考えられる。哺乳類のイノシシは食用となったものか明らかではないが、ニホンジカは食用であろう。小型のシカ科は、海外から持ち込まれたものであれば、食用と即断することはできない。

当資料によって、近世の京都における町民層の食生活の一端を明らかにすることができた。また、小型のシカ科は海外から持ち込まれた可能性があり、実際に小型種であるか分析を進める必要があるだろう。

参考文献

- 安部みき子2002「大坂城跡出土の人骨・獣骨」『大坂城址Ⅱ』本文編 財団法人大阪府文化財調査研究センター pp.306-348
- 岡嶋隆司2004「真鯛頭部の解体法について」『動物考古学』21号 動物考古学研究会 pp.91-101
- 丸山真史2010「二條家屋敷跡に見る近世の動物利用」『常盤井殿町遺跡発掘調査報告書』同志社大学歴史資料館・同志社女子大学 pp.171-189
- 丸山真史・北野信彦・竜子正彦2005「平安京左京六条三坊五町から出土した軟体動物遺存体」『平安京左京六条三坊五町』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 pp.118-125
- 丸山真史・富岡直人・平尾政幸2007「本多甲斐守京邸出土の動物遺存体」『研究紀要』第10号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 pp.227-244
- 丸山真史・松井章2006「大坂城跡出土の動物遺存体について（補遺）」『大坂城址Ⅲ』財団法人大阪府文化財センター pp.464-466

付表1 出土土器一覧表1

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
1	土師器 皿N	1区	土坑219	8.2	1.6		90	2.5Y7/2灰黄色		
2	土師器 皿N	1区	土坑219	8.7	1.8		50	2.5Y7/3浅黄色		
3	土師器 皿N	1区	土坑219	12.6	2.3		90	10YR8/3浅黄橙色		
4	土師器 皿N	1区	土坑257	8.9	1.8		80	2.5Y7/1灰白色		
5	土師器 皿N	1区	柱穴260	8.6	1.7		100	2.5Y7/2灰黄色		
6	土師器 皿N	1区	柱穴260	12.6	2.3		60	10YR8/2灰白色		
7	土師器 皿Ac	1区	土坑159 下層	7.0	1.1		25	10YR8/1灰白色		
8	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	8.7	1.6		65	2.5Y8/2灰白色		
9	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	8.8	1.7		90	2.5Y8/2灰白色		
10	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	8.8	1.3		40	10YR7/3にぶい黄橙色		
11	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	10.6	1.9		100	10YR8/3浅黄橙色		
12	土師器 皿S	1区	土坑159 下層	10.6	3.1		60	2.5Y8/2灰白色		口縁部に炭化物付着
13	土師器 皿S	1区	土坑159 下層	12.0	2.8		20	2.5Y7/3浅黄色		
14	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	12.2	2.0		15	7.5YR7/6橙色		
15	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	12.2	2.5		80	2.5Y8/2灰白色		
16	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	12.8	2.5		80	7.5YR7/4にぶい橙色		
17	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	12.8	2.3		35	2.5Y8/2灰白色		
18	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	13.2	2.5		60	2.5Y7/2灰黄色		
19	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	13.2	2.5		35	2.5Y8/3淡黄色		
20	土師器 皿N	1区	土坑159 下層	14.2	2.5		20	2.5Y7/3浅黄色		
21	瓦器 椀	1区	土坑159 下層	14.9	(4.0)		35	N2/黒色		
22	土師器 皿Ac	2区	土坑159 上層	7.3	1.1		25	10YR8/1灰白色		
23	土師器 皿N	2区	土坑159 上層	7.6	1.6		100	10YR8/3浅黄橙色		
24	土師器 皿N	2区	土坑159 上層	9.0	2.6		60	7.5YR8/4浅黄橙色		ロクロ成形、 底面を糸切り
25	土師器 皿N	2区	土坑159 上層	9.2	2.3		90	2.5Y8/2灰白色		
26	土師器 皿S	2区	土坑159 上層	11.3	3.0		35	2.5Y8/2灰白色		
27	土師器 皿N	2区	土坑159 上層	12.8	1.9		15	10YR8/3浅黄橙色		
28	瓦器 火鉢	2区	土坑159 上層	(4.2)			25	N3/暗灰色		ミニチュア火鉢
29	瓦器 小壺	2区	土坑159 上層	8.3	(3.9)		15	2.5Y5/1黄灰色		
30	瓦器 風炉	2区	土坑159 上層	20.1	(6.6)		小片	5Y4/1灰色		
31	土師器 皿N	1区	土坑143	7.1	1.3		20	10YR7/3にぶい黄橙色		
32	土師器 皿Sh	1区	土坑143	5.8	1.8		90	2.5Y8/2灰白色		
33	土師器 皿Sh	1区	土坑143	5.8	1.8		50	2.5Y8/2灰白色		
34	土師器 皿Sh	1区	土坑143	6.5	1.8		90	10YR8/2灰白色		
35	土師器 皿Sh	1区	土坑143	6.6	1.8		60	7.5YR8/3浅黄橙色		

付表2 出土土器一覽表2

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
36	土師器 皿N	1区	土坑143	7.0	1.5		35	7.5YR8/4浅黄橙色		
37	土師器 皿S	1区	土坑143	7.7	2.2		35	2.5Y8/2灰白色		
38	土師器 皿S	1区	土坑143	7.8	2.3		100	10YR8/3浅黄橙色		
39	土師器 皿N	1区	土坑143	8.2	1.6		80	2.5Y7/2灰黄色		
40	土師器 皿N	1区	土坑143	10.6	2.1		65	7.5YR8/6浅黄橙色		
41	土師器 皿S	1区	土坑143	10.8	2.8		40	10YR8/2灰白色		
42	土師器 皿S	1区	土坑143	11.3	3.0		50	2.5Y8/2灰白色		
43	土師器 皿S	1区	土坑143	11.6	3.0		75	10YR8/2灰白色		
44	土師器 皿S	1区	土坑143	11.7	3.0		40	2.5Y8/2灰白色		
45	瓦器 椀	1区	土坑143	13.0	3.9	5.1	20	N3/暗灰色		
46	施釉陶器 おろし目皿	1区	土坑143	12.8	2.9	7.5	35	胎土 N8/灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	古瀬戸	
47	土師器 皿Sh	1区	土坑160	6.5	2.0		90	10YR8/2灰白色		
48	土師器 皿Sh	1区	土坑160	6.5	2.0		100	10YR8/2灰白色		
49	土師器 皿Sh	1区	土坑160	6.5	2.0		100	10YR8/1灰白色		
50	土師器 皿Sh	1区	土坑160	7.0	1.9		100	10YR8/2灰白色		
51	土師器 皿N	1区	土坑160	7.4	2.2		100	10YR8/2灰白色		
52	土師器 皿N	1区	土坑160	7.5	2.2		100	10YR8/2灰白色		
53	土師器 皿N	1区	土坑160	7.5	2.1		100	10YR8/2灰白色		
54	土師器 皿N	1区	土坑160	7.6	2.4		90	10YR8/3浅黄橙色		
55	土師器 皿Nh	1区	土坑160	7.8	1.7		80	10YR8/4浅黄橙色		
56	土師器 皿S	1区	土坑160	10.7	(3.3)		35	10YR8/2灰白色		
57	土師器 皿S	1区	土坑160	11.3	3.1		50	10YR8/2灰白色		
58	土師器 皿S	1区	土坑160	11.4	2.7		25	10YR8/2灰白色		
59	土師器 皿S	1区	土坑160	11.4	3.0		65	10YR8/2灰白色		
60	土師器 皿S	1区	土坑160	12.0	2.6		15	10YR8/1灰白色		
61	土師器 皿Sb	1区	土坑83	8.4	1.7		100	7.5YR7/4にぶい橙色		
62	土師器 皿Sb	1区	土坑83	8.5	1.6		100	10YR8/3浅黄橙色		
63	土師器 皿Sb	1区	土坑83	8.6	1.8		100	7.5YR8/4浅黄橙色		
64	土師器 皿Sb	1区	土坑83	8.6	1.5		90	2.5Y8/3淡黄色		
65	土師器 皿S	1区	土坑83	11.3	2.0		100	10YR8/2灰白色		
66	土師器 皿S	1区	土坑83	11.4	2.1		35	10YR8/2灰白色		
67	土師器 皿S	1区	土坑83	13.1	2.3		50	2.5Y8/2灰白色		
68	土師器 皿S	1区	土坑83	14.1	2.3		35	10YR8/1灰白色		
69	土師器 皿S	1区	土坑83	14.3	2.3		100	10YR8/2灰白色		
70	土師器 皿S	1区	土坑83	14.4	2.3		25	7.5YR8/4浅黄橙色		

付表3 出土土器一覧表3

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
71	土師器 皿S	1区	土坑83	15.0	2.4		35	10YR8/2灰白色		
72	土師器 皿S	1区	土坑83	17.6	(2.5)		15	10YR8/2灰白色		
73	瓦器 香炉	1区	土坑83	12.4	7.6		20	N3/暗灰		
74	土師器 皿Sb	1区	土坑99	9.8	2.0		50	10YR8/2灰白色		
75	瓦器 盤	1区	土坑99	23.9	3.1		10	N3/暗灰色		
76	瓦器 鉢	1区	土坑99		(17.2)	34.9	20	N3/暗灰色		
77	施釉陶器 皿	1区	土坑99		(1.8)	6.2	小片	胎土 2.5Y6/1黄灰色 釉 5Y4/3オリーブ色	朝鮮	
78	土師器 皿Sb	1区	土坑170	8.8	1.6		40	10YR8/3浅黄橙色		
79	土師器 皿S	1区	土坑170	9.8	1.7		25	10YR8/4浅黄橙色		
80	土師器 皿S	1区	土坑170	14.7	(2.1)		20	10YR8/2灰白色		
81	土製品 犬形	1区	土坑170	(長さ) 2.9	(幅) 1.2	(高さ) 2.2	100	10YR8/3浅黄橙色		手づくね
82	土師器 皿Nr	1区	土坑209	7.1	1.3		50	10YR8/3浅黄橙色		
83	土師器 皿Sb	1区	土坑209	8.0	1.5		50	10YR8/2灰白色		
84	青磁 椀	1区	土坑209	16.0	7.4	6.1	15	胎土 5Y8/1灰白色 釉 明緑色		
85	土師器 皿S	1区	土坑176	7.0	1.3		100	2.5YR8/2灰白色		
86	土師器 皿S	1区	土坑176	7.1	1.3		100	2.5YR8/2灰白色		
87	土師器 皿S	1区	土坑176	7.1	1.4		100	2.5YR8/2灰白色		
88	土師器 皿S	1区	土坑176	7.2	1.4		100	2.5YR8/2灰白色		
89	土師器 皿Sb	1区	土坑176	8.5	1.5		100	2.5YR8/2灰白色		
90	土師器 皿Sb	1区	土坑176	8.8	1.6		100	10YR8/1灰白色		口縁部に炭化物付着
91	土師器 皿Sb	1区	土坑176	8.8	1.5		100	10YR8/2灰白色		
92	土師器 皿Sb	1区	土坑176	8.9	1.6		100	10YR8/2灰白色		
93	土師器 皿S	1区	土坑176	10.5	1.8		90	10YR8/1灰白色		口縁部に炭化物付着
94	土師器 皿S	1区	土坑176	11.0	2.0		100	10YR8/2灰白色		
95	土師器 皿S	1区	土坑176	11.0	2.0		100	10YR8/1灰白色		
96	土師器 皿S	1区	土坑176	11.0	1.9		100	10YR8/1灰白色		
97	土師器 皿S	1区	土坑176	11.3	2.0		100	10YR8/2灰白色		
98	土師器 皿S	1区	土坑176	13.5	2.2		100	10YR8/1灰白色		
99	土師器 皿S	1区	土坑176	13.5	2.0		60	10YR8/2灰白色		
100	土師器 皿S	1区	土坑176	14.3	2.0		40	2.5YR8/2灰白色		
101	土師器 皿S	1区	土坑176	14.5	2.0		40	10YR8/2灰白色		
102	土師器 皿S	1区	土坑176	14.9	2.4		100	10YR8/2灰白色		
103	土師器 皿S	1区	土坑176	14.9	2.3		80	10YR8/2灰白色		
104	土師器 皿Sb	2区	溝37	9.1	1.7		60	10YR8/3浅黄橙色		
105	土師器 皿S	2区	溝37	9.9	1.8		50	2.5YR8/2灰白色		

付表4 出土土器一覧表4

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
106	土師器 皿S	2区	溝37	10.1	2.0		60	2.5Y8/2灰白色		
107	土師器 皿S	2区	溝37	12.5	1.9		40	10YR8/3浅黄橙色		
108	土師器 皿Sb	2区	溝38	6.8	1.3		50	2.5Y8/2灰白色		
109	土師器 皿Sb	2区	溝38	7.6	1.2		50	10YR8/3浅黄橙色		
110	土師器 皿S	2区	溝38	11.5	2.0		60	7.5YR7/6橙色		
111	土師器 皿S	2区	溝38	12.4	2.0		25	10YR8/3浅黄橙色		
112	土師器 皿S	2区	溝38	12.5	2.0		15	10YR8/3浅黄橙色		
113	土師器 皿S	2区	溝38	15.0	2.3		10	10YR8/3浅黄橙色		
114	土師器 皿Sb	2区	土坑87	8.7	2.0		35	7.5YR8/5浅黄橙色		
115	土師器 皿Sb	2区	土坑87	8.6	1.7		50	7.5YR8/4浅黄橙色		
116	土師器 皿S	2区	土坑87	11.5	2.1		90	10YR8/3浅黄橙色		
117	施釉陶器 おろし目皿	2区	土坑87	13.0	4.6		35	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	美濃	
118	土師器 皿Nr	2区	土坑100	5.8	1.2		35	10YR8/3浅黄橙色		
119	土師器 皿Nr	2区	土坑100	6.0	1.2		50	10YR8/4浅黄橙色		
120	土師器 皿Sb	2区	土坑100	8.3	1.7		65	10YR8/3浅黄橙色		
121	土師器 皿Sb	2区	土坑100	8.5	1.6		50	10YR8/2灰白色		炭化物付着
122	土師器 皿Sb	2区	土坑100	8.6	1.8		90	10YR8/2灰白色		
123	土師器 皿Sb	2区	土坑100	8.7	1.9		90	10YR8/2灰白色		
124	土師器 皿S	2区	土坑100	9.6	2.0		65	10YR8/3浅黄橙色		
125	土師器 皿S	2区	土坑100	9.6	1.9		90	10YR8/1灰白色		炭化物付着
126	土師器 皿S	2区	土坑100	9.7	2.1		80	10YR8/3浅黄橙色		
127	土師器 皿S	2区	土坑100	9.8	2.1		100	10YR8/3浅黄橙色		炭化物付着
128	土師器 皿S	2区	土坑100	12.0	2.0		50	10YR8/3浅黄橙色		
129	土師器 皿S	2区	土坑100	12.1	1.9		100	10YR8/2灰白色		炭化物付着
130	土師器 皿S	2区	土坑100	12.4	2.4		25	2.5Y8/1灰白色		
131	土師器 皿S	2区	土坑100	14.0	2.2		50	10YR8/3浅黄橙色		
132	土師器 盤	2区	土坑100	23.1	(3.3)		15	10YR8/2灰白色		
133	土師器 皿Nr	1区	土坑65	5.3	1.3		100	10YR7/4にぶい黄橙色		
134	土師器 皿Nr	1区	土坑65	5.7	1.2		100	10YR7/3にぶい黄橙色		
135	土師器 皿Nr	1区	土坑65	6.7	1.6		50	10YR7/4にぶい黄橙色		
136	土師器 皿Sb	1区	土坑65	9.7	2.0		100	7.5YR7/4にぶい橙色		
137	土師器 皿Sb	1区	土坑65	9.8	2.0		100	7.5YR8/4浅黄橙色		
138	土師器 皿S	1区	土坑65	10.2	2.1		30	7.5YR7/4にぶい橙色		炭化物付着
139	土師器 皿S	1区	土坑65	10.7	2.2		80	7.5YR8/4浅黄橙色		
140	土師器 皿S	1区	土坑65	11.1	2.2		99	7.5YR7/4にぶい橙色		炭化物付着

付表5 出土土器一覧表5

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
141	土師器 皿S	1区	土坑65	11.2	2.1		100	7.5YR7/4にぶい橙色		
142	土師器 皿S	1区	土坑65	11.3	2.4		55	7.5YR7/6橙色		
143	土師器 皿S	1区	土坑65	12.1	2.3		100	7.5YR8/6浅黄橙色		
144	土師器 皿S	1区	土坑65	12.4	2.4		99	7.5YR8/6浅黄橙色		
145	土師器 皿S	1区	土坑65	12.6	2.1		90	7.5YR8/3浅黄橙色		
146	土師器 皿S	1区	土坑65	13.2	2.3		50	7.5YR7/6橙色		
147	土師器 皿S	1区	土坑65	14.8	2.3		75	7.5YR8/4浅黄橙色		
148	土師器 小壺	1区	土坑65	2.0	(2.4)		65	2.5Y8/2灰白色		
149	土師器 小壺	1区	土坑65	2.6	3.0		50	2.5Y8/2灰白色		
150	土師器 焼塩壺蓋	1区	土坑65	6.4	1.9		100	10YR7/3にぶい黄橙色		
151	土師器 焼塩壺蓋	1区	土坑65	6.3	2.2		100	2.5Y6/6橙色		外面に黒斑
152	土師器 焼塩壺	1区	土坑65	5.2	8.5	4.4	100	7.5YR7/4にぶい橙色		
153	土師器 焼塩壺	1区	土坑65	5.3	8.8	5.0	100	5YR7/6橙色		
154	土師器 焙烙	1区	土坑65	30.0	(9.0)		90	7.5YR6/4にぶい橙色		
155	土師器 焙烙	1区	土坑65	31.8	(9.2)		35	2.5Y7/2灰黄色		
156	施釉陶器 灯明皿	1区	土坑65	8.7	3.0	4.9	35	胎土 10YR6/1褐灰色 釉 7.5YR4/4褐色	美濃	
157	施釉陶器 小杯	1区	土坑65	5.9	2.6	1.6	50	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 7.5YR4/4褐色	美濃	
158	施釉陶器 小杯	1区	土坑65	7.5	3.1	3.3	50	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y8/3淡黄色	美濃	
159	施釉陶器 小杯	1区	土坑65	7.8	2.9	4.0	35	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	
160	施釉陶器 椀	1区	土坑65	9.4	6.5	3.9	15	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	
161	施釉陶器 椀	1区	土坑65	11.7	6.2	3.4	35	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	
162	施釉陶器 椀	1区	土坑65	12.8	8.2	5.5	10	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/3淡黄色	美濃	
163	施釉陶器 椀	1区	土坑65	11.4	(6.6)		50	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 7.5YR4/4褐色	美濃	鉄釉
164	施釉陶器 丸皿	1区	土坑65	9.7	2.1	4.4	25	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y6/4にぶい黄色	美濃	
165	施釉陶器 丸皿	1区	土坑65	11.2	2.7	5.6	60	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5Y8/1灰白色	美濃	
166	施釉陶器 丸皿	1区	土坑65	11.8	2.6	6.2	100	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	
167	施釉陶器 丸皿	1区	土坑65	11.8	2.6	6.4	100	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	
168	施釉陶器 丸皿	1区	土坑65	12.2	2.5	6.6	90	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	
169	施釉陶器 皿	1区	土坑65	12.2	2.7	7.0	60	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	長石釉・鉄絵
170	施釉陶器 皿	1区	土坑65	12.6	2.6	6.9	90	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	長石釉・鉄絵
171	施釉陶器 菊皿	1区	土坑65	11.7	3.1	6.0	100	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y8/2灰白色	美濃	
172	施釉陶器 菊皿	1区	土坑65	12.3	2.5	6.5	100	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	
173	施釉陶器 折縁ソギ皿	1区	土坑65	10.7	2.3	5.0	25	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y6/4オリブ黄色	美濃	
174	施釉陶器 中皿	1区	土坑65	15.9	(2.9)		20	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y8/2灰白色	美濃	
175	施釉陶器 向付	1区	土坑65	11.2	7.4	7.6	85	胎土 10YR8/2灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	志野

付表6 出土土器一覧表6

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
176	施釉陶器 向付	1区	土坑65	12.0	7.0	7.5	80	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	志野
177	施釉陶器 向付	1区	土坑65	9.2	(6.2)		25	胎土 10YR7/1灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	黄瀬戸
178	施釉陶器 向付	1区	土坑65	9.9	6.0	4.6	80	胎土 10YR7/2褐灰色 釉 7.5Y5/3灰オリーブ色	美濃	黄瀬戸 墨書あり
179	施釉陶器 大鉢	1区	土坑65	18.5	4.6	10.8	60	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5Y8/3オリーブ黄色	美濃	黄瀬戸 墨書あり
180	施釉陶器 小杯	1区	土坑65	7.6	4.5	2.8	15	胎土 2.5Y8/3淡黄色 釉 10YR7/1灰白色	唐津	
181	施釉陶器 椀	1区	土坑65	10.8	5.9	4.1	60	胎土 5Y6/1灰色 釉 5Y6/2オリーブ色	唐津	
182	施釉陶器 天日椀	1区	土坑65	11.0	6.2	3.9	35	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 7.5Y2/2オリーブ黒色	唐津	
183	施釉陶器 皿	1区	土坑65	11.9	3.7	4.5	60	胎土 10YR7/2にぶい黄橙色 釉 2.5Y6/2灰黄色	唐津	
184	施釉陶器 皿	1区	土坑65	12.1	3.3	4.0	60	胎土 7.5YR8/6浅黄橙色 釉 7.5YR6/4にぶい橙色	唐津	
185	施釉陶器 皿	1区	土坑65	11.6	3.4	3.3	100	胎土 10YR7/4にぶい黄橙色 釉 2.5Y6/1黄灰色	唐津	
186	施釉陶器 皿	1区	土坑65	11.7	3.7	3.2	40	胎土 10YR7/3にぶい黄橙色 釉 5Y6/1灰色	唐津	絵唐津
187	施釉陶器 皿	1区	土坑65	12.0	3.6	3.5	40	胎土 2.5Y7/2灰黄色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	唐津	絵唐津
188	施釉陶器 皿	1区	土坑65	12.6	4.0	3.8	60	胎土 10YR7/3にぶい黄橙色 釉 5Y5/2灰オリーブ色	唐津	絵唐津
189	施釉陶器 皿	1区	土坑65	11.9	3.7	3.5	100	胎土 10YR7/2にぶい黄橙色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	唐津	絵唐津
190	施釉陶器 皿	1区	土坑65	11.7	3.7	3.8	40	胎土 2.5Y7/3浅黄色 釉 2.5Y7/3浅黄色	唐津	絵唐津
191	施釉陶器 皿	1区	土坑65	12.4	3.7	3.4	80	胎土 2.5Y8/3浅黄色 釉 2.5Y7/3浅黄色	唐津	絵唐津
192	施釉陶器 皿	1区	土坑65	11.8	3.7	3.5	80	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	唐津	絵唐津
193	施釉陶器 片口鉢	1区	土坑65	12.3	6.4	6.0	25	胎土 5Y7/1灰白色 釉 5Y6/3オリーブ黄色	唐津	
194	施釉陶器 小壺	1区	土坑65	(4.0)	(7.5)	4.9	50	胎土 5YR5/3にぶい赤褐色 釉 5Y3/2オリーブ黒色	唐津	
195	軟質施釉陶器 香炉	1区	土坑65	(7.0)	(2.4)	3.5	20	胎土 5YR7/6橙色 釉 2.5Y8/3淡黄色	京都	京焼
196	軟質施釉陶器 水滴	1区	土坑65	0.8	(5.0)		20	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 5Y8/1灰白色	京都	京焼
197	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑65	31.9	16.7	14.7	100	2.5YR4/3にぶい赤褐色	信楽	
198	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑65	32.3	13.7	14.0	20	7.5YR5/3にぶい褐色	丹波	
199	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑65	34.7	15.9	14.0	80	5YR3/2暗赤褐色	丹波	
200	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑65	38.4	16.9	15.6	90	2.5YR6/6橙色	丹波	
201	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑65	29.6	12.7	11.6	100	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 10R4/3赤褐色	備前	
202	焼締陶器 盤	1区	土坑65	38.0	7.2	14.7	10	2.5YR5/3にぶい赤褐色	備前	
203	青花 小杯	1区	土坑65	6.8	4.0	2.5	80	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
204	青花 椀	1区	土坑65	(10.5)	(4.6)	4.6	30	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
205	青花 皿	1区	土坑65	11.9	2.7	7.0	35	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
206	青花 椀	1区	土坑65	12.4	5.8	4.3	50	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	ベトナム	
207	瑠璃釉 壺	1区	土坑65	(7.1)	(8.8) ⁺ (2.2)	8.0	20	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
208	白磁 皿	1区	土坑65	12.3	3.1	6.4	50	胎土 N8/灰白色 釉 5Y7/1灰白色	中国	
209	施釉陶器 椀	1区	土坑65	(11.4)	(3.5)	4.6	小片	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 2.5Y5/2暗灰黄色	朝鮮	
210	土師器 皿Nr	1区	土坑127	5.8	1.1		90	10YR7/3にぶい黄橙色		

付表7 出土土器一覧表7

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
211	土師器 皿Nr	1区	土坑127	6.6	1.6		90	10YR7/3にぶい黄橙色		
212	土師器 皿Nr	1区	土坑127	6.9	1.7		100	10YR8/4浅黄橙色		
213	土師器 皿S	1区	土坑127	10.8	2.2		98	7.5YR6/6橙色		
214	土師器 皿S	1区	土坑127	10.5	2.1		100	7.5YR7/6橙色		
215	土師器 皿S	1区	土坑127	10.6	2.2		100	7.5YR7/6橙色		
216	土師器 皿S	1区	土坑127	10.7	2.3		40	7.5YR7/6橙色		
217	土師器 皿S	1区	土坑127	11.2	2.0		30	7.5YR6/6橙色		
218	土師器 皿S	1区	土坑127	12.1	2.1		30	7.5YR7/6橙色		
219	土師器 皿S	1区	土坑127	12.3	2.3		80	7.5YR6/6橙色		5箇所黒変
220	土師器 皿S	1区	土坑127	12.5	2.2		95	7.5YR7/6橙色		
221	土師器 皿S	1区	土坑127	12.7	2.1		30	7.5YR7/4にぶい橙色		内面全体に赤変
222	土師器 焼塩壺蓋	1区	土坑127	6.5	2.0		100	10YR8/3浅黄橙色		
223	土製品 おはじき?	1区	土坑127	(長さ) 1.9	(幅) 1.9	(厚さ) 0.5	100	10YR8/2灰白色		土師器皿を円盤状に加工
224	瓦器 蓋	1区	土坑127	17.1	2.9		35	5Y4/1灰色		
225	瓦器 瓦灯部分	1区	土坑127	8.0	(6.3)		100	N3/暗灰色		
226	施釉陶器 灰釉丸皿	1区	土坑127	11.2	3.1	4.3	100	胎土 2.5Y7/2灰黄色 釉 5Y6/3オリーブ黄色	美濃	
227	施釉陶器 菊皿	1区	土坑127	12.2	2.4	7.8	80	胎土 2.5Y6/1黄灰色 釉 5Y7/1灰白色	美濃	長石釉
228	施釉陶器 菊皿	1区	土坑127	13.1	2.9	7.4	75	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	長石釉
229	施釉陶器 向付	1区	土坑127	11.6	7.6	8.0	50	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	志野
230	施釉陶器 鉢	1区	土坑127	23.5	6.2	11.3	10	胎土 5YR8/1灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	黄瀬戸 土坑113と接合
231	施釉陶器 小杯	1区	土坑127	7.8	4.7	3.6	80	胎土 2.5YR5/4にぶい黄褐色 釉 7.5Y4/2灰オリーブ色	唐津	
232	施釉陶器 皿	1区	土坑127	10.8	3.6	3.5	100	胎土 2.5Y6/1黄灰色 釉 7.5Y5/3灰オリーブ色	唐津	
233	施釉陶器 皿	1区	土坑127	10.6	3.2	3.6	75	胎土 5YR5/6明赤褐色 釉 2.5Y7/1灰白色	唐津	
234	焼締陶器 播鉢(小)	1区	土坑127	23.0	14.0	11.9	25	2.5YR5/6明赤褐色	信楽	
235	青花 碗	1区	土坑127	11.9	5.9	5.0	25	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
236	青花 皿	1区	土坑127	10.9	(2.4)		15	胎土 10YR8/2灰白色 釉 5Y7/1灰白色	中国	
237	土師器 皿Nr	1区	土坑12	5.5	1.3		100	10YR7/3にぶい黄橙色		
238	土師器 皿Nr	1区	土坑12	5.6	1.4		60	10YR7/2にぶい黄橙色		
239	土師器 皿Nr	1区	土坑12	5.9	1.3		80	10YR7/4にぶい黄橙色		
240	土師器 皿Nr	1区	土坑12	7.5	1.5		60	10YR7/3にぶい黄橙色		
241	土師器 皿Sb	1区	土坑12	9.5	2.2		10	7.5YR8/4浅黄橙色		
242	土師器 皿Sb	1区	土坑12	10.0	(2.0)		40	10YR8/3浅黄橙色		
243	土師器 皿Sb	1区	土坑12	10.1	1.9		30	7.5YR7/6橙色		
244	土師器 皿S	1区	土坑12	10.5	2.4		70	7.5YR7/4にぶい橙色		内面に炭化物付着
245	土師器 皿S	1区	土坑12	10.6	2.2		35	7.5YR7/4にぶい橙色		口縁部に炭化物付着

付表8 出土土器一覧表8

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
246	土師器 皿S	1区	土坑12	10.7	2.0		100	10YR8/4浅黄橙色		
247	土師器 皿S	1区	土坑12	11.0	2.1		100	7.5YR7/4こぶい橙色		口縁部に炭化物付着
248	土師器 皿S	1区	土坑12	11.0	2.0		30	10YR4/1褐灰色		
249	土師器 皿S	1区	土坑12	11.1	2.1		50	10YR8/4浅黄橙色		口縁部に炭化物付着
250	土師器 皿S	1区	土坑12	11.2	2.1		60	7.5YR7/4こぶい橙色		
251	土師器 皿S	1区	土坑12	11.3	2.2		30	7.5YR8/4浅黄橙色		口縁部に炭化物付着
252	土師器 皿S	1区	土坑12	12.0	2.5		90	7.5YR7/4こぶい橙色		口縁部に炭化物付着
253	土師器 皿S	1区	土坑12	12.2	2.1		40	7.5YR7/6橙色		口縁部に炭化物付着
254	土師器 皿S	1区	土坑12	12.3	2.1		30	7.5YR7/4こぶい橙色		
255	土師器 皿S	1区	土坑12	12.5	2.1		40	10YR7/6橙色		
256	土師器 皿S	1区	土坑12	13.5	2.1		40	7.5YR7/4こぶい橙色		
257	土師器 皿S	1区	土坑12	13.7	2.2		40	7.5YR7/6橙色		
258	土師器 皿S	1区	土坑12	(16.8)	(2.3)		25	7.5YR8/4浅黄橙色		
259	土師器 トリベ	1区	土坑12	6.0	2.4		100	7.5YR8/4浅黄橙色		
260	土師器 焼塩壺蓋	1区	土坑12	6.6	1.5		90	5YR6/8橙色		
261	土師器 焼塩壺蓋	1区	土坑12	7.3	2.0		100	10YR7/3こぶい黄橙色		
262	土師器 焼塩壺	1区	土坑12	5.7	8.9	4.6	100	5YR7/8橙色		
263	土師器 焼塩壺	1区	土坑12	5.5	9.8	4.8	100	5YR7/6橙色		
264	土師器 焼塩壺	1区	土坑12	4.6	(10.0)		60	5YR8/3橙色		
265	土師器 焙烙	1区	土坑12	29.5	(5.8)		小片	10YR8/3浅黄橙色		
266	瓦器 鍋	1区	土坑12	34.3	(4.5)		小片	10YR7/2こぶい黄橙色		
267	瓦器 蓋	1区	土坑12	19.9	2.3		15	N4/灰色		
268	瓦器 瓦燈	1区	土坑12	17.0	(7.5)	15.0	50	N3/暗灰色		
269	瓦器 鉢	1区	土坑12	30.5	(8.0)		20	N4/灰色(銀化)		
270	瓦器 鉢	1区	土坑12	30.7	11.3	9.8	25	N5/灰色		
271	施釉陶器 小杯	1区	土坑12	5.3	2.4	2.7	60	胎土 10YR7/2こぶい黄橙色 釉 10YR3/1黒褐色	美濃	
272	施釉陶器 椀	1区	土坑12	13.0	6.8	5.6	35	胎土 10YR8/2灰白色 釉 10YR8/1灰白色	美濃	志野
273	施釉陶器 椀	1区	土坑12	10.4	7.2	6.1	65	胎土 10YR8/2灰白色 釉 10YR8/1灰白色	美濃	絵志野
274	施釉陶器 天目椀	1区	土坑12	11.2	(5.4)		40	胎土 10YR8/4浅黄橙色 釉 7.5YR4/3褐色	美濃	
275	施釉陶器 天目椀	1区	土坑12	11.2	6.4		50	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 7.5YR3/4暗褐色	美濃	
276	施釉陶器 丸皿	1区	土坑12	10.1	2.0	5.7	35	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	美濃	
277	施釉陶器 丸皿	1区	土坑12	10.6	2.3	5.7	20	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	美濃	
278	施釉陶器 折縁皿	1区	土坑12	11.0	2.1	6.2	35	胎土 2.5Y6/1黄灰色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	美濃	
279	施釉陶器 折縁皿	1区	土坑12	10.7	1.9	5.5	90	胎土 10YR8/2灰白色 釉 7.5Y5/3灰オリーブ色	美濃	
280	施釉陶器 折縁ソギ皿	1区	土坑12	11.8	2.6	6.3	20	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	美濃	

付表9 出土土器一覧表9

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
281	施釉陶器 端反皿	1区	土坑12	10.8	2.5	5.9	40	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	
282	施釉陶器 端反皿	1区	土坑12	12.0	2.5	6.1	50	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y7/1灰白色	美濃	
283	施釉陶器 端反皿	1区	土坑12	12.7	3.1	6.4	15	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	
284	施釉陶器 皿	1区	土坑12	13.1	2.2	8.3	90	胎土 10YR8/1灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	
285	施釉陶器 菊皿	1区	土坑12	12.5	2.5	7.0	40	胎土 10YR8/3浅黄橙色 釉 5Y7/1灰白色	美濃	
286	施釉陶器 菊皿	1区	土坑12	12.4	2.8	7.3	60	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	
287	施釉陶器 向付	1区	土坑12	9.8	(5.3)		20	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	志野織部
288	施釉陶器 鉢	1区	土坑12	16.6	6.3	10.6	25	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y7/4浅黄色	美濃	黄瀬戸
289	施釉陶器 大皿	1区	土坑12	19.3	5.5	10.8	80	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5Y5/3灰オリーブ色	美濃	黄瀬戸
290	施釉陶器 小杯	1区	土坑12	6.9	4.5	3.5	35	胎土 2.5Y7/2灰黄色 釉 7.5Y7/2灰白色	唐津	
291	施釉陶器 椀	1区	土坑12	10.5	6.3	4.4	75	胎土 5YR5/4にぶい赤褐色 釉 5Y5/1灰色	唐津	
292	施釉陶器 椀	1区	土坑12	11.8	5.8	5.0	40	胎土 2.5Y7/2灰白色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	唐津	
293	施釉陶器 皿	1区	土坑12	9.9	2.5	3.8	90	胎土 5Y7/1灰白色 釉 7.5Y7/2灰白色 外 10YR7/3にぶい黄褐色	唐津	
294	施釉陶器 皿	1区	土坑12	10.1	3.6	3.6	50	胎土 10Y5/1灰色 釉 5Y5/3灰オリーブ色	唐津	
295	施釉陶器 皿	1区	土坑12	10.2	3.0	3.8	50	胎土 7.5Y7/1灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色 外 5YR5/4にぶい赤褐色	唐津	
296	施釉陶器 皿	1区	土坑12	11.0	3.0	3.7	65	胎土 7.5YR5/1褐灰色 釉 2.5Y7/4浅黄色	唐津	土坑113と接合
297	施釉陶器 皿	1区	土坑12	11.0	4.0	3.8	60	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	唐津	
298	施釉陶器 皿	1区	土坑12	11.3	2.6	3.5	25	胎土 7.5YR6/4にぶい橙色 釉 2.5Y7/1灰白色	唐津	
299	施釉陶器 皿	1区	土坑12	11.6	3.4	4.2	20	胎土 10YR6/2灰黄褐色 釉 10YR5/2灰黄褐色	唐津	
300	施釉陶器 水指	1区	土坑12	15.7	9.0	13.4	40	胎土 7.5YR6/4にぶい橙色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	高取	土坑113と接合
301	軟質施釉陶器 皿	1区	土坑12	15.7	1.8	7.7	35	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y7/6黄色	京都	京焼
302	施釉陶器 鉢もしくは甕	1区	土坑12		(10.9)	19.6	小片	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 5YR3/3暗赤褐色	信楽	
303	焼締陶器 播鉢(小)	1区	土坑12	26.1	13.4	12.6	80	2.5YR5/8明赤褐色	信楽	
304	焼締陶器 播鉢(大)	1区	土坑12	35.5	17.9	14.5	80	2.5Y5/6明赤褐色	信楽	
305	焼締陶器 播鉢	1区	土坑12	31.8	16.1	14.2	40	5YR6/6橙色	信楽	技法が丹波系
306	焼締陶器 播鉢	1区	土坑12	34.7	16.2	14.4	50	7.5YR4/2灰褐色	丹波	
307	焼締陶器 盤	1区	土坑12	35.0	(4.8)		小片	7.5YR5/4にぶい褐色	丹波	
308	施釉陶器 蓋	1区	土坑12	9.0	(3.6)		20	胎土 10YR7/1灰白色 釉 緑色(メタル)	中国	
309	青花 椀	1区	土坑12	8.8	4.7	4.2	35	白	中国	
310	青花 椀	1区	土坑12	11.2	5.2	4.4	35	白	中国	土坑113と接合
311	青花 椀	1区	土坑12	11.4	5.0		20	白	中国	
312	青花 皿	1区	土坑12			5.6	20	白	中国	見込みに「永楽通寶」 の文様
313	白磁 椀	1区	土坑12	14.3	4.9	6.0	40	N8/灰白色 7.5GY8/1明緑灰色	中国	
314	土師器 皿Nr	1区	土坑113	5.7	1.4		100	10YR7/4にぶい黄褐色		
315	土師器 皿Nr	1区	土坑113	6.4	1.4		65	10YR7/4にぶい黄褐色		

付表10 出土土器一覧表10

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
316	土師器 皿Nr	1区	土坑113	7.0	1.5		100	10YR7/4にぶい黄橙色		
317	土師器 皿Sb	1区	土坑113	9.5	2.0		50	7.5YR7/6橙色		
318	土師器 皿Sb	1区	土坑113	9.6	2.2		50	7.5YR7/6橙色		
319	土師器 皿Sb	1区	土坑113	9.7	1.9		40	7.5YR7/4にぶい橙色		
320	土師器 皿S	1区	土坑113	10.2	2.1		30	7.5YR7/4にぶい橙色		
321	土師器 皿S	1区	土坑113	10.5	2.3		30	7.5YR7/6橙色		
322	土師器 皿S	1区	土坑113	10.4	2.1		30	7.5YR7/4にぶい橙色		
323	土師器 皿S	1区	土坑113	10.7	2.2		99	10YR8/4浅黄橙色		
324	土師器 皿S	1区	土坑113	10.8	2.2		40	7.5YR7/6橙色		
325	土師器 皿S	1区	土坑113	10.7	(2.2)		40	7.5YR7/4にぶい橙色		内面が黒変
326	土師器 皿S	1区	土坑113	11.0	2.0		50	7.5YR7/4にぶい橙色		口縁部に炭化物付着
327	土師器 皿S	1区	土坑113	11.1	2.0		70	10YR7/4にぶい黄橙色		口縁部に炭化物付着
328	土師器 皿S	1区	土坑113	11.2	2.3		60	7.5YR7/6橙色		口縁部に炭化物付着
329	土師器 皿S	1区	土坑113	11.4	(2.0)		60	10YR7/4にぶい黄橙色		口縁部に炭化物付着
330	土師器 皿S	1区	土坑113	11.5	2.5		40	10YR7/4にぶい黄橙色		内外面が黒変
331	土師器 皿S	1区	土坑113	11.6	2.3		60	10YR7/4にぶい黄橙色		内外面が黒変
332	土師器 皿S	1区	土坑113	11.9	2.0		40	7.5YR3/1黒褐色		
333	土師器 皿S	1区	土坑113	12.0	2.2		40	10YR7/4にぶい黄橙色		
334	土師器 皿S	1区	土坑113	12.5	2.3		50	7.5YR7/6橙色		
335	土師器 皿S	1区	土坑113	12.5	1.9		40	7.5YR7/4にぶい橙色		
336	土師器 皿S	1区	土坑113	12.6	2.3		40	10YR7/4にぶい黄橙色		
337	土師器 皿S	1区	土坑113	12.7	2.3		50	7.5YR7/4にぶい橙色		
338	土師器 皿S	1区	土坑113	17.2	2.2		60	7.5YR8/4浅黄橙色		
339	土師器 焙烙	1区	土坑113	30.7	(7.2)		小片	10YR8/3浅黄橙色		
340	瓦器 火鉢	1区	土坑113	(26.8)	(12.9)	25.0	小片	N3/暗灰色		
341	瓦器 鉢	1区	土坑113	41.8	(21.0)		20	N4/灰色		
342	瓦器 鉢	1区	土坑113	44.6	19.6	16.0	25	N3/暗灰色		銀色を呈する
343	施釉陶器 小杯	1区	土坑113	6.4	4.1	4.8	50	胎土 10YR8/2灰白色 釉 10YR8/1灰白色	美濃	志野
344	施釉陶器 天目小椀	1区	土坑113	8.2	3.6		20	胎土 2.5Y7/2灰黄色 釉 2.5Y2/1黒色	美濃	
345	施釉陶器 茶椀	1区	土坑113	10.0	7.5	5.6	50	胎土 7.5YR8/2灰白色 釉 7.5YR3/2明赤褐色	美濃	鉄釉 土坑12と接合
346	施釉陶器 天目椀	1区	土坑113	10.9	5.9	3.4	65	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5YR4/3褐色	美濃	土坑120・65と接合
347	施釉陶器 皿	1区	土坑113	9.8	2.0	5.6	65	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	灰釉
348	施釉陶器 折縁皿	1区	土坑113	11.2	2.4	5.1	90	胎土 10YR7/2にぶい黄橙色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	美濃	灰釉
349	施釉陶器 折縁ノギ皿	1区	土坑113	10.7	2.1	5.4	15	胎土 10YR7/1灰白色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	美濃	灰釉
350	施釉陶器 皿	1区	土坑113	10.8	2.3	6.3	35	胎土 5Y8/1灰白色 釉 7.5Y8/1灰白色	美濃	

付表11 出土土器一覧表11

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
351	施釉陶器 皿	1区	土坑113	12.6	3.0	7.0	60	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	長石釉
352	施釉陶器 菊皿	1区	土坑113	11.5	2.7	6.0	90	胎土 5Y8/1灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	長石釉・火色
353	施釉陶器 向付	1区	土坑113	9.4 (対角10.5)	5.9	7.1	80	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5Y5/3灰オリーブ色	美濃	黄瀬戸
354	施釉陶器 向付	1区	土坑113	16.4	7.1	13.6	15	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	志野 土坑127と接合
355	施釉陶器 向付	1区	土坑113	11.5	7.2	7.7	90	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	志野
356	施釉陶器 椀	1区	土坑113	14.9	(4.5)		小片	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y7/1灰白色	唐津	瀬戸唐津
357	施釉陶器 椀	1区	土坑113	10.9	7.0	4.6	40	胎土 5YR6/6橙色 釉 5YR7/3こぶい橙色	唐津	
358	施釉陶器 天目椀	1区	土坑113	12.3	6.8	4.0	35	胎土 10R4/4赤褐色 釉 N6/灰色	唐津	
359	施釉陶器 皿	1区	土坑113	10.2	3.7	5.1	10	胎土 2.5Y8/4淡黄色 釉 5Y6/3オリーブ黄色	唐津	
360	施釉陶器 皿	1区	土坑113	10.2	3.3	3.5	10	胎土 7.5YR8/2灰白色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	唐津	
361	施釉陶器 皿	1区	土坑113	11.8	3.2	3.8	80	胎土 5Y7/1灰白色 釉 5Y5/1灰色	唐津	
362	施釉陶器 皿	1区	土坑113	11.6	3.5	4.8	65	胎土 5YR7/6橙色 釉 7.5Y6/3灰オリーブ黄色	唐津	
363	施釉陶器 向付	1区	土坑113	12.5	4.2	4.6	40	胎土 7.5YR7/4こぶい橙色 釉 5Y6/1灰色	唐津	絵唐津
364	軟質施釉陶器	1区	土坑113		(2.1)	3.5	小片	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5Y7/4淡黄色 内面5Y3/2オリーブ黒色	京都	京焼
365	焼締陶器 播鉢	1区	土坑113	26.9	13.5	13.4	75	2.5YR5/6明赤褐色	信楽	
366	焼締陶器 播鉢	1区	土坑113	32.1	16.4	15.0	15	2.5YR5/6明赤褐色	信楽	
367	焼締陶器 盤	1区	土坑113	33.5	(6.4)		小片	5YR4/4こぶい赤褐色	丹波	
368	施釉陶器 甕	1区	土坑113	11.8	(5.7)		15	2.5YR4/4こぶい赤褐色	備前	
369	焼締陶器 鉢	1区	土坑113	19.6	8.3	18.8	25	7.5YR5/4こぶい褐色	備前	
370	焼締陶器 甕	1区	土坑113	45.6	(7.8)		小片	5YR5/3こぶい赤褐色	備前	
371	白磁 皿	1区	土坑113	10.9	2.6	6.0	25	白	中国	
372	白磁 皿	1区	土坑113	17.8	3.8		35	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5Y8/1灰白色	朝鮮	土坑12と接合
373	土師器 皿Nr	1区	土坑60	5.5	1.1		65	10YR7/4こぶい黄橙色		
374	土師器 皿Nr	1区	土坑60	5.8	1.1		65	10YR7/3こぶい黄橙色		
375	土師器 皿Nr	1区	土坑60	6.8	1.6		35	10YR7/3こぶい黄橙色		
376	土師器 皿Sb	1区	土坑60	10.0	2.0		40	7.5YR7/6橙色		
377	土師器 皿Sb	1区	土坑60	9.7	2.2		30	7.5YR7/6橙色		
378	土師器 皿Sb	1区	土坑60	10.1	2.1		60	7.5YR7/4こぶい橙色		
379	土師器 皿S	1区	土坑60	10.8	2.4		65	7.5YR7/4こぶい橙色		外面底部に黒斑
380	土師器 皿S	1区	土坑60	11.2	2.1		50	7.5YR7/4こぶい橙色		
381	土師器 皿S	1区	土坑60	11.3	1.9		30	10YR8/4浅黄橙色		
382	土師器 皿S	1区	土坑60	11.4	2.1		40	10YR7/3こぶい黄橙色		
383	土師器 皿S	1区	土坑60	11.5	2.2		80	10YR7/4こぶい黄橙色		
384	土師器 皿S	1区	土坑60	11.7	2.2		40	7.5YR7/4こぶい橙色		
385	土師器 皿S	1区	土坑60	11.6	1.9		65	10YR7/4こぶい黄橙色		

付表12 出土土器一覧表12

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
386	土師器 皿S	1区	土坑60	11.5	2.3		35	7.5YR7/6橙色		外面底部に黒斑
387	土師器 皿S	1区	土坑60	12.4	2.3		70	10YR7/4にぶい黄橙色		
388	土師器 皿S	1区	土坑60	12.6	2.2		90	10YR7/4にぶい黄橙色		
389	土師器 皿S	1区	土坑60	13.0	2.1		40	7.5YR7/4にぶい橙色		
390	土師器 皿S	1区	土坑60	22.2	3.0		10	7.5YR7/4にぶい橙色		
391	土師器 トリベ	1区	土坑60	8.7	2.8		25	10YR8/4浅黄橙色		
392	土師器 焙烙	1区	土坑60	31.5	9.2		15	10YR7/3にぶい黄橙色		
393	施釉陶器 小杯	1区	土坑60	6.4	4.0	2.5	65	胎土 8Y7/1灰白色 釉 7.5Y5/3灰オリーブ色	美濃	灰釉
394	施釉陶器 天目椀	1区	土坑60	11.2	(6.6)		20	胎土 5Y8/1灰白色 釉 7.5Y4/4褐色	美濃	やや新しい時期
395	施釉陶器 皿	1区	土坑60	12.1	(2.4)	6.7	95	胎土 10YR7/1灰白色 釉 5Y7/1灰白色	美濃	長石釉
396	施釉陶器 皿	1区	土坑60	11.7	2.6	6.4	95	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	長石釉
397	施釉陶器 菊皿	1区	土坑60	11.7	2.7	6.3	50	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5Y7/1灰白色	美濃	長石釉
398	施釉陶器 皿	1区	土坑60	13.2	4.3	5.5	15	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5Y6/3オリーブ黄色	美濃	灰釉 やや新しい時期
399	施釉陶器 向付	1区	土坑60	8.1	8.7	6.4	65	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 7.5Y7/1灰白色	美濃	灰志野
400	施釉陶器 向付	1区	土坑60	13.3	5.8		25	胎土 10YR7/4にぶい黄橙色 釉 7.5Y4/2灰オリーブ色	美濃	美濃唐津 内面に鉄絵 やや新しい時期
401	施釉陶器 椀	1区	土坑60	9.9	5.3	3.8	90	胎土 10YR7/3にぶい黄橙色 釉 10YR6/4にぶい黄橙色	唐津	
402	施釉陶器 椀	1区	土坑60	(12.8)	(7.8)	5.7	20	胎土 2.5Y6/1黄灰色 釉 2.5Y6/1黄灰色	唐津	
403	施釉陶器 椀	1区	土坑60	12.7	7.8	4.3	60	胎土 2.5Y7/3浅黄色 釉 2.5Y7/3灰黄色	唐津	
404	施釉陶器 椀	1区	土坑60	10.8	6.0		35	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 2.5Y6/1黄灰色	唐津	やや新しい時期
405	施釉陶器 椀	1区	土坑60	11.6	4.9	4.0	20	胎土 5YR5/3にぶい赤褐色鉄 釉 5YR3/2暗赤褐色 釉 10Y4/1灰	唐津	やや新しい時期
406	施釉陶器 椀	1区	土坑60		(4.0)		小片	胎土 2.5Y3/1黒褐色 釉 2.5Y4/1黄灰色	唐津	刷毛目
407	施釉陶器 杓茶椀	1区	土坑60	7.3	6.1	5.3	35	胎土 7.5YR5/3にぶい褐色 釉 N8/灰白色	高取	
408	施釉陶器 皿	1区	土坑60	10.4	3.4	3.3	40	胎土 10YR6/3にぶい黄橙色 釉 7.5Y4/2灰オリーブ色	唐津	
409	施釉陶器 皿	1区	土坑60	12.2	3.9	3.7	90	胎土 5Y7/1灰白色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	唐津	
410	施釉陶器 皿	1区	土坑60	12.8	3.6	4.8	80	胎土 7.5Y7/1灰白色 釉 2.5GY7/1明オリーブ灰色	唐津	やや新しい時期
411	施釉陶器 向付	1区	土坑60	11.6	4.1	4.0	50	胎土 10YR6/4にぶい黄橙色 釉 2.5Y5/2暗灰黄色	唐津	絵唐津
412	施釉陶器 向付	1区	土坑60	12.2	4.5	4.3	90	胎土 10YR7/2にぶい黄橙色 釉 2.5Y5/2暗灰黄色	唐津	絵唐津
413	施釉陶器 向付	1区	土坑60	(14.0)	(3.9)	4.8	25	胎土 7.5YR6/3にぶい褐色 釉 5Y5/1灰色	唐津	絵唐津
414	軟質施釉陶器 皿	1区	土坑60	17.8	(2.3)		10	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	京都	京焼
415	焼締陶器 水指	1区	土坑60	(23.1)	(18.0)	19.1	40	2.5Y8/1灰白色	信楽	
416	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑60	28.0	13.2		80	2.5YR6/6橙色	信楽	
417	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑60	6.4	15.9	14.8	25	5YR5/4にぶい黄褐色	信楽	技法が丹波系
418	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑60	34.8	15.4	14.4	100	5YR5/6明赤褐色	丹波	線刻「二」
419	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑60	34.0	(9.7)		小片	5YR4/3にぶい赤褐色	丹波	線刻「二」
420	焼締陶器 搦鉢	1区	土坑60	42.4	(10.6)		小片	5YR5/3にぶい赤褐色	丹波	線刻「卅」

付表13 出土土器一覽表13

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
421	焼締陶器 盤	1区	土坑60	36.3	8.1	26.8	50	10YR5/2灰黄褐色	丹波	
422	焼締陶器 甕	1区	土坑60	55.6		17.5	40	10R4/6赤色	信楽	上下分離
423	青花 椀	1区	土坑60	13.8	4.5	4.6	40	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
424	青花 皿	1区	土坑60	13.9	2.7	7.1	20	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
425	土師器 皿Sb	1区	土坑69	8.8	1.5		50	10YR8/2灰白色		
426	土師器 皿S	1区	土坑69	10.0	1.8		40	10YR7/3にぶい黄橙色		
427	土師器 皿S	1区	土坑69	12.1	1.9		80	10YR8/4浅黄橙色		
428	瓦器 鉢	1区	土坑69	23.6	9.7	10.2	25	N3/暗灰色		銀白色を呈する
429	施釉陶器 大皿	1区	土坑69	35.0	9.1	9.3	35	胎土 7.5YR7/4にぶい橙色 釉 10YR6/4にぶい黄橙色	唐津	
430	土師器 皿Nr	1区	土坑110	6.8	1.5		100	10YR7/3にぶい黄橙色		
431	土師器 皿Sb	1区	土坑110	9.6	2.1		50	7.5YR8/3浅黄橙色		
432	瓦器 香炉	1区	土坑110	11.8	(4.4)		25	N3/暗灰色		
433	瓦器 鉢	1区	土坑110	33.6	13.8	11.4	60	2.5Y7/1灰白色		銀白色を呈する
434	瓦器 鉢	1区	土坑110	37.3	14.9	14.6	80	N3/暗灰色		銀白色を呈する
435	施釉陶器 天目椀	1区	土坑110	11.9	(4.9)		35	胎土 10YR8/1灰白色 釉 7.5YR4/4褐色	美濃	
436	土師器 小椀	1区	土坑115	4.6	(1.9)		20	5YR7/6橙色		
437	土師器 皿Sb	1区	土坑115	9.9	2.0		100	5YR7/6橙色		
438	土師器 皿S	1区	土坑115	10.8	2.2		25	7.5YR8/4浅黄橙色		口縁部に炭化物付着
439	土師器 皿S	1区	土坑115	11.0	2.2		25	7.5YR8/4浅黄橙色		
440	土師器 皿S	1区	土坑115	11.3	2.2		25	7.5YR8/4浅黄橙色		
441	土師器 皿S	1区	土坑115	11.9	2.0		15	7.5YR7/6橙色		口縁部に炭化物付着
442	土師器 皿S	1区	土坑115	14.0	(2.1)		20	7.5YR5/2灰褐色		
443	土師器 皿S	1区	土坑115	(24.0)	(2.7)		小片	7.5YR8/4浅黄橙色		
444	土師器 焼塩壺	1区	土坑115	5.8	9.5		100	5YR7/6橙色		
445	土師器 焙烙	1区	土坑115	29.0	(7.3)		40	5YR7/3にぶい褐色		
446	施釉陶器 椀	1区	土坑115	9.5	(5.3)		20	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	長石釉
447	施釉陶器 天目椀	1区	土坑115	10.6	7.3	3.1	60	胎土 2.5Y6/1黄灰色 釉 7.5Y2/1黒色	美濃	
448	施釉陶器 皿	1区	土坑115	10.6	2.0		20	胎土 5Y8/2灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	
449	施釉陶器 皿	1区	土坑115	11.7	2.8	6.4	25	胎土 2.5Y8/3淡黄色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	長石釉
450	施釉陶器 小鉢	1区	土坑115	6.3	2.4	3.4	80	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	
451	施釉陶器 小鉢	1区	土坑115	8.9	2.6	4.6	35	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	志野
452	施釉陶器 小杯	1区	土坑115	7.0	4.4	2.6	100	胎土 10YR8/4浅黄橙色 釉 10YR7/3にぶい黄橙色	唐津	
453	施釉陶器 椀	1区	土坑115	11.4	5.6	5.2	40	胎土 10YR7/2にぶい黄橙色 釉 2.5Y6/2灰黄色	唐津	
454	施釉陶器 皿	1区	土坑115	10.7	3.6	3.7	80	胎土 2.5Y7/2灰黄色 釉 5Y7/1灰白色	唐津	
455	施釉陶器 皿	1区	土坑115	12.1	3.8	3.4	90	胎土 10YR7/4にぶい黄橙色 釉 7.5YR7/2明褐灰色	唐津	

付表14 出土土器一覧表14

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
456	施釉陶器 皿	1区	土坑115	12.2	3.8	3.1	60	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 7.5Y6/2灰オリーブ色	唐津	
457	施釉陶器 皿	1区	土坑115	13.0	3.6	4.8	100	胎土 5YR6/6橙色 釉 2.5Y7/1白灰色	唐津	絵唐津
458	施釉陶器 皿	1区	土坑115	13.1	3.7	3.5	60	胎土 7.5YR7/4にぶい橙色 釉 7.5YR6/3にぶい褐色	唐津	絵唐津
459	施釉陶器 皿	1区	土坑115	13.4	(3.7)	4.5	100	胎土 10YR6/3にぶい黄橙色 釉 5Y5/1灰色	唐津	絵唐津
460	施釉陶器 壺	1区	土坑115	3.0	(7.6)		小片	胎土 7.5YR4/2灰褐色	備前	
461	青花 椀	1区	土坑115	11.5	4.4		40	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
462	青花 皿	1区	土坑115	(12.1)	5.5	5.3	40	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
463	赤絵 皿	1区	土坑115	24.8			15	胎土 10YR8/3浅黄橙色 釉 10YR7/2にぶい黄橙色	中国	
464	土師器 皿Nr	1区	土坑116	5.5	1.0		100	2.5YR7/3浅黄色		
465	土師器 皿Nr	1区	土坑116	5.9	1.3		100	10YR7/2にぶい黄橙色		
466	土師器 皿S	1区	土坑116	10.9	2.1		40	7.5YR8/4浅黄橙色		
467	土師器 皿S	1区	土坑116	11.5	2.2		40	10YR7/3にぶい黄橙色		全体が黒変
468	土師器 皿S	1区	土坑116	12.9	2.1		35	7.5YR8/4浅黄橙色		
469	土師器 皿S	1区	土坑116	12.9	2.1		65	10YR7/3にぶい黄橙色		全体が黒変
470	瓦器 鉢	1区	土坑116	23.0	(9.4)	9.3	25	N4/灰色		
471	施釉陶器 皿	1区	土坑116	10.0	10.0	5.5	35	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	
472	施釉陶器 椀	1区	土坑116	11.6	11.6	4.3	50	胎土 2.5Y7/3浅黄色 釉 5Y6/4オリーブ黄色	唐津	
473	施釉陶器 向付	1区	土坑116	11.6	(4.4)		25	胎土 7.5YR5/4にぶい褐色 釉 5Y4/2灰オリーブ色	唐津	
474	土師器 皿Nr	1区	土坑120	4.8	1.1		100	10YR7/4にぶい黄橙色		
475	土師器 皿Nr	1区	土坑120	5.9	1.4		100	7.5YR7/4にぶい橙色		
476	土師器 皿Sb	1区	土坑120	9.2	2.2		100	10YR7/4にぶい黄橙色		全体が黒変
477	土師器 皿Sb	1区	土坑120	9.8	2.4		100	7.5YR7/6橙色		
478	土師器 皿S	1区	土坑120	9.8	2.3		25	10YR7/4にぶい黄橙色		全体が黒変
479	土師器 皿S	1区	土坑120	10.9	2.0		35	7.5YR7/4にぶい橙色		
480	土師器 皿S	1区	土坑120	11.9	2.4		25	7.5YR8/4浅黄橙色		
481	土師器 皿S	1区	土坑120	14.6	2.4		25	7.5YR7/6橙色		
482	土師器 焼塩壺蓋	1区	土坑120	7.7	2.4		50	5YR6/6橙色		
483	土師器 焼塩壺	1区	土坑120	5.4	8.5		70	7.5YR7/6橙色		
484	土師器 小壺	1区	土坑120	2.2	2.5		100	2.5Y8/2灰白色		
485	土製品 陰型	1区	土坑120	(長さ) 3.9	(幅) 2.8	(厚さ) 1.8	90	5Y8/2灰白色		用途不明
486	施釉陶器 小杯	1区	土坑120	(8.0)	(4.8)	4.0	20	胎土 2.5Y6/4にぶい黄色 釉 10Y7/2灰白色	美濃	
487	施釉陶器 天目椀	1区	土坑120	11.2	7.1	4.6	50	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 10YR3/2黒褐色	美濃	土坑65と接合
488	施釉陶器 天目椀	1区	土坑120	11.6	8.4	2.3	60	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y3/1黒褐色	美濃	
489	施釉陶器 天目椀	1区	土坑120	11.5	7.5	4.9	60	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 10YR2/3黒褐色	美濃	
490	施釉陶器 椀	1区	土坑120	12.3	7.0	4.6	20	胎土 7.5YR6/6橙色 釉 7.5YR6/4にぶい橙色	唐津	

付表15 出土土器一覧表15

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
491	施釉陶器 皿	1区	土坑120	12.8	4.2	5.4	80	胎土 5YR7/6橙色 釉 7.5YR7/1明褐色	唐津	
492	施釉陶器 大皿	1区	土坑120	(17.8)	(4.7)	6.8	小片	胎土 2.5Y7/2灰黄色 表面 2.5YR6/6橙色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	唐津	
493	施釉陶器 皿	1区	土坑120	12.2	3.4	4.6	70	胎土 2.5Y7/3浅黄色表面 5YR5/6明赤褐色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	唐津	絵唐津
494	施釉陶器 皿	1区	土坑120	13.1	2.7	4.4	70	胎土 N7/灰白色 表面 10YR6/4にぶい黄橙色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	唐津	絵唐津
495	軟質施釉陶器 香炉	1区	土坑120		(2.5)	5.6	小片	胎土 7.5YR8/4浅黄橙色 釉 N3/暗灰色	京都	京焼 獣足
496	焼締陶器 播鉢	1区	土坑120	27.7	12.0	11.8	25	5YR5/6明赤褐色	信楽	
497	青花 小杯	1区	土坑120	7.2	(4.4)		小片	N8/灰白色	中国	
498	土師器 皿S	1区	土坑125	10.7	2.3		50	7.5YR7/4にぶい橙色		
499	土師器 皿S	1区	土坑125	12.3	2.0		50	7.5YR8/3浅黄橙色		
500	土師器 皿S	1区	土坑125	12.9	2.2		25	7.5YR7/4にぶい橙色		
501	土師器 焼塩壺	1区	土坑125	5.1	8.2	3.1	100	7.5YR7/6橙色		
502	施釉陶器 天目椀	1区	土坑125	10.3	(5.0)		50	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 7.5Y1.7/1黒色	美濃	
503	施釉陶器 椀	1区	土坑125	10.1	6.4	3.8	小片	胎土 10Y7/3にぶい黄橙色 釉 2.5Y5/2暗灰黄色	唐津	
504	施釉陶器 皿	1区	土坑125	11.9	3.9	4.0	50	胎土 7.5YR6/4にぶい橙色 釉 5Y7/1灰白色	唐津	
505	青花 椀	1区	土坑125	12.0	6.2	6.2	小片	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	
506	青花 皿	1区	土坑125	10.2	2.7	4.2	70	胎土 7.5Y8/3浅黄橙色 釉 2.5Y7/3浅黄色	中国	
507	施釉陶器 皿	1区	土坑129	12.3	3.7	3.2	65	胎土 7.5YR7/4にぶい橙色 釉 7.5YR5/4にぶい褐色	唐津	
508	施釉陶器 皿	1区	土坑129	12.3	3.8	4.0	90	胎土 2.5Y7/2灰黄色 釉 5Y6/2灰オリーブ色	唐津	絵唐津
509	施釉陶器 皿	1区	土坑129	13.4	3.7	3.0	60	胎土 7.5YR6/4にぶい橙色 釉 7.5YR5/6明褐色	唐津	絵唐津
510	施釉陶器 丸皿	1区	土坑130	10.9	2.9	5.4	40	胎土 10YR8/2灰白色 釉 7.5YR3/3暗褐色	美濃	
511	施釉陶器 椀	1区	土坑146	10.0	6.2	4.4	60	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	
512	施釉陶器 汁次	1区	土坑146	(4.0)	(5.4)	5.7	90	胎土 10YR8/2灰白色 釉 7.5YR8/2灰白色	美濃	
513	施釉陶器 蓋	1区	土坑146	11.3	3.6		100	胎土 N7/灰白色 釉 5Y4/3暗オリーブ色	信楽	
514	土師器 皿Sb	1区	土坑152	9.9	2.4		100	7.5YR7/6橙色		口縁部に炭化物付着
515	土師器 皿S	1区	土坑152	13.1	2.4		25	7.5YR7/4にぶい橙色		
516	土師器 皿S	1区	土坑152	13.5	2.3		35	7.5YR7/4にぶい橙色		口縁部に炭化物付着
517	土師器 焼塩壺蓋	1区	土坑152	6.1	2.0		50	7.5YR7/4にぶい橙色		
518	土師器 焼塩壺	1区	土坑152	5.0	(9.0)	(4.8)	50	5YR6/6橙色		
519	施釉陶器 皿	1区	土坑152	11.8	2.7	6.4	50	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	志野 長石釉・鉄絵
520	施釉陶器 向付	1区	土坑152	10.9	7.6	6.7	80	胎土 10YR8/3浅黄橙色 釉 2.5Y8/1灰白	美濃	絵志野 火色 2.5Y5/6明赤褐色
521	土師器 皿Nr	1区	土坑184	5.2	1.1		100	10YR8/3浅黄橙色		
522	土師器 皿S	1区	土坑184	10.3	2.0		50	10YR7/3にぶい黄橙色		
523	土師器 皿S	1区	土坑184	10.4	2.3		85	7.5YR7/4にぶい橙色		
524	土師器 皿S	1区	土坑184	11.8	2.0		25	7.5YR7/4にぶい橙色		
525	土師器 皿S	1区	土坑184	11.9	2.4		85	7.5YR7/4にぶい橙色		全体が黒変

付表16 出土土器一覧表16

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
526	青花 小杯	1区	土坑184	7.1	4.1	2.7	60	胎土 N8/灰白色 釉 呉須	中国	「大明成化年製」銘
527	施釉陶器 大皿	1区	掘下げ	35.7	(6.0)		10	胎土 10YR7/3にぶい黄橙色 釉 7.5YR4/2灰褐色	唐津	
528	土師器 皿Nr	2区	土坑2	5.2	1.4		75	10YR7/3にぶい黄橙色		
529	土師器 皿Nr	2区	土坑2	5.6	1.5		60	10YR7/4にぶい黄橙色		
530	土師器 皿Sb	2区	土坑2	9.9	2.1		40	7.5YR7/6橙色		
531	土師器 皿Sb	2区	土坑2	10.1	2.1		70	7.5YR7/4にぶい橙色		
532	土師器 皿Sb	2区	土坑2	10.2	2.2		40	10YR7/4にぶい黄橙色		
533	土師器 皿S	2区	土坑2	10.7	1.9		30	7.5YR7/4にぶい橙色		
534	土師器 皿S	2区	土坑2	10.6	1.9		60	7.5YR6/6橙色		
535	土師器 皿S	2区	土坑2	11.0	2.1		98	7.5YR7/6橙色		
536	土師器 皿S	2区	土坑2	11.5	2.2		90	7.5YR7/4にぶい橙色		
537	土師器 皿S	2区	土坑2	11.2	2.2		90	10YR7/4にぶい黄橙色		
538	土師器 皿S	2区	土坑2	11.3	2.4		99	10YR7/4にぶい黄橙色		
539	土師器 皿S	2区	土坑2	11.4	2.2		60	7.5YR7/4にぶい橙色		
540	土師器 皿S	2区	土坑2	11.9	2.2		40	7.5YR6/6橙色		口縁部に黒斑
541	土師器 皿S	2区	土坑2	12.2	2.4		40	7.5YR7/4にぶい橙色		
542	土師器 皿S	2区	土坑2	12.6	2.3		25	7.5YR7/4にぶい橙色		
543	土師器 皿S	2区	土坑2	12.8	2.2		99	7.5YR7/4にぶい橙色		
544	土師器 皿S	2区	土坑2	12.9	2.3		30	7.5YR7/4にぶい橙色		
545	土師器 皿S	2区	土坑2	13.5	2.3		30	5YR6/6橙色		
546	土師器 小壺	2区	土坑2	2.1	2.4		100	2.5Y8/2灰白色		
547	土師器 焼塩壺蓋	2区	土坑2	7.0	2.0		100	5YR6/6橙色		
548	土師器 焼塩壺	2区	土坑2	5.2	8.2		60	7.5YR6/4にぶい橙色		
549	土師器 甗	2区	土坑2	22.8	(5.9)		小片	10YR8/2灰白色		
550	施釉陶器 小杯	2区	土坑2	6.9	4.0	3.5	15	胎土 2.5Y8/3浅黄色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	長石釉
551	施釉陶器 椀	2区	土坑2	9.8	5.0	4.3	20	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	長石釉
552	施釉陶器 椀	2区	土坑2	12.1	(5.3)		小片	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	黄瀬戸
553	施釉陶器 茶椀	2区	土坑2	(13.0)	(2.8)	5.0	小片	胎土 N8/灰白色 釉 7.5Y3/2オリーブ黒色	美濃	瀬戸黒
554	施釉陶器 皿	2区	土坑2	8.2	1.9	4.3	50	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y7/4浅黄色	美濃	灰釉
555	施釉陶器 皿	2区	土坑2	9.7	2.1	5.0	90	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 5Y7/3浅黄色	美濃	灰釉
556	施釉陶器 皿	2区	土坑2	11.3	2.6	(6.0)	50	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	長石釉
557	施釉陶器 菊皿	2区	土坑2	11.8	2.4	6.7	50	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 5Y8/1灰白色	美濃	長石釉
558	施釉陶器 皿	2区	土坑2	12.1	3.2	5.7	15	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y8/2灰白色	美濃	長石釉・鉄絵
559	施釉陶器 向付	2区	土坑2	14.8	6.4		35	胎土 7.5Y6/1灰色 釉 5YR6/6橙色	美濃	美濃唐津
560	施釉陶器 向付	2区	土坑2		(2.4)		小片	胎土 10YR6/1褐灰色 釉 2.5Y7/1灰白色	美濃	青織部

付表17 出土土器一覧表17

遺物No.	器種・器形	調査区	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存 (%)	色調	産地	備考
561	施釉陶器 向付	2区	土坑2		(5.0)		小片	胎土 2.5Y8/2灰白色 釉 緑色	美濃	総織部
562	施釉陶器 向付	2区	土坑2		(4.7)	5.4	小片	胎土 2.5Y8/1灰白色 釉 2.5Y8/1灰白色	美濃	志野織部
563	施釉陶器 向付	2区	土坑2	13.0	4.9		75	胎土 5Y8/1灰白色 釉 5Y7/1灰白色	美濃	志野
564	施釉陶器 椀	2区	土坑2	(10.4)	(5.4)	(4.0)	35	胎土 2.5Y8/3淡黄色 釉 10Y7/1灰白色	唐津	山瀬
565	施釉陶器 椀	2区	土坑2	12.0	7.0	4.5	25	胎土 7.5YR6/4にぶい橙色 釉 7.5YR3/1黒褐色	唐津	
566	施釉陶器 皿	2区	土坑2	10.0	3.1	2.5	90	胎土 7.5YR6/4にぶい橙色 釉 2.5Y6/2灰黄色	唐津	
567	施釉陶器 皿	2区	土坑2	10.1	2.9	4.3	90	胎土 5Y7/2灰白色 釉 2.5Y7/3浅黄色	唐津	山瀬
568	施釉陶器 皿	2区	土坑2	11.3	2.5	4.9	60	胎土 5Y6/1灰色 釉 5Y5/2灰オリーブ色	唐津	
569	施釉陶器 皿	2区	土坑2	11.9	3.3	4.8	80	胎土 N7/灰白色 釉 2.5Y7/2灰白色	唐津	絵唐津
570	施釉陶器 向付	2区	土坑2	(11.8)	(5.9)	5.1	35	外・胎土 5YR5/3にぶい赤褐色 釉 5Y6/1灰色	唐津	絵唐津
571	施釉陶器 向付	2区	土坑2	15.4	4.1	4.3	50	胎土 10YR5/1褐灰色 釉 2.5GY5/1オリーブ灰色 外 7.5YR4/6褐色	唐津	絵唐津
572	施釉陶器 大皿	2区	土坑2	23.1	6.2	7.7	60	胎土 10YR6/2灰黄褐色 釉 5Y5/2灰オリーブ色 外 10YR6/4にぶい黄褐色	唐津	絵唐津
573	施釉陶器 大皿	2区	土坑2		(5.1)	11.8	小片	胎土 10YR5/1褐灰色 釉 5Y5/2灰オリーブ色 外 2.5YR5/3にぶい赤褐色	唐津	絵唐津
574	焼締陶器 盤	2区	土坑2		(5.2)		小片	2.5YR4/4にぶい赤褐色	丹波	線刻「上ノ」
575	焼締陶器 捏ね鉢	2区	土坑2	19.8	9.2		35	2.5YR4/2灰赤色	備前	
576	赤絵 蓋	2区	土坑2	11.9	(3.3)		25	胎土 10YR8/1灰白色 釉 N8/灰白色	中国	
577	青花 大皿	2区	土坑2		(3.1)		小片	胎土 2.5Y6/1黄灰色 釉 2.5GY8/1灰白色	中国	
578	青花 大皿	2区	土坑2		(5.4)		小片	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 2.5GY7/1明オリーブ灰色	中国	
579	白磁 皿	2区	土坑2	(18.4)	3.7	10.0	10	胎土 N8/灰白色 釉 うすい明緑灰色	中国	
580	磁器 つまみ	2区	土坑2		(3.6)		小片	胎土 2.5Y7/1灰白色 釉 5GY8/1灰白色	中国	

付表18 瓦類一覧表

遺物No.	種類 文様等	時代	調査区	遺構名	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	残存 (%)	色調	胎土	備考
瓦1	軒丸瓦 巴文	鎌倉	1区	土坑113	(4.2)	径11.2		瓦当 100	N3/ 暗灰色	密 φ3mm以下の長石・ 石英含む	山城産
瓦2	軒丸瓦 巴文	鎌倉	1区	土坑143	(4.6)	径10.8		瓦当 60	N6/ 灰色	密 φ3mm以下の長石・ 石英・黒色粒子含む	山城産
瓦3	軒丸瓦 笹文	江戸初	1区	検出中	(2.8)	径9.0		瓦当 80	2.5Y6/1 黄灰色	密 φ2mm以下の長石・ 石英・雲母含む	
瓦4	軒丸瓦 蓮花文	江戸初	1区	検出中	(2.0)	径10.0		瓦当 50	10YR8/3 浅黄橙色	密 φ2mm以下の長石・ 石英・チャート含む	
瓦5	軒丸瓦 巴文	江戸初	2区	土坑2 あげ土	(2.6)	径10.9		瓦当 50	N3/ 暗灰色	密 φ1mm以下の長石・ 石英含む	
瓦6	軒丸瓦 巴文	江戸初	2区	土坑2	(8.2)	(9.7)			N4/ 灰色	密 φ2mm以下の長石・ 石英含む	
瓦7	軒丸瓦 巴文	江戸初	2区	土坑2	(15.4)	径15.0			N4/ 灰色	密 φ4mm以下の長石・ 石英含む	
瓦8	軒丸瓦 巴文	江戸初	1区	土坑113	(8.4)	径13.6		瓦当 100	N3/ 暗灰色	密 φ2mm以下の長石・ 石英・1.2cmの礫含む	
瓦9	軒丸瓦 巴文	江戸初	1区	土坑155	(2.3)	径15.0		瓦当 15	N4/ 灰色	密 φ2mm以下の長石・ 石英・黒色粒子含む	金箔瓦
瓦10	鳥衾瓦 巴文	江戸初	2区	土坑100 検出中	(3.4)	径17.6		瓦当 40	N3/ 暗灰色	密 φ1mm以下の長石・ 石英・黒色粒子含む	
瓦11	軒平瓦 剣頭文	鎌倉	2区	整地層	(6.8)	(10.0)	3.1		N3/ 暗灰色	密 φ2mm以下の長石・ 石英・黒色粒子含む	山城産
瓦12	軒平瓦 剣頭文	鎌倉	1区	土坑113	(7.5)	(12.5)	3.2		N2/ 黒色	密 φ2mm以下の長石・ 石英・チャート含む	山城産
瓦13	軒平瓦 剣頭文	鎌倉	2区	溝38 検出中	(8.3)	(11.8)	(2.5)		5Y6/1 灰色	密 φ3mm以下の長石・ 石英含む	山城産
瓦14	軒平瓦 唐草文	江戸初	2区	土坑13	(3.4)				N3/ 暗灰色	密 φ2mm以下の長石・ 石英含む	
瓦15	軒平瓦 唐草文	江戸初	2区	土坑2	(6.1)	(12.5)	4.4		N4/ 灰色	密 φ3mm以下の長石・ 石英含む	
瓦16	軒平瓦 唐草文	江戸初	1区	土坑113	(6.8)				7.5YR5/3 にぶい褐色	密 φ7mm以下の長石・ 石英・赤色粒子含む	
瓦17	丸瓦	江戸初	2区	土坑2 下層	(26.9)	(8.8)	1.8		N7/ 灰白色	密 φ2mm以下の長石・ 石英・1.5cmの礫含む	コビキB
瓦18	丸瓦	江戸初	2区	土坑2	28.4	7.7	7.6		N4/ 灰色	密 φ2mm以下の長石・ 石英含む	コビキB
瓦19	丸瓦	江戸初	2区	土坑2	(26.1)	14.4	2.1		N3/ 暗灰色	密 φ5mm以下の長石・ 石英含む	コビキB
瓦20	道具瓦	桃山	1区	土坑99	(41.4)	(26.5)	2.4		5Y7/1 灰白色	密 φ1mm以下の長石・ 石英・6mmの礫含む	
瓦21	埴	桃山	2区	溝38	(14.5)	(14.7)	4.2		N3/ 暗灰色	密 φ8mm以下の長石・ 石英・チャート・礫含む	

付表19 銭貨一覧

遺物No.	銭貨名	書体	国	初鑄年	調査区	遺構名	径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
銭1	開元通寶		唐	621	1区	土坑120	2.33	0.13	3.50	
銭2	開元通寶		唐	621	1区	土坑68	2.45	0.1	2.81	
銭3	咸平元寶		北宋	995	1区	土坑62	2.34	0.13	2.59	
銭4	景祐元寶	真書	北宋	1034	1区	土坑120	2.44	0.14	3.02	
銭5	皇宋通寶	篆書	南宋	1039	1区	土坑113	2.42	0.13	2.61	
銭6	皇宋通寶	篆書	南宋	1039	1区	土坑60	2.38	0.13	2.72	
銭7	元豊通寶	真書	北宋	1078	1区	土坑68	2.39	0.10	2.10	

付表20 金属製品一覧表

遺物No.	種類	器形	調査区	遺構名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	残存(%)	備考
金1	鉄製品	釘	1区	土坑65	(11.55)	2.2	0.95		
金2	鉄製品	釘	1区	土坑65	(9.5)	(1.9)	1.3		
金3	鉄製品	釘	1区	土坑113	(9.25)	2.85	(2.05)		
金4	鉄製品	釘	1区	土坑65	(9.1)	(1.6)	(1.2)		
金5	鉄製品	釘	1区	土坑65	(7.75)	1.85	1.2		
金6	鉄製品	釘	1区	土坑60	(7.65)	(2.2)	(1.55)		
金7	鉄製品	釘	1区	土坑113	6.85	1.4	0.95		
金8	鉄製品	釘	1区	土坑12	(6.6)	1.15	0.6		
金9	鉄製品	釘	1区	土坑65	(6.35)	1.4	0.8		
金10	鉄製品	釘	1区	土坑125	(6.25)	1.6	0.5		
金11	鉄製品	釘	1区	土坑60	(5.9)	1.55	(1.0)		
金12	鉄製品	釘	1区	土坑65	(5.8)	(1.8)	0.95		
金13	鉄製品	釘	1区	土坑60	(5.55)	1.1	0.5		
金14	鉄製品	釘	1区	土坑125	(4.85)	1.15	0.8		
金15	鉄製品	釘	1区	土坑65	4.6	(1.55)	1.1		
金16	鉄製品	釘	1区	土坑125	(4.3)	1.0	0.6		
金17	鉄製品	棒状金具	1区	土坑113	(14.75)	(1.7)	0.8		
金18	鉄製品	把手	1区	土坑65	(3.8)	(11.3)	(1.9)		
金19	銅製品	割りピン留め金具	1区	土坑65	(3.6)	1.1	0.45		
金20	鉄製品	金具	1区	土坑65	(9.4)	(2.5)	0.5		
金21	銅製品	釘	1区	土坑120	3.15	0.45	0.45		
金22	鉄製品	鉋の裏金	1区	土坑60	(6.2)	(4.8)	(0.35)		
金23	鉄製品	包丁	1区	土坑12	(16.5)	(4.8)	1.05		
金24	銅製品	簪	1区	土坑125	(15.35)	1.2	0.35		
金25	銀・鉄製品	小柄	1区	土坑65	(9.75)	1.1	0.55		銀鍍金
金26	鉄製品	鉄砲玉	1区	土坑125	径1.42~1.48				重さ7.855g
金27	銅製品	キセル	1区	土坑60	6.05	0.9		吸口部100	
金28	銅製品	キセル	1区	土坑65	(4.95)	1.75		先端100	
金29	銅製品	キセル	1区	土坑65	3.7	1.25		先端100	

付表21 石製品一覧表

遺物No.	種類	調査区	遺構名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	残存(%)	備考
石1	硯	1区	土坑65	(5.7)	(3.5)	1.7		頁岩製
石2	硯	1区	土坑43	(10.1)	7.5	(1.9)		頁岩製
石3	砥石	1区	土坑12	(10.7)	1.1	0.5		粘板岩製
石4	砥石	1区	土坑113	(11.5)	5.1	(2.0)		粘板岩製

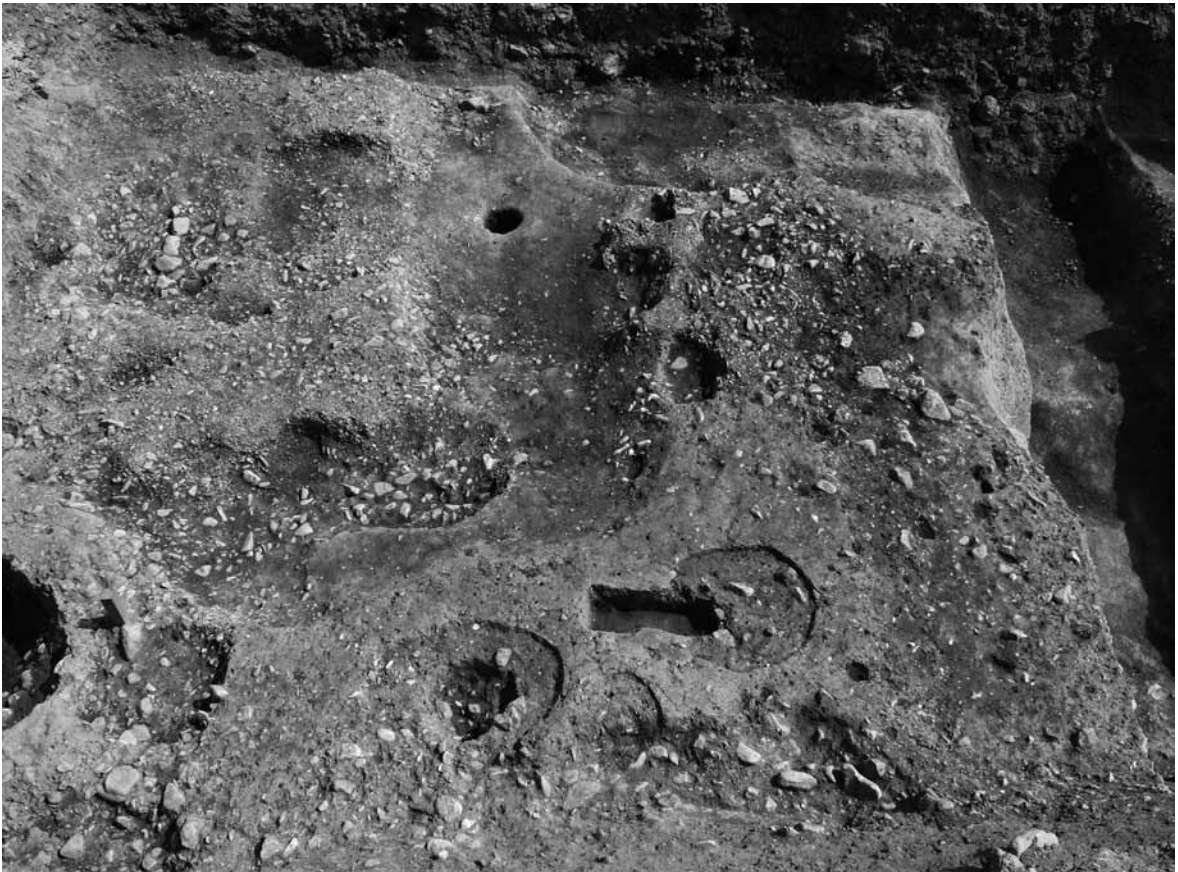
付表22 木製品一覧表

遺物No.	種類	調査区	遺構名	長さ(cm)	幅(cm)	高さ・厚さ(cm)	残存(%)	備考
木1	漆塊	1区	土坑60	7.0	7.2	1.3		
木2	漆塊	1区	土坑113	10.1	10.2	2.8		
木3	漆器椀	2区	土坑2下層	口径11.5	底径5.0	器高3.1	60	
木4	漆器椀	2区	土坑2	口径(14.0)	底径6.2	器高(8.4)	底部100	
木5	箸	2区	土坑2下層	22.3	0.7	0.7	100	
木6	箸	2区	土坑2下層	22.7	0.6	0.5	100	
木7	箸	2区	土坑2	22.7	1.9	0.5	100	
木8	箸	2区	土坑2	24.5	0.9	0.7	100	
木9	板材	2区	土坑2	22.4	5.5	2.0		
木10	板材	2区	土坑2下層	24.8	17.2	1.6		

圖 版



1 1区全景（鎌倉時代から室町時代、南東から）



2 2区東部全景（室町時代、北から）



1 1区全景（桃山時代、南東から）



2 2区全景（桃山時代、東から）



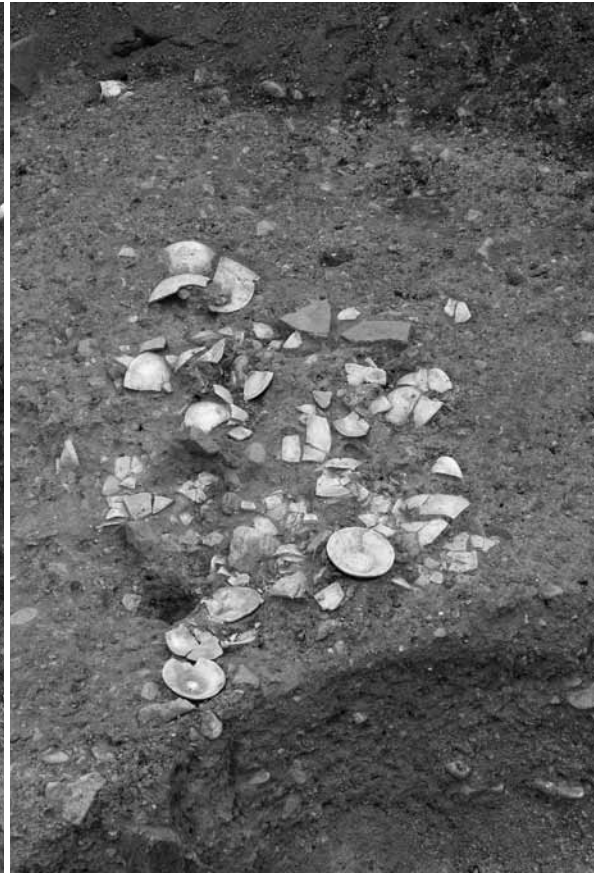
1 1区全景（江戸時代初頭、南東から）



2 2区全景（江戸時代初頭、東から）



1 1区布掘柱列（鎌倉から室町時代、西から）



2 1区土坑160土器出土状況（室町時代、北から）



3 1区土坑143断面（室町時代、西から）



4 1区土坑159断面（鎌倉から室町時代、北から）



5 2区東部柱穴110断面（室町時代、南から）



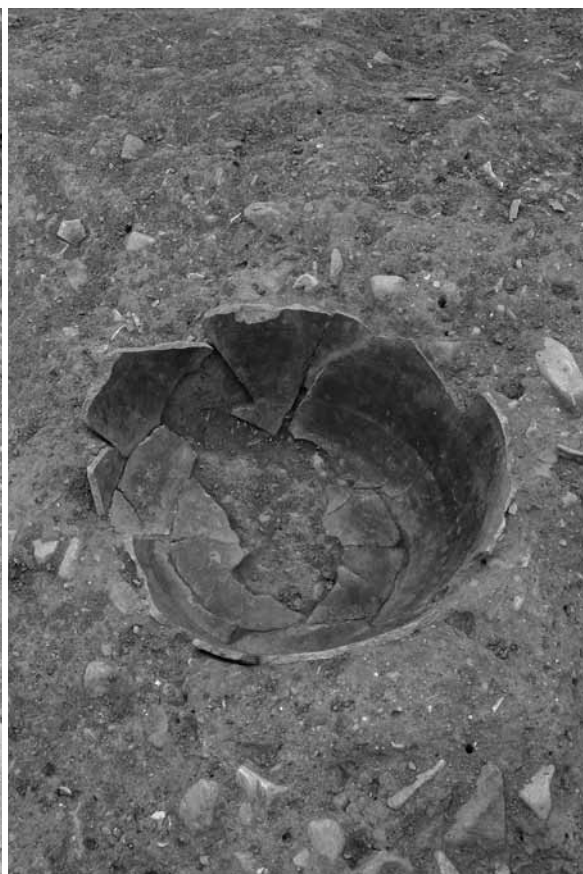
6 2区中央部柱列2柱穴121（室町時代、西から）



1 2区中央部全景（室町時代、北から）



2 1区石室24（桃山時代、西から）



3 1区土坑99（桃山時代、南東から）



1 1区土坑176土器出土状況（桃山時代、北東から）



2 2区溝37・38（桃山時代、北から）



1 1区土坑65断面（江戸時代初頭、東から）



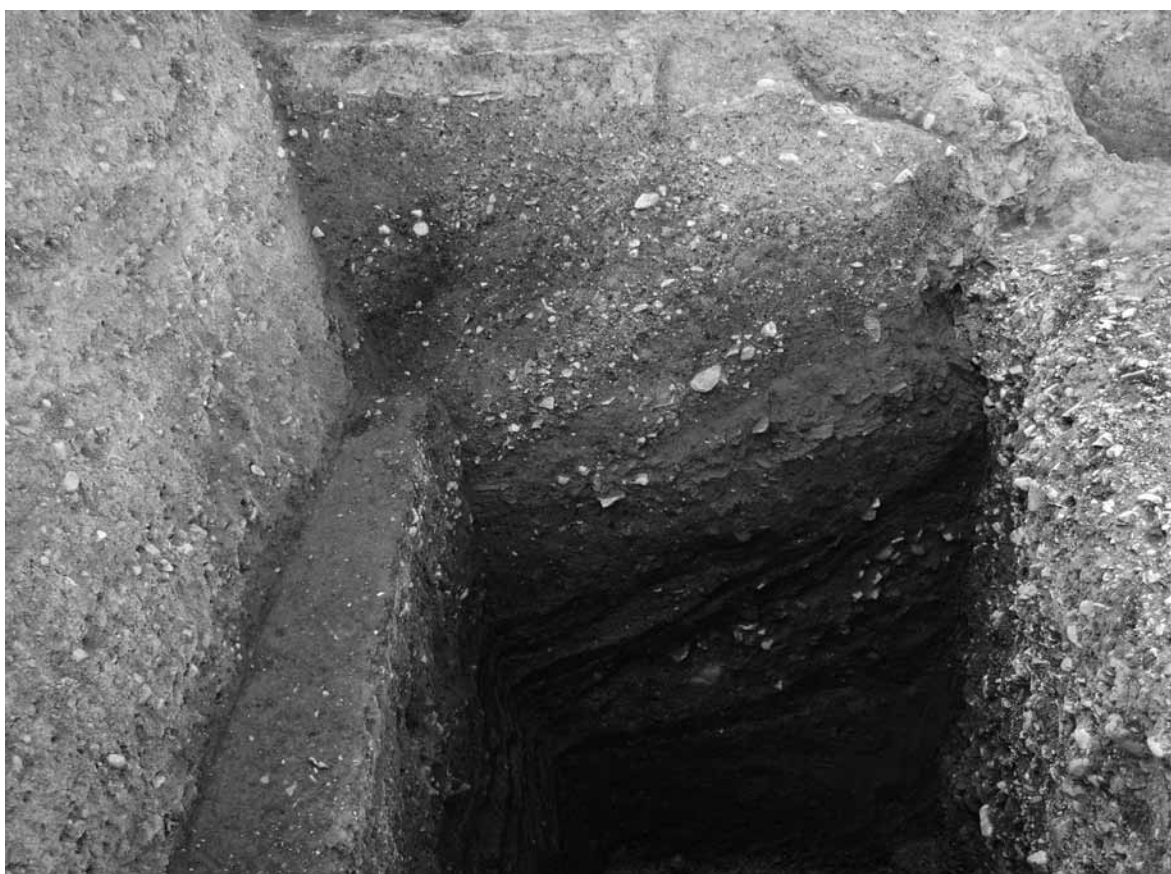
2 1区土坑65完掘状況（江戸時代初頭、南から）



3 1区土坑60断面（江戸時代初頭、北東から）

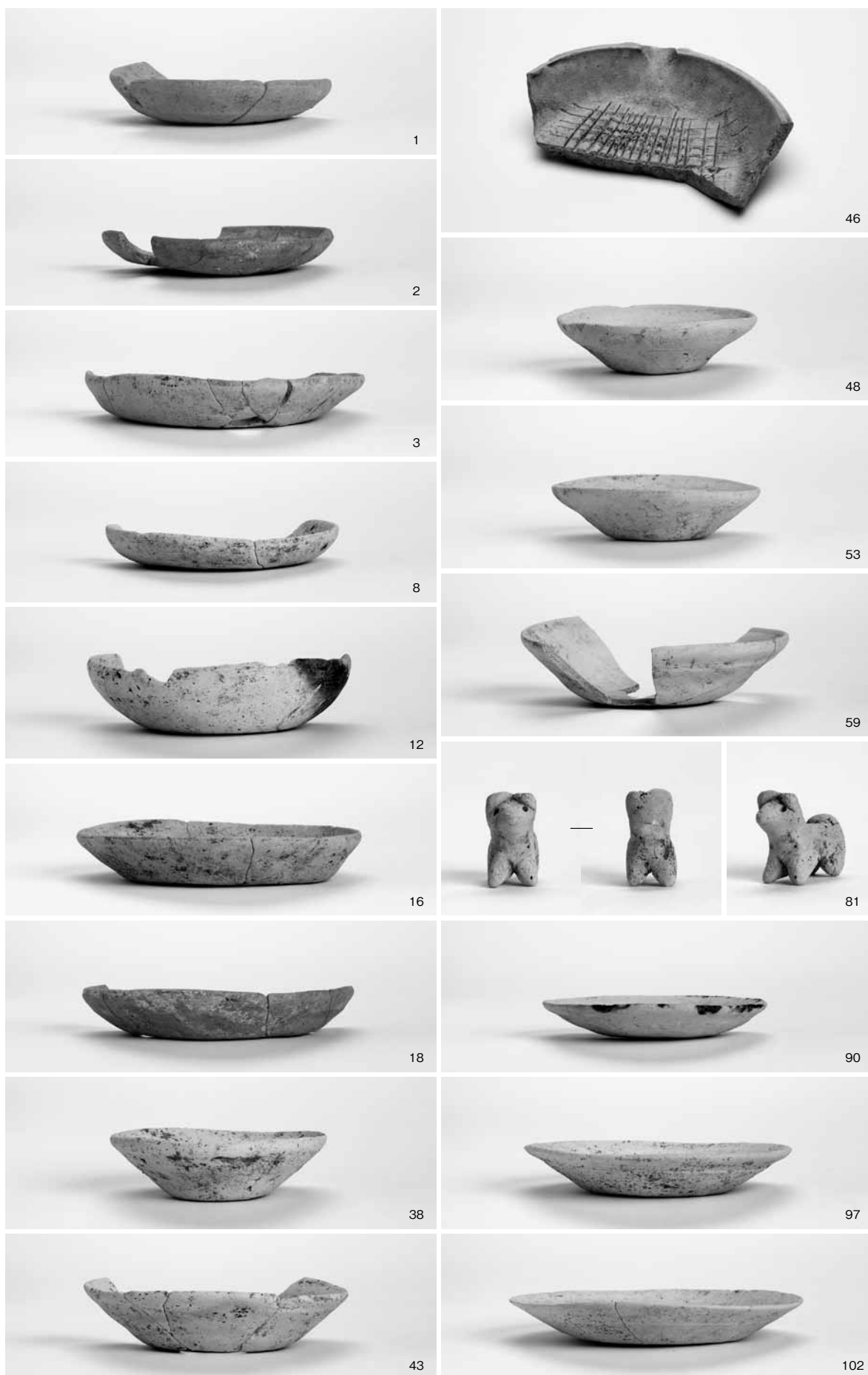


4 1区土坑12断面（江戸時代初頭、西から）



5 2区土坑2断面（江戸時代初頭、南から）

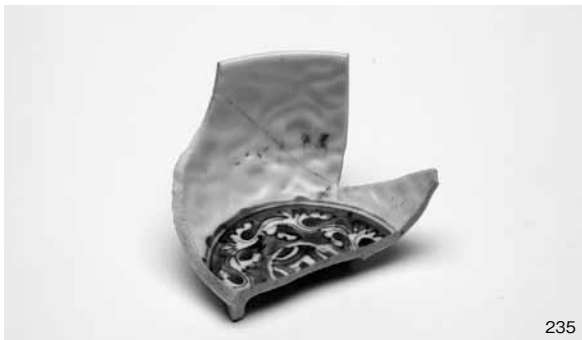
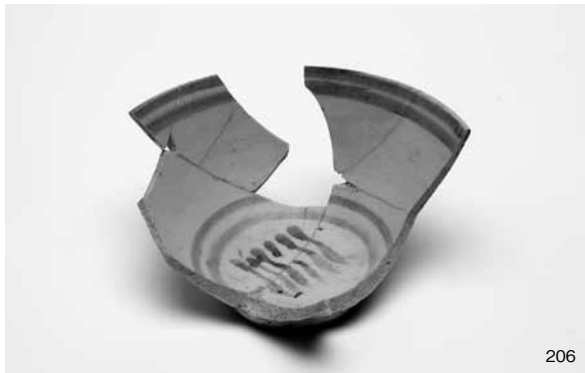
图版 8
遺物



1区土坑219·159下層·143·160·170·176出土土器



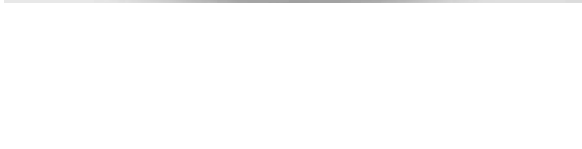
2区溝37・38、土坑87・100、1区土坑65出土土器



1区土坑65·127出土土器



1区土坑12出土土器



1区土坑12·113出土土器



1区土坑113出土土器



1区土坑60·110出土土器



1区土坑69·115·120出土土器



1区土坑120·125·146、2区土坑2出土土器



瓦1



瓦8



瓦3



瓦4



瓦5



瓦9



瓦12



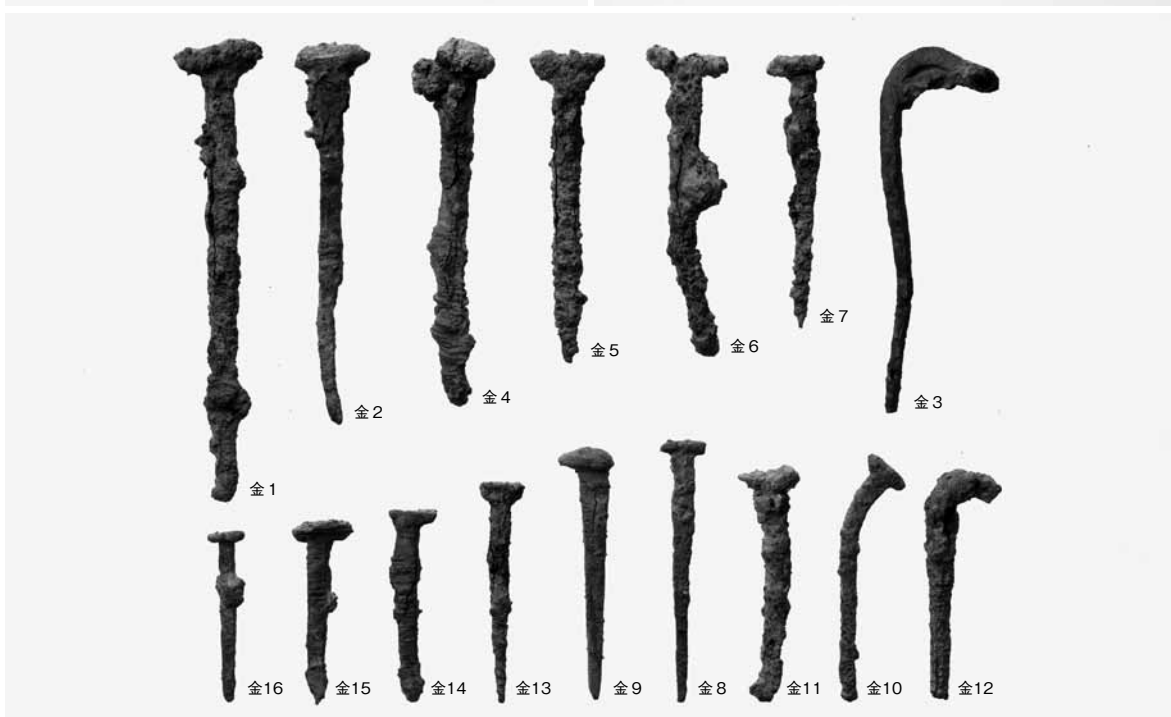
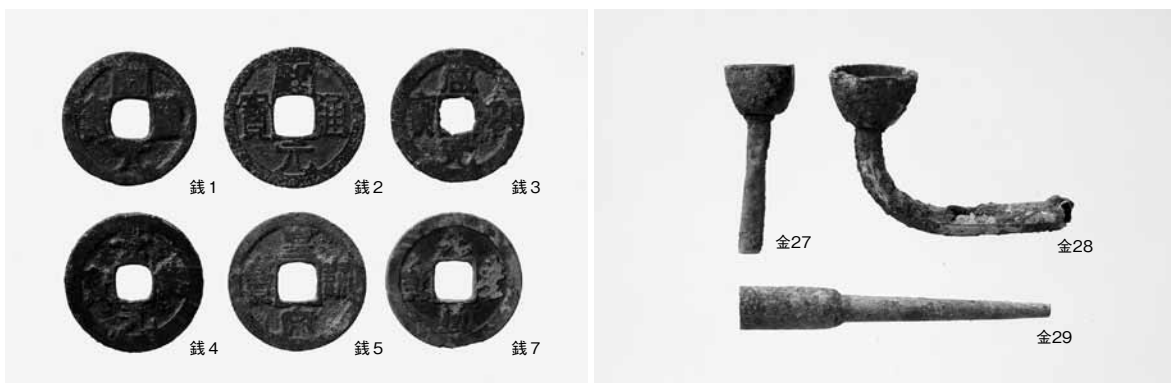
瓦13



瓦14



瓦15



錢貨・金属製品



石製品・木製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみぎょういせき・むろまちどのあと							
書名	上京遺跡・室町殿跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2013-8							
編著者名	尾藤徳行・小檜山一良							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2014年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみぎょういせき 上京遺跡 むろまち どのあと 室町殿跡	きょうとしかみぎょうく 京都市上京区 いまでがわどおりむろまち 今出川通室町 にしているほりだしちよう 西入掘出シ町 ばんちほか 289番地他	26100	224 230	35度 01分 46秒	135度 45分 24秒	2013年4月 1日～2013 年7月19日	590㎡	上京区 総合庁舎 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上京遺跡 室町殿跡	都城跡 邸宅跡	平安時代 鎌倉時代 室町時代 桃山時代 江戸時代初頭	土坑、柱穴		土師器、瓦器、瓦類		多数の火災処理土坑から土師器・陶磁器類が一括で出土した。17世紀初頭という出土遺物の年代観が、元和6年(1620)に上京域での大火記録という文献資料によって裏付けられた。	
			土坑、柱穴		土師器、瓦器、瓦類			
			土坑、布掘柱列、柱列、柱穴		土師器、瓦器、施釉陶器、輸入磁器、瓦類			
			土坑、溝、石室、柱列、柱穴		土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入磁器、土製品、瓦類、金属製品			
			土坑、整地層		土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、土製品、瓦類、金属製品、石製品、木製品、動植物遺存体			

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-8

上京遺跡・室町殿跡

発行日 2014年3月31日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961